令和７年度

履修要覧

令和５年度以前入学生

SHITENNOJI UNIVERSITY 2025

INTERNATIONAL BUDDHIST UNIVERSITY

四天王寺大学

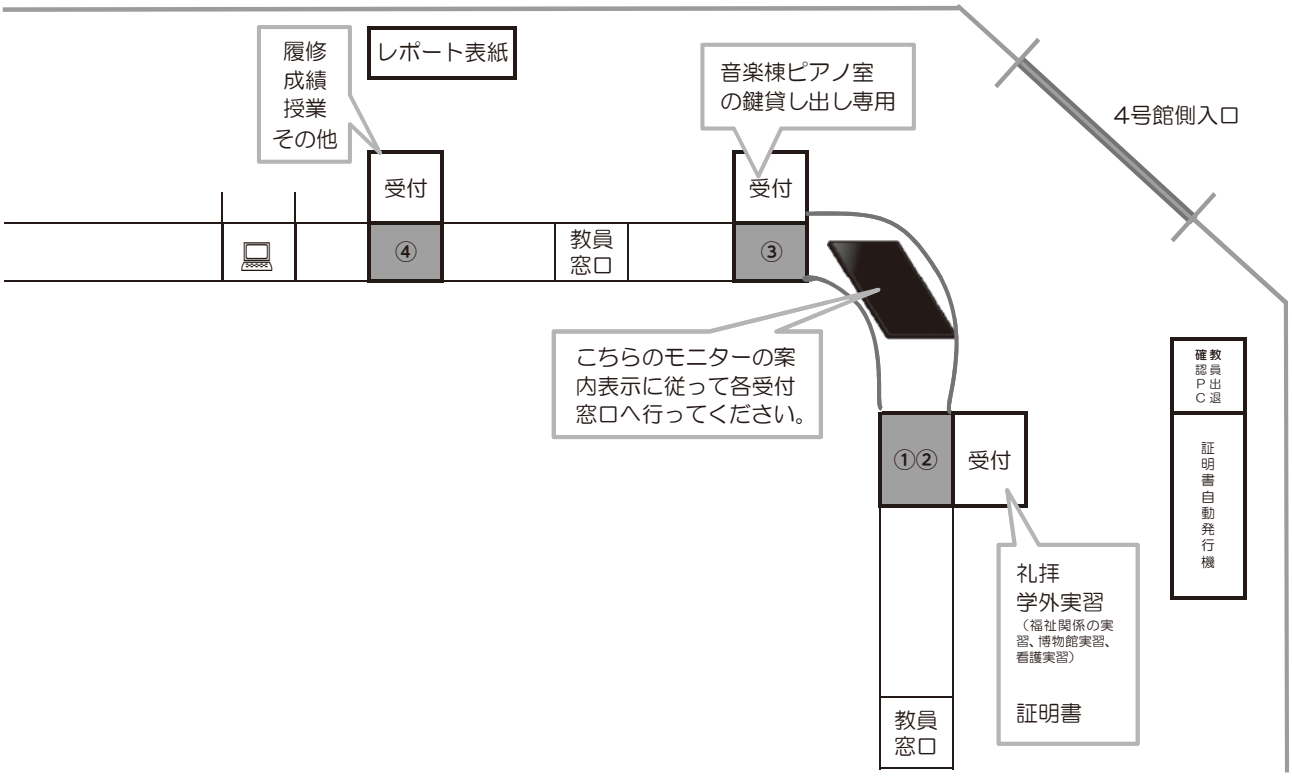
教務課窓口受付について

教務課受付時間：9：00～17：30
（月曜日～土曜日 祝日除く）

受付時間外の問い合わせには対応できません。
※11：35～12：25は当番者のみでの対応になります。

教務課受付対応窓口について

教務課へ用件がある場合は、教務課入口（4号館側）のモニターの案内表示に従い、担当受付窓口で問い合わせてください。受付窓口以外では対応できませんので、順番に並んでください。
※窓口の位置は変更することがありますので、モニターで必ず確認して下さい。



[教職教育推進センター]（4号館地下1階）

受付内容

① 学外実習（教育実習、介護等体験、臨床実習、保育実習等）
② 教員採用試験及び対策講座等に関すること。
③ 学校インターンシップ、学校ボランティア等に関すること。

よくある質問（人文社会学部・経営学部）

卒業や教員免許に必要な単位、科目がわからない場合は、履修要覧の以下のページで調べてください。
また、履修登録についてのＱ＆Ａを時間割表に掲載していますので時間割作成時に活用してください。

卒業するには何単位必要？ ……P.37

→卒業するには何単位必要かが書いてあります。

他学部・他学科の科目を履修することができる？ ……P.39

→他学部・他学科の科目を履修する場合の条件や単位認定等について書いてあります。

卒業に必要な科目は？

→各学科で卒業に必要な科目が書いてあります。必修・選択必修・選択科目があります。

重要！！
卒業には３つの科目群ごとに決められた単位数を修得する必要があります。

- 基礎教育科目→（全学生必修です）……P.64
- 共通教育科目→（学科により必要単位が異なります）……P.71 ～
- 専門教育科目→
  - 日本学科……P.81 ～
  - 国際キャリア学科……P.90 ～
  - 社会学科……P.98 ～
  - 人間福祉学科……P.106 ～
  - 経営学科　公共経営専攻……P.165 ～
  - 経営学科　企業経営専攻……P.173 ～

取得可能な教員免許・資格は？ ……P.198

→人文社会学部・経営学部で取得可能な教員免許・資格一覧を確認してください。

教員免許・資格に必要な科目は？

→各教員免許・資格の種類により、必要な科目が書いてあります。履修登録前に必ず自分の希望する教員免許・資格に必要な科目を調べてください。

〈人文社会学部・経営学部〉

人文社会学部 全学科	教職に関する科目	P.190 ～
人文社会学部 全学科	学校図書館司書教諭に関する科目	P.192、277
日本学科	教員免許（国語）中・高	P.199 ～、205 ～
日本学科	教員免許（書道）高	P.199 ～、207 ～
国際キャリア学科	教員免許（英語）中・高	P.199 ～、209 ～
社会学科	教員免許（社会）中	P.199 ～、211 ～
社会学科	教員免許（地歴）高	P.199 ～、214 ～
社会学科	教員免許（公民）高	P.199 ～、216 ～
人間福祉学科	教員免許（公民）高	P.199 ～、218 ～
人間福祉学科	教員免許（福祉）高	P.199 ～、220 ～
人間福祉学科	社会福祉士国家試験受験資格	P.270 ～
人間福祉学科	精神保健福祉士国家試験受験資格	P.274 ～
全学科	社会福祉主事任用資格	P.278
人文社会学部 全学科	日本語教員養成プログラム	P.279 ～
全学科	地域共創プログラム	P.291 ～
日本学科・社会学科	博物館学芸員	P.281 ～
人文社会学部 全学科	児童指導員任用資格	P.282
社会学科	社会調査士	P.283
社会学科	認定心理士	P.284
人間福祉学科	身体障害者福祉司任用資格	P.286
人間福祉学科	知的障害者福祉司任用資格	P.286
人間福祉学科	公認初級パラスポーツ指導員	P.287
人間福祉学科	児童福祉司任用資格	P.287
人間福祉学科	レクリエーション・インストラクター	P.288

よくある質問（教育学部）

卒業や教員免許に必要な単位、科目がわからない場合は、履修要覧の以下のページで調べてください。
また、履修登録についてのＱ＆Ａを時間割表に掲載していますので時間割作成時に活用してください。

卒業するには何単位必要？ ……P.37

→卒業するには何単位必要かが書いてあります。

他学部・他学科の科目を履修することができる？ ……P.39

→他学部・他学科の科目を履修する場合の条件や単位認定等について書いてあります。

卒業に必要な科目は？

→各学科で卒業に必要な科目が書いてあります。必修・選択必修・選択科目があります。

重要！！
卒業には３つの科目群ごとに決められた単位数を修得する必要があります。

- 基礎教育科目→（全学生必修です）……P.64
- 共通教育科目……P.71 ～
- 専門教育科目→
  - 小学校教育コース……P.119 ～
  - 幼児教育保育コース……P.132 ～
  - 英語教育・小学校コース……P.144 ～
  - 保健教育コース……P.154 ～

取得可能な教員免許・資格は？ ……P.198

→教育学部で取得可能な教員免許・資格一覧を確認してください。

教員免許・資格に必要な科目は？

→各教員免許・資格の種類により、必要な科目が書いてあります。履修登録前に必ず自分の希望する教員免許・資格に必要な科目を調べてください。

全コース	学校図書館司書教諭に関する科目	P.192、277
小学校教育コースで取得できる教育職員免許状の課程		P.222
幼児教育保育コースで取得できる教育職員免許状の課程		P.235
英語教育・小学校コースで取得できる教育職員免許状の課程		P.243
保健教育コースで取得できる教育職員免許状の課程		P.251
幼児教育保育コース	保育士	P.266
全コース	社会福祉主事任用資格	P.278
全コース	児童指導員任用資格	P.282
全コース	ピアヘルパー受験資格	P.285

よくある質問（看護学部）

卒業や教員免許に必要な単位、科目がわからない場合は、履修要覧の以下のページで調べてください。
また、履修登録についてのＱ＆Ａを時間割表に掲載していますので時間割作成時に活用してください。

卒業するには何単位必要？ ……P.37

→卒業するには何単位必要かが書いてあります。

他学部・他学科の科目を履修することができる？ ……P.39

→他学部・他学科の科目を履修する場合の条件や単位認定等について書いてあります。

卒業に必要な科目は？

→卒業に必要な科目が書いてあります。必修・選択必修・選択科目があります。

重要！！
卒業には３つの科目群ごとに決められた単位数を修得する必要があります。

基礎教育科目→（全学生必修です）……P.64
共通教育科目……P.74 ～
専門教育科目……P.181 ～

取得可能な教員免許・資格は？ ……P.198

→看護学部で取得可能な教員免許・資格一覧を確認してください。

教員免許・資格に必要な科目は？

→各教員免許・資格の種類により、必要な科目が書いてあります。履修登録前に必ず自分の希望する教員免許・資格に必要な科目を調べてください。

教職に関する科目……P.190
教員免許　養護……P.260 ～
看護師国家試験受験資格……P.289
保健師国家試験受験資格……P.289 ～
助産師国家試験受験資格……P.290 ～

令和７年度　大学・短大　学年暦（令和７年４月～令和８年３月）

令和７年度 在学生　健康診断・オリエンテーション日程	
３月26日（水）	健康診断 （在学生：教育学部・経営学部） オリエンテーション （在学生：教育学部・経営学部・看護学部）
３月27日（木）	健康診断 （在学生：人文社会学部・文学部・社会学部・看護学部・短期大学部） オリエンテーション （在学生：人文社会学部・文学部・社会学部・短期大学部）
夏　学　期	
４月　１日（火）	オリエンテーション（新入生） 夏学期履修登録期間 （4/1 ～ 4/8）
４月　２日（水）	入学式
４月　３日（木）	オリエンテーション（新入生）
４月　４日（金）	オリエンテーション（新入生） 健康診断（新入生）
４月　５日（土）	オリエンテーション（新入生） ※予備日 健康診断（予備日） （新入生・編入生）
４月　７日（月）	夏学期開講
４月15日（火） ～ ４月18日（金）	夏学期履修訂正期間
４月19日（土）	終日休講・新入生授戒会
４月29日（火）	（祝日）火曜日授業
５月　３日（土）	（祝日）土曜日授業
６月　４日（水）	土曜日授業
６月22日（日）	水無月祭
７月16日（水）	夏学期終講
７月17日（木） ～ ７月24日（木）	定期試験期間（予備日含む）
７月21日（月）	（祝日）月曜日授業
７月28日（月） ～ ７月31日（木）	夏学期集中講義
７月30日（水）	成績公開
８月　１日（金）	夏学期再試験申込み
８月　７日（木） ～ ８月　９日（土）	夏学期追・再試験
９月12日（金）	夏学期学位授与式（9月卒業生）
冬　学　期	
令和７年	
９月12日（金）	冬学期入学式（９月入学生）
９月17日（水） ９月18日（木）	オリエンテーション
９月17日（水） ～ ９月22日（月）	冬学期履修登録期間 （9/17 ～ 9/22） 冬学期開講（9/20）
10月　１日（水） ～ 10月　３日（金）	冬学期履修訂正期間 （10/1 ～ 10/3）
10月13日（月）	（祝日）月曜日授業
10月31日（金）	大学祭準備日（終日休講）
11月　１日（土） ～ 11月　３日（月）	大学祭（終日休講）
11月　４日（火）	大学祭後片付け（終日休講）
11月　５日（水）	火曜日授業
11月24日（月）	（振替休日）月曜日授業
12月27日（土）	12月授業終了
令和８年	
１月　５日（月）	１月授業開始
１月　８日（木） １月　９日（金）	卒業研究提出
１月　８日（木）	補講日
１月　９日（金）	冬学期終講
１月10日（土） ～ １月20日（火）	定期試験期間（予備日含む）
１月26日（月）	成績公開
１月30日（金）	冬学期再試験申込み
２月　５日（木） ～ ２月　７日（土）	冬学期追・再試験
２月22日（日）	学園創立記念日（事務局休業）
３月13日（金）	学位授与式

＊学年暦は、「大学学則」第３章、「短期大学部学則」第３章の規程に基づくものである。
＊学年暦の変更は、その都度掲示などをする。
＊毎週土曜日および終日休講の日は、事前に連絡の上、補講を実施する場合がある。
＊実習は平常の授業以外の日程で行う場合がある。
＊集中講義は上記以外の日程で行う場合がある。

行事等

学生は本学の行事等に参加しなければなりません。行事等に参加する時には、本学のスーツ着用基準に沿った服装を端正に着用し学生証と念珠、『聖典聖歌集』を携行しなければなりません。

・基礎教育科目「和の精神」の授業規律について

礼儀を正して静穏な環境で自らを省み、自他を尊重し、思慮深い安定した人格を養うことが「和の精神」の授業の目的です。**授業規律については履修要覧に記載しています。**

○必ず参加しなければならない行事等

授戒会

入学時の学生全員に対して行う。四天王寺管長が戒師となって戒を授け、戒を受ける者は戒を受けてこれを守ることを誓う。それは善行の誓いであり、人としてよりよい生き方を求めようとする誓いである。

礼拝（本学大講堂にて実施）

礼拝とは、1 年次生に対して、毎週木曜日 2 時限目に夏学期「和の精神Ⅰ」、冬学期「和の精神Ⅱ」の授業で行うものであり、「和の精神Ⅰ」では献灯に始まり、読経、止観（瞑想）、聞法（学習）、聖歌斉唱を行う。「和の精神Ⅱ」では止観に続いて写経を行い聞法に代える。

○自由参加の行事（四天王寺本坊で行われる行事）

釈尊降誕会	4 月 8 日	お釈迦様のお生まれになった日に行われる法要（花まつり）
釈尊成道会	12 月 8 日	お釈迦様が悟りを開かれ、仏陀になられた日に行われる法要
釈尊涅槃会	2 月 15 日	お釈迦様が入滅された日に行われる法要
聖徳太子御聖忌	2 月 22 日	聖徳太子の祥月命日に行われる法要（祥月：故人が亡くなってから何年目かにめぐって来た当月当日）
聖徳太子讃仰会	毎月 22 日	聖徳太子の月命日に行われる太子讃仰の法要

○自由参加の行事（四天王寺大学の学内で行われる行事）

聖徳太子讃仰座禅会	毎月 1 回	聖徳太子の月命日前後の木曜日に行う座禅会

はじめに

この『履修要覧』には、四天王寺大学で学生生活を送る皆さんが、本学での学修を行うにあたって必要な知識と知っておかなければならない事柄や規則について、詳しい説明がなされていますので大いに活用してください。

一人ひとりの夢や希望が異なるように、皆さんの学修の目標や関心もそれぞれ異なっています。自分が設定した目標に向かってどのように授業を組み立てていくのか、この『履修要覧』を熟読し、その内容を十分に理解し、この 1 年間の学修計画をしっかり立ててください。その積み重ねが、有意義な学生生活を送るために必要不可欠なことです。ここに記載されている事項についての疑問や不明な点があれば、必ず自分で直接教務課に来て確認するようにしてください。また、この『履修要覧』は、必要に応じてすぐに見ることができるように、常に身近に置くようにするとよいでしょう。

皆さんの眼前に広がっている学問の大海原において、コンパス（羅針盤）の役割を果たすのが『履修要覧』です。この『履修要覧』を活用し、大いなる希望を胸に抱いて学問の航海に旅立ってください。
Bon voyage !

目　次

よくある質問……1
学年暦……4
はじめに……7

教育理念　11

本学の教育方針……12
教員養成の目標及びめざす教員像……16

事務手続き　21

学籍番号と各学部・学科（専攻・コース）の略称……22
IBU.net……23
大学からの連絡と教務課への問い合わせ……24
教員との連絡方法……25
休講……26
補講……27
ピアノ室の利用……27
転学部・転学科・転コースについて……28

授業・履修　29

学位……30
単位のしくみ……31
セメスター制について……32
授業……32
シラバス（授業計画）……34
卒業に必要な単位……36
履修……38
履修単位上限……40
卒業研究……41
課題研究……43
単位認定……44

試験・成績　49

成績評価の方法……50
定期試験……50

追試験……52
再試験……54
成績と GPA……55

教育課程（授業科目一覧・単位数など） 59

授業科目編成表の見方……60
ナンバリングコードの表示と見方……61
履修系統図について……62
基礎教育科目（全学共通）……63
共通教育科目（全学共通）……65
キャリア教育について……66
専門教育科目について……76
教職に関する科目（「教育の基礎的理解に関する科目等」）（人文社会学部・看護学部）……190
司書教諭の講習に関する科目……192
重ねて履修できない科目一覧表……193

各種免許・資格 195

「各種免許・資格」に関する注意事項……198
本学で取得可能な免許・資格等について……198

諸規程 295

教育理念

- 本学の教育方針
- 教員養成の目標及びめざす教員像

本学の教育方針

●「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）

「和の精神」を持ち、実社会で活躍できる人間形成

本学は、大学生活全体を通して、「和の精神」を持ち、実社会で活躍できる人間形成を図ります。

このような人間形成を目指す本学のディプロマ・ポリシーは次のとおりです。

自己分析・自己研鑽の力

○自らの理念や行動を相対化し、省察することができる。

○自己を高めるために生涯にわたり、学び続けることができる。

豊かな人間性 ～慈愛の心・利他の精神～

○多様な立場、考え方の存在を認める（受容する）ことができる。

○他者に対して思いやりを持ち、寛容な態度で接することができる。

○他者の喜びや躓きを自己のものとして共感することができる。

社会（組織）で活躍できる力 ～専門性を基礎として～

○社会（組織）の現状について認識できる。

○社会（組織）の一員としての自己を理解できる。

○社会（組織）に貢献する強い意欲を持ち、行動することができる。

○組織の新たな課題解決や改革に仲間とともに取り組み、実現することができる。

●「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに掲げる「『和の精神』を持ち、実社会で活躍できる人間」の育成を目的として、学部共通に基礎教育科目、共通教育科目を、そして、各学部・学科において専門教育科目を体系的に編成します。

「基礎教育科目」は、大学での学修や現代社会で求められる総合的な知識・技能を修得する「共通教育科目」、そして各学部・学科・専攻における専門分野を修得する「専門教育科目」を学ぶ前提となる科目です。この「基礎教育科目」では、「和の精神」についての学びを深め、調和のある社会で活躍できる人格形成を行います。

そして、各授業の教育内容を講義、演習、実験・実習等の授業形態により効果的な教育方法を用いることで修得することを目指します。

１～４年次の担任教員と所定の時期に学修した成果を客観的に評価すると共に、学修者自身にとっても自覚できることをもとにして学修者自身の目標を明確にし、学びの意欲につなげます。

以上のことを具体的に以下に示します。

〈教育課程の編成・教育内容〉

【基礎教育科目】

「基礎教育科目」は４つの科目から構成されている。

そのうち、「和の精神Ⅰ」では瞑想、「和の精神Ⅱ」では写経と瞑想といった実践を行い、それを通して仏教に関する知識と考え方を学び、思慮のある安定した人格の形成を図る。

「仏教概説」では「和の精神Ⅰ」「和の精神Ⅱ」の意義をより深く理解し、仏教に関する基礎的な知識を学び、仏教的な情操の体得を図る。

「現代社会と人権」では、人間存在のかけがえのなさを知り、現代社会における多様な人々との共生の重要さを学ぶ。

本科目群の学びを通して慈愛の心と利他の精神をもつ豊かな人間性を育てていく。

【共通教育科目】

「共通教育科目」は学問の対象や性格によって、「学びの基礎」「こころと思想」「社会と文化」「情報と自然科学」「健康と福祉」「言語」「キャリア教育」の７つの科目群に分類される。

「学びの基礎」は、本学の初年次教育である。大学での学びや生活に必要なスキルを育成するとともに、専門的な学びへのなめらかな導入を図る。さらに、入学から卒業までを見通したキャリアデザインを構想するための支援を行う。

「こころと思想」は建学の精神である聖徳太子の仏教精神をさらに深めるとともに、心の問題や思想について学び、自らの生き方を振り返る一助とする。

「社会と文化」は「こころと思想」の学びをもとに法や政治という社会システム等について学ぶことで社会の一員としての意識を高める。

「情報と自然科学」は ICT 活用能力を高めるとともに、自然科学の観点から生命や社会について考える素地を養成する。

「健康と福祉」は心身の健康に対する意識を高めるとともに利他の精神に基づく福祉の考えを学ぶ。

「言語」は「英語」を主にし、「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「コリア語」「日本手話」で構成され、それぞれ基礎から応用まで段階を踏まえてコミュニケーション技能を身につけ、高める。

「キャリア教育」は卒業後の社会生活を視野に入れて、キャリア意識や社会人に必要な幅広い知識・技能を段階的に身につける。

【専門教育科目】

「専門教育科目」は各学科・専攻・コースごとに、その専門性を高めるとともに社会人として必要となる資格や免許状の取得や知識・技能を身につけ、社会（組織）で活躍できる力の修得を目指します。

〈教育方法〉

⑴　これまでの高校までの教育の中で行われてきた「主体的・対話的で深い学び」をさらに深化させるために、アクティブ・ラーニング等を取り入れた授業を中心として実施する。単なる知識・技能の伝達に終わることなく、主体的に授業に参加し、自己内対話を深めるとともに、共に対話する中で学びの共有化と深化を目指していく。

⑵　世界をオープンな場と考え、異文化であっても人間としての共通の原理・原則に従って思考し、行動できる能力をグローバル化に対応する能力と捉える。これにより、単なる語学の修得だけではなく、ICT の活用を含めたコミュニケーション能力と、思考のツールとしての活用能力を身につけていく。

〈教育評価〉

教育評価にあたっては、学修内容の修得としての「学び」と「『和の精神』を持ち、実社会で活躍できる人間」への「育ち」という 2 つの観点から行う。何が身についたかを可視化できることを目指し、4 年間の学びと育ちを自他ともに実感できることを目指す。

⑴　最終的に試験やレポートによって直接評価するだけではなく、学びの途中の評価として、ルーブリックによるパフォーマンス評価や真正の評価等を実施する。

　これは、教員と学生の双方がルーブリックの作成と評価を通じて、目標と評価の一体化を目指したものである。このような評価を取り入れることで学びと育ちの過程を学生自身が実感でき、主体性の育成にもつながることになる。

⑵　学修ポートフォリオを用いて、個々の 4 年間の学修成果を蓄積して可視化し、それを担任教員・担当教員等とともに省察するポートフォリオ評価等を取り入れる。省察の過程を通して、自己研鑽の力を身につけながら、青年期の課題である『自分づくり』を行うことを目指す。

⑶　入学時に PROG テストや英語の外部試験等を実施し、その後にも実施することで大学 4 年間で継続的に学修の成果を可視化し、客観的な自己評価を行っていく。このことにより、自身が目指す目標を明確にし、意欲を高めることにつなげる。

●「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針および教育課程編成・実施の方針を踏まえ、求める能力やその評価方法を学力の 3 要素等と関連付けて明示し、多面的・総合的に評価します。具体的には、次のような人物を求めています。

⑴　豊かな人間性（慈愛の心・利他の精神）を身につけ、本学で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つことができること　〔求める要素：関心・意欲・態度〕

⑵　本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき基礎学力を有し、思考を深めて他者に表現できること　〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

⑶　多様な文化・価値観を理解し、自ら課題に対して仲間とともに積極的に取り組み、自己研鑽に努めることができること　〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

●教育研究上の目的

〈人文社会学部〉

人文社会学部は、グローバル社会の進展の中、人間と社会、文化に関わる様々な分野の動向と課題を捉えうる専門知識と知見を身につけるとともに、その人間的基礎としての社会貢献への高い使命感と他者理解の精神の養成を目的とする。そのために常に社会的関心を持って新たな課題を発見し、問題解決の道筋を探究し多様な他者と協働する力を鍛える中で、生涯を通じて学ぶ態度の育成に留意することとする。

【日本学科】

日本学科は、日本語及び日本の歴史・文化について幅広い知識を体系的に身につけ、自ら問題点を発見して適切に解決する能力を持ち、高度な日本語コミュニケーション能力を運用しながら、他者と調和ある共生を目指すことのできる人材の育成を目的とする。

【国際キャリア学科】

国際キャリア学科は、実践的な外国語能力とコミュニケーション能力を修得し、国際問題に関する知識を身につけ、さらに、キャリア形成に必要な知識とスキルを獲得し、以ってグローバル化社会で活躍できる人材の養成を目的とする。

【社会学科】

社会学科は、広く社会に貢献しうる資質を身につけさせる観点から、社会、人間、文化のしくみや相互の関連について、柔軟かつ論理的・科学的に思考し、判断できる人材の養成を目的とする。

【人間福祉学科】

人間福祉学科は、人を思いやる心を持ち、人とのつながりを大切にしながら、福祉専門職の価値や倫理及び社会福祉的な対象理解能力や問題解決能力、さらには社会福祉の相談援助の知識・技術を身につけた人材の育成を目的とする。

〈教育学部〉

【教育学科】

教育学部教育学科は、人間と人間社会のあり方と教育（保育）の関係についての基本的な知見を修得することを前提に、制度と内容にわたる全面的な改革を要請されるわが国の教育の歴史的社会的背景を把握し、この改革を担うに足る専門的知識と実践技能の体得を目的とする。そのために常に社会的関心を持って新たな課題を発見し、問題解決の道筋を探求し多様な他者と協働する力を鍛える中で、生涯を通じて学ぶ態度の育成に留意することとする。

教育学科小学校教育コースでは、児童生徒、教育、社会についての幅広い知識に加えて、教員に求められる専門的知識と適切な教育活動が実践できる技能を有するとともに、利他の精神と教職への強い使命感と責任感を持って社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

教育学科幼児教育保育コースは、多様なニーズのある社会、保育施設等、子どもに応えることができる豊かな人間性と幼児教育・保育に関する専門的知識及び実践力、指導力を持ち、生涯にわたり学び続ける優れた保育者の育成を目的とする。

教育学科英語教育・小学校コースは、英語の専門的知識を修得した上で、小学校教員や中高の英語教員として相応しい英語力や、異文化に関わる多様な事象に興味と関心を持ち、自己と他者への理解を深め、他者と協同する態度を身につけた人材の養成を目的とする。

教育学科保健教育コースは、「高い人格と豊かな資質をもって、児童生徒を人として尊重し、専門知識と技能、教育指導力を有する優れた養護教諭の養成を行うこと」を目的とする。

〈経営学部〉

【経営学科】

経営学部経営学科は、企業や行政機関などのあらゆる社会公共の組織の経営活動に必要な専門知識と実践能力を身につけるとともに、その人間的基礎としての社会貢献への高い使命感と倫理観の養成を目的とする。そのために常に社会的関心を持って新たな課題を発見し、問題解決の道筋を探究し多様な他者と協働する力を鍛える中で、生涯を通じて学ぶ態度の育成に留意することとする。

経営学科公共経営専攻は、高い倫理観と使命感を持ち、行政組織をはじめ、公共サービスを担う非営利組織・民間営利組織などの経営活動の実践に必要な高度な専門知識と豊かな人間性を身につけ、公共社会の要

請に応え、課題を発見・解決して社会に貢献するとともに、目標をもって自らが成長できる人材の養成を目的とする。

経営学科企業経営専攻は、高い倫理観と使命感を持ち、企業を中心とする組織の経営に必要な高度な専門知識や技術を身につけ、新たな課題を発見・解決する中で目標をもって新しいことに挑戦して自らが成長するとともに、グローバルからローカルまで多様な社会において他者と協働して社会に貢献できる職業人を養成することを目的とする。

〈看護学部〉

【看護学科】

看護学部看護学科は、人間の生命と尊厳の尊重及び権利の擁護といった高い倫理観を基盤に、あらゆる健康レベルの個人、家族、集団、地域の顕在的、潜在的な健康課題を解決するために必要な人間力、専門的知識・技能・態度を修得し、自律的、創造的に看護を実践できる看護人材の育成を目的とする。

また、これからの少子高齢社会の動向を見据え、地域におけるケアの重要性を認識して、人々が住み慣れた場所で安心して療養を継続でき、幸せに生きていくことができる社会の実現に貢献できる人材育成を目指す。

教員養成の目標及びめざす教員像

●教員養成に対する理念・目標等

本学は聖徳太子が敬田院を設立された精神、すなわち宗教的情操教育によって人格の陶冶を図り、広範にして深い知識と高い技術・技能を教授することによって人格の形成に資することを目的として、設置以来社会に有為な人材の育成に努めている。従って、教員養成に対する理念は、この建学の精神に基づいて、地域社会の学術・教育・文化・福祉などの振興と発展に寄与することである。

今後ますます求められる国際社会における基本的資質能力と国際感覚を養い、近年の急激に変化発展する社会に適応する知識と技術力を修得し、教員として直面する新たな事態に対処できる能力ある教員養成を目指す。

●めざす教師像

それぞれの免許状とも、まず本学の建学の精神である宗教的情操教育と人権に関する教育を行い、人格の陶冶を図る「基礎教育科目」の履修が必要となる。この履修により、子どもたちの生命と心を護り、愛情をもって教育できる人間性豊かな教師の育成を目指している。

第二に、「日本国憲法」「スポーツⅠ・Ⅱ」「英語Ⅰ・Ⅱ」「情報処理演習」などの「共通教育科目」の履修により、教員として必要となる科学的な観察力と判断力、国際的な感覚を身につける。子どもや保護者から信頼され、教養豊かな教師の育成が目指される。

第三に、各免許状の取得に必要な「専門教育科目」において高度な学識と豊かな知識を養うことを目的とした多くの科目を配している。このうち、「教職に関する科目」では、免許状の種類により「教職論」「教育

原論」「教育心理学」「教育制度論」で教育の原点を学び、教員の役割を理解する。加えて、「生徒指導論」などにより幼児・児童・生徒への心のケアや指導方法、「各教科教育法」により高い教材研究能力をそれぞれ身につけることを目指している。「教科に関する科目」では、専門的な知識や技能を身につけることを目指している。

〈教育学部　教育学科〉

【小学校教諭一種免許状】

多様化している子ども、学校、社会のニーズに柔軟に対応できる力をもち、「いい先生」とは何かを追求し続けることができる小学校教員を目指している。そのために、各セメスターにおいて多様な子どもや社会を見る目を耕す科目を広く履修し、深めることを求める。そして、大学での学びと継続的な教育現場での経験を連動させながら、小学校教員としての豊かな人間性と深い専門性、理論に裏打ちされた実践力を身につける必要がある。また、学びの過程において、活動や実践を振り返り、社会や自らの課題に気づき、それらに向き合う姿勢も求められる。

【特別支援学校教諭一種免許状】

特別な教育的支援を必要とする児童生徒に、専門的に対応できる教員をめざす。さらに、特別支援学校や小中学校の特別支援学級の児童生徒だけでなく、通常の学級において特別な支援が必要な児童生徒に対して、特別支援教育の専門性に裏打ちされた子ども理解ができ、多様なニーズに対応できる教員をめざしている。また、通常の学級において障害のあるなしにかかわらずクラス一人ひとりの多様性を重視し、全児童生徒が互いにかかわり、ともに学ぶ教育を実践できる教員になっていけるようにする。そのため、「特別支援教育概論」や「インクルーシブ教育の探求」など広く科目を履修することが求められる。

【幼稚園教諭一種免許状】

保育の本質である『遊びの中での学び』を援助できる実践的指導力や、気になる子どもや多文化共生を視野に含めた多様なニーズのある子どもに応えることができる専門的知識および実践力のある幼稚園教員の育成を目指している。

「幼児理解（教育相談を含む）」や「幼児教育課程総論」、健康、人間関係、環境、言葉、表現の各領域の「保育内容の理論と方法」等の履修を通して、教育・保育現場で求められている様々なニーズに応えることができる高い専門性と豊かな人間性を有した幼稚園教員の育成を目指している。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）】

世界はグローバリゼーションの時代に入り、英語教育の重要性は高まっている。小学校においても英語が必修化されることとなった。このような中で中学校・高等学校における英語教育を担当するのに十分な英語力・指導力を備えた教師、小学校の英語教育においても指導的な役割を果たせる教員の養成を目指している。

「中等英語科教育法」においては、教育方法の理論と実践を学ぶ。加えて、教科に関する科目において「英語学概説」「英語音声学」などの科目により英語学を、「英語文学概説」「英語文学」などの科目により英米文学の知見を得ることができる。そして、「ベーシックコミュニケーション」「アドバンストコミュニケーション」などの履修によりコミュニケーション能力を高めることになる。さらに、「英語圏文化概説」「世界英語の文化圏」「異文化理解」などの科目により異文化についても理解を深め、英語教諭として高い能力を身につけることを目指している。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（数学）】

算数・数学の内容を深く理解し、多様な子どもの違いを生かした数学的活動や、授業を通して数学を学ぶ意義・数学の有益性も実感させることができる中学校・高等学校の教員を目指している。そのため、「代数学Ⅰ・Ⅱ」「幾何学Ⅰ・Ⅱ」「解析学Ⅰ・Ⅱ」「確率統計学Ⅰ・Ⅱ」などの数学の内容に関する科目や教科教育法Ⅰ～Ⅳの履修に加え、子どもの算数・数学概念の獲得のしかたを理解し子どもの発想や疑問、想いも大切にできるようにするための「子どもの発達と算数・数学」、数学が実社会で果たす役割を理解し課題解決できる力を身につけるための「数学的リテラシー」などの科目を履修することが求められる。

【養護教諭一種免許状】

昭和 32 年開設以来、短期大学部保健科において仏教精神を基本とした養護教諭の養成に努めてきた。平成 20 年度より、教育学部教育学科・保健教育コースにその伝統と精神が受け継がれている。救急処置、健康診断、疾病予防等の保健管理および保健教育、健康相談活動等の専門知識や技能を活用し、児童生徒の現代的健康課題に地域関連機関と連携を推進するコーディネーターの役割を担える養護教諭の養成を目指している。

〈人文社会学部日本学科〉

【中学校・高等学校教諭一種免許状（国語）】

「読む・書く・聞く・話す」という「国語」の 4 技能にわたる高いコミュニケーション能力を有し、自己と他者の間の相互理解を実現することができる教員、日本文化全般にわたる幅広い地意識に基づき「国語」の教育を行うことができる教員の養成を目指している。

「日本語学」「日本語文法」「講読（日本語学）」などの科目により日本語学を学び、「日本文学論」「日本文学史」「古典Ⅰ（日本）」「古典Ⅱ（中国）」などの科目により日本文化全般にわたる文学的知識を学ぶこととなる。そして、「国語教材研究論」などの科目により教育技術・教材研究の能力を高めることとなる。

【高等学校教諭一種免許状（書道）】

高い実技能力と実技指導能力を持ち、書道史・書論・鑑賞法について総合的な知識を身につけた教員の養成を目指している。

「書道史」「書論・鑑賞」「日本文学論」「日本文学史」「古典Ⅰ（日本）」「古典Ⅱ（中国）」などの科目により日本文学・日本語学・日本史・日本文化についてバランスよく習得し、書写を含む「書道」の科目を重点的に学ぶことで実技力と実技指導能力を高めていくこととなる。

〈人文社会学部国際キャリア学科〉

【中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）】

高度な英語教育の専門的理論を学び、英語文化・語学の研究だけでなく、人間としての総合的な判断能力を培い、国際社会に役立つバランス能力を備えた教員の育成を目指している。

英語学では「英語学概説」「英語学」「英文法」を、英米文学では「英語文学概説」などを学ぶ。英語のコミュニケーション能力を高めるために、「ベーシックコミュニケーション」「アドバンストコミュニケーション」などの履修をすることになる。そして、「英語圏文化概説」「Reading（Culture）」などの科目を通じて、異文化についての理解も深めていくことを目指している。

〈人文社会学部社会学科〉

【中学校教諭一種免許状（社会）】

中学校社会科では、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することが求められる。日本と外国の地理や歴史、現代社会の様々な制度や仕組みについて理解する授業や、様々な社会的事象に関心を持ち、それらを多面的・多角的に考察する授業を設計し、実践できる教員の養成を目指している。

「日本史」「西洋史」「アジア史」「中国史」をバランスよく履修することで、日本と外国の歴史を関係づけて学ぶ。また、「人文地理学」「自然地理学」「地誌」の科目を履修することで、地理学について学ぶ。そして、「法学」「社会学理論」「経済学」「哲学概論」「ジェンダー論」「社会調査法」などの科目を履修することで、社会の中の幅広い対象について学ぶ。これらの科目で学んだことをベースにして、「社会教科教育法」などの科目により、教材研究の能力を高めることを目指している。

【高等学校教諭一種免許状（地理歴史）】

高等学校地理歴史科では、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することが求められる。現代社会を取り巻く様々な問題に対して、地理的・歴史的な見方・考え方に基づいて多面的・多角的に考察する授業を設計し、実践できる教員の養成を目指している。

「日本史」「西洋史」「アジア史」「中国史」などの科目を履修することで、各国の成り立ちや過去の様々な状況における人々の多様な営みと思惟について学ぶ。また、「人文地理学」「自然地理学」「地誌」などの科目を履修することで、日本をはじめとする世界各地の人々の暮らしや自然環境について学ぶ。これらの科目で学んだことをベースにして、「地理歴史教科教育法」などの科目により、教材研究の能力を高めることを目指している。

【高等学校教諭一種免許状（公民）】

高等学校公民科では、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民、特に主権者としての資質・能力を育成することが求められる。現代社会を取り巻く様々な問題に対して、国際的な視野を持って多面的・多角的に考察し、公正に判断し、より良い社会を構想する授業や、人間としてのあり方や生き方についての自覚を深める授業を設計し、実践できる教員の養成を目指している。

「法学」「社会学理論」「経済学」「社会心理学」「哲学概論」「ジェンダー論」「産業社会学」「家族社会学」などの科目を履修することで、幅広く現代社会について学ぶ。これらの科目で学んだことをベースにして、「公民教科教育法」などの科目により、教材研究の能力を高めることを目指している。

〈人文社会学部人間福祉学科〉

【高等学校教諭一種免許状（公民）】

高齢化社会を迎え、福祉への関心やニーズが高まるなか、社会では知識や技術に加え、一人ひとりの気持ちに寄り添った対応ができる能力が求められる。このような能力を持ち、倫理、文化、政治、経済などの観点から思考できる教員の養成を目指している。

「法学」「政治学」「社会学と社会システム」「経済学入門」「心理学と心理的支援」などの様々な科目の履修により、多様な観点を身につけ、「地域福祉と包括的支援体制」、「社会保障」、「貧困に対する支援」などの関連科目により福祉に関する知識や技術を身につけることを目指す。そして「臨床心理学」「カウンセリング理論」などの科目の履修により心の面についても学ぶこととなる。

【高等学校教諭一種免許状（福祉）】

日本社会が福祉社会であるためには、社会福祉が国民のものでなければならない。そのためには、国民が社会福祉を理解し、日本全国に福祉風土を醸成する必要がある。そして、現在では福祉ニーズが拡大・多様化・高度化している。これらに対応できる総合的な社会福祉の実現に向けた幅広い知識、および主体的に考え、公正に判断でき、実践できる力を備えた指導力のある教員の養成を目指している。

「社会福祉の原理と政策」、「社会保障」などの科目により社会福祉学を、「高齢者福祉」、「児童・家庭福祉」、「障害者福祉」などの関連科目により高齢者・児童・障害者の福祉について学ぶこととなる。また、「ソーシャルワークの理論と方法」、「ソーシャルワーク演習」、「介護福祉」、「介護演習」、「ソーシャルワーク実習指導」などの科目の履修により、社会福祉の理論と実践力を講義、演習、実習を通して学び、身につけることを目指している。

〈看護学部看護学科〉

【養護教諭一種免許状】

養護教諭は、児童生徒の健康管理、健康相談、保健教育などの学校保健活動を行う専門家である。近年、児童生徒を取り巻く社会環境の変化に伴い、児童生徒の健康問題が深刻かつ複雑化し、心身の成長・発達への課題も多岐にわたっている。また医療ケアが必要な児童生徒数、発達障害・学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒数は増加しており、これらの児童が抱えている心身の問題や親子関係・友人関係等の解決にむけて、保健医療福祉の関係機関との連携・協働が求められている。看護学部看護学科では、看護師資格をもち、医療ケアに対応できる養護教諭の養成を目指している。

事務手続き

- 学籍番号と各学部・学科（専攻・コース）の略称
- IBU.net
  ── 学内 WEB システムについて
- 大学からの連絡と教務課への問い合わせ
- 教員との連絡方法
- 休講
- 補講
- ピアノ室の利用について
- 転学部・転学科・転コースについて

学籍番号と各学部・学科(専攻・コース)の略称

●学籍番号

新入生には、入学時に学籍番号が与えられます。学籍番号とは、学生証に印字されている７桁の番号です。通常、卒業するまで変更することはありません。

学内の事務処理は、全て学籍番号によって行われます。試験の答案用紙やレポート提出の際、その他さまざまな手続きにおいて必要となります。記入する際には正確に記入してください。

●学籍番号のしくみ

学籍番号例　2（①）　57（②）　5（③）　001（④）

桁（左から）	内　容
①１桁目	学部 2- 人文社会学部 3- 教育学部 4- 経営学部 8- 看護学部
②２桁目～３桁目	期生
③４桁目	学部・学科・専攻・コース 人文社会学部　1-　日本学科 3-　国際キャリア学科 4-　社会学科 5-　人間福祉学科 教育学部　1-　教育学科　小学校教育コース 2-　教育学科　英語教育・小学校コース 3-　教育学科　保健教育コース 4-　教育学科　幼児教育保育コース 経営学部　2-　経営学科　公共経営専攻 3-　経営学科　企業経営専攻 看護学部　1-　看護学科
④５桁目～７桁目	個人番号 一般学生　001 ～ 復籍学生　401 ～ 再入学生　501 ～ 転入学生　601 ～　（他大学２年次修了後、間を空けずに転入） 転入学生　701 ～　（他大学卒業後、転入または他大学２年次以上在学後に退学、その後転入） 転学部生　801 ～ 編入生　901 ～

●各学部・学科（専攻・コース）の略称

各学部・学科（専攻・コース）は、便宜上、略称で示されることがあります。各学部・学科（専攻・コース）の略称は下のとおりです。

学　部	学　科	専攻・コース	略　称
人文社会学部	日本学科		日本
	国際キャリア学科		国際
	社会学科		社会
	人間福祉学科		人福
教育学部	教育学科	小学校教育コース	教小
		幼児教育保育コース	教幼
		英語教育・小学校コース	英小
		保健教育コース	教健
経営学部	経営学科	公共経営専攻	経公
		企業経営専攻	経企
看護学部	看護学科		看護

IBU.net

● IBU.net とは

IBU.net は、インターネットを通じて、履修登録を行ったり、自分の成績や授業の出欠席を確認したり、授業をはじめ大学のさまざまな情報が掲示される WEB システムです。また、授業課題の提示や提出もここで行う場合があります。毎日ログインし、最新の情報を確認してください。

【IBU.net の主な機能】

No.	機　能		説　　明	問い合わせ先
①	My DATA	(個人時間割)	自分の時間割が閲覧できます。希望した科目が履修登録できているか確認してください。	教務課
		(個人成績)	入学してからの自分の成績が閲覧できます。	
②	学修支援	(シラバス照会)	開講科目のシラバス（授業計画や評価方法など）が検索・閲覧できます。	教務課
		(授業出欠状況)	履修科目の出席状況を確認することができます。(科目により入力されていない場合もあります)	科目担当者(教員)
③	履修登録		履修する科目の登録ができます。卒業年次生は教員免許等の免許・資格の登録も必要です。履修登録期間のみメニューが表示されます。	教務課
④	授業情報		当日と翌日の履修科目の情報が表示されます。休講の場合は、休講のマークが表示されます。	教務課
⑤	お知らせ情報一覧		大学の各部署や教員からのお知らせが掲示されます。	各部署・教員
⑥	休講・補講情報一覧		履修登録されている授業の、休講・補講情報です。	教務課
⑦	課題提出		授業で出される課題です。毎日確認してください。(注)	科目担当者(教員)
⑧	授業資料		毎回の授業で使用する資料です。(注)	
⑨	Q & A		授業についての質問はここで行ってください。(注)	

＊①②③④⑦⑧⑨：IBU.net にログイン　⇒　「授業支援メニュー」
(注) 提出した課題、教員からの授業資料や Q&A は、年度を越えると閲覧できなくなる為必ず各自で保存してください。

●メール設定について

IBU.net に自分のメールアドレスを設定すると、大学からのお知らせや授業に関する情報（休講・教室変更など）や科目担当教員からのお知らせ等がそのメールアドレスに転送されます。※添付ファイルは IBU.net に直接ログインしないと開くことができません。

IBU.net での転送メールアドレス設定、その他 IBU.net のくわしい使い方については、IBU.net のマニュアルに掲載されている『情報環境利用の手引き』を参照してください。

!

メール設定に関する注意

1）IBU.net を通して情報発信されるものの中には、データ（word 文書や excel ファイル・PDF ファイルなど）が添付されている場合があります。転送されてきたメールから添付されているデータは参照できませんので、必ずパソコンで IBU.net にログインして、確認してください。
2）IBU.net から転送されてきたメールに直接返信しても、差出人へメールは届きません。
3）全ての情報が IBU.net を通してメールされるわけではありません。必ずパソコンでログインした IBU.net 画面を確認してください。

※ IBU.net にログインする ID とパスワードは入学時に配付します。わからなくなったら高等教育推進センターに問い合わせてください。

●保護者の IBU.net 閲覧

保護者の方も IBU.net を通じて学生の時間割表や成績表、出欠状況を閲覧することができます。閲覧方法や ID とパスワードは保護者宛に 5 月頃に郵送しています。

大学からの連絡と教務課への問い合わせ

●大学からの連絡

大学からの連絡は、IBU.net を通じて行います。

例えば、教室変更、休講、授業に関する注意事項など、学生生活を送る上で、大切な情報ばかりです。大学へ登校する際には、必ず IBU.net を確認してください。

お知らせした情報は、皆さんが知っているものとして取り扱いますので、注意してください。

●教務課窓口での問い合わせ

授業の履修登録や時間割や教室の配当、成績の管理などを行っているのが教務課です。これらのことで分からないことがあれば、窓口で尋ねてください。

【窓口受付時間】：月曜日～土曜日（祝日除く）　9：00 ～ 17：30
11：35 ～ 12：25 は当番者のみでの対応になります。

※授業、履修、試験、レポート、成績に関することなどの電話での問い合わせには、間違いが生じやすく、個人が特定できないといった問題もありますので、一切応じません。

●教務課事務取扱内容

履修・授業・休講・補講
試験・レポート
単位・成績
学外実習（博物館学芸員・社会福祉士・精神保健福祉士・MSW インターンシップ・看護師・保健師・助産師）
和の精神・授戒会
免許・資格に関すること
各種証明書

※上記以外の教育実習・保育実習等の学外実習については、教職教育推進センター（4 号館地下 1 階）に問い合わせて下さい（看護学部の養護実習を含む）。

●提出物等の期限について

各種手続き（履修登録、レポート提出、追・再試験、その他資格の取得など）の期限は必ず守ってください。定められた期間内に手続きを完了しない場合、単位の修得や資格取得ができなくなるばかりでなく、卒業できなくなる場合もあります。

教員との連絡方法

大学の教員と連絡をとりたい場合は、次のような方法があります。

●研究室を訪ねる

専任教員には研究室があり、授業時間以外は研究室に在室していることが多いので、直接研究室を訪ねてもよいでしょう。研究室の場所については、IBU.net に掲載されている「研究室一覧 / オフィスアワー（学内のみ利用可）」を確認してください。

非常勤講師には研究室はありません。担当の授業がない曜日には原則として本学に出講していません。授業のある曜日に講師室（4 号館 1 階）を訪ねてください。

●オフィスアワーを利用する

専任教員は「オフィスアワー」を設定しています。オフィスアワーは学生の皆さんが学修や進路についての疑問や質問・学生生活についての相談等を個別に尋ねることができるように設けられた時間です。それぞれの教員のオフィスアワーについては、IBU.net に掲載されている「研究室一覧 / オフィスアワー（学内のみ利用可）」で確認してください。

非常勤講師については、オフィスアワーはとくに設けていませんので、質問等があれば授業終了後等に行ってください。

●メールを送る

教員を直接訪ねることができない場合は、メールを送ってみてもよいでしょう。専任教員・非常勤講師ともに四天王寺大学用の G-mail アドレスを持っています。G-mail アドレスは、IBU.net の「マニュアル」もしくは学内ホームページに掲載されている「教職員メールアドレス検索」で確認してください。また IBU.net の授業ページの Q&A でも質問できます。ただし、メールを利用するかどうかは各教員によって異なり、返信がない可能性がありますので、極力直接教員を訪ねるようにしてください。

●授業のない期間に連絡をとりたい場合

授業のない期間（定期試験期間や、夏期・冬期休業期間など）には、教員が必ず学内にいるとは限りません。また、非常勤講師については、原則として大学には出講していません。したがって、教員への連絡・相談はできる限り授業期間内にしておいてください。

休講

授業は、大学または担当教員のやむを得ない事情（学会出張、体調不良等）によって休講になることがあります。

休講はできる限り早く IBU.net で連絡しますが、やむを得ず、当日連絡することもありますので、注意してください。

休講の連絡がなく、授業開始後 30 分を過ぎても担当教員が来ない場合は、休講扱いとします。教務課に申し出て指示を受けてください。

●臨時休講について

【1】臨時休講の条件

次の⑴～⑸のいずれかの状況が生じた場合は、臨時休講となります。（定期試験期間中も含む）

⑴　大阪府の「南河内」区域※のいずれかの市町村に特別警報（暴風・大雨・暴風雪・大雪）が発表された場合

⑵　大阪府の「南河内」区域※のいずれかの市町村に暴風警報が発表された場合

※「南河内」区域：富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村

⑶　近鉄南大阪線の「大阪阿部野橋」から「古市」の全区間が運行停止となった場合（一部運行停止、延着を除く）

⑷　大阪府のいずれかの市町村に大規模地震対策特別措置法に基づく警戒宣言が出された場合

⑸　学長もしくは教務部長が学生の安全確保の必要があると判断した場合

※⑸の場合、本学 HP 及び IBU.net でお知らせします。

ただし、施設の安全確認など判断に時間を要することがあり、即時に連絡できない場合があります。

【2】上記⑴～⑷の状況が発生・解除・継続された場合の授業の取り扱い

午前 5 時 59 分までに解除された場合	1 限より全授業実施

午前 6 時から 8 時 59 分の間に発生している場合	1・2 限休講

⬇

午前 6 時から 8 時 59 分までに解除された場合	3 限以降の授業実施
午前 9 時以降も継続している場合	終日休講

午前 9 時以降に発生した場合	発生した時点以降終日休講

注　意

- 授業がある場合の通学については、十分に注意し、各自で安全を確保してください。
- 各自、上記の条件を確認して判断してください。
- 臨時休講の有無について、個別での問い合わせはご遠慮ください。
- 大阪府以外又は大阪府の「南河内」区域以外から通学する学生について
  大学が臨時休講にならない状況において、在住地域に特別警報（暴風・大雨・暴風雪・大雪）、暴風警報が発表された場合、科目担当者が配慮することがあります。

補講

授業が休講となった場合、またはその他の理由により、平常の開講曜日時限以外で授業を行うことを補講といいます。

●授業期間中の補講

補講を行うことが決まり次第、授業内に教員から連絡又は IBU.net で連絡します。

●補講日に実施

年度・学期によって、補講日を設定している場合があります。補講日には平常授業を行わず、補講の連絡があった科目のみ補講が実施されます。補講日については学年暦で確認してください。

但し、補講日以外に実施される場合もあります。

ピアノ室の利用について

8 号館音楽棟ピアノ練習室を利用する際は、教務課に届け出が必要です。音楽棟は、授業や個人練習、部活動の場として多くの人が利用しますので、学生の皆さんが気持ちよく練習できるように、利用方法を守ってください。

【1】利用方法

①教務課で利用届を記入
②学生証を預け、鍵または使用許可証を受け取る

→

③ 1 時間練習

→

④鍵または使用許可証を教務課へ返却し、学生証を受け取る

【2】利用時間

	時　期	曜　日	時　間
①	授業期間中	月～金	9：00 ～ 18：30（受付は 17：30 まで）
②		土	9：00 ～ 17：00（受付は 16：00 まで）
③	授業期間外	月～金	9：00 ～ 17：30（受付は 16：00 まで）
④		土	9：00 ～ 17：00（受付は 15：30 まで）

1） 申し込みには、学生証が必要です。
2） 利用時間は 1 時間です。延長は教務課まで申し出てください。
※状況によって延長不可能な場合もあります。
3） 授業期間外（夏季・冬季休暇期間など）の利用時間は 90 分の利用が可能です。
4） 授業での使用が優先のため、個人練習での使用ができない場合があります。

【3】設備および注意事項について

1） 備品等に故障・紛失・破損などがあれば、すぐに教務課に申し出てください。
2） 盗難防止のため、鍵をかけずに貴重品等の荷物を練習室に置いたままにしないでください。
3） 電子ピアノ室での練習は、使用許可証をピアノの上に置いてください。練習を終了したときは、ヘッドホンは電子ピアノの横に必ずかけてください。
4） ピアノ室での飲食は厳禁です。

転学部・転学科・転コースについて

在学中に他の学部・学科（専攻・コース）に変わることを転学部・転学科・転コースといいます。ただし、全ての学部・学科（専攻・コース）で募集が行われる訳ではありません。転学部・転学科・転コースには審査があり、合格すると翌年度 4 月から転学部・転学科・転コース先の学部・学科（専攻・コース）の 3 セメスターまたは 5 セメスターに所属することになります。出願には、修得単位数や学業成績などの条件があります。毎年 7 月頃、「転学部転学科募集要項」を公開しますので、希望する学生は必ず確認して下さい。また、質問等があれば、教務課で説明を行います。

【転学部転学科手続きの流れ】

1）「転学部転学科募集要項」を確認する。
2） ①「希望願い書」・②「希望理由書」を記入する。
3） 教務課設置の証明書発行サービスで、審査検定料 10,000 円を支払う。
また、教務課に①「希望願い書」・②「希望理由書」・③成績単位修得証明書（教務課窓口で申込）を提出する。
4） 選考を受ける。
5） 合否通知書を教務課より郵送。
6）〈合格の場合〉
① オリエンテーションは転学部転学科先の学部・学科・コースに参加する。
② 学生支援センターにて、新しい学生証を受け取る。
③ 教務課で履修相談をする。

＊説明会や募集要項配布時期については、IBU.net でお知らせします。

授業・履修

- 学位
  ── 学位授与までの道のりについても説明しています。
- 単位のしくみ
  ── 単位の計算方法や単位と出席について説明しています。
- セメスター制について
- 授業
  ── 授業期間・授業時間・学生アンケートについて説明しています。
- シラバス（授業計画）
  ── シラバス（授業計画）について説明しています。
- 卒業に必要な単位
  ── 卒業に必要な単位数や条件を説明しています。
- 履修
  ── 授業科目の履修登録について説明しています。
- 履修単位上限
- 卒業研究
- 課題研究
- 単位認定
  ── 留学・取得した資格・他大学や短期大学などの授業科目が
  単位として認められる場合があります。

学　位

●学位の授与

本学の卒業者には、「学士」の学位を授与します。学位に付記される専攻分野の名称は、以下のとおりです。

学　部	学位と専攻分野の名称
人文社会学部	学士（人文社会学）
教育学部	学士（教育学）
経営学部	学士（経営学）
看護学部	学士（看護学）

●学位授与までの道のり

卒業し、学士の学位を授与されるには、下記の条件を満たしている必要があります。

- ４年間以上大学に在学していること
  ※休学した期間は在学期間に含まれません。
- 卒業に必要な単位数（卒業要件単位数）を修得していること

４年次生以降の成績評価の結果、上記２つの条件を満たした学生は、教授会等の審議を経て卒業が決定します。

卒業が決定した学生は、郵送にて発表されます（卒業者発表）。

卒業する学生は、学位授与式へ出席し、学位記（卒業証書）を授与されます。

※卒業延期者には卒業延期通知を郵送します。

＊卒業者発表は冬学期は３月上旬、夏学期は９月上旬に郵送にて行います。IBU.net や電話等での確認はできません。

＊在学できるのは８年間までです。

単位のしくみ

●単位の計算方法

大学を卒業するためには、各学部・学科（専攻・コース）で定められた単位を修得しなければなりません。

単位は、授業科目を履修・受講し、定期試験やレポート提出、授業中の評価にて合格点（60 点以上）をとることによって修得できます。

履修登録	→	授業への出席	→	単位修得
単位修得にはまず履修登録が必要です。		毎回の授業に出席します。		定期試験・レポートや授業中の平常点等により評価される。合格点を取れば、単位修得となります。

【1】単位の計算基準

1 単位＝ 45 時間の学修（授業時間外の学修を含む）

文部科学省令として定められている大学設置基準では、授業の方法や授業時間外に必要な学修（予習・復習・学外実習）の時間数などによって単位数が以下の様に定められています。

(授業の方法)

- 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

(単位)

- 授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって 1 単位として単位数を計算するものとする。

●単位と出席

本学の「単位の修得及び試験に関する規程」では、「各科目について、その出席時数が当該科目の全授業数の 3 分の 2 に満たない者は、試験を受験しても単位は認定されない。」とされています。

授業の出席確認はカードリーダー等様々な方法で行われますが、自分の履修している科目については、自分でも記録をとるなどして、しっかり出席回数を把握しておくようにしてください。また、授業は毎回出席し、積極的に授業に参加するようにしてください。

なお、科目ごとの評価方法に関しては、シラバス（授業計画）で確認してください。

セメスター制について

●セメスター制

本学では 1 年間を 2 つの学期に分け、講義を各学期ごとに完結させ、履修・試験・成績評価を行います。夏学期・冬学期をそれぞれ 1 セメスターとして数えます。

1 年次		2 年次	
夏学期	冬学期	夏学期	冬学期
1 セメスター	2 セメスター	3 セメスター	4 セメスター
3 年次		4 年次	
夏学期	冬学期	夏学期	冬学期
5 セメスター	6 セメスター	7 セメスター	8 セメスター

授業

大学の授業は、高等学校までの授業とは大きく異なります。まず、大学では自分自身で「どの授業を受けるか」を選択し、履修登録を行います。同じ学科、同じ学年でも、選ぶ授業によって時間割は違ってきます。

●授業期間

大学では、4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までを 1 年間の授業期間としており、夏学期と冬学期に分かれています。1 年の間には授業の無い期間がありますが、その期間に「集中講義」や各種講座などが行われます。時間割をよく確認してください。

学期ごとの授業開始日・授業終了日や休業期間については、学年暦で確認してください。

●授業時間

大学の授業は 1 時限＝ 100 分です。本学では 1 時限から 5 時限まであり、それぞれの授業時間は次のとおりです。

時　限	授業時間
1 時限	9 ：00 ～ 10：40
2 時限	10：55 ～ 12：35
(昼休み)	12：35 ～ 13：25
3 時限	13：25 ～ 15：05
4 時限	15：20 ～ 17：00
5 時限	17：10 ～ 18：50

●学生アンケート

学生の皆さんに「学生アンケートによる授業評価」を実施しています。これは、授業について学生の皆さんの要望や建設的な意見に耳を傾け、教員と学生が一体となって、より充実した授業を目指すために行われます。

●オンデマンド授業

オンデマンド授業の進め方や注意事項については、授業内でアナウンスがありますので、確認してください。
不明な点がある場合は、IBU.net の授業Q＆A等を使って担当教員に確認してください。

●教室変更について

授業が行われる教室が変更となることがあります。教室変更が行われた場合は、以降の授業すべて変更になることがありますので、教室変更の通知をよく確認してください。
休講・補講・教室変更については、事前または当日に、IBU.net にてお知らせしますので、確認してから授業へ出席してください。掲示板でのお知らせはありませんので注意してください。

●授業を欠席する場合

大学での学修においては、すべての授業に出席しなければなりません。本学の規程で単位修得には原則として 3 分の 2 以上の出席を必要としています。

＊公認欠席について
忌引、就職活動、クラブ公式試合、学外実習等で欠席する場合、科目担当者の判断により、公認欠席として教育的措置を受けられる場合があります。
公認欠席＝出席ではありません。公認欠席の取扱いについては科目担当者によって異なります。

●授業中に守るべきマナーについて

本学では、勉学に集中できる静穏な学修環境の整備を目的に、全学を挙げて規律ある学修環境づくりに取り組んでいます。下記の規律の主旨を理解し、各自が規律遵守を心がけてください。

受講心得

一、本学学生は、建学の精神、学園訓に則り、学びの主体として自ら学修の意義を見出し、真摯に学業に取り組むこと。
二、前条の精神に基づき、授業においては、授業の妨げになるような行為を慎むこと。
三、授業の妨げとなる行為があり、教員から注意を受けた場合は、自ら省みて速やかに行為を改めること。

シラバス（授業計画）

大学の授業科目には、それぞれシラバス（授業計画）が IBU.net 上に公開されています。シラバスとは、その授業内容や進め方について、詳細に記したものです。履修登録を行う前に、必ず確認をしてください。とくに卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と当該授業科目の関連（卒業時点において学生が身に付けるべき能力）についての詳細は履修要覧を参照し、確認してください。シラバスには、授業の担当教員名などの他、次のような事項が記載されています。

1）授業題目
2）概要
3）到達目標（この授業を受ける場合の目標）
4）授業計画（毎回の授業をどのように進めていくのか）
5）学外活動予定（日程、行先、内容等）
6）目標達成のための授業方法・履修上の注意事項（課題へのフィードバック方法含む）
7）授業時間外に必要な学習（予習・復習に必要な学習内容）
8）授業形態（講義、演習、実習、発表、対話、討論）
9）使用するテキスト（教科書）や、参考図書
10）成績評価の方法（試験やレポート、小テストなど、どのような基準で評価が決まるのか）
11）実習材料費等（実習材料費を徴収する費用について）
12）アクティブラーニングを行っているか、また、その詳細
13）ICT の活用状況
14）ルーブリックを採用しているか
15）14 回全て外国語のみで授業を行っているか（但し外国語教育を主たる目的とする科目は除く）
16）実務経験のある教員による授業内容

■シラバスの見方

シラバスは、IBU.net の授業支援メニュー（PC）→学修支援→シラバス照会から確認することができます。検索画面で授業科目名や担当教員名を入力して検索できます。

■シラバスの使い方

シラバスを読むことによって、授業の詳細な内容を事前に知ることができます。「どの授業を履修するか」を決定する際に、シラバスでその授業の概要などをよく確認して、授業を選択する参考にしてください。また、事前の準備や、学習の進み具合の確認等適宜利用してください。

（例）

授業コード							
開講学期		授業区分		曜日・時限			
科目名					単位数		
教員							
授業題目							
概要	本科目は、わが国に生きる人間として必要な仏教的学識の基礎を修得し、仏教Ⅰ、仏教Ⅱの瞑想および写経の実践行の意義を理解することによって、宗教的情操の体得を促すことを目的としている。特に、釈尊の説かれた十二縁起、四諦、八正道などの仏教思想の基本を把握することを通して現代社会を生きる人間人格のあり方を省察する。更に、和の精神を中心とした聖徳太子の仏教精神を学ぶことにより、本学の建学の精神に対するより深い確信をもつことを可能にする。						
到達目標	釈尊と聖徳太子の仏教精神を学ぶことにより、現代社会を正しく生きるための仏教的素養を身につけることができる。						
授業計画	1　仏教とは何か 2　釈尊の生涯について　(1)［誕生から出家まで］ 3　釈尊の生涯について　(2)［苦行から入滅まで］ 4　仏教の根本思想について　(1)［無常・空・無我について］ 5　仏教の根本思想について　(2)［十二縁起について］ 6　仏教の根本思想について　(3)［四諦・八正道について］ 7　大乗仏教の思想について 8　般若心経の思想について 9　聖徳太子の歴史的意義について　(1)［対外的施策について］ 10　聖徳太子の歴史的意義について　(2)［国内体制の整備について］ 11　聖徳太子の仏教精神について　(1)［和の精神について］ 12　聖徳太子の仏教精神について　(2)［在家中心の精神について］ 13　現代社会と仏教について　(1)［現代仏教の課題］ 14　現代社会と仏教について　(2)［仏教精神を活かして］						
学外教育活動予定 （日程、行先、内容等）							
目標達成のための授業方法・履修上の注意事項（課題へのフィードバック方法含む）	授業担当者の指示に従うこと。 授業中は私語をつつしみ、居眠り等をしないようにすること。 正当な理由がない遅刻や早退、途中退出などは行わないこと。						
授業時間外に必要な学習	授業に関係する参考図書などを随時提示するので、それを一読するようにすること。						
授業形態	講義						
テキスト（授業において使用する書籍等）	『仏教聖典』（仏教伝道協会）。その他、適宜資料を配布する。						
参考文献（学修をさらに進めるために役立つ書籍等）	三枝充悳著『仏教入門』（岩波新書） 中村元著『釈尊の生涯』（平凡社）など						
成績評価の方法	定期試験 80%、平常点（各授業回の小レポートなど）20%						
実習材料費等							
アクティブラーニングを行っている							
ペアワーク		グループワーク		プレゼンテーション		ディスカッション	
ロールプレイ		ワークシート		双方向型学習　ICT 等		発見学習	
問題解決型学習		体験学習		調査学習		フィールドワーク	
その他							
学生・教員とも ICT を活用		教員のみ ICT を活用		学生のみ ICT を活用			
PC		タブレット端末		電子黒板		クリッカー		スマートフォン
その他							
ルーブリックを採用している							
全授業回を外国語のみで授業を行っている（外国語教育を主たる目的とする科目は除く）							
実務経験		職業等					
備考							

※卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連（卒業時点において学生が身につけるべき能力・ナンバリング）についての詳細は履修要覧を参照の上、確認してください。

卒業に必要な単位

●卒業するためには

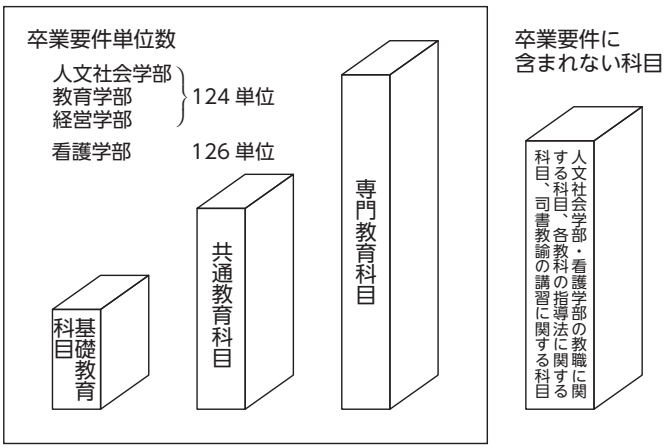
大学を卒業して学位を得るためには、本学に 8 セメスター、4 年以上在学していることのほか、卒業するために必要と定められた単位を修得しなければなりません。これを「卒業要件単位数」といいます。

卒業要件単位数は、人文社会学部・教育学部・経営学部では合計で 124 単位、看護学部では合計 126 単位と定められています。

ただし、各学部・学科（専攻・コース）ごとのカリキュラムに設けられた科目は分類され、要件が定められています。科目の分類は、全学部共通で開講される科目群である「基礎教育科目」・「共通教育科目」と、学科（専攻・コース）ごとにそれぞれ開講される「専門教育科目」に分けられます。

卒業要件単位数については、次のようなイメージで、それぞれ分類ごとの単位数を積み上げることにより卒業を目指します。

※人文社会学部・看護学部の「教職に関する科目（教育の基礎的理解に関する科目等）」、「各教科の指導法に関する科目」及び「司書教諭の講習に関する科目」は卒業要件に含まれないため、注意してください。



科目群	内　　容
①「基礎教育科目」	本学の特色とする仏教を中心に据えた人格形成の科目群
②「共通教育科目」	社会人として必要な基礎能力や幅広い知識を身につける科目群
③「専門教育科目」	確かな専門的な知識・技能を習得する科目群

学科ごとの卒業要件単位数の詳細については、次ページ以降を参照してください。

＊教育学部の「教職に関する科目」は、卒業要件に含まれます。

＊「単位」について

単位とは、ある授業科目を修了（履修登録を行い、授業を受けて、テスト等を受験し合格）した証としてもらえるポイントのようなものです。

例えば、夏学期の月曜日・1 限の「○○論」という授業を受けてテストに合格すれば 2 単位を修得できます。但し、1 単位等の授業もあります。

●卒業に必要な単位数

卒業するためには、本学に 8 セメスター、4 年以上在学し、卒業要件として定められた次の科目および単位数を修得しなければなりません。

(卒業要件)

人文社会学部

学科・専攻名	基礎教育科目		共通教育科目			専門教育科目			合　計 (A)+(B)+(C)
	必修	小計(A)	必修	選択	小計(B)	必修	選択	小計(C)	
日本	6	6	14	16	30	28	60	88	124
国際			10	22	32	44	42	86	124
社会			14	16	30	24	64	88	124
人福			14	16	30	18	70	88	124

教育学部

学科・専攻名	基礎教育科目		共通教育科目			専門教育科目			合　計 (A)+(B)+(C)
	必修	小計(A)	必修	選択	小計(B)	必修	選択	小計(C)	
教小	6	6	12	8	20	56	42	98	124
教幼			12	8	20	54	44	98	124
英小			12	8	20	58	40	98	124
教健			12	8	20	56	42	98	124

経営学部

学科・専攻名	基礎教育科目		共通教育科目			専門教育科目			合　計 (A)+(B)+(C)
	必修	小計(A)	必修	選択	小計(B)	必修	選択	小計(C)	
経公	6	6	14	18	32	20	66	86	124
経企			14	18	32	26	60	86	124

看護学部

学科・専攻名	基礎教育科目		共通教育科目			専門教育科目			合　計 (A)+(B)+(C)
	必修	小計(A)	必修	選択	小計(B)	必修	選択	小計(C)	
看護	6	6	8	10	18	102	0	102	126

(注意 1) 教職に関する科目・各教科の指導法に関する科目の単位は、卒業に必要となる単位に算入されない（教育学部教育学科を除く)。

(注意 2) 司書教諭の講習に関する科目の単位は、卒業に必要となる単位に算入されない。

(注意 3) 各自が所属する学部・学科・専攻以外で開講されている専門教育科目を履修した場合（＝他学部・他学科履修）は、各自の専門教育科目の選択科目として単位に算入される。ただし、上限を 30 単位とする。

履修

●履修とは

履修とは、卒業、免許・資格の取得に必要な科目を自分で確認し、自分で科目を選択し、その科目の単位を修得することをいいます。どの科目を履修するかについては、卒業及び免許・資格取得までのプロセスを自分なりに考え、授業科目を体系づけて計画する必要があります。

●履修登録について（※担任教員の指導を必ず受けてください）

履修登録は、各学期の最初に「自分が履修する科目を登録する」手続きです。

Ⅰ　履修登録に必要な書類受取り（オリエンテーション）
「履修要覧」「時間割表」「クラス分け表」等

⬇

Ⅱ　ガイダンス（学科別オリエンテーション）
・カリキュラム（授業の組み立てや履修の仕方等）の説明
・ガイダンスでわからないことがあれば個別に担任教員または教務課をたずねてください。

⬇

Ⅲ　履修登録下書き用紙の記入
用紙はIBU.netからダウンロードします。
シラバスで内容を確認してから履修希望科目を下書き用紙に記入して下さい。
また上限単位の範囲内であるか、不足している科目がないかを再度確認します。

⬇

Ⅳ　履修登録期間
期間内にIBU.netにて登録を行ってください。

⬇

Ⅴ　履修登録時の注意事項
・科目名、担当教員をよく確認して登録すること。
・履修登録期間内であれば、何度でも変更が可能。
・各種実習・卒業研究・集中講義は、画面下の枠から選択します。
・**自分で確認し最終確定した時間割を印刷して、担任教員の履修指導を必ず受けてください。**
必要があれば履修科目を訂正してください。

⬇

Ⅵ　履修訂正期間
履修登録期間終了後に、やむを得ず時間割の訂正が必要になった学生のために履修訂正期間を設けます。
・**最終確定した時間割を印刷して、担任教員の履修指導を受けてください。**

※履修登録に誤りがあった場合、その科目の単位修得はできません。
十分に確認のうえ、履修登録を行ってください。

履修希望科目の決定時の注意
・在学しているセメスターより上のセメスター配当科目は、履修できません。
・在学しているセメスター以下のセメスター配当科目は、履修できます。
・時間割変更がないか、IBU.net『お知らせ情報一覧』で確認してください。
・学科・クラス指定の授業があるので、確認してください。
・科目名の後にA、Bなどアルファベットが付いている科目はA⇒Bと履修する等、履修に条件がある科目に注意してください。
・既に修得した科目を再度履修することはできません。

授業の出席は、履修登録にかかわらず初回から必要です。

各科目の授業概要、到達目標、授業計画、目標達成のための授業方法・履修上の注意事項、授業時間外に必要な学習（予習・復習等）、成績評価の方法など、IBU.net上の「シラバス照会」で必ず確認してください。

●履修計画の立て方

1　履修に必要な資料を受け取り、担任教員の履修指導を受けましょう。
　オリエンテーションには必ず参加し、履修要覧・時間割表・クラス分け表・各学科独自の資料を受け取ってください。

2　履修個別相談会を活用しましょう。
　各学期の開講時期に、特定日を設け「履修個別相談会」を開催しています。時間割の組み方など、わからないことがあれば、この期間を活用するとよいでしょう。

●履修登録期間（IBU.net から受け付けます）

学　期	期　間
夏学期	令和７年４月１日（火）～ ４月８日（火）
冬学期	令和７年９月17日（水）～ ９月22日（月）

※履修登録期間終了後にやむを得ず時間割の訂正が必要になった学生のために履修訂正期間を設けます。
　期間については学年暦で確認してください。

●自分が所属するクラスの確認

　クラス分け表を見て自分が所属するクラスを確認しましょう。（クラス分け表は春のオリエンテーションにて配付しています。）
　科目によってクラスをいくつかの種類で分けて開講しているので、正しいクラスで履修登録を行いましょう。

●科目の開講についての注意事項

⑴　科目は毎年変更されることがあります。自分の受講したい科目がその年度に開講されるとは限りません。また、配当セメスターについても変更されることがあります。
⑵　履修希望者が想定している人数より多くなった科目では、クラス指定学生の履修が優先されます。その他指定外の学生については、抽選等による履修人数制限を行う場合があります。
⑶　履修希望者数が 10 名以下で著しく少人数の科目は、閉講またはクラス合併等が行われる場合があります。

【注意】　履修登録に誤りがあった場合、その科目の単位修得はできません。十分に確認のうえ、登録を行ってください。
　最終確定した時間割を印刷して、担任教員の履修指導を受けてください。
　各科目の内容については、IBU.net 上の「シラバス照会」で必ず確認してください。

●大学の他学部・他学科・他専攻専門教育科目の履修の注意事項

　他学部・他学科・他専攻で開講される専門教育科目を履修することができます。詳細は以下の通りです。
１．他学部・他学科・他専攻の学生が履修できる科目は、以下の①～④全ての条件を満たしたものとします。

またその場合でも、適正な人数を超えた場合などは、その学部・学科・専攻の学生の履修が優先されます。

① 同じ入学年度のカリキュラムである
② 他学部・他学科履修不可科目ではない
③ 配当セメスターが自分のセメスター以下である
④ 自分の学部・学科・専攻に同等科目がない

①～④は履修要覧で調べることができます。

2．履修登録

シラバスを確認し、必ず授業担当の先生の許可を得た上で、履修登録をしてください。

IBU.net 上で履修登録できる状態にある、あるいは科目編成表の「他学部・他学科履修」欄に「不可」の記載がなくても履修できない場合もありますので、ご注意下さい。

3．単位認定

単位を修得した場合、30 単位を上限に専門教育科目の選択科目として算入されます。

（注） 人文社会学部人間福祉学科、教育学部、看護学部、短期大学部の専門教育科目については他学部、他学科、他専攻の学生は履修できません。

※「地域共創プログラム」関連科目は、「地域共創プログラム」取得を目指す人文社会学部・経営学部の学生に限り、他学部・他学科履修を可とします。

履修単位上限

各学期で履修登録することのできる単位数の上限（履修単位上限）は 24 単位です。

【備考】

1） 次にあげる科目は、上記の履修単位上限を越えて履修できます。
① 人文社会学部・看護学部の「教職に関する科目」
② 司書教諭の講習に関する科目
③ 集中講義科目（日程が重複して開講される科目は、2 科目同時に履修できない）
④ 卒業研究・課題研究
⑤ 教育学部の教育実習・教育実習指導科目、保育実習・保育実習指導科目、「臨床看護学演習」、インターンシップ科目（スクールサポーター科目を含む）
⑥ 人文社会学部人間福祉学科「ソーシャルワーク実習指導 A」・「ソーシャルワーク実習指導 B」・「ソーシャルワーク実習指導 C」・「ソーシャルワーク実習 A」・「ソーシャルワーク実習 B」「MSW インターンシップ」

2） 累積 GPA（※ P.55 参照）が 3.5 以上ある場合、次学期に履修登録単位数の上限を超えて 28 単位まで履修登録することができる。

3） 人文社会学部人間福祉学科および教育学部の学生のうち、教員免許状・国家試験受験資格の取得を希望する者は、『免許・資格科目履修申請願』を提出することにより、単位数の上限（24 単位）を超えて履修することができる。

4） 下記認定科目については、履修単位上限を越えて単位が認定されます。
①「外国の高等教育機関における授業科目」の認定科目
②「知識・技能研究Ⅰ・Ⅱ」の認定単位（9セメスター以上は対象外）
③「大学コンソーシアム大阪」単位互換事業により単位を修得した科目
④「本学入学前の既修得単位」の認定科目
⑤「他の大学または短期大学等の授業科目」の認定科目
⑥「国内実地研修Ⅰ・Ⅱ」
⑦ 留学・海外研修・海外実地研修に関する科目
5） 履修単位上限は編入・転入学生および転学部転学科等の学生、9セメスター生以上には適用しません。
6） 複数学期にわたり開講する科目は学期数で割って換算します。

卒業研究

「卒業研究」は、各学科の「専門教育科目」の選択科目4単位として設置されています。3年次以降に各指導教員に従って、1つの研究テーマを追求し、そのために必要な調査・分析をし、完成までにさまざまな知識、経験、手法を身に付け、「卒業研究」としてまとめます。また、その中で論文構成・文章作成の能力も養います。自分の専門知識の拡大や自己啓発のために、できるだけ履修することを勧めます。

●提出までの日程

事　項	期　日	提出先
①「卒業研究作成計画書」の提出	7セメスター開始時まで　※日時は指導教員の指示に従う	指導教員
②「卒業研究」履修登録	8セメスター	IBU.net にて履修登録
③「卒業研究」提出	8セメスター	教務課

※諸手続および書類の提出については、期限を必ず守ってください。
9月卒業生は、提出までの日程を教務課で確認してください。

●「卒業研究」の履修

「卒業研究」を履修するための条件は次の通りです。
1） 7セメスターを終了して、「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の2単位を含み、卒業に必要となる修得単位数が合計90単位以上あること
2） 7セメスター開始時までにゼミの指導教員の指導に従って、「卒業研究作成計画書」を作成し、ゼミの指導教員の審査を受けた上で、卒業研究作成許可を得ておく
3） 8セメスターの履修登録時に「卒業研究」の履修登録を行う

●「卒業研究」の書式

1） 論文形式の場合

原稿は和文または英文で、提出用紙はパソコンで作成することが望ましいですが A4 原稿用紙でも可能です。書式は次の通りで、共同研究の場合も一人当たりの分量は同じです。詳細は指導教員の指示に従ってください。

項　目	パソコン使用の場合	手書きの場合
①「表紙」	規定の書式を IBU.net からダウンロードする ※制限枚数に含めない	左に同じ
②「目次」「参考文献」「添付資料」（巻末にまとめる）など	制限枚数に含めない	左に同じ
③「本文」（序論・本論・結論・注）	A4 判用紙を使用。 和文の場合は 12,000 字以上（目安として、1 枚 40 字 × 30 行にして 10 枚以上とする）。 英文の場合は 5,000 語以上（目安として、1 枚 75 ストローク× 30 行にして 15 枚以上とする）。	400 字詰め原稿用紙で 30 枚以上
④その他	感熱紙の使用は不可	黒ボールペンを使用

2） 論文形式以外の場合

指導教員の許可を得た上で、教務課へ申し出て下さい。事前に提出方法や形式などについて明記し、教務課に願い書を届け出る必要があります。

●「卒業研究」の提出

「卒業研究」を提出する際は、次のことを守ってください。

1）「卒業研究」は 1 部提出する。

2） ①　「表紙」は IBU.net からダウンロードする。

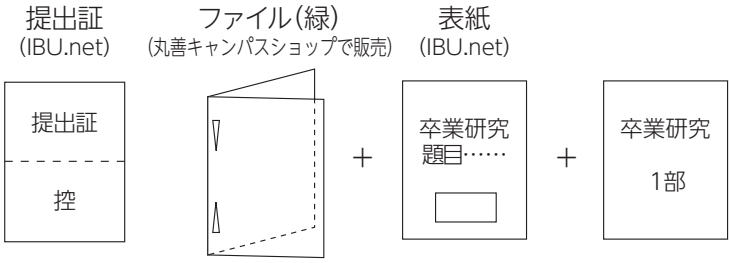
②　丸善キャンパスショップで指定ファイルを購入し、「表紙」「卒業研究」を指定ファイルに綴じる。

③　「提出証」を IBU.net からダウンロードし、併せて提出する。

3） 定められた期間内に提出すること。提出期限に遅れた場合は、一切受け付けません。

【病気やその他やむを得ない事情により提出期限までに提出できない場合】

病気または不時の災害その他真にやむを得ない事由によって期日に提出できない者、もしくは、できなかった者は、その事由を証明する書類を添付した願い書を教務部長に提出し、受理されれば追試験に準じて卒業研究の受付を許可します。



課題研究（看護学部　看護学科）

「課題研究」は、看護学科の「専門教育科目」の必修科目 2 単位として配置されています。4 年次以降に各指導教員に従って、1 つの研究テーマを追求し、完成までにさまざまな知識、経験、手法を身に付け、「課題研究」としてまとめます。また、その中で論文構成・文章作成の能力を養います。

●提出までの日程

事　項	期　日	提出先
①「課題研究」履修登録	7・8 セメスター	※1　IBU.net にて履修登録
②「課題研究」提出	8 セメスター ※2　詳細は別途知らせる	教務課

※1　履修登録は7セメスター･8セメスターの2回行ってください。
※2　諸手続きおよび書類の提出については、期限を必ず守ってください。

●「課題研究」の履修

「課題研究」を履修するための条件は次の通りです。

1）6 セメスターを終了して、「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の 2 単位、「看護研究法」の 2 単位および統合実習の実習参加要件（p.184）を満たすこと
2）7・8 セメスターの履修登録時に「課題研究」の履修登録を行う

●「課題研究」の書式

論文の形式

原稿は和文で作成する。書式は次の通りです。詳細は指導教員の指示に従ってください。

項　　目	パソコン使用
①「表紙」	規定の書式を IBU.net からダウンロードする ※制限枚数に含めない
②「目次」	制限枚数に含めない
③「引用・参考文献」「添付資料」	制限枚数に含める
④「本文」（序論・本論・結論）	A4 版用紙を使用。 12,000 字以上（目安として 1 枚 40 字× 30 行にして図表を含め 10 枚程度とする）。

●「課題研究」の提出

「課題研究」を提出する際は、次のことを守ってください。

1）「課題研究」は 1 部提出する。

2）① 「表紙」は IBU.net からダウンロードする。

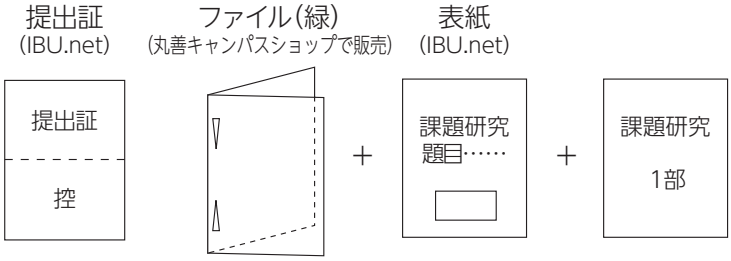
② 丸善キャンパスショップで指定ファイルを購入し「表紙」「課題研究」を指定ファイルに綴じる。

③ 「提出証」を IBU.net からダウンロードし、併せて提出する。

3） 定められた期間内に提出すること。提出期限に遅れた場合は、一切受け付けません。

【病気やその他やむを得ない事情により提出期限までに提出できない場合】

病気または不時の災害その他真にやむを得ない事由によって期日に提出できない者、もしくは、できなかった者は、その事由を証明する書類を添付した願い書を教務部長に提出し、受理されれば追試験に準じて課題研究の受付を許可します。



単位認定

●単位認定の上限

本学学則により、外国の高等教育機関、あるいは日本国内の他の大学や短期大学などでの学修により本学での単位を認定する場合の単位認定の上限は次の通りです。すべてを合わせて 60 単位を上限としています。

認定区分		上　限	上限(合計)
①留学	外国の高等教育機関における授業科目	60 単位	合わせて最大 60 単位まで
②知識・技能研究		4 単位	
③大学コンソーシアム大阪		60 単位	
④本学入学前の既修得単位		60 単位	
⑤他の大学または短期大学等の授業科目		60 単位	

1. 編入・転入時に認定された単位は除く
2. 単位認定を受ける際は、各項目の注意事項をよく読み、必要な手続きを行うこと
3. 単位認定された科目区分は成績表で再確認すること

●留学による単位認定

本学の認める外国の高等教育機関に留学し、そこで単位を認定された場合、本学では審査のうえ本学の履修単位として認めることができます。ただし留学先の認定単位がそのまま認められる訳ではありません。また認められる単位の上限は 60 単位です（学則第 21・41・42 条参照）。

項　目	内　容
①認定される単位の上限	60 単位
②認定区分	個別認定
③認定される科目群	自分の所属学部・学科・専攻に関する内容の留学は、その「専門教育科目」として認定される。

不明な点は、グローバル教育センターに問い合わせてください。

●「知識・技能研究」の単位認定（資格・検定の単位認定）※９セメスター以上は対象外

指定された資格・検定について、本学で定められた基準以上の成績を修めた場合に、単位を認定します。単位取得を希望する学生は各学期の定められた期間に、教務課にて申請手続きを行ってください。詳細については、IBU.net でお知らせします。

1）単位認定できる資格等
「知識および技能審査の成果の単位認定に関する規程」第 2 条の表を参照してください。

2）認定科目
「共通教育科目」の「知識・技能研究Ⅰ・Ⅱ」（認定の上限は４単位まで）

3）申請時期：（夏学期）５月上旬頃から 1 週間程度（冬学期）９月中旬頃から 1 週間程度

4）申請窓口：教務課

5）規程第 4 条 3 項にある様に「知識・技能研究Ⅱ」で認定を受ける種目が「知識・技能研究Ⅰ」で認定されたものと同種目あるいは同一語学である場合、その等級は「知識・技能研究Ⅰ」で認定された等級よりも上級でなければなりません。
（例）実用英語技能検定 2 級で「知識・技能研究Ⅰ」を申請し、TOEIC® を「知識・技能研究Ⅱ」で認定を受けようとする場合、TOEIC® L & R は 650 点以上でなければならない。他にも、同一資格（情報関連や簿記等）にも制限があり認められないこともありますので、教務課窓口で確認してください。

「知識・技能研究」同等科目一覧表

種　目	等　級		
	知識・技能研究Ⅰ	知識・技能研究Ⅱ（Ⅰ）	知識・技能研究Ⅱ
実用英語技能検定	2 級	準 1 級	1 級
TOEFL®（iBT）	52 点以上	70 点以上	100 点以上
TOEIC® L & R	500 点以上	650 点以上	880 点以上
日商簿記検定	3 級	2 級	1 級
簿記能力検定（全経）	3 級	2 級	1 級

●「大学コンソーシアム大阪」単位互換事業により単位を修得した場合

大学コンソーシアム大阪単位互換とは、他大学の講義を履修することができ、さらに履修した科目が在籍大学の単位として認定される制度です。大学コンソーシアム大阪会員の大学が単位互換包括協定を結んで、多彩な科目の提携を行っています。

【注意事項】
「大学コンソーシアム大阪」単位互換事業により単位を修得した場合に認められる単位は履修上限に含まれません。

受講手続きについて

履修登録とは別の手続きが必要です。詳細は IBU.net で 3 月中旬頃にお知らせしています。

1） 単位取得できる科目
大学コンソーシアム大阪加盟大学の主催するオンキャンパス科目やコンソーシアムの主催するセンター科目

2） 認定科目
共通教育科目の選択科目として認定されます。

3） 受講手続きについて

① 大学コンソーシアム大阪の HP から希望する科目のシラバスや web 出願締切日を確認する。
大学コンソーシアム大阪単位互換事業 http://www.consortium-osaka.gr.jp

↓

② 出願を行う
大学コンソーシアム大阪の HP から、web 上にて出願の入力を行い、承認を受ける（受けないと出願したことにはなりません）。 ※オンキャンパス科目 3 月 28 日（金）締切。センター科目 4 月 4 日（金）締切。（ただし、科目によって 9 月に追加募集あり。）

↓

③ 選考

↓

④ 選考結果の通知を受け（IBU.net で通知）、受講を開始する。

※履修が認められた後の履修放棄は他の希望者や科目提供大学に多大な迷惑がかかります。必ず最後まで学修を継続してください。

●本学入学前の既修得単位の認定

本学に入学する以前に、他の大学（専門職大学含む）あるいは短期大学などにおいて、授業科目を修得した場合もこれらを本学における授業科目の履修とみなし 60 単位まで認定する場合があります。なお、単位認定の申請は入学時の指定された期間のみとなります。

詳細については教務課まで問い合わせてください。

●他の大学または短期大学等の授業科目の単位認定

他の大学（専門職大学含む）または短期大学および高等専門学校の専攻科、高等学校の専攻科または専修学校の専門課程（修業年限が 2 年以上であることおよびその他の文部科学大臣の定める基準を満たすこと）において学生が行った学修や、その他の文部科学大臣が別に定める学修については、これを本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより 60 単位まで認定する場合があります。

試験・成績

- 成績評価の方法
- 定期試験
  ── 期間・時間割発表方法・定期試験時間等について
- 追試験
  ── 定期試験をやむを得ない理由で受験ができなかった場合について
- 再試験
  ── 7 セメスター以上で不合格になった科目の再試験について
- 成績と GPA
  ── 発表方法・評価方法・GPA について

成績評価の方法

成績評価は、科目や担当者により評価方法、評価基準が異なります。
評価方法・評価基準については、シラバスを確認してください。
試験等成績評価の方法には次の種類があります。

種　類	内　容
①授業中試験・レポート	平常の授業時間内で行う小テストやレポート課題のことです。（下記参照）
②定期試験	夏学期・冬学期の各学期末の定期試験期間中に実施する試験です。（p.50 参照）
③追試験	病気等やむを得ない理由により定期試験を受験できなかった場合に、所定の手続きをした上で受験することができる試験です。（p.52 参照）
④再試験	7 セメスター以上（4 年次生以上）で、当該学期に履修登録し、不合格となった場合は、再試験申込日に申し込むことで再試験を受験することができます。（p.54 参照）

●授業中の試験・レポート

授業中に実施する小テストの実施要領や、レポート課題については、各科目の担当教員が指示します。
定期試験を行わず小テストやレポート課題の結果のみで成績評価を行う科目もあります。なお、授業内の確認テスト・小テストやレポート課題は授業の一部とみなし、追試験の対象になりません。
また、小テストやレポート課題でも学生証の提示が必要となることがありますので、学生証は常に携帯しておいてください。

定期試験

定期試験は年に 2 回、以下の期間に実施します。

学　期	日　程
夏学期	令和 7 年 7 月 17 日（木）～ 7 月 24 日（木）
冬学期	令和 8 年 1 月 10 日（土）～ 1 月 20 日（火）

各定期試験期間中には、予備日を設けています。予備日とは、気象警報発令等で試験が実施できない場合の振替日です。万一の場合に備えて、必ずスケジュールをあけておいてください。
定期試験期間中の詳細は、別途 IBU.net 等で通知します。

●時間割発表

定期試験を実施する授業科目および時間割は、試験開始日の 2 週間前に IBU.net で掲示します。

IBU.net の「試験時間割」機能では、自分が履修登録している科目の試験および試験実施教室が表示されます。通常の授業で使用している教室と試験時の教室が変更になっている場合もありますので、試験日までに必ず確認しておきましょう。

試験に関わる重要なお知らせがある場合は、IBU.net を利用してお知らせします。定期的に確認するようにしてください。

●定期試験時間

定期試験の時間帯は、次の通りです。通常の授業時間と開始時間は同じです。

時限	定期試験時間
1 時限	9 ：00 ～ 10：00
2 時限	10：55 ～ 11：55
(昼休み)	11：55 ～ 13：25
3 時限	13：25 ～ 14：25
4 時限	15：20 ～ 16：20
5 時限	17：10 ～ 18：10

●受験にあたっての注意点

受験心得

1　試験場では、すべて監督者の指示に従うこと。
2　試験は指定された座席で受けること。
3　学生証を携帯していない場合は、試験を受けることができない。
4　学生証は机上の指定された場所に提示すること。
5　机上には筆記用具（筆箱不可）、学生証、持ち込み許可の指定された物以外は置かないこと。許可された物以外の持ち物は足元に置くこと。
6　スマートフォン・携帯電話などの通信可能な機器については、その電源を切り、かばんの中へ片付けること。時計としては使用できない。かばんの中へ片付けずに、身につけていた場合は不正行為となる。
7　試験場内の自分の座席および机上やその内側等に、試験範囲あるいは試験内容に関する事項を転写しないこと。
8　試験開始後は試験場内の座席および机上やその内側等に、故意にその試験に際して認められた物品以外の物を放置しないこと。
9　試験開始後の私語はしてはならない。
10　試験場内での物品の貸し借りは行わないこと。
11　試験場内ですでに記入がなされた答案・その他を故意に見たり、また、自身あるいは他人の記入がなされた答案・その他を故意に第三者に提示しないこと。
12　試験開始後 20 分を経過した後に、試験場に入室することはできない。
13　試験開始後 30 分を経過した後は、監督者の指示により試験場より退室することを認める。
14　答案用紙は白紙であっても、学籍番号・氏名など必要事項を記入の上、これを提出しなければならない。

以　上

●不正行為

試験期間内の試験において不正行為（試験時間中の私語、机上への転写等）が発覚した場合は、その不正行為が発覚した当該科目の成績を零点とします。また、不正行為を二度行ったものは、当該学期の成績すべてを零点とします。（単位の修得及び試験に関する規程　第 24 条）

ここでいう不正行為とは、原則として前掲の「受験心得」の注意事項を守らなかった場合をいいますが、その授業科目担当者あるいは試験監督者が、これに準ずる行為であると判断した場合も、上記の処分を受けることがあります。

●仮学生証の発行

学生証を忘れた場合は、学生支援センターで、仮学生証の発行を受けてください。

仮学生証の発行は、学年暦に記載の

- 夏学期定期試験、夏学期追試験、夏学期再試験
- 冬学期定期試験、冬学期追試験、冬学期再試験

のそれぞれの試験期間中に一度しかできません（発行日のみ有効）。

学生証を紛失した場合は、証明書発行サービスで手続きを行ない、学生支援センターにて速やかに再発行の申込みを行ってください。（手数料：3,000 円）

追試験

定期試験をやむを得ない事由により受験することが出来なかった場合は、その授業科目の試験当日を含み 7 日以内に追試験申込書を教務課に提出し、これが受理されれば追試験を受けることができます。追試験申込書を提出する時には、試験が受けられない事由を証明する書類を添えなければなりません。

●追試験手続きの手順

1） 追試験申込書の提出（定期試験が受けられなかった理由を客観的に証明できる書類を添付）。
2） 追試験受験が認められたか確認する（追試験申込書提出の 3 日後以降に IBU.net 等で通知）。
3） 指定された日時に IBU.net で発表される追試験時間割またはレポート課題を確認する。
4） 追試験を受ける。または定められた期日までにレポート課題を提出する。

【注意事項】

- 追試験申込書の受理の確認は電話では行いません。必ず IBU.net または教務課窓口で行って下さい。
- 提出した書類に不備がある場合、追試験申込書は受理されません。
- 提出した証明書などに改ざんや不正があった場合は厳正に処分します。

＊追試験を筆記試験で実施する場合は、p.54 の再試験の期間中に実施します。

●追試験の対象となる事項

理　由	必要な証明書など
本人の病気・怪我	試験日を含む医師の診断書（領収書での受付は不可）
公共交通機関の遅延 （自宅からの通学経路に限る）	20 分以上の遅延証明書
忌引（3 親等内の親族）	死亡を証明する文書・会葬御礼・葬儀証明書
結婚式への参列 （2 親等内の親族、本人の式は含まない）	結婚式の案内状
就職試験	キャリアセンター又は教職教育推進センター発行の公認欠席届
公式試合・発表会等	学生支援センター発行の公認欠席届
裁判員制度	裁判員に選ばれたことが分かる書類
災害	被災証明書または罹災証明書
その他教務部長が認めるもの	個別に指示する

※公認欠席届の発行方法は、該当部署で確認してください。

●追試験の対象とならない事項（質問の多い事項を抜粋）

授業時間内に行われる小テストやレポート提出（真にやむを得ない事由を除く）
交通事故（怪我による通院を除く）、交通渋滞
出席回数や平常点の不足等により、合格の見込みがない科目（受理後の取消も有）
医師の診断書がない病気・怪我（領収書のみは不可）
公認欠席にならない法事など
選考を伴わない就職活動
ボランティア活動、インターンシップ

再試験

7セメスター以上（4年次生以上）または看護学部の学生で、当該学期に履修登録し、不合格となった科目については、再試験申込日に申し込むことで再試験を受験することができます。

再試験を受けることができる科目数は1学期につき3科目までです（看護学部の学生は除く）。

授業科目担当者によっては再試験を行わない場合や、出席日数によって再試験の受験が許可されない場合があります。

再試験の実施日に受験できなかった場合の追試験は行いません。

再試験は年に2回、以下の期間に実施します。

学期	日　程
夏学期	令和7年8月7日（木）～ 令和7年8月9日（土）
冬学期	令和8年2月5日（木）～ 令和8年2月7日（土）

※再試験は、再試験の申請をした学生のみ対象です。対象者がいない場合、再試験は行いません。

●1～6セメスターにおける看護学部の再試験科目について

看護学部専門教育科目「健康科学科目」「看護科学科目」の講義科目、共通教育科目「生物学」ならびに助産師コースの学生に限り「看護科学科目」の中の実習を除く「助産師コース」の科目が対象です。

●再試験手続きの手順

1） 再試験申込日に教務課に申し込みを行う。(受付時間 10時00分～15時00分)

- 手続きに必要なもの：①学生証
  ②受験手数料：1科目につき1,000円

2） 指定された日時にIBU.netで発表される再試験時間割またはレポート課題を確認する。

3） 再試験を受験する。または定められた期日までにレポート課題を提出する。

●再試験の成績評価

再試験による科目の成績評価は、上限が60点となります。

成績と GPA

●成績発表

各学期の定期試験後の成績は、学年暦に記載の成績公開日に IBU.net の「成績照会」機能で発表します。必ず各自で確認をして、次セメスター以降の学修計画の見直しを行ってください。

なお、保護者の方も IBU.net の保護者向けページで成績の確認が可能です。

●成績評価

成績の評価は「秀」「優」「良」「可」「不合格」「認」で表します。「不合格」、「評価不可能」以外が「合格」となります。「認」は単位は付与されますが、成績や GP は付与されません。

単位修得	評　価	得　点	GP	備　　考
できる	秀	90 − 100	4	目標を十分に達成しきわめて優秀な成果をおさめている。
	優	80 − 89	3	目標を十分に達成している。
	良	70 − 79	2	目標を達成している。
	可	60 − 69	1	目標を最低限度達成している。
	認		対象外	教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修により修得したものとして認定します。
できない	不合格	0 − 59	0	目標を達成していないので再履修が必要である。

表中の GP については、次の「GPA」の項目で説明します。

不合格科目については、IBU.net の「成績照会」には表示されますが、成績証明書には記載されません。

● GPA（グレード・ポイント・アベレージ）

GPA は、学生個人の成績を客観的・総合的に評価するための指標です。 各授業科目の 5 段階評価に対して、4 ～ 0 のグレード・ポイント（GP）を付与して算出する 1 単位あたりの平均値をいいます。GPA を利用することで、学修の質を評価することができます。

GPA は次のように算出されます。

$$\text{学期 GPA} = \frac{\text{（当該学期の履修登録科目の GP ×当該科目の単位数）の合計}}{\text{当該学期の履修登録総単位数}}$$

$$\text{年度 GPA} = \frac{\text{（当該年度の履修登録科目の GP ×当該科目の単位数）の合計}}{\text{当該年度の履修登録総単位数}}$$

$$\text{累積 GPA} = \frac{\text{（在学全期間の履修登録科目の GP ×当該科目の単位数）の合計}}{\text{在学全期間の履修登録総単位数}}$$

IBU.net の成績照会欄に各種 GPA を記載しています。

● GPA の活用

1）4 学期連続して学期 GPA が 1.00 未満であった学生に対し、学修・学生生活に対する助言指導を行い、その後の学業続行の見込みがないと判断した場合は退学勧告を行います。
2）累積 GPA が 3.5 以上ある場合、次学期は所定の履修単位上限を越えて 28 単位まで履修登録することができます。
3）学生の履修指導の際、GPA を参考にすることがあります。その他、履修条件、転学部・転学科・転コースの受験資格、留学や奨学金などの選考基準として GPA の数値が条件となる場合があります。

● GP の算出対象

1） 過去に不合格となり、再履修をして合格となった場合でも、過去の不合格履歴が GPA の算出対象となります。
2） 卒業に必要な単位に含まれない、人文社会学部・看護学部の「教職に関する科目」及び「司書教諭の講習に関する科目」についても GPA の算出対象となります。
3） 追試験・再試験が発生した科目はその評価を GP に換算します。
4）「認定」の科目は単位は付与されますが、成績や GP は付与されず、算出対象になりません。
5） 不合格科目の GP を 0 とし、GPA 算出の対象とします。

●成績照会について

以下の条件に当てはまる科目については、発表された成績について、定められた期間中に「成績照会申請書」を教務課に提出することで、担当教員へ成績の確認を申し出ることができます（本人の申し出に限る）。申請期間等は事前に掲示しますので、定められた期間以外は受け付けません。

【申請条件】

1） 該当科目の履修登録がされていること。
2） 授業に 3 分の 2 以上出席していること。
3） 指定されたレポート等の課題を必ず提出していること。

＊手続きの詳細は必ず IBU.net で確認してください。

必ず本人が申請しなければなりません。

成績照会の申請は、成績について誤りがないかどうかを確認するための、とても重要な手続きですので、申請には必ず本人が申し出ることが必要です。

IBU.net での成績表示

この表示は見本のため、履修年度は
実際の流れと異なります。

表示パターン　◉ 通常　○ 年度学期別

表示パターンを変更することで、学期ごとにまとまった表示で成績の確認を行うことも可能です。

評価欄

秀 …… 90 点 ～ 100 点
優 …… 80 点 ～ 89 点
良 …… 70 点 ～ 79 点
可 …… 60 点 ～ 69 点
不可 …… 0 点 ～ 59 点
(素点欄が空欄も不合格)
＊ …… 現在履修中
認 …… 単位を認定された科目

科目名	単位	評価	素点	年度	学期	教員氏名
《基礎教育科目》						
和の精神Ⅰ	1	秀	100	2022	夏学期	
和の精神Ⅱ	1	秀	100	2022	冬学期	
仏教概説		不可	50	2022	冬学期	
現代社会と人権		不可	20	2022	夏学期	
《共通教育科目》						
大学基礎演習Ⅰ	2	優	80	2022	夏学期	
大学基礎演習Ⅱ	2	優	80	2022	冬学期	
日本国憲法		不可	20	2022	冬学期	
情報処理演習Ⅰ	2	可	65	2022	夏学期	
《専門教育科目》						
日本学表現演習Ⅰ	2	秀	90	2022	夏学期	
日本学表現演習Ⅱ	2	優	85	2022	冬学期	
古典Ⅰ（日本）	2	良	70	2022	夏学期	
古典Ⅱ（中国）		不可	10	2022	冬学期	
《その他》						
《教職に関する科目》						
教職論	2	優	80	2022	冬学期	
教育原論	2	優	80	2022	夏学期	
教育心理学	2	可	60	2022	冬学期	
特別支援教育		不可	0	2022	夏学期	

（注）評価欄に＊が出力された科目は現在履修中です。

GPA
通算 GPA 1.82
年度 GPA

2023
1.82

年度学期 GPA

23 夏学期	23 冬学期
2.18	1.45

GPA
GPAの詳細はp. 55を参照のこと。

修得単位数欄
修得した単位の区分とその合計を示す。
単位数が、卒業に必要な最低修得単位数を満たしていても、必修科目・選択必修科目を修得していなければ、卒業要件を満たしているとはいえない。

教職単位、自由単位
卒業に必要な最低修得単位数には含まれない。

単位修得状況

科目分類									合計						
	基礎	共通	専門			その他									
				学科	他学科		教職	自由							
修得済単位	2	6	8	8	0	6	6	0	16						
合計単位	2	6	8	8	0	6	6	0	16						

修得単位数合計の目安

学科・専攻によって一概には言えませんが、下表の単位数を目安にしてください。但し、単位数が多くても、その中に修得すべき科目（必修科目、選択必修科目）が含まれていないと卒業要件を満たすことにはなりません。

夏学期（前期）			冬学期（後期）		
学　年	目安となる修得単位		学　年	目安となる修得単位	
	人文・教育・経営	看護		人文・教育・経営	看護
1 年次（1 セメスター）	15 単位以上	16 単位以上	1 年次（2 セメスター）	31 単位以上	32 単位以上
2 年次（3 セメスター）	46 単位以上	48 単位以上	2 年次（4 セメスター）	62 単位以上	63 単位以上
3 年次（5 セメスター）	77 単位以上	79 単位以上	3 年次（6 セメスター）	93 単位以上	95 単位以上
4 年次（7 セメスター以上）	108 単位以上	111 単位以上			

教育課程
（授業科目一覧・単位数など）

授業科目編成表の見方 …… 60

ナンバリングコードの表示と見方 …… 61

履修系統図について …… 62

基礎教育科目（全学共通） …… 63

共通教育科目（全学共通） …… 65
「キャリア教育」について …… 66

専門教育科目について …… 76
人文社会学部 …… 76
日本学科 …… 78
国際キャリア学科 …… 88
社会学科 …… 96
人間福祉学科 …… 104
教育学部 …… 114
教育学科小学校教育コース …… 116
教育学科幼児教育保育コース …… 130
教育学科英語教育・小学校コース …… 142
教育学科保健教育コース …… 150
経営学部 …… 160
経営学科公共経営専攻 …… 162
経営学科企業経営専攻 …… 170
看護学部　看護学科 …… 178

教職に関する科目（「教育の基礎的理解に関する科目等」）（人文社会学部・看護学部） …… 190

司書教諭の講習に関する科目 …… 192

重ねて履修できない科目一覧表 …… 193

教育課程
（授業科目一覧・単位数など）

●授業科目編成表の見方

種別	A 授業概要コード	B 科目名	C 単位数 必修	C 単位数 選択	科目 担当教員	D 配当セメスター	E 開講学期	F 他学部・他学科履修	G 身につけるべき能力 ①	G ②	G ③	G ④	G ⑤	H ナンバリングコード	I 備考
学科共通領域	J1800	英語圏文化概説		2		1～2	S				○	○			
	J1805	世界体験入門		2		1～2	S				○	○	○		
	J1810	国際関係論		2		3～4	S				○				
	J1815	国際経済学		2		3～4	W				○	○			

A……授業概要コード　IBU.net の授業コードに対応。

B……科目名　A、Bなどのアルファベットが付いている科目はグレード制を設けている。Aからアルファベット順に履修を進めなければならない。Ⅰ、Ⅱなどの数字が付いている科目は、途中の数字からの履修も可能。ただし備考欄や授業概要でⅠから順に履修を進めるよう記載があれば、それに従って履修すること。

C……単位数　**必修**：卒業するためには必ず修得しなければならない科目。
[ ]でくくられている場合、右に記された単位のそれぞれの科目から選択して、左に記された単位数を必ず修得しなければならない。
選択：卒業するためには選択して所定の単位数を修得しなければならない科目。

D……配当セメスター　原則として履修すべきセメスター
配当セメスターで履修することが望ましいが、配当セメスターより上のセメスターに在学していれば履修は可能。

E……開講学期　S：夏学期開講
W：冬学期開講
S／W：夏学期と冬学期に同一内容で開講する。
S・W：夏学期と冬学期に連続して開講する。

F……他学部・他学科履修
各自が所属する学部・学科・専攻以外で開講されている専門教育科目の履修を各自が所属する専門教育科目として履修できるが、この欄に不可と表記されている科目については履修できない。ただし、IBU.net 上で履修登録できる状態にある、あるいは不可と表記されていない科目でも、人数制限等の理由で履修できない場合もあるので、必ず事前に担当教員に確認すること。
※人文社会学部人間福祉学科、教育学部、看護学部、短期大学部の専門教育科目は履修できない。

G……身につけるべき能力
卒業認定・学位授与の方針に基づき、卒業時点において学生が身につけるべき能力と各科目との対応を表している。

H……ナンバリングコード
ナンバリングとは、区分や水準等をもとに授業科目に番号を付けることで、カリキュラム全体の中での各授業科目の学修の段階や順序を表すものです。履修登録や学修の上での参考にしてください。

I……備考欄　履修可能な学科を指定している場合がある。履修登録時に注意すること。

●ナンバリングコードの表示と見方

10 桁のアルファベット・数字で表します。

H	J	DA	1	001	a	0
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦

①第 1 区分コード……　基礎教育科目・共通教育科目・専門教育科目・教職に関する科目・司書教諭の講習に関する科目・留学生対象科目で区分

②第 2 区分コード……　学科で区分

③第 3 区分コード……　専攻・コース・分野・領域で区分

※①第 1 区分～③第 3 区分についての詳細は、以下の「区分コード表」を確認してください。

④水準コード……　1：初級レベル［入門・導入的な内容の科目］
2：中級レベル［発展的・応用的な内容の科目］
3：上級レベル［総合的かつ高度な内容の科目］

⑤科目コード……　原則、学則に規定された科目の順序

⑥授業での使用言語……　a：日本語　b：英語　c：日本語および英語　d：その他

⑦科目区分コード……　0：専門
1：基礎および共通教育
2：教職に関する科目・司書教諭の講習に関する科目・リメディアル科目

区分コード表

①第1区分コード		②第2区分コード		③第3区分コード	
学部等	コード	学科	コード	専攻･コース･分野･領域	コード
基礎教育科目 Basic education subjects	B	全学科 All departments	A	全学科	AA
共通教育科目 Common education subjects	C	全学科 All departments	A	共通教育科目　学びの基礎	BA
				共通教育科目　こころと思想	BB
				共通教育科目　社会と文化	BC
				共通教育科目　情報と自然科学	BD
				共通教育科目　健康と福祉	BE
				共通教育科目　言語	BF
				共通教育科目　キャリア教育	BG
				共通教育科目　知識･技能	BH
				共通教育科目　学外研修	BI
				［看護学部］	
				教養教育科目　生命と環境	CA
				教養教育科目　こころと思想	CB
				教養教育科目　社会と文化	CC
				教養教育科目　健康と福祉	CD
				語学･情報科学科目　情報科学	CE
				語学･情報科学科目　グローバルコミュニケーション	CF
人文社会学部 Faculty of Humanities and Social Sciences	H	日本学科 Department of Japanese Studies	J	学科共通領域	DA
				日本語･日本文学コース	DB
				文化･歴史･観光コース	DC
				現代文化コース	DD
				博物館学芸員	DE
				学部共通	DF
		国際キャリア学科 Department of Global Studies	G	学科共通領域	EA
				英語文化コミュニケーション領域	EB
				国際理解領域	EC
				国際ビジネス領域	ED
				学部共通	EE
		社会学科 Department of Sociology	S	学科共通領域	FA
				人間･社会コース	FB
				地域･メディアコース	FC
				心理コース	FD
				歴史コース	FE
				学部共通	FF
		人間福祉学科 Department of Human Welfare	H	社会福祉領域	GA
				医療福祉領域	GB
				心理･健康福祉領域	GC
				福祉マネジメント領域	GD
				学部共通	GE
教育学部 Faculty of Education	E	教育学科 Department of Education	E	小学校教育コース　学科共通　教職一般領域	HA
				小学校教育コース　学科共通　初等教育領域	HB
				小学校教育コース　学科共通　学科共通領域	HC
				小学校教育コース　コース共通領域	HD

教育学部 Faculty of Education	E	教育学科 Department of Education	E	小学校教育コース　特別支援教育領域	ＨＥ
				小学校教育コース　幼児教育領域	ＨＦ
				小学校教育コース　英語教育領域	ＨＧ
				小学校教育コース　数学教育領域	ＨＨ
				小学校教育コース　子ども関連　子ども教育領域	ＨＩ
				小学校教育コース　子ども関連　子ども理解領域	ＨＪ
				幼児教育保育コース　学科共通　教職一般領域	ＩＡ
				幼児教育保育コース　学科共通　初等教育領域	ＩＢ
				幼児教育保育コース　学科共通　学科共通領域	ＩＣ
				幼児教育保育コース　コース共通領域	ＩＤ
				幼児教育保育コース　幼児保育領域	ＩＥ
				幼児教育保育コース　子ども関連　子ども教育領域	ＩＦ
				幼児教育保育コース　子ども関連　子ども理解領域	ＩＧ
				英語教育･小学校コース 学科共通　教職一般領域	ＪＡ
				英語教育･小学校コース 学科共通　初等教育領域	ＪＢ
				英語教育･小学校コース 学科共通　学科共通領域	ＪＣ
				英語教育･小学校コース コース共通領域	ＪＤ
				英語教育･小学校コース 英語教育領域	ＪＥ
				英語教育･小学校コース 子ども関連　子ども教育領域	ＪＦ
				英語教育･小学校コース 子ども関連　子ども理解領域	ＪＧ
				保健教育コース　学科共通　教職一般	ＫＡ
				保健教育コース　学科共通　初等教育領域	ＫＢ
				保健教育コース　学科共通　学科共通領域	ＫＣ
				保健教育コース　保健教育コース　コース共通領域	ＫＤ
				保健教育コース　保健教育コース　養護教育領域	ＫＥ
				保健教育コース　子ども関連　子ども教育領域	ＫＦ
				保健教育コース　子ども関連　子ども理解領域	ＫＧ
経営学部 Faculty of Business Administration	B	経営学科 Department of Business Administration	B	公共経営専攻　学科共通科目	ＬＡ
				公共経営専攻　公共経営専攻	ＬＢ
				企業経営専攻　学科共通科目	ＭＡ
				企業経営専攻　企業経営専攻	ＭＢ
看護学部 Faculty of Nursing	N	看護学科 Department of Nursing	N	健康科学科目　身体のしくみと働き	ＮＡ
				健康科学科目　疾病からの回復過程	ＮＢ
				健康科学科目　健康と生活	ＮＣ
				健康科学科目　社会保障と健康政策	ＮＤ
				看護科学科目　看護の基盤	ＮＥ
				看護科学科目　療養生活支援看護	ＮＦ
				看護科学科目　女性の健康と成育支援看護	ＮＧ
				看護科学科目　コミュニティにおける継続的な看護	ＮＨ
				看護科学科目　健康の増進と疾病予防の看護	ＮＩ
				看護科学科目　看護の探求と統合	ＮＪ
				看護科学科目　保健師コース	ＮＫ
				看護科学科目　助産師コース	ＮＬ
				看護科学科目　養護教諭コース	ＮＭ
教職に関する科目 Subjects related to teaching profession	人文社会学部				ＴＴＴＴ
	看護学部				ＴＴＴＮ
司書教諭の講習に関する科目 Subjects related to librarian teachers					ＬＬＬＬ
留学生対象科目					ＺＺＺＺ

●履修系統図について

履修系統図とは、ディプロマ・ポリシーで示されている「卒業時点において学生が身につけるべき能力」を修得するために科目がどのように配置されているのか、つまり、各科目の関連性やつながりを体系的に明示したものです。

●基礎教育科目（全学共通）

〈基礎教育科目の概要〉

「基礎教育科目」は４つの科目から構成されている。

そのうち、「和の精神Ⅰ」では瞑想、「和の精神Ⅱ」では写経と瞑想といった実践を行い、それを通して仏教に関する知識と考え方を学び、思慮のある安定した人格の形成を図る。

「仏教概説」では「和の精神Ⅰ」「和の精神Ⅱ」の意義をより深く理解し、仏教に関する基礎的な知識を学び、仏教的な情操の体得を図る。

「現代社会と人権」では、人間存在のかけがえのなさを知り、現代社会における多様な人々との共生の重要さを学ぶ。

本科目群の学びを通して慈愛の心と利他の精神をもつ豊かな人間性を育てていく。

●基礎教育科目（全学共通）

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

「和の精神」を持ち、実社会で活躍できる人間形成

本学は、大学生活全体を通して、「和の精神」を持ち、実社会で活躍できる人間形成を図ります。

卒業時点において学生が身につけるべき能力（ディプロマ・ポリシー）

① 自己分析・自己研鑽の力
- ○ 自らの理念や行動を相対化し、省察することができる。
- ○ 自己を高めるために生涯にわたり、学び続けることができる。

② 豊かな人間性～慈愛の心・利他の精神～
- ○ 多様な立場、考え方の存在を認める（受容する）ことができる。
- ○ 他者に対して思いやりを持ち、寛容な態度で接することができる。
- ○ 他者の喜びや躓きを自己のものとして共感することができる。

③ 社会（組織）で活躍できる力～専門性を基礎として～
- ○ 社会（組織）の現状について認識できる。
- ○ 社会（組織）の一員としての自己を理解できる。
- ○ 社会（組織）に貢献する強い意欲を持ち、行動することができる。
- ○ 組織の新たな課題解決や改革に仲間とともに取り組み、実現することができる。

※各科目との対応については授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

「基礎教育科目」は４つの科目から構成されている。

そのうち、「和の精神Ⅰ」では瞑想、「和の精神Ⅱ」では写経と瞑想といった実践を行い、それを通して仏教に関する知識と考え方を学び、思慮のある安定した人格の形成を図る。

「仏教概説」では「和の精神Ⅰ」「和の精神Ⅱ」の意義をより深く理解し、仏教に関する基礎的な知識を学び、仏教的な情操の体得を図る。

「現代社会と人権」では、人間存在のかけがえのなさを知り、現代社会における多様な人々との共生の重要さを学ぶ。

本科目群の学びを通して慈愛の心と利他の精神をもつ豊かな人間性を育てていく。

●基礎教育科目編成表

種別	授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
基礎教育科目	K0010	和の精神Ⅰ	1		1～2	S	○	◎		BAAA1001a1	
	K0020	和の精神Ⅱ	1		1～2	W	○	◎		BAAA1002a1	
	K0110	仏教概説	2		1～2	S/W	○	◎		BAAA2003a1	
	J0040	現代社会と人権	2		1～2	S/W	○	◎		BAAA1004a1	
卒業に必要な最低修得単位数			6		合計６単位						

〈基礎教育科目「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の授業規律について（節録）〉

礼儀を正して静穏な環境で自らを省み、自他を尊重し、思慮深い安定した人格を養うことが「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の授業の目的です。主旨を自覚し、以下の規律を遵守してください。

1．単位の認定は、全授業回数のうち３分の２以上の出席を必要条件とする。写経（和の精神Ⅱ）の場合、全ページ自筆による書写記入済みの写経用紙の提出も必要条件とする。なお、以下の２・３・４の項目に違反する場合は出席を認めない。

2．出席時の服装は、以下のスーツ着用基準に定められた服装を端正に着用する。

◆スーツ着用基準

〈スーツ、ジャケットとパンツまたはスカート〉

黒色、濃紺、チャコールグレーのいずれか一色の組み合わせで、無地のもの

〈カッターシャツ、ブラウス〉

無地またはストライプ

〈ネクタイ（スーツの場合のみ）〉

無地またはストライプ

〈靴〉

黒色または茶色で革製の短靴（スニーカー不可）または、フォーマルパンプス

※カッターシャツやブラウスについて、ビジネスシーンでは白色の無地が一般的である。

3．入堂時には『聖典聖歌集』を所持していることを示し、授業中は常に携帯する。

4．授業は午前 10 時 55 分開始である。開始前には入堂し着座しておく。

- 公共交通機関（自宅からの通学経路に限る）の遅延による遅刻は、公共交通機関の延着証明の提示により、やむを得ない遅刻と判断される場合にのみ入堂を認める。

5．授業中は姿勢を正し、静寂を守り、実践に集中する。

6．授業中の私語・通信機器等の使用は禁止する。

- 注意されたら、すぐに改める。
- 再三の注意にかかわらず改めない者については、授業妨害と見なし、改善が認められない場合は、欠席扱いとし、保護者にも教務部より状況を伝える。

7．授業中の中座は原則として禁止する。

- やむを得ずトイレ等を利用する者は、学生証を階段前の教員に提出する。

8．心身の疾患等により、合理的配慮の必要がある者は、事前に診断書などの証明書をもって学生支援センターに授業配慮申請を行うか、教務部教務課（礼拝担当）に申し出る。

9．私語・通信機器等の使用・中座等について、改善の意思がない場合は、「授業妨害」「建学の精神に反する行為」と見なし、その学期の「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の単位を不認定とすることがある。

●共通教育科目（全学共通）について

〈共通教育科目の概要〉

「共通教育科目」は学問の対象や性格によって、「学びの基礎」「生命と環境」「こころと思想」「社会と文化」「情報と自然科学」「情報科学」「健康と福祉」「言語」「グローバルコミュニケーション」「キャリア教育」の科目群に分類される。

「学びの基礎」は、本学の初年次教育である。大学での学びや生活に必要なスキルを育成するとともに、専門的な学びへのなめらかな導入を図る。さらに、入学から卒業までを見通したキャリアデザインを構想するための支援を行う。

「こころと思想」は建学の精神である聖徳太子の仏教精神をさらに深めるとともに、心の問題や思想について学び、自らの生き方を振り返る一助とする。

「社会と文化」は「こころと思想」の学びをもとに法や政治という社会システム等について学ぶことで社会の一員としての意識を高める。

「情報と自然科学」「生命と環境」「情報科学」はそれぞれ ICT 活用能力を高めるとともに、自然科学の観点から生命や社会について考える素地を養成する。

「健康と福祉」は心身の健康に対する意識を高めるとともに利他の精神に基づく福祉の考えを学ぶ。

「言語」「グローバルコミュニケーション」は「英語」を主にし、「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「コリア語」「日本手話」で構成され、それぞれ基礎から応用まで段階を踏まえてコミュニケーション技能を身につけ、高める。

「キャリア教育」は卒業後の社会生活を視野に入れて、キャリア意識や社会人に必要な幅広い知識・技能を段階的に身につける。

●共通教育科目（全学共通）

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

「和の精神」を持ち、実社会で活躍できる人間形成

本学は、大学生活全体を通して、「和の精神」を持ち、実社会で活躍できる人間形成を図ります。

卒業時点において学生が身につけるべき能力（ディプロマ・ポリシー）

① 自己分析・自己研鑽の力
- ○ 自らの理念や行動を相対化し、省察することができる。
- ○ 自己を高めるために生涯にわたり、学び続けることができる。

② 豊かな人間性～慈愛の心・利他の精神～
- ○ 多様な立場、考え方の存在を認める（受容する）ことができる。
- ○ 他者に対して思いやりを持ち、寛容な態度で接することができる。
- ○ 他者の喜びや躓きを自己のものとして共感することができる。

③ 社会（組織）で活躍できる力～専門性を基礎として～
- ○ 社会（組織）の現状について認識できる。
- ○ 社会（組織）の一員としての自己を理解できる。
- ○ 社会（組織）に貢献する強い意欲を持ち、行動することができる。
- ○ 組織の新たな課題解決や改革に仲間とともに取り組み、実現することができる。

※各科目との対応については授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

（人文社会学部・教育学部・経営学部）

科目群	内　容
① 学びの基礎	大学での学修や生活に必要な知識・技能などを学ぶ科目群
② こころと思想	宗教・哲学・心理学など、人間のこころと思想について学ぶ科目群
③ 社会と文化	政治学・経済学・歴史・文化など、人間の社会や文化について学ぶ科目群
④ 情報と自然科学	コンピューターや生命科学など、自然科学全般について学ぶ科目群
⑤ 健康と福祉	スポーツや福祉など、人体とそこから発するさまざまな問題について学ぶ科目群
⑥ 言語※	英語及び第二外国語を学ぶ科目群
⑦ キャリア教育	• 大学卒業後の進路に備えた実践的な科目群 • 地域活性化概論や地域連携インターンシップなど、地元地域について多角的な視点から学ぶ科目群

※「言語」について
「英語Ⅰ～Ⅳ」及び「上級英語Ⅰ・Ⅱ」については、CASEC テストまたは TOEIC L & R IP テストによる習熟度別クラス編成としています。

（看護学部）

科目群	内　容
①　生命と環境	生命科学など自然科学全般について学ぶ科目群
②　こころと思想	宗教・哲学・心理学など、人間のこころと思想について学ぶ科目群
③　社会と文化	政治学・経済学・歴史・文化など、人間の社会や文化について学ぶ科目群
④　健康と福祉	スポーツや福祉など、人体とそこから発するさまざまな問題について学ぶ科目群
⑤　情報科学	データ処理や統計学などコンピュータを利用した情報処理について学ぶ科目群
⑥　グローバルコミュニケーション	英語及び第二外国語を学ぶ科目群

「キャリア教育」について（人文社会学部・教育学部・経営学部）

1 年次から 3 年次に掛けてキャリア形成や産業・経済に関する知識を養うことを目的とした授業です。特に、1 年次配当科目「キャリアデザイニングⅠ」ならびに 3 年次配当科目「キャリアゼミ実践演習」は、就職意識の向上や社会人になることへの前向きな気持ちの醸成を目的に必修科目としています（教育学部は選択科目）。

その他の科目についても、全学生に学んでもらいたいという思いから時間割上も履修しやすいように配置し、履修を勧めています。

科　目		配当セメスター	分　類
キャリアデザイニングⅠ		1～2 セメスター	必修科目※ 1
キャリアデザイニングⅡ		1～2 セメスター	選択科目（履修推奨）
キャリアマネジメントⅠ	（専門教育科目）	3～4 セメスター	選択科目（履修推奨）
キャリアマネジメントⅡ	（専門教育科目）	3～4 セメスター	選択科目（履修推奨）
キャリアゼミ実践演習	（専門教育科目）	5～6 セメスター	必修科目※ 1
キャリアゼミ	（専門教育科目）	5～6 セメスター	選択科目（履修推奨）

※ 1　「キャリアデザイニングⅠ」・「キャリアゼミ実践演習」については、教育学部は「選択科目」
以上の科目は学科・専攻によるクラス指定に従って履修すること

科　目		配当セメスター	分　類
産業・企業研究		3～4 セメスター	
地域活性化概論		1～2 セメスター	
地域活性化演習Ⅰ	（プロジェクト研究）	3～4 セメスター	
地域活性化演習Ⅱ	（プロジェクト研究）	3～4 セメスター	
地域歴史文化演習	（プロジェクト研究）	3～4 セメスター	
地域活性化演習Ⅲ	（プロジェクト研究）	5～6 セメスター	

その他、キャリアセンターが主催する各種講座やセミナーもあります。これらは授業の「キャリア教育」等科目と組み合わせるとより効果的です。各学部・学科・専攻のオリエンテーションやゼミ、各部署からの案内に注意を向けて、自分の将来に有効な計画を立ててください。

キャリア教育関連科目

卒業後の社会生活を視野に入れて、キャリア意識や社会人に必要な幅広い知識・技能を段階的に身につけます。

キャリア教育	1年次	2年次	3年次	社会が求める人物へ
	キャリアデザイニングⅠ（必修） **キャリアデザイニングⅡ（履修推奨）** 学生生活を充実させたい、社会人になる準備をしたい等、さまざまなことに挑戦するために「コミュニケーション力」「チームワーク」などの人間力・自立心を養います。	**キャリアマネジメントⅠ（履修推奨）** **キャリアマネジメントⅡ（履修推奨）** 自分を知ること、社会を知ること、それらから、卒業後の働くイメージを明確にして、具体的な将来計画を立て、行動へとつなげます。	**キャリアゼミ実践演習（必修）** **キャリアゼミ（履修推奨）** 就職活動に必要な知っておくべき内容をすべて網羅しています。就職活動を想定した実践的なグループワークや模擬面接も実施します。	

〈令和5年度入学生〉

「情報教育」について（全学部共通）

現代の情報社会を生き抜くための力を養うことを目的とした授業です。

1. IBU 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）

1年次配当科目「情報処理演習Ⅰ」および「情報処理演習Ⅱ」を『IBU 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）』と位置付けています。これらの科目では、本学が重要視しているICTやデータサイエンスを学ぶための基礎力とともに、多くの業種で必須となるツールを適切に活用する能力を身に付けます。この2科目は選択必修科目であり、どちらか一方の単位を修得することが卒業要件になりますが、両方を履修することを強く勧めています。

共通教育科目	配当セメスター	分　類
情報処理演習Ⅰ	1～2セメスター（S/W）	選択必修科目
情報処理演習Ⅱ	2セメスター（W）	選択必修科目

※「情報処理演習Ⅰ」については、学科・専攻によるクラス指定に従って履修してください（再履修者は除く）。

●「プログラム修了者に修了認定証を授与」

本プログラムのリテラシーレベルを構成する「情報処理演習Ⅰ（２単位)」「情報処理演習Ⅱ（２単位)」の合計４単位を修得すると本プログラムを修了することができます。修了した学生には修了認定証としてデジタル証明書（※オープンバッジ）を授与します。

可視化された学修歴を示すことにより、就職活動や進学に役立ててください。

※オープンバッジについて

国際標準化団体 1EdTech Consortium Inc が認定した、デジタルで学修成績や資格を証明する国際標準規格です。ブロックチェーン技術を取り入れており、実質的に偽造・改ざんが不可能になっています。

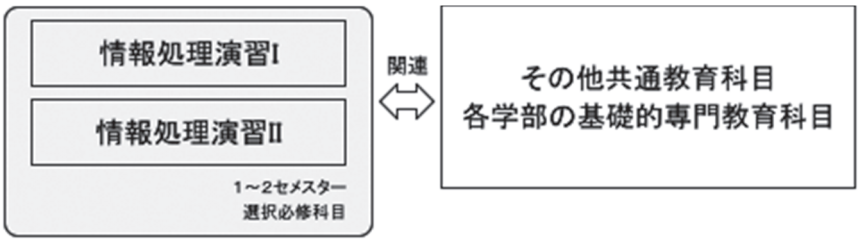
2. IBU 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）

２年次配当科目等の「データ収集分析」「プログラミング」「情報システム」およびその他（ＡＩ関連科目を予定）を『ＩＢＵ数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（応用基礎レベル)』と位置付けています。

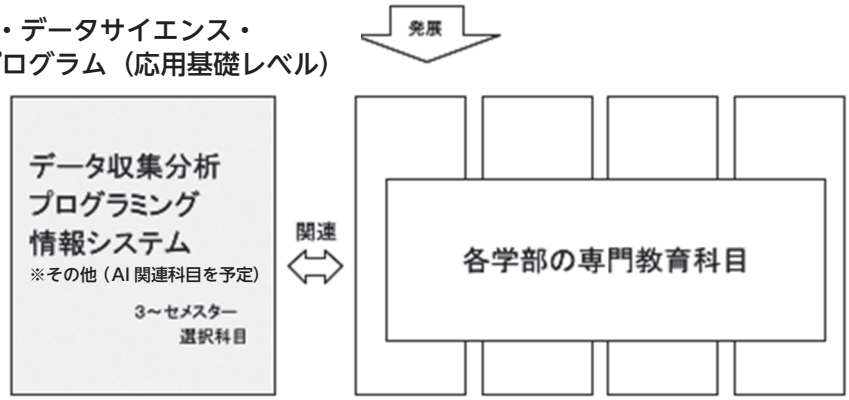
これらの科目では、リテラシーレベル（初級レベル）で修得した知識・技術等をさらに発展させ、自らの専門分野においても数理・データサイエンス・ＡＩを活用して、課題を解決できるようになるための実践的な応用基礎力を身に付けることを目的としています。

共通教育科目	配当セメスター	分　　類
データ収集分析	３セメスター（S）	選択科目
プログラミング	３セメスター（S）	選択科目（看護学部を除く）
情報システム	４セメスター（W）	選択科目
※その他（AI 関連科目を予定）		

1. IBU 数理・データサイエンス・
AI 教育プログラム（リテラシーレベル）



2. IBU 数理・データサイエンス・
AI 教育プログラム（応用基礎レベル）



3．数理・データサイエンス・ＡＩ関連の受験推奨検定試験について

下記検定試験は、「四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部資格チャレンジ奨励金」の対象になっていますので、在学中に合格した場合は奨励金が支給されます。

進路・就職等を意識した検定試験合格に意欲的に取り組み、継続して学修するための奨励金制度です。ぜひチャレンジしてください。

なお、奨励金の詳細については履修要覧に「四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部資格チャレンジ奨励金規程」が掲載されています。

- データサイエンティスト検定　リテラシーレベル
- 統計検定 データサイエンス　基礎
- 統計検定 データサイエンス　発展
- 統計検定 データサイエンス　エキスパート
- 統計検定　２級
- 統計検定　３級

※本教育プログラム（リテラシーレベル、応用基礎レベル）及び検定試験についてご質問等があれば、高等教育推進センター（事務局棟１階）へお問い合わせください。

「国語系科目・数理系科目」について（人文社会学部・教育学部・経営学部）

1 年次～ 2 年次にかけて、国語系科目では基礎的な文章作成力および文章表現力を育成し、数理系科目では社会人に求められる基礎的な数理的・論理的思考力の向上をめざします。

文章を書くことや読むことに自信のない方、中学・高校の数学とは違う学び方で数理的・論理的思考力を身に付けたい方は、ぜひ受講してください。

科目名	配当セメスター	内　　容
基礎文書作成	1 ～ 2 セメスター（S/W）	• 社会人として必要な文章作成の基礎力を身に付ける。講義・演習を主体とした授業で、実践的な課題を課し一人ひとりに対して添削を行う。
文章表現基礎	3 ～ 4 セメスター（W）	• グループワークによるポスター発表と討論会の実施を通して、日本語能力「読む」「聞く」「話す」「書く」を総合的に向上することをめざす。
数学演習Ⅰ	1 ～ 2 セメスター（S）	• 情報技術の中にある数学的内容の理解を通して、社会人に求められる数理的・論理的思考力の向上をめざす。
数学演習Ⅱ	3 ～ 4 セメスター（W）	• 「Ⅰ」と同様に、社会人に求められる数理的・論理的思考力の向上をめざす。数的処理は数学アプリ等を使うので、計算に苦手意識を持っている人も容易に学べる。
キャリアアップ数学	3 ～ 4 セメスター（S/W）	• 企業人、公務員として活躍するためには、数学的・論理的思考力が求められる。数学に苦手意識を持つ人にも身近な事例を用いて基礎から振り返り、公式に頼らず、筋道立てて考える力を育成する。

●共通教育科目編成表（人文社会学部・教育学部・経営学部）

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

種別	授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当 セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
学びの基礎	K0150	大学基礎演習Ⅰ	2		1～2	S	○	◎		CABA1001a1	
	K0155	大学基礎演習Ⅱ	2		1～2	W	○	◎		CABA2002a1	
	K0175	基礎文書作成		2	1～2	S/W	◎			CABA1003a1	
	K0195	小論文作成法		2	1～2	W	◎			CABA1004a1 ZZZZ1004a1	留学生用
	K0200	日本のビジネスマナーと文書		2	1～2	W	◎			CABA1005a1 ZZZZ1005a1	留学生用
	K0205	日中翻訳の理論と実践		2	1～2	W	◎			CABA1006a1 ZZZZ1006a1	留学生用
		共通教育特殊講義(注1)		2							
こころと思想	J0185	仏教実践演習		2	3～4	S	○	◎		CABB2007a1	
	J0190	聖徳太子概説		2	3～4	S/W	○	◎		CABB2008a1	
	K0140	心理学Ⅰ		2	1～2	S	◎			CABB1009a1	社会・人福履修不可
	K0145	心理学Ⅱ		2	1～2	W	◎			CABB2010a1	社会・人福履修不可
	K0125	哲学入門		2	1～2	S/W	◎			CABB1011a1	社会履修不可
	K0130	現代思想入門		2	1～2	S	◎			CABB1012a1	
	J0215	構造主義入門		2	3～4	W	◎			CABB1013a1	
社会と文化	J0220	現代社会と仏教		2	3～4	S	◎			CABC1014a1	
	K0230	日本国憲法		②	1～2	S/W	◎			CABC1015a1	教免必修
	K0235	法学入門		2	1～2	S/W	◎			CABC1016a1	社会学科と人間福祉学科「公民」免許希望者は履修不可
	K0240	政治学		②	1～2	W	◎			CABC1017a1	社会学科と人間福祉学科「公民」免許希望者は履修不可
	J0240	仏教芸術入門		2	3～4	R7年度開講せず	◎			CABC2018a1	
	J0245	現代日本の文化と社会		2	1～2	R7年度開講せず	◎			CABC1019a1	
情報と自然科学	K0160	情報処理演習Ⅰ	2	②	1～2	S/W	◎			CABD1020a1	教免・保育士はいずれか1科目必修
	K0165	情報処理演習Ⅱ	2	②	1～2	W	◎			CABD2021a1	教免・保育士はいずれか1科目必修
	J0260	プログラミング		2	3～4	S	◎			CABD2022a1	
	J0265	情報システム		2	3～4	W	◎			CABD2023a1	
	J0270	データ収集分析		2	3～4	S	◎			CABD2024a1	
	K0280	生命の科学		2	1～2	S/W	◎			CABD1025a1	
	K0285	環境の科学		2	1～2	S	◎			CABD1026a1	
	J0285	先端技術		2	1～2	R7年度開講せず	◎			CABD1027a1	
健康と福祉	K0295	スポーツⅠ		①	1～2	S	◎			CABE1028a1	ⅠとⅡの2単位教免必修 Ⅰは保育士必修
	K0300	スポーツⅡ		①	1～2	W	◎			CABE2029a1	ⅠとⅡの2単位教免必修 Ⅰは保育士必修
	J0300	体育講義		2	1～2	R7年度開講せず	◎			CABE1030a1	保育士必修 教幼以外履修不可
	K0310	社会福祉概論		2	1～2	S/W	◎	○		CABE1031a1	
	J0310	社会福祉行政		2	1～2	S/W	◎	○		CABE1032a1	
	J0315	児童福祉論		2	3～4	S/W	◎	○		CABE1033a1	人福・教幼履修不可
	K0320	老人福祉論		2	1～2	S/W	◎	○		CABE1034a1	
	K0325	障害者福祉		2	1～2	W	◎	○		CABE1035a1	人福履修不可

●共通教育科目編成表（人文社会学部・教育学部・経営学部）

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

種別	授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
健康と福祉	J0330	レクリエーション論		2	1～2	S	◎	○		CABE1036a1	人福以外履修不可
	K0330	手話コミュニケーション		2	1～2	S/W	◎	○		CABE1037a1	
言語	K0400	英語Ⅰ	①(注2)		1～2	S	○			CABF1038a1	教免・保育士必修（国際キャリア学科は除く）
	K0405	英語Ⅱ	①(注2)		1～2	W	○			CABF1039a1	教免・保育士必修（国際キャリア学科は除く）
	J0350	英語Ⅲ	2(注2)	1	3～4	S	○			CABF2040a1	
	J0355	英語Ⅳ	2(注2)	1	3～4	W	○			CABF2041a1	
	J0360	上級英語Ⅰ	2(注2)	1	3～4	S	○			CABF2042a1	
	J0365	上級英語Ⅱ	2(注2)	1	3～4	W	○			CABF2043a1	
	K0415	ドイツ語Ⅰ	2(注3)	1	1～2	S	○			CABF1044a1	
	K0420	ドイツ語Ⅱ	2(注3)	1	1～2	W	○			CABF1045a1	
	K0430	フランス語Ⅰ	2(注3)	1	1～2	S	○			CABF1046a1	
	K0435	フランス語Ⅱ	2(注3)	1	1～2	W	○			CABF1047a1	
	K0445	中国語Ⅰ	2(注3)	1	1～2	S	○			CABF1048a1	
	K0450	中国語Ⅱ	2(注3)	1	1～2	W	○			CABF1049a1	
	K0475	日本手話Ⅰ	2(注3)	1	1～2	S	○			CABF1050a1	人福以外履修不可
	K0480	日本手話Ⅱ	2(注3)	1	1～2	W	○			CABF1051a1	人福以外履修不可
	K0485	日本語Ⅰ	2(注3)	1	1～2	S	○			CABF1052b1	
	K0490	日本語Ⅱ	2(注3)	1	1～2	W	○			CABF1053b1	
	J0420	ドイツ語Ⅲ		1	3～4	S	○			CABF2054a1	
	J0425	ドイツ語Ⅳ		1	3～4	W	○			CABF2055a1	
	J0430	フランス語Ⅲ		1	3～4	S	○			CABF2056a1	
	J0435	フランス語Ⅳ		1	3～4	W	○			CABF2057a1	
	J0440	中国語Ⅲ		1	3～4	S	○			CABF2058a1	
	J0445	中国語Ⅳ		1	3～4	W	○			CABF2059a1	
	K0460	コリア語Ⅰ		1	3～4	S	○			CABF1060a1	
	K0465	コリア語Ⅱ		1	3～4	W	○			CABF1061a1	
	J0460	日本手話Ⅲ		1(注4)	3～4	S	○			CABF2062a1	人福以外履修不可
	J0465	日本手話Ⅳ		1(注4)	3～4	W	○			CABF2063a1	人福以外履修不可
	J0470	日本語Ⅲ		1(注4)	3～4	S	○			CABF2064b1	
	J0475	日本語Ⅳ		1(注4)	3～4	W	○			CABF2065b1	
キャリア教育	K0500	キャリアデザイニングⅠ	2(注5)		1～2	S	◎			CABG1066a1	
	K0505	キャリアデザイニングⅡ		2	1～2	W	◎			CABG2067a1	
	K0185	数学演習Ⅰ		2	1～2	S	◎			CABG1068a1	
	K0190	数学演習Ⅱ		2	1～2	W	◎			CABG1069a1	
	J0500	キャリアアップ数学		2	3～4	S/W	◎			CABG2070a1	
	J0505	文章表現基礎		2	3～4	W	◎			CABG1071a1	

●共通教育科目編成表（人文社会学部・教育学部・経営学部）

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

種別	授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当 セメスター	開講 学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
キャリア教育		キャリア・プロジェクト研究(注1)		2							
	J0511	〈産業・企業研究〉		2	3～4	W	◎	○		CABG1092a1	
	J0521	〈地域活性化演習Ⅰ〉		2	3～4	S	◎	○		CABG1093a1	
	J0522	〈地域活性化演習Ⅱ〉		2	3～4	W	◎	○		CABG1094a1	
	J0524	〈地域歴史文化演習〉		2	3～4	S	◎	○		CABG2095a1	
	J0523	〈地域活性化演習Ⅲ〉		2	5～6	W	◎	○		CABG2096a1	
	K0520	地域活性化概論		2	1～2	S	◎	○		CABG1072a1	
知識・技能		知識・技能研究Ⅰ		2						CABH1073a1	
		知識・技能研究Ⅱ		2						CABH1074a1	
学外研修	K0600	国内実地研修Ⅰ		1 (注6)	1～2	S/W				CABI1075a1	
	K0605	国内実地研修Ⅱ		1 (注6)	1～2	S/W				CABI1076a1	
	K061A	海外実地研修		2 (注7)	1～2	S/W				CABI1077a1	集中講義
	K0621	海外語学研修Ⅰ		2 (注8)	1～2	S/W				CABI1078a1	
	K0622	海外語学研修Ⅱ		2 (注8)	1～2	S/W				CABI1079a1	
	K0623	海外語学研修Ⅲ		2 (注8)	1～2	S/W				CABI2080a1	
	K0624	海外語学研修Ⅳ		2 (注8)	1～2	S/W				CABI2081a1	
	K0630	中国語学研修Ⅰ		2 (注8)	1～2	S/W				CABI1082a1	
	K0631	中国語学研修Ⅱ		2 (注8)	1～2	S/W				CABI1083a1	
	K0632	中国語学研修Ⅲ		2 (注8)	1～2	S/W				CABI2084a1	
	K0633	中国語学研修Ⅳ		2 (注8)	1～2	S/W				CABI2085a1	
卒業に必要な最低修得単位数											
人文社会学部日本学科			14	16	合計 30 単位						
人文社会学部国際キャリア学科			10	22	合計 32 単位						
人文社会学部社会学科、人間福祉学科			14	16	合計 30 単位						
教育学部教育学科			12	8	合計 20 単位						
経営学部経営学科			14	18	合計 32 単位						

（注 1）各授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ 2 単位付与する。
（注 2）人文社会学部国際キャリア学科は英語を除く。英語Ⅲ・Ⅳ、もしくは上級英語Ⅰ・Ⅱの組合せで選択し、2 単位修得。
（注 3）同一言語を選択し 2 単位修得。但し、日本語を母語としない者は日本語Ⅰ・Ⅱを履修できる。
また、日本手話Ⅰ・Ⅱは人間福祉学科のみ履修できる。
（注 4）日本語を母語としない者は日本語Ⅲ・Ⅳを履修できる。また、日本手話Ⅲ・Ⅳは人間福祉学科のみ履修できる。
（注 5）教育学部教育学科はキャリアデザイニングⅠを選択科目とする。
（注 6）国内実地研修の単位については、別に定める規程に基づき運用する。
（注 7）海外実地研修の単位については、別に定める規程に基づき運用する。
（注 8）海外語学研修の単位については、別に定める規程に基づき運用する。

※上級英語Ⅰ・Ⅱは累積 GPA が 2.0 以上でないと履修できない。

●共通教育科目編成表（看護学部）

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
教養教育科目	生命と環境	J7550	生命の科学		2	1～2	S/W	◎			CACA1001a1	
		J7555	環境の科学		2	1～2	S	◎			CACA1002a1	
		K0290	生物学	2		1～2	S	◎			CACA1003a1	
		J7565	科学技術と社会		2	1～2	R7年度開講せず	◎			CACA1004a1	
	こころと思想	J7570	仏教実践演習		2	3～4	S	○	◎		CACB2005a1	
		J7575	聖徳太子概説		2	3～4	W	○	◎		CACB2006a1	
		J7580	心理学Ⅰ		2	1～2	S	◎			CACB1007a1	
		J7585	心理学Ⅱ		2	1～2	W	◎			CACB2008a1	
		J7590	哲学入門		2	1～2	S	◎			CACB1009a1	
		J7595	現代思想入門		2	1～2	S	◎			CACB1010a1	
		J7600	構造主義入門		2	3～4	W	◎			CACB1011a1	
	社会と文化	J7605	現代社会と仏教		2	3～4	S	◎			CACC1012a1	
		J7610	日本国憲法		②(※1)	1～2	S	◎			CACC1013a1	教免必修
		J7615	法学入門		2	1～2	W	◎			CACC1014a1	
		J7620	政治学		2	1～2	W	◎			CACC1015a1	
		J7625	文化人類学		2	3～4	W	◎			CACC1016a1	
		K0245	ジェンダーの社会学		2	1～2	S	◎			CACC1017a1	
		J7635	仏教芸術入門		2	3～4	R7年度開講せず	◎			CACC2018a1	
		J7640	現代日本の文化と社会		2	1～2	R7年度開講せず	◎			CACC1019a1	
		J7645	地域活性化概論		2	3～4	S	◎	○		CACC1020a1	
	健康と福祉	J7650	スポーツⅠ		①(※1)	1～2	S	◎			CACD1021a1	教免必修
		J7655	スポーツⅡ		①(※1)	1～2	W	◎			CACD2022a1	教免必修
		J7600	体育講義		2	1～2	R7年度開講せず	◎			CACD1023a1	
		J7665	社会福祉概論		2	1～2	S	◎	○		CACD1024a1	
		J7670	社会福祉行政		2	3～4	S	◎	○		CACD1025a1	
		J7675	児童福祉論		2	1～2	W	◎	○		CACD1026a1	
		J7680	老人福祉論		2	3～4	W	◎	○		CACD1027a1	
		J7685	障害者福祉		2	3～4	W	◎	○		CACD1028a1	
		J7690	レクリエーション論		2	3～4	S	◎	○		CACD1029a1	
語学・情報科学科目	情報科学	J7695	情報処理演習Ⅰ		②(※2)	1～2	S/W	◎			CACE1030a1	教免はいずれか1科目必修
		J7700	情報処理演習Ⅱ		②(※2)	1～2	W	◎			CACE2031a1	教免はいずれか1科目必修
		J7705	情報システム		2	3～4	W	◎			CACE2032a1	
		J7710	データ収集分析		2	3～4	S	◎			CACE2033a1	
		J7715	情報社会の法と倫理(リテラシー含む)		2	3～4	W	◎		○	CACE1034a1	
		J7720	統計学	2		3～4	S	◎		○	CACE1035a1	
		J7725	先端技術		2	1～2	R7年度開講せず	◎			CACE1036a1	

●共通教育科目編成表（看護学部）

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当 セメスター	開講 学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
語学・情報科学科目	グローバルコミュニケーション	J7730	上級英語Ⅰ	①		1～2	S	○			CACF2037a1	教免必修
		J7735	上級英語Ⅱ	①		1～2	W	○			CACF2038a1	教免必修
		J7740	上級英語Ⅲ（医療英語）	1		3～4	S	◎		○	CACF2039a1	
		J7745	上級英語Ⅳ（英語論文読解）	1		3～4	W	◎		○	CACF2040a1	
		J7750	ドイツ語Ⅰ		1	1～2	S	○			CACF1041a1	
		J7755	ドイツ語Ⅱ		1	1～2	W	○			CACF1042a1	
		J7760	フランス語Ⅰ		1	1～2	S	○			CACF1043a1	
		J7765	フランス語Ⅱ		1	1～2	W	○			CACF1044a1	
		J7770	中国語Ⅰ		1	1～2	S	○			CACF1045a1	
		J7775	中国語Ⅱ		1	1～2	W	○			CACF1046a1	
		J7780	コリア語Ⅰ		1	1～2	S	○			CACF1047a1	
		J7785	コリア語Ⅱ		1	1～2	W	○			CACF1048a1	
卒業に必要な最低修得単位数												
看護学部看護学科				8	10	合計 18 単位						

1. 教養教育科目（必修科目 2 単位、選択科目 6 単位）
   語学・情報科学科目（必修科目 6 単位、選択科目 4 単位）
2. 養護教諭一種免許状取得には、（※ 1）の単位を修得と、（※ 2）のいずれかを修得すること。

●「専門教育科目」について

「専門教育科目」は、各学部・学科・専攻の教育目的に即した高度な内容をもつ専門的な科目等によって体系的に構成され、卒業に必要な最低修得単位数が決められています（単位数は学部・学科・専攻によって異なる）。学部・学科・専攻において中心となる科目は、必修、あるいは選択必修としています。学部・学科・専攻によって異なりますが、基本的に 1 年次から 4 年次までの各セメスターにおいて、必修科目として「基礎演習」、「演習」などが配当されており、2 年間もしくは 3 年間におよぶ演習を通して、担当教員がじっくり専門領域についての学修を指導する体制をとっています。

なお、必修科目および選択必修科目は、修得できなかった場合には、卒業が延期となる可能性があります。必ず配当されたセメスターで修得するよう、特に注意してください。

学部・学科・専攻によっては、ある科目を履修する際の条件（これを「履修要件」といいます）として、特定の科目を修得していなくてはならない場合があります。また、学外実習に参加する場合に履修要件として、いくつかの科目を履修しておかなくてはならない場合もあります。これらの専門教育科目を履修する上での規則については、各学部・学科・専攻等によって違いがありますので、「授業科目の編成および単位数」をよく読んでおいてください。

●人文社会学部

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

人文社会学部は、人文科学と社会科学の諸領域の専門知識・技能等を修得するとともに、人間的基礎として自他の相互理解による調和・協調の精神をもち、グローバル化する社会において主体的かつ他者との協働により活躍できる人材の育成を目的としています。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の 3 点とします。

卒業時点において学生が身につけるべき能力

① 人間・社会・文化に対する専門的な知識・技能
人文科学・社会科学が対象とする人間・社会・文化の諸事象について、幅広い関心をもち、専門的な知識・技術を身に付け、自ら思考し判断することができる。

② 異なる価値をもつ他者を受容して調和を図れる豊かな人間性
コミュニケーションを通じて、自己を他者に伝えるとともに、異なる価値をもつ他者や異文化を理解して様々な価値観を受け入れ、他者との調和を図ることができる。

③ 社会（組織）に活かせる課題解決能力
社会（組織）の様々な課題について、自らの主体的な取り組みや他者との協働によって解決し、自己の能力を社会に活かすことができる。

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

人文社会学部では、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）として示した能力を修得するために、学部共通科目、各学科の学科共通領域、学科専門コース・領域によってカリキュラムを編成しています。

【教育課程の編成、教育内容】

1）学部共通科目　社会や様々な業界・職種に対する理解を段階的に深め、社会での活躍につながるよう、

1 年次の共通教育科目「キャリアデザイニングⅠ・Ⅱ」を受けて、2 年次・3 年次に各学科の特性に見合った内容でキャリア科目を設けています。

2）学科共通領域　各学科の学修の基礎や中核となる科目を配置しています。1・2 年次には基礎的な知識・技能やコミュニケーション能力を身につけるための少人数による主体的・実践的な科目を設置し、また 3・4 年次にはより専門的な知識・技能を深め主体的に思考し課題を解決する能力を養う演習科目を設けています。

3）学科専門コース・領域　学生の興味関心や卒業後の進路に応じた能力・資質を形成するため、効果的かつ自由度の高い幅広い学びができるように、各学科の特色ある専門的な科目を体系的に編成した専門コース・領域を設けています。

【教育方法】

1）専門的な知識・技能を修得する講義や実習、論理思考を培い課題を発見し解決する能力を養う演習などの中で、アクティブ・ラーニングを取り入れ、主体的・対話的な学びの深化を図ります。

2）他者と協働して社会や世界で活躍するための基盤として、言語の運用能力の深化による自他の相互理解のほか、ICT の活用をも含めたコミュニケーション能力を高めることを目指します。

【学修成果の評価方法】

1）教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2）講義や演習などの科目については、教育内容や形態に応じて、定期試験、中間試験などの小テスト、課題レポート、コメントシート、学生による自己評価・相互評価、ルーブリックによるパフォーマンス評価など、多面的に適切な方法を用いて評価します。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

人文社会学部は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受ける条件として、以下のような資質・能力をもつ人物を受け入れることを方針とし、試験や審査を行います。

⑴　人文科学と社会科学の諸領域の専門知識・技能等を学ぶのに必要な基礎学力を有すること
〔求める要素：知識・技能〕

⑵　人間・社会（世界）・文化に対する様々な事柄に関心をもち、専門的な知識・技能を身につけ、課題を発見し解決する意欲を有すること　〔求める要素：関心・意欲・態度、思考力・判断力・表現力〕

⑶　他者や社会との関係において、自ら主体的に思考し実践するとともに、異なる価値をもつ他者や異文化を理解し、他者と協働してものごとに取り組む姿勢をもつこと
〔求める要素：主体性、多様性、協働性〕

●日本学科

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

日本学科は、日本語および日本の文学・文化・歴史について、グローバルな視野に基づいた幅広い知識を体系的に身につけ、自ら見出した課題の解決に取り組む人材、および、こうした学びを通じて体得した人間洞察力と、高度な日本語運用能力に基づく説得的かつ豊かなコミュニケーションを通じて、他者との調和ある共生を目指すことのできる人材の育成を目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の４点とします。

卒業時点において学生が身につけるべき能力

① 日本および日本語に関する幅広い知識と教養
日本の言語・文学・歴史・文化について、グローバルな視野に基づいた幅広い知識を体系的に修得し、基本的な事項を理解することができる。

② 豊かで的確なコミュニケーション能力
自身の考えや意見を他者にわかりやすく伝えるための、適切かつ精確な日本語表現力と表現方法を修得し、状況に応じて的確に運用できる。

③ 日本語による総合的・論理的な思考力と分析力および問題発見・解決能力（高度な日本語運用能力）
ことばを適切に使う力・ことばによって伝える力を高めることによって修得される論理性・構想力・説得力・対応力・企画力・統率力を活かして、自らが発見した課題の解決に取り組み、社会（組織）で活躍することができる。

④ 自己と他者に対する理解、および豊かな人間性の涵養（確かな人間洞察力）
日本文化に関する幅広い知識を学び、これを分析することによって日本人の心性・感性・思考性を把握し、自文化および異文化の理解のみならず、自己と他者への理解を深め、より豊かな人間性の涵養を通じて他者との調和ある共生を目指せる。

※各科目との対応については授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

日本学科の教育課程は、日本の言語・文学・文化・歴史の各分野を①日本語・日本文学コース、②文化・歴史・観光コース、③現代文化コースの専門３コースに体系化し、その上で、各コースに固定することなく、学生個々の興味・関心や将来の進路に応じて、それぞれの科目群から自由に選択し、幅広く学ぶことが可能となるように編成します。また、基礎的知識・技能や、演習による専門知識の深化のために学科共通領域を設け、博物館学芸員資格取得のために博物館学芸員課程を設定します。

1） 学科共通領域には、積み重ねて履修する演習科目とその他の科目を設定する。演習科目としては、基礎的知識や表現力を修得する「日本学表現演習Ⅰ・Ⅱ」「日本学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」と、専門知識の深化を図る「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を配置する他、古典の基礎や書道の技能に関する科目等も準備する。

2） ①日本語・日本文学コースには、『日本語学分野』と『日本文学分野』を設定する。『日本語学分野』には日本語の体系や歴史、および日本語教育に関する科目が、『日本文学分野』では上代から近代・現代に至る時代領域に加え、漢文学関係の科目を配置する。いずれの分野にも中学校・高等学校「国語」教員免許取得に関わる科目を重点的に盛り込み、中高「国語」の授業実践に資する科目を配置する。

3）②文化・歴史・観光コースには、『文化分野』、『歴史分野』、『観光分野』という３分野を設定する。『文化分野』には日本文化について美術的・芸能的・宗教的観点等、多様な角度から考察する科目を、『歴史分野』でも日本史をさまざまな観点から捉えなおす科目を配当し、『観光分野』には地理学から旅行実務まで幅広い科目を配置する。

4）③現代文化コースには、文学・音楽・映像・芸術からサブカルチャーに至るまで、広範な現代の文化事象を扱う科目を設定する。また、インターネットやＳＮＳ、メディアミックス等、現代のメディア状況を分析する科目も配置する。

5）博物館学芸員課程においては、講義科目から博物館における実習科目まで体系的に科目を配置し、現代社会において求められる学芸員の多様な職務に対応することのできる知識を修得する。

【教育方法】

1）日本および日本語に関する幅広い知識と教養を修得するため、1・2 年次に専門 3 コースに関する概論科目・基礎科目を設置する。

2）日本語による豊かで的確なコミュニケーション能力を体得するため、1・2 年次に日本語表現力を高める科目を配当する。アクティブ・ラーニングの観点からプレゼンテーション実践の機会を積極的に設定し、学修ポートフォリオを活用して主体的な省察に取り組ませる。

3）3・4 年次には、専門演習を中心に、思考力・分析力、問題発見・解決能力を向上させる。専門領域の諸問題について論理的思考に基づく成果発表の機会を設定し、主体的に問題を発見し、解決する能力を育成する。

4）各授業におけるプレゼンテーションに相互批評を導入し、ルーブリック評価等による明確な基準を設定することで、自己と他者への理解を深め、豊かな人間性を育み、相互に高め合う教育環境を実現する。授業と連動したインターンシップや学外ボランティア、地域連携の機会も活用する。

5）専門演習や教職教育、日本語教員養成プログラム、博物館学芸員課程において、フィールドワークや実地見学を積極的に取り入れ、体験・経験を通じて学びの機会を提供する。

【学修成果の評価方法】

1）教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。

2）講義科目においては、定期試験の基本的な重要性を踏まえつつ、中間テスト等の小テスト、課題レポート、コメントペーパー等を実施し、学修成果に対して多面的に評価する。

3）演習科目においては、ＩＣＴの活用等を通じて他者にわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション、それに応じての相互批評的ディスカッション、あるいはワークシートを用いたグループワーク、成果をまとめたレポート作成等、多様な実践に対する評価を中心に、学修ポートフォリオによる主体的な省察を踏まえ、総合的に評価する。

4）教職教育、日本語教員養成プログラムにおいては、専門知識の修得をテスト等で評価するとともに、専門知識の的確なアウトプットについては模擬授業の実践を通じて評価する。実践的な応用力については、地域や教育現場におけるインターンシップやボランティア等の実践も評価に活用する。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

日本学科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・ 実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

⑴ 中学・高校における「国語」や「書道」、「日本史」や「地理」等の科目の基本的な内容を理解していること　〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

⑵　日本について知り、日本語の表現を活用して情報を発信する能力を身につけることを希望すること
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

⑶　日本文化に関する幅広い知識を学び、これを分析することによって主体的に課題を解決することに取り組む意志を持つこと　〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

⑷　日本人の心性を理解するとともに異文化への理解力を身につけ、他者と協同して課題を解決することに取り組む意志を持つこと　〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

⑸　将来、中学高校「国語」・高校「書道」の教員、外国人に日本語を教授する日本語教員、博物館学芸員課程で得られる知識を活かした職業を目指していること。あるいは、観光・文化・教育・出版・広告などの一般企業等に就職し、日本についての知識と日本語表現力を活かして活躍することを目指していること　〔求める要素：関心・意欲・態度〕

〈履修のありかた〉

1 年次には、国語・日本語の運用能力を高めるべく「日本学表現演習Ⅰ・Ⅱ」をはじめ、日本語学や日本文学、日本の歴史および日本文化などの日本学科で学ぶ領域の基礎を学習する。この基礎的な学習を通じて、それぞれの希望や適性も鑑み、専門として学ぶ領域を決定する。教員を志望する場合は、1 年次から計画的に教職課程を履修する必要がある。また、集中講義「パフォーマンス実践演習」を履修することで、他者との関わり方を学んでもらいたい。

2 年次には、「日本学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の履修を通じて大学生としての学習のありかたを学ぶと同時に、各分野の基礎的授業や「講読」の授業を選択履修し、専門領域で学ぶ内容を具体的に理解することで、各自の専門とする領域を決定する。また、集中講義「日本学インターンシップ演習」を履修することで、学科の学びを社会で活用することを考えてもらいたい。

3 年次以降は、ゼミでの学習を中心に、幅広く「特殊講義」なども履修することで、それぞれの学生が自分の専門とする領域および「日本」に関する知識を拡げ深めつつ、「卒業研究」を行う。

〈学習の成果と卒業後の進路〉

このように、日本学科では、「日本」と「国語」のプロフェッショナル養成を目的とした学習を行うことで、日本文化に関する広範な知識に裏打ちされた高度な国語・日本語の運用能力を獲得できる。こうして修得した日本文化理解力と高度な「国語力」により、卒業後は、中学校・高等学校の国語・書道教員、日本語を母国語としない人たちに日本語を教える日本語教師をはじめ、公務員、マスコミ・出版関係、観光・旅行業界など「日本」に関わるさまざまな場面で活躍が可能となる。高度な日本語の運用能力と優れたコミュニケーション力はどのような職種でも必要とされる能力であり、このような能力を修得することにより、卒業後は、幅広い分野での活躍が可能となる。

なお、卒業時に「博物館学芸員」の資格取得を希望する場合は、1 年次より必要とされる科目を計画的に履修すること。

●日本学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	他学部・他学科履修	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	身につけるべき能力 ④	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	学科共通領域	K1210	日本学表現演習Ⅰ	2		1～2	S	不可	○	◎			HJDA1001a0	
		K1215	日本学表現演習Ⅱ	2		1～2	W	不可	○	◎			HJDA1002a0	
		K1220	日本学基礎演習Ⅰ	2		3～4	S	不可	○	◎	○		HJDA1003a0	
		K1225	日本学基礎演習Ⅱ	2		3～4	W	不可	○	○	◎		HJDA1004a0	
		J1020	専門演習Ⅰ	2		5～6	S	不可		○	○	◎	HJDA3005a0	
		J1025	専門演習Ⅱ	2		5～6	W	不可		○	○	◎	HJDA3006a0	
		J1030	専門演習Ⅲ	2		7～8	S	不可		○	○	◎	HJDA3007a0	
		J1035	専門演習Ⅳ	2		7～8	W	不可		○	○	◎	HJDA3008a0	
			卒業研究		4	7～8		不可		○	◎	○	HJDA3009a0	
		K1285	日本学インターンシップ演習		2	3～4	W	不可		○	○	◎	HJDA2010a0	
		K1280	パフォーマンス実践演習		2	1～2	S	不可		◎		○	HJDA1011a0	集中講義
		K1075	地域・文化発信演習		2	5～6	W	不可		○	◎	○	HJDA3012a0	
		K1240	講読Ⅰ（日本語学）	4	②	3～4	W			○	◎		HJDA2013a0	
		K1245	講読Ⅱ（近現代文学）		②	3～4	S			○	◎		HJDA2014a0	
		K1250	講読Ⅲ（古典文学）		②	3～4	W			○	◎		HJDA2015a0	
		K1255	講読Ⅳ（日本文化）		2	3～4	W			○	◎		HJDA2016a0	
		J1080	講読Ⅴ（日本史）		2	3～4	R7年度開講せず			○	◎		HJDA2017a0	
		K1265	講読Ⅵ（現代文化）		2	3～4	W			○	◎		HJDA2018a0	
		J1090	講読Ⅶ（日本の観光）		2	3～4	R7年度開講せず			○	◎		HJDA2019a0	
		K1275	講読Ⅷ（文学と文化）		2	3～4	S			○	◎		HJDA2020a0	
		J1100	日本語研究基礎	4	2	3～4	R7年度開講せず		○		◎		HJDA2021a0	
		J1105	近現代文学研究基礎		2	3～4	S		○		◎		HJDA2022a0	
		J1110	古典文学研究基礎		2	3～4	W		○		◎		HJDA2023a0	
		J1115	文化・歴史研究基礎		2	3～4	R7年度開講せず		○		◎		HJDA2024a0	
		J1120	観光研究基礎		2	3～4	R7年度開講せず		○		◎		HJDA2025a0	
		J1125	現代文化研究基礎		2	3～4	R7年度開講せず		○		◎		HJDA2026a0	
		K1455	古典Ⅰ（日本）		②	1～2	S		◎	○			HJDA1027a0	
		K1460	古典Ⅱ（中国）		②	1～2	W		◎	○			HJDA1028a0	
		K1480	書道A		②	1～2	S	不可	◎			○	HJDA1029a0	
		K1485	書道B		②	1～2	W	不可	◎			○	HJDA1030a0	
		K1490	書道C		②	3～4	S	不可	◎			○	HJDA2031a0	
		K1495	書道D		②	3～4	W	不可	◎			○	HJDA2032a0	
		J1160	書道史Ⅰ		②	5～6	S		○		◎		HJDA3033a0	
		J1165	書道史Ⅱ		②	5～6	W		○		◎		HJDA3034a0	
		J1170	書論・鑑賞Ⅰ		②	5～6	S		○		◎		HJDA3035a0	
		J1175	書論・鑑賞Ⅱ		②	5～6	W		○		◎		HJDA3036a0	

●日本学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	他学部・他学科履修	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	身につけるべき能力 ④	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	学科共通領域		日本学特殊講義(注1)		2									
		J1183	〈国語教育研究〉		2	5~6	S				◎	○	HJDA3105a0	
		J1188	〈日本の世界遺産〉		2	5~6	S				◎	○	HJDA3106a0	
		J1193	〈日本のアニメーション〉		2	5~6	W				◎	○	HJDA3107a0	
		J1202	〈創作論〉		2	7~8	W			○	◎		HJDA3108a0	
		J1205	〈考古学〉		2	5~6	W				◎	○	HJDA3109a0	
		J1204	〈現代日本文学研究〉		2	5~6	S				◎	○	HJDA3110a0	
		J1206	〈板書法〉		2	5~6	S			○	◎		HJDA3111a0	
		J1207	〈国語教育実践〉		2	5~6	W			○	◎		HJDA3112a0	
		K1260	〈メディア文化〉		2	3~4	S		○		◎		HJDA2113a0	
		J1210	〈多文化共生実践Ⅱ〉		2	5~6	W	不可		○		◎	HJDA3115a0	
		K1290	〈映像メディア演習Ⅰ〉		2	3~4	S	不可		◎	○		HJDA2116a0	
		K1295	〈映像メディア演習Ⅱ〉		2	3~4	W	不可		◎	○		HJDA2117a0	
		K1270	〈和食文化講読〉		2	3~4	S		○		◎		HJDA2118a0	
		K1716	〈ファンタジー文化論〉		2	3~4	W		◎		○		HJDA2119a0	
		K1718	〈日本のマンガ〉		2	3~4	S		◎		○		HJDA2120a0	
	日本語・日本文学コース	K1410	日本語学Ⅰ		②	1~2	S		◎	○			HJDB1037a0	
		K1415	日本語学Ⅱ		②	1~2	W		◎	○			HJDB1038a0	
		K1420	日本語史		②	3~4	S		○		◎		HJDB2039a0	
		K1425	日本語文法Ⅰ(現代)		②	3~4	S		○		◎		HJDB2040a0	
		K1430	日本語文法Ⅱ(古典)		②	3~4	W		○		◎		HJDB2041a0	
		K1435	日本文学論Ⅰ(近現代)		②	3~4	W			○	◎		HJDB2042a0	
		K1440	日本文学論Ⅱ(古典)		②	3~4	S			○	◎		HJDB2043a0	
		K1445	日本文学史Ⅰ(近現代)		②	1~2	S		◎	○			HJDB1044a0	
		K1450	日本文学史Ⅱ(古典)		②	1~2	W		◎	○			HJDB1045a0	
		K1475	漢文学		②	3~4	S				◎	○	HJDB2046a0	
		J1280	国語教材研究論Ⅰ(近現代)		②	5~6	S			○	◎		HJDB3047a0	
		J1285	国語教材研究論Ⅱ(古典)		②	5~6	W			○	◎		HJDB3048a0	
		J1290	国語教材研究論Ⅲ(漢文)		②	5~6	W			○	◎		HJDB3049a0	
		K1520	国語教育論A		2	3~4	W		◎	○			HJDB2050a0	
		K1525	国語教育論B		2	3~4	S		◎	○			HJDB2051a0	
		K1030	日本語教育学概論Ⅰ		2	1~2	S		◎	○			HJDB1052a0	
		K1035	日本語教育学概論Ⅱ		2	1~2	W		◎	○			HJDB1053a0	
		K1560	日本語教育論Ⅰ		2	3~4	S		◎		○		HJDB2054a0	
		K1565	日本語教育論Ⅱ		2	3~4	W		◎		○		HJDB2055a0	
		J1325	日本語教授法Ⅰ		2	5~6	S			○	◎		HJDB3056a0	

●日本学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	他学部・他学科履修	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	身につけるべき能力 ④	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	日本語・日本文学コース	J1330	日本語教授法Ⅱ		2	5～6	W			○	◎		HJDB3057a0	
		J1335	日本語教育実習指導及び実習A		2	7～8	S			○	◎	○	HJDB3058a0	
		J1340	日本語教育実習指導及び実習B		2	7～8	W			○	◎	○	HJDB3059a0	
	文化・歴史・観光コース	K1230	日本文化論Ⅰ	2	2	1～2	S	不可	◎		○		HJDC1060a0	
		K1235	日本文化論Ⅱ		2	1～2	W	不可	◎		○		HJDC1069a0 ZZZZ1069a0	＊留学生は履修可
		K1585	日本文化史Ⅰ		②	3～4	S		○		◎		HJDC2062a0	
		K1590	日本文化史Ⅱ		②	3～4	W		○		◎		HJDC2063a0	
		J1365	伝統文化研究		2	3～4	R7年度開講せず		○		◎		HJDC2064a0	
		K1595	仏教と日本文化		2	3～4	S		○		◎		HJDC2065a0	
		J1375	日本史概論		2	1～2	R7年度開講せず		◎		○		HJDC1066a0	
		J1380	日本思想史		2	5～6	R7年度開講せず				◎	○	HJDC3067a0	
		K1640	日中交流史		2	3～4	W				◎	○	HJDC2068a0	（＊1）
		J1386	日中比較文化論		2	7～8	W				◎	○	HJDC3069a0	
		K1630	アジア文化概説		2	1～2	W				◎	○	HJDC1070a0	
		J1390	異文化理解		2	5～6	W				◎	○	HJDC3071a0	
		J1395	食文化論		2	5～6	W		○		◎		HJDC3072a0	
		J1400	地域文化		2	5～6	S				◎	○	HJDC3073a0	
		J1405	日本の民俗		2	5～6	S				◎	○	HJDC3074a0	
		J1410	観光文化地理		2	3～4	R7年度開講せず			○	◎		HJDC2075a0	
		K1610	観光学概論		2	1～2	S		◎		○		HJDC1076a0	
		K1620	ツーリズム論		2	3～4	S			○	◎		HJDC2077a0	
		K1065	国内旅行実務Ⅰ		2	3～4	S		○		◎		HJDC3078a0	
		K1070	国内旅行実務Ⅱ		2	3～4	S		○		◎		HJDC3079a0	
		K1615	観光社会学		2	3～4	W			○	◎		HJDC2080a0	
		K1060	旅行産業論		2	1～2	W			○	◎		HJDC2081a0	
		J1445	観光産業ケーススタディ		2	7～8	R7年度開講せず				◎	○	HJDC3082a0	
	現代文化コース	J1450	現代日本文化研究		2	1～2	R7年度開講せず		◎	○			HJDD1083a0	
		K1765	現代メディア論		2	3～4	S			○	◎		HJDD2084a0	
		K1710	サブカルチャー論		2	3～4	S			○	◎		HJDD2085a0	
		K1760	情報文化論 （メディアリテラシーを含む）		2	1～2	W		◎	○			HJDD1086a0	
		K1715	現代アート論		2	3～4	S		○		◎		HJDD2087a0	
		J1475	映像文化論		2	5～6	S			○	◎	○	HJDD3088a0	
		J1480	音楽文化論		2	5～6	W			○	◎	○	HJDD3089a0	
	博物館学芸員	K1650	生涯学習概論		2	1～2	W	不可	○			◎	HJDE1090a0	
		K1655	博物館概論		2	1～2	S	不可	○		◎		HJDE1091a0	
		K1660	博物館展示論		2	3～4	W	不可	○	○	◎		HJDE2092a0	

●日本学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	他学部・他学科履修	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	身につけるべき能力 ④	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	博物館学芸員	K1665	博物館資料論		2	3～4	S	不可	○		◎		HJDE2093a0	
		K1670	博物館教育論		2	3～4	S	不可	○	○	◎		HJDE2094a0	集中講義
		J1510	博物館経営論		2	5～6	S	不可	○		◎		HJDE3095a0	
		J1515	博物館資料保存論		2	5～6	W	不可	○		◎		HJDE3096a0	
		J1520	博物館情報･メディア論		2	5～6	S	不可	○		◎		HJDE3097a0	
		J1530	博物館実習A		1	5～6	W	不可		○	◎	○	HJDE3098a0	
		J1540	博物館実習B		1	7～8	S	不可		○	◎	○	HJDE3099a0	集中講義
		J1550	博物館実習C		1	7～8	W	不可		○	◎	○	HJDE3100a0	
	学部共通	K1010	キャリアマネジメントⅠ		2	3～4	S		◎	○			HJDF2101a0	
		K1015	キャリアマネジメントⅡ		2	3～4	W		◎	○			HJDF2102a0	
		J1570	キャリアゼミ		2	5～6	W			○	◎		HJDF3103a0	
		J1575	キャリアゼミ実践演習	2		5～6	S			◎	○		HJDF3104a0	
卒業に必要な最低修得単位数				28	60									

（注 1）授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ 2 単位付与する。

（＊ 1）当該科目は、中国へ留学し所定の科目を終了すると、本学の単位として評価の対象となる科目です。留学前に既に単位修得している科目は、留学後に重複して評価できません。
今後、中国への留学を考えている学生は、履修前に担当教員に必ず相談をしてください。

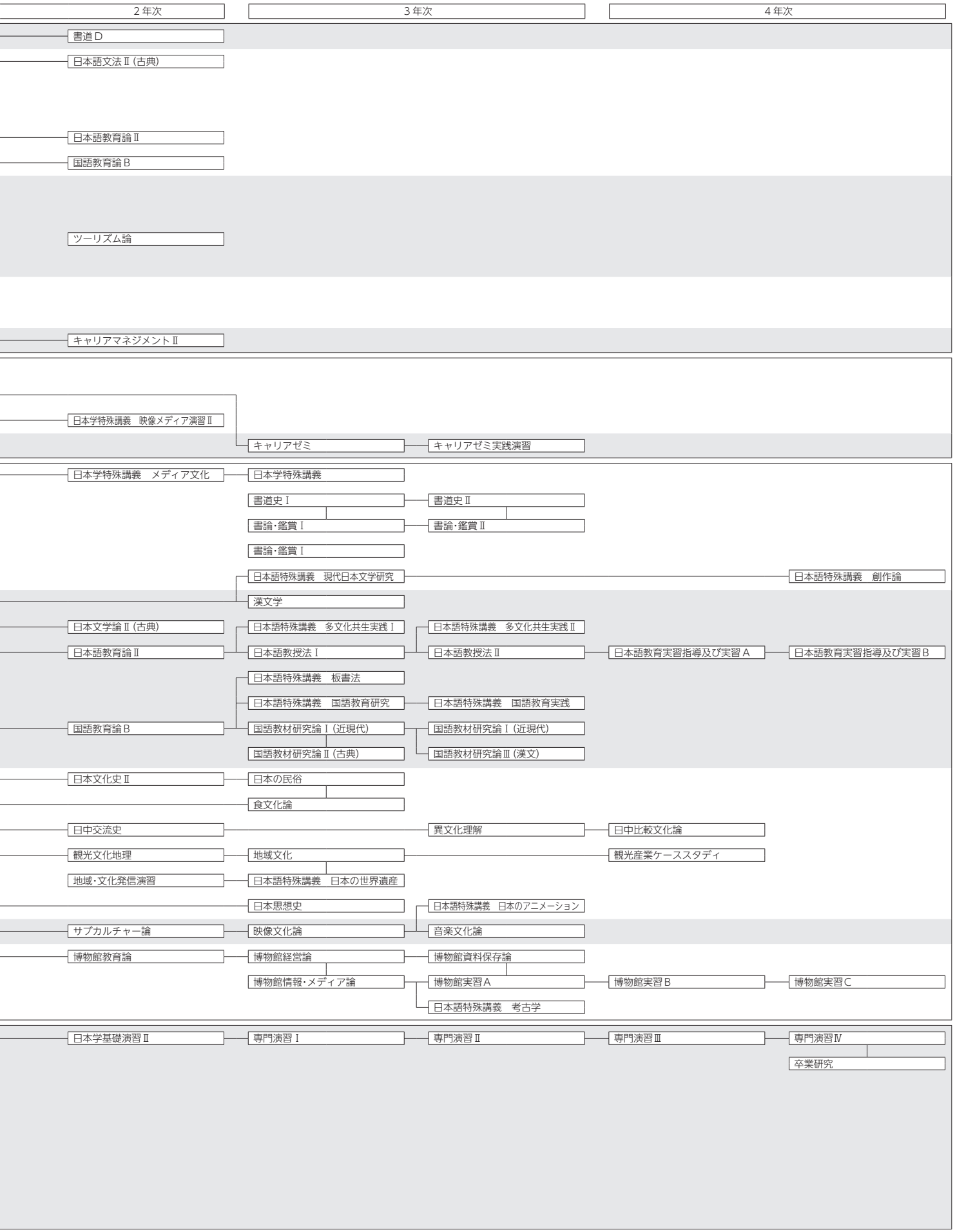
※注意：他学部・他学科履修について

他学部・他学科履修はシラバスを確認し、必ず担当教員の許可を得てから履修登録してください。
IBU.net 上で履修登録できる状態にある、あるいは科目編成表の「他学部・他学科履修」欄に『不可』がなくても他学部・他学科履修を許可しない場合があります。

人文社会学部 日本学科 履修系統図

	身につけるべき能力	分　野	1年次		2年次
①	日本および日本語に関する幅広い知識と教養 日本の言語・文学・歴史・文化について、グローバルな視野に基づいた幅広い知識を体系的に修得し、基本的な事項を理解することができる。	学科共通領域	書道Ａ	書道Ｂ	書道Ｃ
		日本語・日本文学領域（国語教育・日本語教育）	日本語学Ⅰ	日本語学Ⅱ	日本語文法Ⅰ（現代）
			古典Ⅰ（日本）	古典Ⅱ（中国）	
			日本文学史Ⅰ（近現代）	日本文学史Ⅱ（古典）	
			日本語教育学概論Ⅰ	日本語教育学概論Ⅱ	日本語教育論Ⅰ
					国語教育論Ａ
		文化・歴史・観光領域	日本文化論Ⅰ	日本文化論Ⅱ	
			日本史概論		
			観光学概論	旅行産業論	国内旅行実務Ⅰ 国内旅行実務Ⅱ
			アジア文化概説		
		現代文化領域	現代日本文化研究		
			情報文化論		現代メディア論
		学部共通			キャリアマネジメントⅠ
②	豊かで的確なコミュニケーション能力 自身の考えや意見を他者にわかりやすく伝えるための、適切かつ精確な日本語表現力と表現方法を修得し、状況に応じて的確に運用できる。	学科共通領域	日本学表現演習Ⅰ	日本学表現演習Ⅱ	日本学基礎演習Ⅰ
			パフォーマンス実践演習		日本学インターンシップ演習
					日本学特殊講義　映像メディア演習Ⅰ
		学部共通			
③	日本語による総合的・論理的な思考力と分析力および問題発見・解決能力（高度な日本語運用能力） ことばを適切に使う力・ことばによって伝える力を高めることによって修得される論理性・構想力・説得力・対応力・企画力・統率力を活かして、自らが発見した課題の解決に取り組み、社会（組織）で活躍することができる。	学科共通領域			講読Ⅰ～Ⅷ
		日本語・日本文学領域（国語教育・日本語教育）	古典Ⅰ（日本）	古典Ⅱ（中国）	日本語史
					日本文学論Ⅰ（近現代）
					日本語教育論Ⅰ
			パフォーマンス実践演習		国語教育論Ａ
		文化・歴史・観光領域			日本文化史Ⅰ
					伝統文化研究
			アジア文化概説		
					観光社会学
			日本史概論		仏教と日本文化
		現代文化領域	現代日本文化研究		現代アート論
		博物館学芸員	博物館概論		博物館展示論
					博物館資料論
④	自己と他者に対する理解、および豊かな人間性の涵養（確かな人間洞察力） 日本文化に関する幅広い知識を学び、これを分析することによって日本人の心性・感性・思考性を把握し、自文化および異文化の理解のみならず、自己と他者への理解を深め、より豊かな人間性の涵養を通じて他者との調和ある共生を目指せる。	学科共通領域			日本語研究基礎
					近現代文学研究基礎
					古典文学研究基礎
					文化・歴史研究基礎
					観光研究基礎
					現代文化研究基礎
			パフォーマンス実践演習		日本学インターンシップ演習
			生涯学習概論		

※カリキュラムポリシー（CP）は P.78・79 を参照してください。



●国際キャリア学科

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

国際キャリア学科は、①実践的な外国語能力とコミュニケーション能力を自ら高めて、生涯にわたって学び続ける人材、②多様な考え方や異文化を受容する思いやりを持ち、国際問題にも関心を持つ人材、③社会に貢献するために積極的に行動できる人材の形成を目指します。また、世界で活躍するため問題解決や改革に取り組み、実現することが出来る人材の育成を目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の５点とします。

卒業時点において学生が身につけるべき能力

① 外国語能力
外国語の４技能である「読む・聞く・話す・書く」を修得し、実践的な外国語能力を身につけている。

② コミュニケーション能力
高い外国語能力に基づき、グローバル化した社会に即応したコミュニケーション能力を修得している。

③ 国際的認識能力
環境・民族紛争・宗教・経済・金融等の国際的な問題を認識し、国際社会における日本の役割を実践的に把握する能力を獲得している。

④ 異文化理解力
言語の背景にある歴史・文化・政治・経済等に関心を持ち、異文化理解への関心と意欲を身につけている。

⑤ 課題解決能力
自ら課題を設定し他者と協同しながら問題解決にあたり、グローバル化社会で有為の人材となるために必要な知識とスキルを獲得している。

※各科目との対応については授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

国際キャリア学科は、グローバル化した社会、より複雑になりつつある国際問題に対処できる能力・知識・スキルを体系的、実践的に学ぶことを目的として教育課程を編成します。1、2年次では語学力の向上に重点を置き、さらに３年次からは各自の進路・適性に応じて、①英語・英語教育コース、②国際ビジネスコース、③国際理解・協力コースの３領域からそれぞれ指定の科目を選択履修します。3、4年次では「専門演習Ⅰ～Ⅳ（ゼミ）」を受講し、希望者は「卒業研究」に取り組みます。

1） 1年次においては、「英文法Ⅰ・Ⅱ」「Extensive Reading 初級Ⅰ・Ⅱ」「ベーシックコミュニケーションⅠ～Ⅳ」「キャリア英語入門Ⅰ・Ⅱ」を必修とします。加えて、「マクロ経済学」「英語圏文化概説」の授業が選択できます。

2） 2年次においては、中級レベル以上の英語力や国際的な感覚を身に付けるために、「Extensive Reading 中級Ⅰ・Ⅱ」「ベーシックコミュニケーションⅤ～Ⅷ」を必修とします。また、それら学科共通領域に加え、3年次からの専門演習（ゼミ）での教育に向けて、①英語・英語教育コースでは、「Reading（Culture）」「Reading（Society）」「Reading（Literature）」「英語学概説」「英語学」、②国際ビジネスコースでは、「国際ビジネス論」「国際経済学」「グローバルファイナンス」、③国際理解・協力コースでは、「国際理解教育」「異文化共生論」の３つの領域を土台として科目を選択します。

3） 3年次からは、各自の所属する専門演習（ゼミ）を中心に、各自、コース領域や進路・適性に応じて

科目を選択し、履修します。①英語・英語教育コースでは、「Reading（Language）」「Extensive Reading 上級Ⅰ・Ⅱ」「アドバンストコミュニケーションⅠ～Ⅷ」等、②国際ビジネスコースでは、「貿易実務Ⅰ・Ⅱ」「金融システム論」「貿易理論」等、③国際理解・協力コースでは、「国際コミュニケーション論」「国際政治学」「国際問題論」「英国史」「社会情報論」等の授業が選択できます。また、学科共通領域として、「英米文化論」「異文化理解」等も履修することができます。

【教育方法】

外国語の４技能である「読む、書く、聞く、話す」を修得し、実践的な外国語能力を身につけるために、以下の様な形で教育を行います。

1）学生個々人が英語の能力を効果的に高めることができるようにするため、「英文法Ⅰ・Ⅱ」「Extensive Reading 初級Ⅰ・Ⅱ」「Extensive Reading 中級Ⅰ・Ⅱ」「ベーシックコミュニケーションⅠ～Ⅷ」などの必修科目では、英語能力別にクラスの編成を行います。

2）聞く力や話す力を高めるため、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とし、「ベーシックコミュニケーションⅠ～Ⅷ」は主にネイティブ教員が担当します。

3）ビジネス場面の実践的英語に習熟させるための方法として、「キャリア英語入門Ⅰ・Ⅱ」「キャリア英語」ではＴＯＥＩＣ等の資格取得のための学修を取り入れます。

4）講義を起点とする科目においては、ＩＣＴも活用しながら、学生自身が課題を発見し、解決法を探究するアクティブ・ラーニングを実施します。

5）3、4 年次の専門科目のいずれにおいても、実践的な能力を発展させるため、アクティブ・ラーニング等を取り入れた授業を中心として実施します。

6）グローバル教育センターにおいて、学生の個別ニーズに応じ、ネイティブスピーカーによる英語と中国語の実践的会話を行うとともに、日本人教員による個別指導を行い、授業の補完とします。

【学修成果の評価方法】

1）教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。

2）学修ポートフォリオ、学生調査、学位取得状況、PROG テスト、外部試験、授業アンケートなどを参考に総合的に評価する。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

国際キャリア学科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

⑴ 豊かな人間性を身につけ、広い視野を持って国際社会で前向きに生きていこうとする強い意欲を持つことができること　〔求める要素：関心・意欲・態度〕

⑵ 本学科の専門分野を学ぶために、英語に関して高等学校等で修得すべき基礎学力を有し、思考を深めて他者に表現できること　〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

⑶ 言語の背後にある文化・歴史・政治・経済等の多様な要素に興味をもつことができること　〔求める要素：関心・意欲・態度、知識・技能〕

⑷ 異文化に興味を持ち、海外体験の実現を通じて、自己研鑽に努めることができること　〔求める要素：関心・意欲・態度、主体性・多様性・協働性〕

⑸ 現代の国際関係に関心を持ち、そこに存在する課題を発見し、その解決法を探ることができること　〔求める要素：関心・意欲・態度、思考力・判断力〕

⑹ 英語教員を目指す人は、国際的視野を持った英語教員になる意志を有し、そのための努力ができること　〔求める要素：関心・意欲・態度、知識・技能〕

●国際キャリア学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

コース：A…共通、B…英語・英語教育、C…国際ビジネス、D…国際理解・協力

種別		授業概要コード	科目名	コース	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	他学部・他学科履修	身につけるべき能力 ①	②	③	④	⑤	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	学科共通領域	K2010	英語圏文化概説	A		②	1～2	S/W				○	◎		HGEA1001a0	
		K2015	世界体験入門	A		2	1～2	S				○	◎		HGEA1002a0	
		J1810	国際関係論	A		2	3～4	R7年度開講せず				◎		○	HGEA1003a0	
		J1815	国際経済学	C		2	3～4	R7年度開講せず				◎	○		HGEA2004a0	
		J1820	貿易理論	C		2	5～6	S				◎		○	HGEA2005a0	
		K2295	英米文化論	A		2	5～6	S			○	○	◎	○	HGEA2006a0	
		K2290	異文化理解	A		2	5～6	W			○	○	◎	○	HGEA2007a0	
		K2020	英文法Ⅰ	A	②		1～2	S	不可	◎				○	HGEA1008a0	
		K2025	英文法Ⅱ	A	②		1～2	W	不可	◎				○	HGEA1009a0	
		J1845	Extensive Reading初級Ⅰ	A	2		1～2	S	不可	◎	○			○	HGEA1010c0	
		J1850	Extensive Reading初級Ⅱ	A	2		1～2	W	不可	◎	○			○	HGEA1011c0	
		K2030	Extensive Reading中級Ⅰ	A	2		3～4	S	不可	◎	○			○	HGEA2012c0	
		K2035	Extensive Reading中級Ⅱ	A	2		3～4	W	不可	◎	○			○	HGEA2013c0	
		K2040	ベーシックコミュニケーションⅠ	A	②		1～2	S	不可	◎	○				HGEA1014b0	
		K2045	ベーシックコミュニケーションⅡ	A	②		1～2	S	不可	◎	○				HGEA1015b0	
		K2050	ベーシックコミュニケーションⅢ	A	②		1～2	W	不可	◎	○				HGEA1016b0	
		K2055	ベーシックコミュニケーションⅣ	A	②		1～2	W	不可	◎	○				HGEA1017b0	
		K2060	ベーシックコミュニケーションⅤ	A	2		3～4	S	不可	◎	◎				HGEA2018b0	
		J1890	ベーシックコミュニケーションⅥ	A	2		3～4	S	不可	◎	◎				HGEA2019b0	
		K2065	ベーシックコミュニケーションⅦ	A	2		3～4	W	不可	◎	◎				HGEA2020b0	
		J1900	ベーシックコミュニケーションⅧ	A	2		3～4	W	不可	◎	◎				HGEA2021b0	
		J1905	キャリア英語入門Ⅰ	A	2		1～2	S	不可	○	◎				HGEA1022a0	
		J1910	キャリア英語入門Ⅱ	A	2		1～2	W	不可	○	◎				HGEA1023a0	
		K2070	国際キャリアインターンシップⅠ	A		2	3～4	S	不可	○	○	○	◎		HGEA1024a0	※日本学科のみ履修可
		K2075	国際キャリアインターンシップⅡ	A		2	3～4	W	不可	○	○	○	◎		HGEA2025a0	※日本学科のみ履修可
		K2235	英語文学概説	A		②	1～2	S					◎		HGEA1026a0	
		K2240	英語音声学	A		②	1～2	W		◎	○			○	HGEA1027a0	
		K2245	英語学概説	B		②	3～4	S		◎	○				HGEA1028a0	
		K2250	英語学	B		②	3～4	W		◎	◎		◎		HGEA2029a0	
		J1945	英国史	D		②	5～6	S					◎		HGEA1030a0	
		J1950	米国史	D		②	5～6	W					◎		HGEA1031a0	
		J1955	言語学概論	B		2	5～6	W		◎	○	◎			HGEA2032a0	
			国際キャリア演習(注1)													
		K2255	〈メディア〉	D		2	3～4	S		◎	◎				HGEA2086a0	
		J1964	〈観光英語(翻訳)〉	B		2	5～6	W		○	◎		◎	○	HGEA3087a0	

●国際キャリア学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

コース：A…共通、B…英語・英語教育、C…国際ビジネス、D…国際理解・協力

種別		授業概要コード	科目名	コース	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	他学部・他学科履修	身につけるべき能力 ①	②	③	④	⑤	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	学科共通領域	J1965	〈ビジネスリテラシー〉	C		2	5～6	S			◎		○	○	HGEA2088a0	
		K2080	〈英語指導技術演習〉	B		2	3～4	W	不可	○	◎			○	HGEA2089c0	
		J1967	〈英語指導技術実践演習〉	B		2	5～6	W		○	◎			◎	HGEA3090c0	
		K2210	〈中国語会話Ⅰ〉	D		2	3～4	S		◎	○		○		HGEA1092d0	
		K2215	〈中国語会話Ⅱ〉	D		2	3～4	W		◎	○		○		HGEA1093d0	
		J1972	〈ビジネス中国語Ⅰ〉	C		2	5～6	S		◎			○	○	HGEA2094d0	
		J1973	〈ビジネス中国語Ⅱ〉	C		2	5～6	W		◎			○	○	HGEA3095d0	
		K2230	〈現代中国事情〉	D		2	5～6	W		○			◎	○	HGEA2096a0	
		K2260	〈英語教育論〉	B		2	3～4	S	不可				○	◎	HGEA1098a0	
		J1983	〈観光英語フィールドワーク〉	B		2	5～6	W	不可	○	◎		◎	◎	HGEA3100c0	集中講義
		K2090	〈ビジュアルメディア技術Ⅰ〉	A		2	3～4	S	不可		○			◎	HGEE2101a0	
		K2095	〈ビジュアルメディア技術Ⅱ〉	A		2	3～4	W	不可		○			◎	HGEE3102a0	
		J1986	国際キャリアインターンシップⅢ	A		2	5～6	S	不可	○	○	○	◎		HGEA3103a0	※日本学科のみ履修可
		J1987	国際キャリアインターンシップⅣ	A		2	5～6	W	不可	○	○	○	◎		HGEA3104a0	※日本学科のみ履修可
		J2010	専門演習Ⅰ	A	2		5～6	S	不可	○	◎	○	○	◎	HGEA1033a0	
		J2015	専門演習Ⅱ	A	2		5～6	W	不可	○	◎	○	○	◎	HGEA2034a0	
		J2020	専門演習Ⅲ	A	2		7～8	S	不可	○	◎	○	○	◎	HGEA3035a0	
		J2025	専門演習Ⅳ	A	2		7～8	W	不可	○	◎	○	○	◎	HGEA3036a0	
			卒業研究	A		4	7～8		不可	○		○	○	◎	HGEA3037a0	
		K1090	グローバルスタディーズⅠ			4	1～2	S/W				○	◎	○	HGEA1038a0	
		K1095	グローバルスタディーズⅡ			4	1～2	S/W				○	◎	○	HGEA2039b0	
		K2115	Intercultural Studies: Discussion			4	1～2	S/W		○	◎	○		○	HGEA2040a0	
		K2120	国際交流実践			4	1～2	S/W			○	○	◎		HGEA1041a0	
		K2125	海外事前指導			2	1～2	S/W				○	◎	○	HGEA1042a0	集中講義
	英語文化コミュニケーション領域	K2165	キャリア英語Ⅰ（ベーシック）	A		2	3～4	S	不可	◎	○				HGEB2043a0	
		K2170	キャリア英語Ⅱ（ベーシック）	A		2	3～4	W	不可	◎	○				HGEB2044a0	
		J2045	キャリア英語（インターミディエット）	A		2	5～6	S	不可	◎	○				HGEB2045a0	
		J2050	キャリア英語（アドバンスト）	A		2	5～6	W	不可	◎	○				HGEB3046a0	
		J2055	Extensive Reading上級Ⅰ	B		2	5～6	R7年度開講せず	不可	◎	○		○		HGEB3047a0	
		J2060	Extensive Reading上級Ⅱ	B		2	5～6	R7年度開講せず	不可	◎	○		○		HGEB3048a0	
		J2065	アドバンストコミュニケーションⅠ	B		②	5～6	S	不可	◎	◎				HGEB3049c0	
		J2070	アドバンストコミュニケーションⅡ	B		②	5～6	S	不可	◎	◎				HGEB3050c0	
		J2075	アドバンストコミュニケーションⅢ	B		2	5～6	W	不可	◎	◎				HGEB3051c0	
		J2080	アドバンストコミュニケーションⅣ	B		2	5～6	R7年度開講せず	不可	◎	◎				HGEB3052c0	
		J2085	アドバンストコミュニケーションⅤ	B		2	7～8	S	不可	◎	◎				HGEB3053c0	

●国際キャリア学科 専門教育科目編成表

単位数の◎印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

コース：A…共通、B…英語・英語教育、C…国際ビジネス、D…国際理解・協力

種別		授業概要コード	科目名	コース	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	他学部・他学科履修	身につけるべき能力 ①	②	③	④	⑤	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	英語文化コミュニケーション領域	J2090	アドバンストコミュニケーションⅥ	B		2	7～8	R7年度開講せず	不可	◎	◎				HGEB3054c0	
		J2095	アドバンストコミュニケーションⅦ	B		2	7～8	W	不可	◎	◎				HGEB3055c0	
		J2100	アドバンストコミュニケーションⅧ	B		2	7～8	R7年度開講せず	不可	◎	◎				HGEB3056c0	
		K2265	Reading（Culture）	B		②	3～4	S	不可	◎					HGEB2057a0	
		J2110	Reading（Society）	B		2	3～4	R7年度開講せず	不可	◎		○	○		HGEB2058a0	
		K2270	Reading（Literature）	B		②	3～4	W	不可	○		○	◎		HGEB2059a0	
		J2120	Reading（Language）	B		②	5～6	W	不可	◎	○				HGEB2060a0	
	国際理解領域	J2125	国際理解教育	D		2	3～4	W				◎	◎	○	HGEC1061a0	
		K2285	国際コミュニケーション論	B		2	5～6	S			○	◎	○		HGEC2062a0	
		J2135	国際政治学	D		2	5～6	R7年度開講せず				◎	○		HGEC2063a0	
		J2140	国際問題論	D		2	5～6	S			○	◎	○		HGEC2064a0	
		J2145	国際NPO・NGO論	D		2	5～6	R7年度開講せず				◎	○	○	HGEC2065a0	
		J2150	社会情報論	D		2	5～6	W				◎	◎		HGEC2066a0	
		K2300	異文化共生論	D		2	3～4	W				○	◎		HGEC1067a0	
		K1640	日中交流史			2	3～4	W				◎	○		HGEC1068a0	（＊1）
		J1386	日中比較文化論			2	7～8	W				○	◎		HGEC3069a0	（＊1）
		K1630	アジア文化概説			2	1～2	W				○	◎		HGEC1070a0	（＊1）
	国際ビジネス領域	K2325	ビジネス英語Ⅰ	A	2		3～4	S	不可	◎	◎	○			HGED2071a0	
		K2330	ビジネス英語Ⅱ	A		2	3～4	W	不可	◎	◎	○			HGED2072a0	
		J2170	情報特別演習Ⅰ	A		2	1～2	R7年度開講せず			◎				HGED1073a0	
		J2175	情報特別演習Ⅱ	A		2	3～4	R7年度開講せず			◎				HGED2074a0	
		J2180	マクロ経済学	A		2	1～2	R7年度開講せず				◎	○	○	HGED1075a0	
		J2185	ミクロ経済学	A		2	3～4	R7年度開講せず				◎	○		HGED2076a0	
		J2190	貿易実務Ⅰ	C		2	5～6	S				◎	○	○	HGED2077a0	
		J2195	貿易実務Ⅱ	C		2	5～6	W				◎	○	○	HGED3078a0	
		J2200	国際ビジネス論	C		2	3～4	R7年度開講せず				◎	○	○	HGED2079a0	
		J2205	金融システム論	C		2	5～6	S				◎	○		HGED3080a0	
		J2210	グローバルファイナンス	C		2	3～4	W				◎	○	○	HGED2081a0	
	学部共通	K1010	キャリアマネジメントⅠ	A		2	3～4	S			○	○	○	◎	HGEE1082a0	
		K1015	キャリアマネジメントⅡ	A		2	3～4	W			○	○	○	◎	HGEE2083a0	
		J1570	キャリアゼミ	A		2	5～6	W					○	◎	HGEE1084a0	
		J1575	キャリアゼミ実践演習	A	2		5～6	S					○	◎	HGEE2085a0	
卒業に必要な最低修得単位数					44	42										

（注１）各授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ２単位付与する。

（＊１）当該科目は、中国へ留学し所定の科目を終了すると、本学の単位として評価の対象となる科目です。留学前に既に単位修得している科目は、留学後に重複して評価できません。
今後、中国への留学を考えている学生は、履修前に担当教員に必ず相談をしてください。

TOEIC® Listening & Reading IP テストによるクラス編成について

「英文法Ⅰ・Ⅱ」「Extensive Reading 初級Ⅰ・Ⅱ」「Extensive Reading 中級Ⅰ・Ⅱ」「ベーシックコミュニケーションⅠ～Ⅷ」「キャリア英語入門Ⅰ・Ⅱ」については、TOEIC® Listening & Reading IP テストによる習熟度別クラス編成としています。

※注意：他学部・他学科履修について

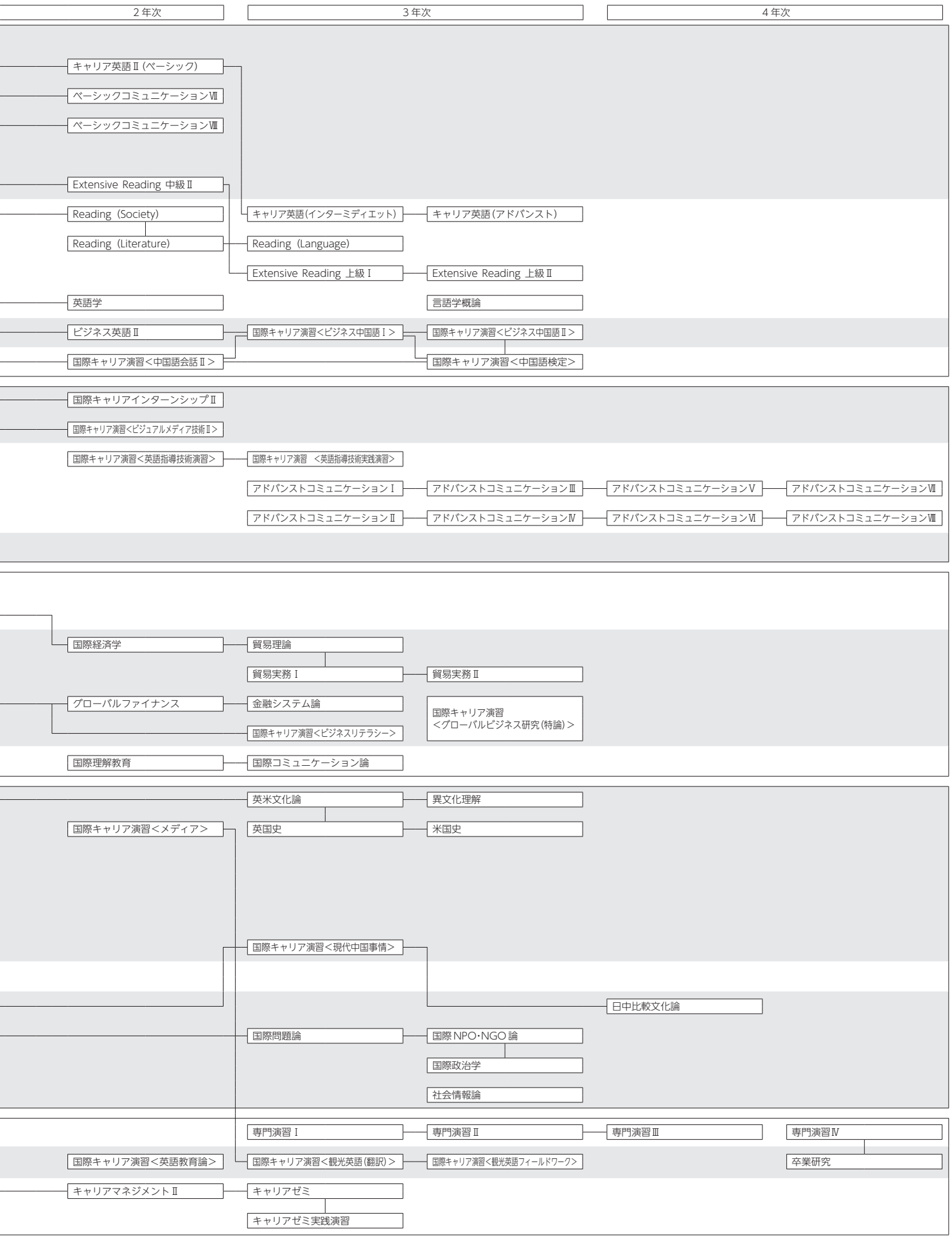
他学部・他学科履修はシラバスを確認し、必ず担当教員の許可を得てから履修登録してください。

IBU.net 上で履修登録できる状態にある、あるいは科目編成表の「他学部・他学科履修」欄に『不可』がなくても他学部・他学科履修を許可しない場合があります。

人文社会学部 国際キャリア学科 履修系統図

	身につけるべき能力	分野	1年次		2年次
①	外国語能力 外国語の4技能である「読む・聞く・話す・書く」を修得し、実践的な外国語能力を身につけている。	学科共通領域	英文法Ⅰ	英文法Ⅱ	
			キャリア英語入門Ⅰ	キャリア英語入門Ⅱ	キャリア英語Ⅰ（ベーシック）
			ベーシックコミュニケーションⅠ	ベーシックコミュニケーションⅢ	ベーシックコミュニケーションⅤ
			ベーシックコミュニケーションⅡ	ベーシックコミュニケーションⅣ	ベーシックコミュニケーションⅥ
			英語音声学		
			Extensive Reading 初級Ⅰ	Extensive Reading 初級Ⅱ	Extensive Reading 中級Ⅰ
		英語文化コミュニケーション領域			Reading（Culture）
					英語学概説
		国際ビジネス領域			ビジネス英語Ⅰ
		国際理解領域			国際キャリア演習<中国語会話Ⅰ>
②	コミュニケーション能力 高い外国語能力に基づき、グローバル化した社会に即応したコミュニケーション能力を修得している。	学科共通領域	Intercultural Studies Discussion		国際キャリアインターンシップⅠ
					国際キャリア演習<ビジュアルメディア技術Ⅰ>
		英語文化コミュニケーション領域			
		国際ビジネス領域		情報特別演習Ⅰ	情報特別演習Ⅱ
③	国際的認識能力 環境・民族紛争・宗教・経済・金融等の国際的な問題を認識し、国際社会における日本の役割を実践的に把握する能力を獲得している。	学科共通領域	世界体験入門		
					国際関係論
		国際ビジネス領域			国際ビジネス論
		国際理解領域			日中交流史
④	異文化理解力 言語の背景にある歴史・文化・政治・経済等に関心を持ち、異文化理解への関心と意欲を身につけている。	学科共通領域	英語圏文化概説	英語文学概説	
				グローバルスタディーズⅠ	
				グローバルスタディーズⅡ	
				国際交流実践	
				海外事前指導	
		国際ビジネス領域		マクロ経済学	ミクロ経済学
		国際理解領域		アジア文化概説	
					異文化共生論
⑤	課題解決能力 自ら課題を設定し他者と協同しながら問題解決にあたり、グローバル化社会で有為の人材となるために必要な知識とスキルを獲得している。	学科共通領域			
		英語文化コミュニケーション領域			
		学部共通領域			キャリアマネジメントⅠ

※カリキュラムポリシー（CP）は P.88・89 を参照してください。



●社会学科

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

社会学科は、個人から社会全体にいたる複雑な諸相に対して、客観的かつ多角的にものごとをとらえ、さまざまな課題の発見と理解、そして解決にむけて横断的に思考することができる、また、多様な人びとが活躍する社会の実現に向け、さまざまな価値観を認め、他者と協働することができる人材の育成を目的とします。その学びは、一人ひとりがより充実した人生を実現していくうえで重要なものです。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の４点とします。

卒業時点において学生が身につけるべき能力

① 関心・意欲・態度
ローカルからグローバルまでさまざまなレベルで生じている個人や社会の問題に対して、意欲的に取り組み、創意工夫しながら乗り越えていこうと試みることができる。

② 知識・技能
人間や社会、地域やメディア、心理、歴史に関する領域の専門的な理論や調査・分析方法を身につけ、課題解決のために活用することができる。

③ 思考力・判断力・表現力
自ら設定した課題に対して、上記の理論や方法、さらに ICT を活用して情報を収集し、さまざまな角度から論理的かつ横断的に考察し、その成果をわかりやすく表現することができる。

④ 主体性・多様性・協働性
多様化する現代社会において、さまざまな立場の存在を認めながら積極的にコミュニケーションを図り、自らの考えをしっかりと伝え、他者と協働することができる。

※各科目との対応については授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

社会学科は、現代社会で活躍しうる能力・資質の形成を目指して、人間・社会、地域・メディア、心理、歴史の４コースを編成し、基礎から応用まで段階的かつ横断的に授業科目を配置します。また、４年間一貫した少人数制の演習科目を設定し、ＩＣＴを活用した、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を実践します。

1） 演習：主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を少人数制で実践し、自らの考えをわかりやすく伝え、積極的にコミュニケーションをとることで、他者と協働しながら課題を解決する力を養います。１年次では「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、２年次では「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、３年次からの「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では２年間継続して同じゼミ教員のもとで「卒業研究」に取り組みます。

2） 人間・社会コース：社会学的なものの見方や考え方、調査・分析方法を身につけ、社会学の基本を学びます。１年次必修科目として「社会学概論」、「社会病理学」が設定されており、２年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、社会調査士の資格を取得するための科目群を設けます。

3） 地域・メディアコース：ローカルからグローバル、メディアを媒介したものまで、人と人とのつながりを通して社会や文化を読み解く力を養います。１年次必修科目として「文化研究概論」が設定されており、２年次以降、自由に選択科目を履修することができます。上記コース同様、社会調査士の資格を取得するための科目群を設けます。

4） 心理コース：人の心や行動の原理を知り、人間関係に対処する力を身につけます。1 年次必修科目として「入門心理学」が設定されており、2 年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、認定心理士の資格を取得するための科目群を設けます。

5） 歴史コース：歴史的事実を分析・解明し、幅広い角度からものごとをとらえる視野を身につけます。1 年次必修科目として「入門歴史学」が設定されており、2 年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、中学校社会や高校地理歴史・公民の教員免許、博物館学芸員の資格を取得するための科目群を設けます。

【教育方法】

社会学科では、各授業科目の教育内容に応じて、以下のような形式を組み合わせた多様な教育方法で授業をおこないます。

1） 講義形式：ＩＣＴや映像資料などを活用しながら、本学科の学びに関する多様な教養や知識を身につける。

2）（フィールドワークを含む）実習形式：自らの興味関心に即して課題を設定し、ＩＣＴを活用しながら調査・分析する技能を身につける。

3） 演習形式：主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を少人数制で実践し、自らの考えをわかりやすく伝え、積極的にコミュニケーションをとることで、他者と協働しながら課題を解決していく力を身につける。

【学修成果の評価方法】

1） 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーに基づいて評価を行う。

2） 講義や演習科目で培われた知識や技能、能力を十分に発揮できているか、学生による自己評価も踏まえ、量的側面・質的側面の両面から適切な方法を用いて総合的に評価する。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

社会学科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

⑴ 人間や社会、地域やメディア、心理、歴史に関するさまざまなテーマについて深い興味関心があること 〔求める要素：関心・意欲・態度〕

⑵ あたり前のものの見方を疑い、さまざまな角度からものごとをとらえようとすること 〔求める要素：思考力・判断力、表現力〕

⑶ 社会学科の学びに必要な読解力や論理的思考力、表現力を有すること 〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

⑷ 個人や社会に関するさまざまな課題に対して、他者と協働しながら積極的に取り組んでいく意欲があること 〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

●社会学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	他学部・他学科履修	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	身につけるべき能力 ④	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	学科共通領域	K3010	基礎演習Ⅰ	2		3～4	S	不可	○	○	○	◎	HSFA2001a0	
		K3015	基礎演習Ⅱ	2		3～4	W	不可	○	○	○	◎	HSFA2002a0	
		J2510	演習Ⅰ	2		5～6	S	不可	○	○	◎	◎	HSFA3003a0	
		J2515	演習Ⅱ	2		5～6	W	不可	○	○	◎	◎	HSFA3004a0	
		J2520	演習Ⅲ	2		7～8	S	不可	○	○	◎	◎	HSFA3005a0	
		J2525	演習Ⅳ	2		7～8	W	不可	○	○	◎	◎	HSFA3006a0	
			卒業研究		4	7～8		不可	○	○	◎	◎	HSFA3007a0	
		K3045	社会学概論	②		1～2	S	不可	◎	○			HSFA1008a0	
		K3050	社会学理論Ⅰ		②	1～2	W		◎	○			HSFA2009a0	
		J2545	社会学理論Ⅱ		②	5～6	S		○	◎	○		HSFA3010a0	
		K3060	実験・調査データ処理		2	1～2	R7年度開講せず			◎	○		HSFA1011a0	
		K3065	社会調査法		②	1～2	S	不可	○	◎			HSFA1012a0	
		K3070	標本調査法		2	3～4	W	不可		◎	○		HSFA2013a0	
		J2565	質的調査法		2	5～6	S	不可		◎	○	○	HSFA3014a0	
		K3080	資料・データ分析		2	3～4	S			◎	○		HSFA2015a0	
		K3085	基礎統計学		2	3～4	W			◎	○		HSFA2016a0	
		J2580	社会統計学		2	5～6	S			◎	○		HSFA3017a0	
		J2590	社会調査実習A		1	5～6	S		○	○	◎	○	HSFA3018a0	
		J2600	社会調査実習B		1	5～6	W		○	○	◎	○	HSFA3019a0	
		K3105	フィールドワーク入門		2	1～2	W		◎	○			HSFA1020a0	
		K3110	フィールドワーク演習		2	3～4	R7年度開講せず		○	◎	◎	○	HSFA2021a0	
		K3115	社会科教育研究Ⅰ		2	3～4	S		○	◎		○	HSFA2022a0	
		K3120	社会科教育研究Ⅱ		2	3～4	W		○	◎		○	HSFA2023a0	
		K3125	情報処理実践演習Ⅰ		2	1～2	R7年度開講せず			○	○		HSFA1024a0	
		K3130	情報処理実践演習Ⅱ		2	3～4	R7年度開講せず			○	○		HSFA2025a0	
		K3135	インターンシップ実践		2	3～4	R7年度開講せず		○			◎	HSFA3026a0	
		J2645	英語で話す日本の社会と文化		2	5～6	R7年度開講せず		○	○		○	HSFA3027b0	
			特殊講義(注1)		2									
	人間・社会コース	K3145	社会病理学	②		1～2	W	不可	◎	○			HSFB1028a0	
		K3160	犯罪社会学		2	3～4	S/W		○	◎			HSFB2029a0	
		J2710	刑事司法の社会学		2	5～6	S		○	◎			HSFB3030a0	
		K3170	家族社会学		②	3～4	S		◎	○			HSFB1031a0	
		K3175	家族関係論		2	3～4	W		◎	○			HSFB2032a0	
		J2725	ジェンダー論		②	5～6	S		◎	○			HSFB3033a0	
		K3185	産業社会学		②	3～4	S		◎	○	○		HSFB1034a0	
		J2735	社会政策論		2	5～6	W		○	◎	○		HSFB2035a0	

●社会学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	他学部・他学科履修	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	身につけるべき能力 ④	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	人間・社会コース	J2740	社会階層論		2	5～6	R7年度開講せず		○	◎	○		HSFB2036a0	
		K3200	現代社会論		②	3～4	S		◎	○			HSFB2037a0	
		K3205	社会意識論		②	3～4	W		○	◎			HSFB2038a0	
		J2755	宗教社会学		2	5～6	W		○	◎			HSFB2039a0	
		J2760	教育社会学		2	5～6	S		○	◎		○	HSFB2040a0	
		K3220	法学(国際法を含む)		②	1～2	S/W		◎	○			HSFB1041a0	
		K3225	経済学		②	1～2	S/W		◎	○			HSFB1042a0	
		J2775	ビジネス情報論Ⅰ		2	5～6	S		◎	○	○		HSFB3043a0	
		J2780	ビジネス情報論Ⅱ		2	5～6	R7年度開講せず		◎	○	○		HSFB3044a0	
		J2785	マーケティング論		2	5～6	R7年度開講せず		○	◎			HSFB2045a0	
		K3245	哲学概論		②	1～2	S		◎	○			HSFB1046a0	
		K3250	宗教学		②	3～4	S		◎	○			HSFB1047a0	
		J2800	近代思想史		2	5～6	W		◎	○			HSFB2048a0	
	地域・メディアコース	K3260	文化研究概論	2		1～2	S/W	不可	◎	○			HSFC1049a0	
		K3265	マス・メディア論		②	1～2	W		◎	○			HSFC1050a0	
		K3270	ジャーナリズム論		2	3～4	R7年度開講せず		◎	○			HSFC2051a0	
		K3275	エンターテインメント論		2	3～4	R7年度開講せず		◎	○	○		HSFC2052a0	
		K3280	ポピュラー音楽論		2	3～4	R7年度開講せず		◎	○	○		HSFC2053a0	
		J2830	ポピュラーカルチャー論		2	5～6	R7年度開講せず		○	◎	○		HSFC3054a0	
		J2835	メディア文化論		2	5～6	S		○	◎	○		HSFC3055a0	
		J2840	コンテンツ産業論		2	5～6	W		○	◎	○		HSFC2056a0	
		J2845	広報・広告論		2	5～6	R7年度開講せず		◎	○			HSFC2057a0	
		K3305	都市社会学		2	3～4	R7年度開講せず		◎	○			HSFC1058a0	
		J2855	地域社会学		2	5～6	S		○	◎	○		HSFC3059a0	
		K3315	地域開発論		2	3～4	S		◎	○	○		HSFC2060a0	
		K3320	まちづくり論		2	3～4	W		◎	○	○		HSFC2061a0	
		K3325	環境社会学		2	3～4	W		○	◎	○		HSFC2062a0	
		K3330	環境問題論		2	3～4	R7年度開講せず		◎	○	○		HSFC2063a0	
		J2880	医療社会学		2	5～6	S		○	◎		○	HSFC2064a0	
		J2885	スポーツ社会学		2	5～6	W		○	◎			HSFC2065a0	
		K3345	異文化コミュニケーション論		2	3～4	S		○	◎	○		HSFC1066a0	
		K3350	文化人類学		2	3～4	W		○	◎	○		HSFC2067a0	
		K3355	国際問題論		2	1～2	S		◎	○			HSFC1068a0	
		J2905	国際社会学		②	5～6	S		○	◎			HSFC2069a0	
		J2910	国際政治論		②	5～6	R7年度開講せず		○	◎			HSFC2070a0	
		K3370	国際経済論		②	3～4	W		◎	○	○		HSFC2071a0	

●社会学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	他学部・他学科履修	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	身につけるべき能力 ④	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	現場・メディアコース	J2920	国際ビジネス論		2	5～6	R7年度開講せず		○	◎			HSFC3072a0	
		J1386	日中比較文化論		2	7～8	W		○	◎			HSFC3073a0	(＊1)
		K1630	アジア文化概説		2	1～2	W		◎	○			HSFC1074a0	(＊1)
	心理コース	K3380	入門心理学	②		1～2	S	不可	◎	○			HSFD1075a0	
		K3385	心理学概論		2	1～2	W	不可	◎	○			HSFD1076a0	
		K3390	心理学実験法		2	1～2	W	不可		◎			HSFD1077a0	
		K3395	心理測定法概論		2	3～4	S	不可		◎			HSFD1078a0	
		K3400	心理学基礎実験Ⅰ		2	3～4	S	不可		○	◎	○	HSFD2079a0	
		K3405	心理学基礎実験Ⅱ		2	3～4	W	不可		○	◎	○	HSFD2080a0	
		K3410	認知心理学		2	3～4	S		○	◎			HSFD2081a0	
		K3415	発達心理学		2	3～4	W		○	◎			HSFD2082a0	
		J2965	学習心理学		2	5～6	W		○	◎			HSFD2083a0	
		K3425	人格心理学		2	3～4	W		○	◎			HSFD2084a0	
		J2975	幼児児童心理学		2	5～6	S		○	◎			HSFD2085a0	
		K3435	臨床心理学		②	3～4	S		○	◎			HSFD2086a0	
		K3440	カウンセリング理論		2	3～4	W	不可	○	◎			HSFD2087a0	
		J2990	カウンセリング方法論		2	5～6	S	不可	○	◎		○	HSFD3088a0	
		J2995	心理検査法演習		2	5～6	W	不可		◎	○		HSFD3089a0	
		J3000	職場メンタルヘルス		2	5～6	W		○	◎		○	HSFD3090a0	
		K3460	社会心理学		②	3～4	S		○	◎			HSFD2091a0	
		J3010	産業組織心理学		2	5～6	W		○	◎			HSFD3092a0	
		J3015	コミュニティ心理学		②	5～6	W		○	◎		○	HSFD3093a0	
		J3020	対人関係の心理学		2	5～6	S		○	◎			HSFD2094a0	
		K3480	犯罪心理学		2	3～4	S		◎	○			HSFD2095a0	
		J3030	犯罪捜査の心理学		2	5～6	S	不可	○	◎		○	HSFD3096a0	
	歴史コース	K3490	入門歴史学	②		1～2	S/W	不可	◎	○			HSFE1097a0	
		K3495	日本史概説Ⅰ		②	1～2	W		◎	○			HSFE1098a0	
		K3500	日本史概説Ⅱ		②	1～2	W		◎	○			HSFE1099a0	
		K3505	日本史研究Ⅰ		②	3～4	W		○	◎			HSFE2100a0	
		K3510	日本史研究Ⅱ		②	3～4	W		○	◎			HSFE2101a0	
		K3515	日本思想史		②	1～2	W		◎	○			HSFE1102a0	
		K3520	西洋史		②	3～4	S		◎	○			HSFE2103a0	
		K3525	中国史		②	3～4	S		◎	○			HSFE2104a0	
		K3530	アジア史		②	3～4	S		◎	○			HSFE2105a0	
		J3080	歴史学特論(日本史)		②	5～6	S		○	◎			HSFE3106a0	
		J3085	歴史学特論(外国史)		②	5～6	W		○	◎			HSFE3107a0	

●社会学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	他学部・他学科履修	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	身につけるべき能力 ④	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	歴史コース	J3090	史料講読		②	5～6	S			◎	○	○	HSFE3108a0	
		J3095	人文地理学		②	5～6	W		◎	○			HSFE2109a0	
		J3100	自然地理学		②	5～6	S		◎	○			HSFE2110a0	
		J3105	地理学特論		②	5～6	W		○	◎			HSFE2111a0	
		J3110	地誌		②	5～6	W		○	◎			HSFE2112a0	
		K1640	日中交流史		2	3～4	W		○	◎			HSFE2113a0	(＊1)
		J3115	地域史研究		②	5～6	S		○	◎			HSFE2114a0	
		K1650	生涯学習概論		2	1～2	W	不可	◎	○		○	HSFE1115a0	
		K1655	博物館概論		2	1～2	S	不可	◎	○		○	HSFE1116a0	
		K1660	博物館展示論		2	3～4	W	不可	○	◎			HSFE2117a0	
		K1665	博物館資料論		2	3～4	S	不可	○	◎		○	HSFE2118a0	
		K1670	博物館教育論		2	3～4	S	不可	○	◎			HSFE2119a0	集中講義
		J1510	博物館経営論		2	5～6	S	不可	○	◎			HSFE3120a0	
		J1515	博物館資料保存論		2	5～6	W	不可	○	◎		○	HSFE3121a0	
		J1520	博物館情報・メディア論		2	5～6	S	不可	○	◎			HSFE3122a0	
		J1530	博物館実習A		1	5～6	W	不可	○	○	◎	◎	HSFE2123a0	
		J1540	博物館実習B		1	7～8	S	不可	○	○	◎	◎	HSFE3124a0	集中講義
		J1550	博物館実習C		1	7～8	W	不可	○	○	◎	◎	HSFE3125a0	
	学部共通	K1010	キャリアマネジメントⅠ		2	3～4	S					◎	HSFF1126a0	
		K1015	キャリアマネジメントⅡ		2	3～4	W					◎	HSFF1127a0	
		J1570	キャリアゼミ		2	5～6	W					◎	HSFF2128a0	
		J1575	キャリアゼミ実践演習	2		5～6	S					◎	HSFF3129a0	
卒業に必要な最低修得単位数				24	64									

(注 1) 授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ 2 単位付与する。
(＊ 1) 当該科目は、中国へ留学し所定の科目を終了すると、本学の単位として評価の対象となる科目です。留学前に既に単位修得している科目は、留学後に重複して評価できません。
今後、中国への留学を考えている学生は、履修前に担当教員に必ず相談をしてください。

※注意：他学部・他学科履修について

他学部・他学科履修はシラバスを確認し、必ず担当教員の許可を得てから履修登録してください。
IBU.net 上で履修登録できる状態にある、あるいは科目編成表の「他学部・他学科履修」欄に『不可』がなくても他学部・他学科履修を許可しない場合があります。

人文社会学部 社会学科 履修系統図

	身につけるべき能力	分　野	1年次	2年次
①	関心・意欲・態度 ローカルからグローバルまでさまざまなレベルで生じている個人や社会の問題に対して、意欲的に取り組み、創意工夫しながら乗り越えていこうと試みることができる。	学科共通	社会学概論 社会学理論Ⅰ	
		人間・社会	法学(国際法を含む) 経済学 哲学概論	家族社会学 産業社会学 宗教学
		地域・メディア	マス・メディア論 文化研究概論 アジア文化概説 国際問題論	ジャーナリズム論 エンターテインメント論 環境社会学
		心理	入門心理学 心理学概論	
		歴史	入門歴史学 日本史概説Ⅰ 日本史概説Ⅱ 日本思想史	西洋史 中国史 アジア史 日中交流史
②	知識・技能 人間や社会、地域やメディア、心理、歴史に関する領域の専門的な理論や調査・分析方法を身につけ、課題解決のために活用することができる。	学科共通	社会調査法 実験・調査データ処理 情報処理実践演習Ⅰ	資料・データ分析 基礎統計学 情報処理実践演習Ⅱ 社会科教育研究Ⅰ
		人間・社会	社会病理学	犯罪社会学 現代社会論
		地域・メディア		地域開発論 異文化コミュニケーション論
		心理		認知心理学 臨床心理学 社会心理学 犯罪心理学
		歴史	博物館概論 生涯学習概論	博物館教育論 博物館展示論 博物館資料論
③	思考力・判断力・表現力 自ら設定した課題に対して、上記の理論や方法、さらにICTを活用して情報を収集し、さまざまな角度から論理的かつ横断的に考察し、その成果をわかりやすく表現することができる。	学科共通	フィールドワーク入門	フィールドワーク演習
		心理	心理学実験法	心理測定法概論 心理学基礎実験Ⅰ
		歴史		
④	主体性・多様性・協働性 多様化する現代社会において、さまざまな立場の存在を認めながら積極的にコミュニケーションを図り、自らの考えをしっかりと伝え、他者と協働することができる。	学部・学科共通	大学基礎演習Ⅰ 大学基礎演習Ⅱ	基礎演習Ⅰ キャリアマネジメントⅠ インターンシップ実践

※カリキュラムポリシー（CP）は P.96・97 を参照してください。

2年次	3年次		4年次	
	社会学理論Ⅱ			
家族関係論	ジェンダー論			
	ビジネス情報論Ⅰ	ビジネス情報論Ⅱ		
	マーケティング論			
		近代思想史		
	教育社会学			
		宗教社会学		
	メディア文化論			
	ポピュラーカルチャー論			
ポピュラー音楽論	コンテンツ産業論			
	広報・広告論			
国際経済論	国際社会学	国際政治論		
	人文地理学	地誌		
	歴史学特論（外国誌）			
	自然地理学	地理学特論		
	社会統計学			
標本調査法	質的調査法			
社会科教育研究Ⅱ				
	刑事司法の社会学			
		社会政策論		
社会意識論		社会階層論		
まちづくり論	地域社会学			
都市社会学	国際ビジネス論		日中比較文化論	
文化人類学				
	医療社会学	スポーツ社会学		
発達心理学	幼児児童心理学	学習心理学		
人格心理学				
カウンセリング理論		カウンセリング方法論		
		心理検査法演習		
		職場メンタルヘルス		
	対人関係の心理学	産業組織心理学		
		コミュニティ心理学		
	犯罪捜査の心理学			
日本史研究Ⅰ				
日本史研究Ⅱ	歴史学特論（日本史）			
	史料講読			
	地域史研究			
	博物館経営論			
	博物館情報・メディア論	博物館資料保存論		
	社会調査実習Ａ	社会調査実習Ｂ		
心理学基礎実験Ⅱ				
		博物館実習Ａ	博物館実習Ｂ	博物館実習Ｃ
基礎演習Ⅱ	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ	演習Ⅳ
				卒業研究
キャリアマネジメントⅡ	キャリアゼミ	キャリアゼミ実践演習		
	英語で話す日本の社会と文化			

●人間福祉学科

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

人間福祉学科健康福祉専攻は、人とその人を取り巻く家族・知人などの人、組織、社会などの環境に働きかけ、課題から現状の枠組みと新しい枠組みを考察することによって、現実的な目標に取り組み、共生社会のコミュニティづくりのために、地域住民等と連携しながら、地域の潜在化したニーズを発見し、分野横断的な支援体制の構築をめざす人物を育成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の５点とします。

卒業時点において学生が身につけるべき能力

① コミュニケーション能力
他者の話を傾聴し説明もわかりやすく、状況に合わせた非言語的表現力も適切で、円滑なコミュニケーションをとることができる。

② 問題解決能力
社会福祉に関する問題を発見、情報を収集・分析し明確化した上で言語化できる。問題の重要性や緊急性から優先順位を考え、解決に向けて行動できる。

③ 社会福祉に関する専門技術・知識の修得
支援の対象者等の背景、属性、価値観の多様性を理解し、社会福祉に関する専門知識・技術を活用することによって、社会に貢献できる。

④ エコロジカル思考
人とその人を取り巻く家族・知人などの人、組織、社会などの環境に働きかけ、必要な課題を見出し、課題克服のために主体的に取り組むことができる。

⑤ イノベーション力
社会福祉専門職としての明確なビジョンを持ち、課題から現状の枠組みと新しい枠組みを考察し、現実的な目標を設定できる。

※各科目との対応については授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

人間福祉学科は、社会福祉学の要素は理念や理論だけでなく実践であるため、アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する能力修得など実際に活用ができるカリキュラムを編成し、現場での学修およびそれに資する教育の機会を核として、講義と演習がそれを支える教育形態とします。さらに、医学、心理学、社会学、介護学などの隣接領域の基本的な知識も修得します。

1）1年次

自己覚知、倫理、価値等の学修を行い、ソーシャルワークの価値・原則・倫理について理解し、社会福祉活動への関心を高めるために、「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」を配置します。基本的な面接技術について、視聴覚教材や模擬的な実践によって修得するために「ソーシャルワーク演習Ⅰ」を配置します。社会福祉学をさまざまな視点から学修するために、「医学概論」「臨床心理学」「社会学と社会システム」「福祉法学」などの隣接領域も学修します。

2）2年次

社会福祉の専門知識と技術を修得するために「高齢者福祉」「障害者福祉」「児童・家庭福祉」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ～Ⅳ」「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ・Ⅱ」などの社会福祉領域の専門科目を履修。「ソーシャルワーク演習Ⅱ・Ⅲ」「ソーシャルワーク実習指導Ａ・Ｂ」「ソーシャルワーク実習Ａ」では講義科目との関連性を持たせ相談援助の展開方法について学ぶ。ソーシャルワーク業務の実際について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術を体得します。

3）3年次

「ソーシャルワーク実習Ｂ」において、相談援助に係わる知識と技術について、具体的かつ実際的

に理解し実践的な技術を体得する。「ソーシャルワーク演習Ⅳ・Ⅴ」「ソーシャルワーク実習指導Ｃ」において、ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己覚知握等を深め、総合的に対応できる能力を修得し、実践と理論の一体的な理解を深めます。

4）4年次

「人間福祉演習Ⅲ・Ⅳ」等を履修し、利他の精神に基づいて、人とのつながりを大切にしながら人と社会の在り方を多角的に考察する力を身につけ、社会福祉に関する専門知識・技術を活用することによって社会に貢献でき、現状に安住せず堅実かつ柔軟な思考で不断の刷新を図ることができる能力を修得します。

【教育方法】

1） 講義・演習・実習等の授業形態を組み合わせた授業を実施し、いずれにおいてもアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる。
2） 演習においては、社会活動やフィールドワークを通して、課題解決を目的とするアクティブ・ラーニングを1年次から3年次まで段階的に取り入れる。
3） 実習やインターンシップにおいては、社会福祉実践現場において専門知識と専門技術の統合を1年次から3年次まで段階的に図る。
4） 実習においては、1年次から3年次まで実習報告会に参加し、学生の実習経験に応じた相互教育の機会を取り入れる。
5） 講義と演習を組み合わせた資格取得支援を目的とする授業を実施し、社会福祉専門職に求められる専門知識の定着を図る。
6） 3年次から4年次の少人数のゼミにおいては、社会福祉に関する個別的な関心に沿って主体的な学修を促す。

【学修成果の評価方法】

1） 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。
2） ディプロマ・ポリシーを目標とする学生自身の自己評価を1年次の評価から実施する。
3） 講義においては、小テストや期末テストを実施して、到達目標の達成度を評価する。
4） 演習・実習・インターンシップにおいては、ルーブリックを用いて、学生自身が学修成果のリフレクションを行う。
5） 演習・実習・インターンシップ等においては、学生同士の相互評価やフィードバックを活用して評価する。
6） 実習においては、実習指導者による評価を部分的に活用し、学生が修得した能力について複数の教員によって評価を行う。
7） 学修ポートフォリオを用いて、1年次の大学基礎演習から3年次のソーシャルワーク実習Ｂまで縦断的な評価を行う。
8） 1年次と3年次にPROGテストを実施し、コンピテンシーの評価を行う。

〈入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

人間福祉学科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

⑴ 他人の話に耳を傾けることができること 〔求める要素：関心・意欲・態度〕
⑵ 少子高齢化など社会的問題に関心を持っていること 〔求める要素：関心・意欲・態度〕
⑶ 相談援助の知識や技術を高めようとする目標を持っていること 〔求める要素：知識・技能、思考力〕
⑷ 違う価値観の人と協働して、物事に取り組むことができること
〔求める要素：主体性・多様性・協働性、思考力・判断力、表現力〕
⑸ ボランティアなどの活動に関わり実践から学ぼうとする意欲があること
〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

●人間福祉学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	社会福祉士	精神保健福祉士	社会福祉主事	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	②	③	④	⑤	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	社会福祉領域	K4010	社会福祉の原理と政策Ⅰ		②	○	●		1～2	S			◎			HHGA1001a0	人間福祉学科の専門教育科目は他学部・他学科の学生が履修することはできない。
		K4015	社会福祉の原理と政策Ⅱ		2	○	●		1～2	W			◎			HHGA1002a0	
		J3510	社会保障Ⅰ		②	○	●		5～6	S		○	◎			HHGA3003a0	
		J3515	社会保障Ⅱ		②	○	●		5～6	W		○	◎			HHGA3004a0	
		K4030	貧困に対する支援		②	○			3～4	W			◎			HHGA3005a0	
		K4035	保健医療と福祉		2	○			3～4	S			◎			HHGA3006a0	
		J3536	権利擁護を支える法制度		②	○	●		5～6	W			◎			HHGA3007a0	
		J3541	刑事司法と福祉		②	○	●		5～6	W			◎			HHGA3008a0	
		K4050	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ		②	○	●		3～4	S			○	◎		HHGA3009a0	
		K4055	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ		②	○	●		3～4	W		◎	○			HHGA3010a0	
		J3561	福祉サービスの組織と経営		2	○			5～6	S			◎			HHGA3011a0	
		K4065	医学概論		2	○	●		1～2	W			◎			HHGA1012a0	
		K4070	心理学と心理的支援		②	○	●		1～2	S			◎	○		HHGA1013a0	
		K4075	社会学と社会システム		②	○	●		1～2	W		◎			○	HHGA1014a0	
		J3581	社会福祉調査の基礎		②	○	●		5～6	W			◎			HHGA3015a0	
		K4085	高齢者福祉	②		○		△	3～4	S			◎			HHGA2016a0	
		K4090	児童・家庭福祉	②		○		△	3～4	S			◎			HHGA2017a0	
		K4095	障害者福祉	②		○	●	△	3～4	S			◎			HHGA2018a0	
		K4100	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2		○	●	△	1～2	S			◎	○		HHGA1019a0	
		K4105	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ		②	○	●	△	1～2	W			◎	○		HHGA1020a0	
		K4110	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		②	○	●		3～4	S			◎	○		HHGA2021a0	
		K4115	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		②	○	●		3～4	W			◎	○		HHGA2022a0	
		J3621	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ		②	○			5～6	S			◎	○		HHGA3023a0	
		J3626	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ		②	○			5～6	W			◎	○		HHGA3024a0	
		K4130	ソーシャルワーク演習Ⅰ (注2)		②	○	●		1～2	W	◎		○			HHGA1025a0	
		K4135	ソーシャルワーク演習Ⅱ (注2)		②	○	●		3～4	S		◎	○			HHGA2026a0	
		K4140	ソーシャルワーク演習Ⅲ (注2)		2	○	●		3～4	W			◎	○		HHGA2027a0	
		J3646	ソーシャルワーク演習Ⅳ (注2)		2	○	●		5～6	S				◎	○	HHGA3028a0	
		J3651	ソーシャルワーク演習Ⅴ (注2)		2	○	●		5～6	W					◎	HHGA3029a0	
		K4155	ソーシャルワーク実習指導A (注2)		②	○			3～4	S	◎		○			HHGA2030a0	
		K4160	ソーシャルワーク実習指導B (注2)		②	○			3～4	W	○		◎			HHGA2031a0	
		J3666	ソーシャルワーク実習指導C (注2)		2	○			5～6	S		○	◎			HHGA3032a0	
		K4170	ソーシャルワーク実習A (注2)		2	○			3～4	W			○	◎		HHGA3033a0	
		J3672	ソーシャルワーク実習B (注2)		4	○			5～6	S			○	◎	○	HHGA3034a0	
		K4180	介護福祉		②				3～4	S		○		◎		HHGA2035a0	
		K4185	介護演習		②				3～4	W		○		◎		HHGA3036a0	

●人間福祉学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	社会福祉士	精神保健福祉士	社会福祉主事	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	②	③	④	⑤	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	社会福祉領域	J3686	就労支援		2				5～6	R7年度開講せず			◎			HHGA3037a0	人間福祉学科の専門教育科目は他学部・他学科の学生が履修することはできない。
		J3690	加齢・障害の研究		②				5～6	S			○			HHGA1038a0	
		J3695	人体・生活の研究		②				5～6	W			○			HHGA1039a0	
		K4205	高齢者支援と福祉		②				3～4	W			◎			HHGA3040a0	＊1
		K4210	障害者支援と福祉		②				3～4	W			◎			HHGA3041a0	
		K4215	児童・家庭支援と福祉		②				3～4	W			◎			HHGA3042a0	＊1
		K4220	福祉法学		②				1～2	R7年度開講せず			◎			HHGA1043a0	
		J3720	社会福祉法制論		2				5～6	R7年度開講せず			◎			HHGA3044a0	
		K4230	社会と人間		②				1～2	W			○			HHGA1045a0	＊1
		K4235	家族社会学		②				1～2	S			○			HHGA1046a0	
		K4240	地域社会学		②				3～4	S			○			HHGA2047a0	
		J3740	人間福祉演習Ⅰ	2					5～6	S		○			◎	HHGA3048a0	
		J3745	人間福祉演習Ⅱ	2					5～6	W		○			◎	HHGA3049a0	
		J3750	人間福祉演習Ⅲ	2					7～8	S		○			◎	HHGA3050a0	
		J3755	人間福祉演習Ⅳ	2					7～8	W		○			◎	HHGA3051a0	
			卒業研究		4				7～8			○			◎	HHGA3052a0	
			人間福祉特殊講義(注1)		2								◎				
		J3771	〈社会福祉研究Ⅰ〉		2				7～8	S					◎	HHGA3096a0	
		J3772	〈社会福祉研究Ⅱ〉		2				7～8	W					◎	HHGA3097a0	
		J3773	〈社会福祉総合研究Ⅰ〉		2				7～8	S					◎	HHGA3098a0	
		J3774	〈社会福祉総合研究Ⅱ〉		2				7～8	W					◎	HHGA3099a0	
		J3781	〈社会福祉探究Ⅳ〉		2				5～6	S			◎			HHGA3092a0	集中講義
		J3783	〈社会福祉探究Ⅴ〉		2				5～6	W			◎			HHGA3093a0	集中講義
		K407G	〈社会福祉特別講義Ⅰ〉		2				3～4	S			◎			HHGA3094a0	集中講義
		J3787	〈社会福祉特別講義Ⅱ〉		2				5～6	W			◎			HHGA3095a0	集中講義
	医療福祉領域	J3821	精神医学と精神医療Ⅰ		2		●		5～6	S			◎			HHGB3053a0	
		J3826	精神医学と精神医療Ⅱ		2		●		5～6	W			◎			HHGB3054a0	
		K4280	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ		2		●		3～4	S			○	◎		HHGB2055a0	
		K4285	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ		2		●		3～4	W			○	◎		HHGB2056a0	
		K4290	精神保健福祉の原理Ⅰ		2		●		3～4	S			◎	○		HHGB2057a0	
		K4295	精神保健福祉の原理Ⅱ		2		●		3～4	W			◎	○		HHGB1058a0	
		J3861	精神保健福祉ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		2		●		5～6	S			◎	○		HHGB3059a0	
		J3866	精神保健福祉ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		2		●		5～6	W			◎	○		HHGB3060a0	
		J3876	精神障害リハビリテーション論		2		●		5～6	S			◎	○		HHGB3061a0	
		J3877	精神保健福祉制度論		2		●		5～6	W			◎	○		HHGB3062a0	
		J3880	精神保健福祉援助演習Ⅰ(注3)		2		●		5～6	W		○	◎			HHGB2063a0	

●人間福祉学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	社会福祉士	精神保健福祉士	社会福祉主事	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	②	③	④	⑤	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	医療福祉領域	J3885	精神保健福祉援助演習Ⅱ(注3)		2		●		7～8	S		○		◎		HHGB3064a0	人間福祉学科の専門教育科目は他学部・他学科の学生が履修することはできない。
		J3886	精神保健福祉援助演習Ⅲ(注3)		2		●		7～8	W					◎	HHGB3065a0	
		J3890	精神保健福祉援助実習指導A(注3)		2		●		5～6	W		○	◎			HHGB1066a0	
		J3895	精神保健福祉援助実習指導B(注3)		2		●		7～8	S		○	○	◎		HHGB2067a0	
		J3900	精神保健福祉援助実習指導C(注3)		2		●		7～8	W			○		◎	HHGB3068a0	
		J3910	精神保健福祉援助実習(注3)		3		●		7～8	W			○	◎		HHGB3069a0	
		K4355	医療福祉論		2				3～4	W			◎			HHGB3070a0	
		J3925	ターミナルケア論		②				5～6	W			◎			HHGB3071a0	＊1
		J3930	「いのち」の権利論(生命倫理と遺伝)		②				5～6	W			◎			HHGB3072a0	＊1
		J3935	MSWインターンシップ		1				7～8	S		○	◎			HHGB3073a0	
	心理・健康福祉領域	K4375	臨床心理学		②				1～2	W			◎	○		HHGC1074a0	
		K4380	福祉心理学		②				3～4	S			◎	○		HHGC2075a0	
		K4385	健康心理学		2				3～4	W			◎	○		HHGC2076a0	
		K4390	カウンセリング理論		②				3～4	W			◎			HHGC2077a0	
		J3960	カウンセリング方法論		②				5～6	S			◎			HHGC3078a0	
		K4440	障害者スポーツ研究		2				1～2	W			◎			HHGC1079a0	
		K4405	スポーツマネジメント		2				3～4	S			○			HHGC2080a0	
		K4410	レクリエーション活動援助論Ⅰ		2				3～4	S			◎			HHGC1081a0	
		K4415	レクリエーション活動援助論Ⅱ		2				3～4	W			◎			HHGC2082a0	
		J3985	リハビリテーション論		2				5～6	R7年度開講せず			○			HHGC2083a0	
	福祉マネジメント領域	K4425	ボランティア論		2				1～2	S			◎			HHGD1084a0	＊1
		K4430	福祉住環境論		2				3～4	R7年度開講せず			◎			HHGD2085a0	
		K4435	経済学入門		②				3～4	S			○			HHGD1086a0	
		J4010	国際経済学		②				5～6	W			○			HHGD1087a0	
	学部共通	K1010	キャリアマネジメントⅠ		2				3～4	S	○					HHGE1088a0	
		K1015	キャリアマネジメントⅡ		2				3～4	W	○					HHGE2089a0	
		J1570	キャリアゼミ		2				5～6	W	○					HHGE3090a0	
		J1575	キャリアゼミ実践演習	2					5～6	S	○					HHGE3091a0	
卒業に必要な最低修得単位数				18	70												

（注 1）授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ 2 単位付与する。

（注 2）ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ（演習）は 150 時間（各 30 時間）、ソーシャルワーク実習Ａ（実習）は 60 時間、ソーシャルワーク実習Ｂ（実習）は 180 時間、ソーシャルワーク実習指導Ａ～Ｃ（実習）は 90 時間（各 30 時間）とする。

（注 3）精神保健福祉援助演習Ⅰ～Ⅲ（演習）は 90 時間（各 30 時間、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ（演習）の履修済みを前提とする）、精神保健福祉援助実習（実習）は 150 時間（ソーシャルワーク実習の履修済みを前提とする）、精神保健福祉援助実習指導Ａ～Ｃ（実習）は 90 時間（各 30 時間）とする。

＊１「地域共創プログラム」関連科目のため「地域共創プログラム」取得を目指す人文社会学部・経営学部の学生に限り、他学部・他学科履修を可とする。

※履修する際の注意点　次ページ参照。

履修する際の注意点

1　専門教育科目表の○の記号は社会福祉士国家試験受験資格、●の記号は精神保健福祉士国家試験受験資格および△の記号は社会福祉主事任用資格取得に必要な科目を示している。なお、社会福祉士国家試験受験資格指定科目については、p.270 の「社会福祉士国家試験受験資格」、精神保健福祉士国家試験受験資格指定科目については、p.274 の「精神保健福祉士国家試験受験資格」を参照のこと。

○、●等：社会福祉士国家試験受験資格および精神保健福祉士国家試験受験資格指定科目

△：社会福祉主事任用資格取得指定科目

2　社会福祉士国家試験受験資格指定科目ではないが、社会福祉施設長、生活指導員等に共通する専門知識として社会福祉施設の経営管理・運営・業務等の内容の学習が必要とされているので、福祉マネジメント領域も履修しておくことが望ましい。

3　社会福祉士国家試験受験資格指定科目の履修条件

授　業　科　目	履修条件（左の授業科目を履修するには、下記の科目の単位を修得していることが必要）
ソーシャルワーク演習Ⅱ	「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」 「医学概論」「大学基礎演習Ⅱ」
ソーシャルワーク演習Ⅲ	「ソーシャルワーク演習Ⅱ」「ソーシャルワーク実習指導Ａ」
ソーシャルワーク演習Ⅳ	「ソーシャルワーク演習Ⅲ」「ソーシャルワーク実習指導Ｂ」 「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」「介護福祉」「高齢者福祉」 「障害者福祉」「児童・家庭福祉」「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ」 「貧困に対する支援」・「ソーシャルワーク実習Ａ」
ソーシャルワーク実習指導Ａ	「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」 「医学概論」「大学基礎演習Ⅱ」
ソーシャルワーク実習指導Ｂ ソーシャルワーク実習Ａ	「ソーシャルワーク実習指導Ａ」
ソーシャルワーク実習指導Ｃ ソーシャルワーク実習Ｂ	「ソーシャルワーク実習指導Ｂ」「ソーシャルワーク実習Ａ」 「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワーク演習Ⅱ・Ⅲ」 「介護福祉」「高齢者福祉」「障害者福祉」「児童・家庭福祉」 「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ」「貧困に対する支援」

4　精神保健福祉士国家試験受験資格指定科目の履修条件

授　業　科　目	履修条件（左の授業科目を履修するには、下記の科目の単位を修得していることが必要）
精神保健福祉の原理Ⅰ	「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」
精神保健福祉の原理Ⅱ	「精神保健福祉の原理Ⅰ」
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	「現代の精神保健の課題と支援Ⅰ」
精神保健福祉援助実習指導Ａ	「精神保健福祉の原理Ⅰ・Ⅱ」、「精神医学と精神医療Ⅰ」 「現代の精神保健の課題と支援Ⅰ・Ⅱ」 「精神保健福祉ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」
精神保健福祉援助実習指導Ｂ 精神保健福祉援助実習	「ソーシャルワーク実習Ｂ」、「精神保健福祉援助実習指導Ａ」 「精神医学と精神医療Ⅱ」、「精神保健福祉ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」
精神保健福祉援助実習指導Ｃ	「精神保健福祉援助実習指導Ｂ」
精神保健福祉援助演習Ⅱ	「精神保健福祉援助実習指導Ａ」
精神保健福祉援助演習Ⅲ	「精神保健福祉援助演習Ⅰ」、「精神保健福祉援助実習指導Ｂ」

5　MSW インターンシップ（7 セメ～）履修要件（目安）

MSW（医療ソーシャルワーカー）として医療機関に就職を目指す場合、医療機関側は MSW を医療関係の専門職と扱うため、社会福祉士有資格を必須要件としている。つまり、大学卒業年度に社会福祉士国家試験に合格することが要件となる。

また、医療機関への就職と連動する科目であるため、MSW インターンシップを受け入れる医療機関の意向に沿う学生の履修を優先する。

以下は、履修のための例年の目安である。

① MSW インターンシップの受け入れ先である、医療機関の要望に沿う学生であること。
② 卒業年度に社会福祉士国家試験の合格が見込まれる者。
③ 社会福祉士国家試験受験資格指定科目である「保健医療と福祉」「ソーシャルワーク実習指導 ABC」「ソーシャルワーク実習 A・B」の評価が良好な者。
④ 原則として、6 セメ終了時にすべての「社会福祉士国家試験受験資格指定科目」の単位取得済みである者。

※③④については、編入生は除く。
※②③④については学業全体の成績や意欲も確認し、面接を行う場合がある。

【選抜試験等】

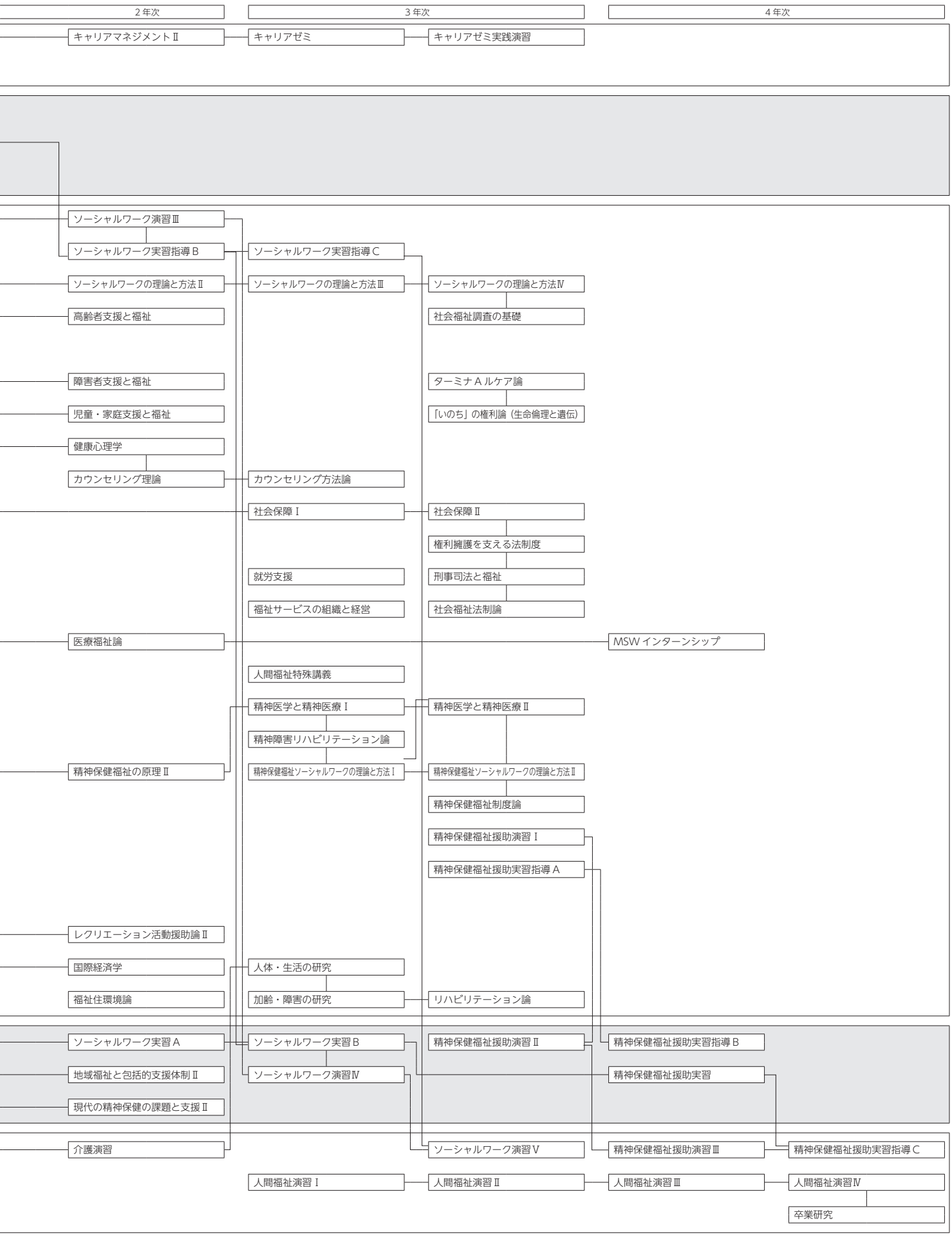
「精神保健福祉援助実習指導 A・B・C」、「精神保健福祉援助実習」、「精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱ」の最大定員は 20 名。これらの科目の履修にあたっては、上記の履修条件の他、4 セメスターもしくは 5 セメスター時に実施する選抜試験への合格が必要となる。選抜試験は希望者に対して面接を実施し、学業全体の成績、意欲、指定科目の履修状況等を参考に判定する。

なお、精神保健福祉士国家試験受験資格取得のためには、社会福祉士国家試験受験資格のための指定科目修得が必要となる。

人文社会学部 人間福祉学科 履修系統図

	身につけるべき能力	1年次	2年次
①	コミュニケーション能力 他者の話を傾聴し説明もわかりやすく、状況に合わせた非言語的表現力も適切で、円滑なコミュニケーションをとることができる。	ソーシャルワーク演習Ⅰ	キャリアマネジメントⅠ
②	問題解決能力 社会福祉に関する問題を発見、情報を収集・分析し明確化した上で言語化できる。問題の重要性や緊急性から優先順位を考え、解決に向けて行動できる。		ソーシャルワーク演習Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ａ 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ
③	社会福祉に関する専門技術・知識の修得 支援の対象者等の背景、属性、価値観の多様性を理解し、社会福祉に関する専門知識・技術を活用することによって、社会に貢献できる。	社会福祉の原理と政策Ⅰ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ 社会学と社会システム 心理学と心理的支援 福祉法学 社会福祉の原理と政策Ⅱ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ 社会と人間 家族社会学 地域社会学 ボランティア論 臨床心理学 医学概論 障害者スポーツ研究	貧困に対する支援 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 高齢者福祉 障害者福祉 児童・家庭福祉 福祉心理学 保健医療と福祉 精神保健福祉の原理Ⅰ スポーツマネジメント レクリエーション活動援助論Ⅰ 経済学入門
④	エコロジカル思考 人とその人を取り巻く家族・知人などの人、組織、社会などの環境に働きかけ、必要な課題を見出し、課題克服のために主体的に取り組むことができる。		現代の精神保健の課題と支援Ⅰ
⑤	イノベーション力 社会福祉専門職としての明確なビジョンを持ち、課題から現状の枠組みと新しい枠組みを考察し、現実的な目標を設定できる。		介護福祉

※カリキュラムポリシー（CP）はP.104・105を参照してください。



●教育学部

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

教育学部は、多様なニーズのある社会、学校・保育施設等、子どもに応えることができる豊かな人間性と教育に関する専門的知識および実践力、指導力を持ち、「いい先生」とは何かを問い、生涯に渡り学び続け、社会や学校・保育施設等で活躍できる優れた教員・保育者になることを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の３点とします。

卒業時点において学生が身につけるべき能力

① 教員、保育者としての自己分析・自己研鑽の力
学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校・保育施設等、子どもに応えることができる専門的知識および実践力、指導力を身に付け、「いい先生」とは何かを常に問い続け、自己の実践を振り返り、自己を高めていくことができる。

② 教員、保育者としてふさわしい豊かな人間性
多様な立場、考え方の存在を認め、「いい先生」になるという強い意志と情熱および教員、保育者としての使命感や責任感を持ち、子どもの多様なニーズを共感的に理解し、課題の解決に他者と協働して取り組むことができる。

③ 変化する社会、学校・保育施設等で活躍できる力
学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校・保育施設等、子どもを的確に理解し、専門的知識および実践力、指導力を基に協働して課題の解決や改革に取り組み、実現することができる。

※各科目との対応については授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

教育学部は、教員、保育者として必要な専門的知識および実践力、指導力を身に付けることを目指して多様な進路に応じた小学校教育、幼児教育保育、英語教育・小学校、保健教育の４つのコースを設定し、『教職一般領域』『初等教育領域』『学科共通領域』に加え、『専修領域』において基礎から応用までの段階を考慮した多様な授業科目を配置します。また、多様なニーズのある社会、学校・保育施設等、子どもに応えることができるよう『子ども教育領域』や『子ども理解領域』を設けています。さらに学校インターンシップなどの４年間を見通した実践的な学びの場を多く設定します。

1）『教職一般領域』では、教員・保育者に必須である教育学の基礎理論や実践論等を学ぶため、「教育原論」「教育心理学」「教育課程総論（小・中・高・養）」「教育の方法・技術（幼・小・中・高・養）」などの科目を配置します。

2）『初等教育領域』では、教科教育に関する基礎理論や実践論等を学ぶため、各教科の「教科内容論」「初等教育法」などの科目を配置します。

3）『学科共通領域』では、学校現場・保育現場と大学での学びとを関連させながら、豊かな人間性と実践力、指導力を培うため、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「インターンシップ」「スクールサポーターⅠ～Ⅲ」などの科目を配置します。また、１年次の「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、２年次の「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を土台に、３年次からの「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」と「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」では２年間継続して同じゼミ教員のもとで「卒業研究」に取り組みます。

4）『専修領域』では、１年次に、これまでの学びをほぐし、とらえ直すため、「数理探究の扉」「英語探

究の扉」「パフォーマンス演習」などの科目を配置します。その後、専門的な理論と実践論等を学ぶため、小学校教育コースでは、特別支援教育、幼児教育、英語教育、数学教育の 4 つのプログラムに応じた多様な科目を、幼児教育保育コース、英語教育・小学校コース、保健教育コースでは、それぞれの進路に応じた多様な科目を配置します。

5）『子ども教育領域』では、これまでの学びや実践を通した疑問や課題を解決し、学びを深めるため、「教科内容探究」や各教科の「初等教育演習」などの科目を配置します。また、各々の進路実現をより確実にするため、「教科内容研究Ⅰ～Ⅲ」「教科総合演習Ⅰ～Ⅱ」などの科目を配置します。

6）『子ども理解領域』では、変化する社会、学校・保育施設等、子どもの理解を深めるため、「多様な子ども理解入門」「子ども発達環境論」「子ども企業研究」などの科目を配置します。

【教育方法】

1） 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。

2） 情報化の進展に対応するため、ICT アクティブ・ラーニング教室、ICT 模擬授業教室、電子黒板、タブレット、インターネットや視聴覚機器等の活用を図ったり、実践力の育成に向け模擬授業・模擬保育（ビデオによる収録も実施）を行ったりして、学修方法の改善に努めます。

3） 最新の教育現場等の情報の把握、小学校・中学校・幼稚園・保育所等での教員・保育者の役割等の理解を図るため、「大学基礎演習」や「教育基礎演習」を中心に、本学卒業生の現役教員・保育者などを招聘し、講習会やセミナーを実施します。

4） 実践的な学びを推進するため、3 年次の教育実習に加え、1 年次に「大学基礎演習」で「ハロースクール」、2 年次に「インターンシップ」などを実施し、小学校・中学校・幼稚園・保育所等での教育活動に積極的に参加します。

【学修成果の評価方法】

1） 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2） 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。

3） 評価観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修や課題追求の過程をパフォーマンス評価します。

4） 授業・教育実習（幼・小・中）・保育実習・介護等体験などの課題活動を通して、教員・保育者として必要な資質・能力や適性を評価します。

5） 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、履修カルテ等）および上記 2）～ 4）等をもとに、担任教員との面談（振り返り等）等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学修方法の改善等を図ります。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

教育学部は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

⑴ 「いい先生」になるという強い意志と情熱を持って専門的に学びながら「いい先生」とは、と問い続け、子どもの多様なニーズを共感的に理解しつつ一人ひとりに応じた支援やケアを考えようとすることができること　〔求める要素：関心・意欲・態度〕

⑵ 本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で習得すべき基礎学力を有し、教育についての学びや実

践を、子どもの成長や育ちを考え、広い視野から現代の教育課題を捉えながら、教育活動にいかしていこうとすることができること　〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

⑶　他者や社会との対話を通して自己の考えを表現し、豊かな人間関係を築きながら協働しようとし、探究心と洞察力を持ち、新しい課題にも果敢に挑戦し、実践力、指導力を身に付けようとすることができること　〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

●教育学科 小学校教育コース

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

教育学科小学校教育コースは、多様なニーズのある社会、学校、子どもに応えることができる豊かな人間性と教育に関する専門的知識および実践力、指導力を持ち、「いい先生」とは何かを問い、生涯にわたり学び続け、社会や学校で活躍できる優れた小学校教員になることを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の３点とします。

卒業時点において学生が身につけるべき能力

①　教員としての自己分析・自己研鑽の力
学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校、子どもに応えることができる専門的知識および実践力、指導力を身に付け、「いい先生」とは何かを常に問い続け、自己の実践を振り返り、自己を高めていくことができる。

②　教員としてふさわしい豊かな人間性
多様な立場、考え方の存在を認め、「いい先生」になるという強い意志と情熱および教員としての使命感や責任感を持ち、子どもの多様なニーズを共感的に理解し、課題の解決に他者と協働して取り組むことができる。

③　変化する社会、学校で活躍できる力
学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校、子どもを的確に理解し、専門的知識および実践力、指導力を基に協働して課題の解決や改革に取り組み、実現することができる。

※各科目との対応については授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

教育学科小学校教育コースでは、小学校教員において必要な基礎的科目に加え、子どもや子どもを取り巻く社会の多様なニーズに応えられるよう、“特別支援教育”、“幼児教育”、“英語教育”、“数学教育”の４つのプログラムに関する科目を置き、各専門的知識を持った小学校教員となるようなカリキュラムを編成します。

また、小学校教員の専門性をより深められるよう、応用科目を『子ども教育領域』と『子ども理解領域』に設けます。そして、実践したことを振り返り、次の実践につなげるために、学校現場での学びと連動させる科目を置きます。

〈小学校教員として必要な基礎科目〉

1）『教職一般領域』では、教員に必須である教育学の基礎理論や実践論等を学ぶため、「教育原論」「教育心理学」「教育課程総論（小・中・高・養）」「教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼・小・中・高・養）」などの科目を配置します。

2）『初等教育領域』では、教科教育に関する基礎理論や実践論等を学ぶため、各教科の「教科内容論」「初等教育法」などの科目を配置します。

〈自己の学びを振り返り、問い直し、深め豊かにする科目〉

3）『学科共通領域』では、学校現場と大学での学びとを関連させながら、豊かな人間性と実践力、指導力を培うため、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「インターンシップ」などの科目を配置します。

4）『専修領域』では、場に応じた行動を取ることができる“開かれた身体”を作るため、1年次に「パフォーマンス演習」を配置します。その上で学校現場での学びである2年次の「インターンシップ」、3年次の「教育実習」につなげます。そして、実践したことを振り返り、次の実践につなげるために、「子どもと家族・社会」などの科目を配置します。

5）『専修領域』には、異なった視点から今までの学びを見直す“学びほぐし”を行うため、「数理探究の扉」などの科目も配置します。

〈4種の専門教育に関する科目〉

6）『専修領域』には、多様な子どもと向き合うための専門的な理論と実践論等を学ぶため、“特別支援教育”“幼児教育”“英語教育”“数学教育”の4つのプログラムに応じた科目も配置します。

〈小学校教員の専門性をより深める科目〉

7）『子ども教育領域』では、これまでの学びや実践を通した疑問や課題を解決し、学びを深めるための「教科内容探究」や各教科の「初等教育演習」などの深掘り科目のほか、「教科内容研究Ⅰ～Ⅲ」「教科総合演習Ⅰ・Ⅱ」などの進路実現に向けた科目を配置します。

8）『子ども理解領域』では、変化する社会、学校、子どもの理解を深めるため「多様な子ども理解入門」「子ども発達環境論」「子ども企業研究」などの科目を配置します。

【教育方法】

1） 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならず、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。また、1年次より「パフォーマンス演習」等で状況の変化に合わせて心身を動かし表現する活動を取り入れます。

2）「数理探究の扉」などでは、公式や文法など単に覚えるのではなく、当たり前と思っていたことは“なぜ”そうなっているのか、“なぜ”それが必要なのかを学生自身が理解を組み立て、掴み取っていけるように、学生個々が多様な方法や側面から“なぜ”にアプローチできるようにします。

3） 情報化の進展に対応するため、アクティブ・ラーニング教室やICT模擬授業教室、様々なICTツールの活用を図ったり、実践力の育成に向け模擬授業（ビデオによる収録も実施）を行ったりして、学修方法の改善に努めます。

4） 学校での実践的な学びを推進するため、3年次の教育実習に加え、1年次の「ハロースクール」、2年次から4年次にかけて「インターンシップ」「スクールサポーターⅠ～Ⅲ」などを実施し、学校での教育活動に積極的に参加します。そして、「子どもと家族・社会」などでは、教育現場で経験したケースや課題を検討します。

【学修成果の評価方法】

1） 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2） 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。

3） 評価観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修や課題追求の過程をパフォーマンス評価します。

4） 授業・教育実習（小・中・特別支援）・介護等体験などの課題活動を通して、教員として必要な資質・

能力や適性を評価します。

5）学修ポートフォリオ（目標・自己評価，履修カルテ等）および上記２）～４）をもとに、担任教員との面談等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学修方法の改善を図ります。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

教育学科小学校教育コースは、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

⑴ 「いい先生」になるという強い意志と情熱を持って専門的に学びながら「いい先生」とは、と問い続け、子どもの多様なニーズを共感的に理解しつつ一人ひとりに応じた支援やケアを考えようとすることができること　〔求める要素：関心・意欲・態度〕

⑵ 本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で習得すべき基礎学力を有し、教育についての学びや実践を、子どもの成長や育ちを考え、広い視野から現代の教育課題を捉えながら、教育活動にいかしていこうとすることができること　〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

⑶ 他者や社会との対話を通して自己の考えを表現し、豊かな人間関係を築きながら協働しようとし、探究心と洞察力を持ち、新しい課題にも果敢に挑戦し、実践力、指導力を身に付けようとすることができること　〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

●教育学科 小学校教育コース　専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	学科共通	教職一般領域	K5010	教育原論	②		1～2	S/W	○	◎		EEHA1001a0	教育学部の専門教育科目は他学部・他学科の学生は履修することはできない。
			K5015	特別支援教育	②		1～2	S	◎	○		EEHA1002a0	
			K5020	教職論	②		1～2	W	◎	○		EEHA1003a0	
			K5025	教育心理学	②		1～2	W	◎	○		EEHA1004a0	
			J4520	教育制度論	②		5～6	W	◎	○		EEHA1005a0	
			J4525	教育課程総論（小・中・高・養）		②	5～6	W	◎	○		EEHA1006a0	
			K5040	道徳教育の理論と方法（小・中・養）		②	3～4	W	◎	○		EEHA1007a0	
			J4535	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（小中高養）		②	5～6	S	◎	○		EEHA1008a0	
			K5050	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	②		3～4	S/W	◎	○		EEHA1009a0	
			K5055	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）		②	3～4	W	◎	○		EEHA1010a0	
			K5060	教育相談の理論と方法（小・中・高・養）	②		3～4	S/W	◎	○		EEHA1011a0	
			J4555	教育実習指導		①	5～6	S	◎	○		EEHA2012a0	
			J4560	教育実習		④	5～6	S		◎	○	EEHA3013a0	
			J4570	教職実践演習（教諭）		②	7～8	W	○	○	◎	EEHA3014a0	
		初等教育領域	K5080	教科内容論（国語）	②		1～2	S	◎			EEHB1015a0	
			K5085	教科内容論（社会）	②		1～2	W	◎			EEHB1016a0	
			K5090	教科内容論（算数）	②		1～2	S/W	◎			EEHB1017a0	
			K5095	教科内容論（理科）	②		3～4	S/W	◎			EEHB1018a0	
			K5100	教科内容論（生活）		②	3～4	W	◎			EEHB1019a0	
			K5105	教科内容論（音楽）		②	3～4	S	◎			EEHB1020a0	
			K5110	教科内容論（図画工作）		②	3～4	S/W	◎			EEHB1021a0	
			J4610	教科内容論（家庭）		②	5～6	S	◎			EEHB1022a0	
			K5120	教科内容論（体育）		②	3～4	S/W	◎			EEHB1023a0	
			K5125	教科内容論（英語）	②		1～2	W	◎			EEHB1024c0	
			K5130	初等国語科教育法		①	1～2	W	◎		○	EEHB2025a0	
			K5135	初等社会科教育法		①	3～4	S	◎		○	EEHB2026a0	
			K5140	初等算数科教育法		①	3～4	W	◎		○	EEHB2027a0	
			K5145	初等理科教育法		①	3～4	S	◎		○	EEHB2028a0	
			J4645	初等生活科教育法		①	5～6	S	◎		○	EEHB2029a0	
			K5155	初等音楽科教育法		①	3～4	S/W	◎		○	EEHB2030a0	
			J4655	初等図画工作科教育法		①	5～6	S	◎		○	EEHB2031a0	
			J4660	初等家庭科教育法		①	5～6	W	◎		○	EEHB2032a0	
			J4665	初等体育科教育法		①	5～6	S	◎		○	EEHB2033a0	
			K5175	初等英語科教育法		①	1～2	S	◎		○	EEHB2034c0	
			K5180	教育基礎演習Ⅰ	2		3～4	S	○	◎		EEHC1035a0	

●教育学科 小学校教育コース　専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	学科共通	学科共通領域	K5185	教育基礎演習Ⅱ	2		3～4	W	○	◎		EEHC1036a0	
			J4685	教育専門演習Ⅰ	2		5～6	S	◎		○	EEHC2037a0	
			J4690	教育専門演習Ⅱ	2		5～6	W	◎		○	EEHC2038a0	
			J4695	教育専門研究Ⅰ	2		7～8	S	◎		○	EEHC3039a0	
			J4700	教育専門研究Ⅱ	2		7～8	W	◎		○	EEHC3040a0	
			K5220	インターンシップⅠ		2	3～4	S	○	◎		EEHC2041a0	
			K5225	インターンシップⅡ		1	3～4	W	○	◎		EEHC2042a0	
			J4716	インターンシップⅢ		1	5～6	W	○	○	◎	EEHC3043a0	
				卒業研究		4	7～8		◎			EEHC3044a0	
				教育特別研究(注1)		1			◎				
				教育学特殊講義(注2)		2			◎				
			J4784	〈児童英語教育実践研究Ⅰ〉		2	3～4	S	◎			EEHC1189a0	
			J4785	〈児童英語教育実践研究Ⅱ〉		2	3～4	W	◎			EEHC2190a0	
			K5215	〈プログラミング教育Ⅰ〉		2	3～4	S	○		◎	EEHC1191a0	
	小学校教育コース	コース共通領域	J4830	多文化探究の扉		2	3～4	R7年度開講せず	○	◎		EEHD1045a0	
			J4835	数理探究の扉	2		1～2	W	◎			EEHD1046a0	
			J4840	英語探究の扉	2		1～2	S	◎			EEHD1047c0	
			J4845	教科探究の扉		2	3～4	R7年度開講せず	◎		○	EEHD1048a0	
			J4866	パフォーマンス演習		2	1～2	R7年度開講せず		◎		EEHD1049a0	
			J4870	子どもと家族・社会	2		3～4	S		○	◎	EEHD1050a0	
			J4875	子ども理解とケア		2	3～4	R7年度開講せず	◎	○		EEHD1051a0	
			J4880	児童福祉と子どものケア		2	5～6	R7年度開講せず		○	◎	EEHD2052a0	
		特別支援教育領域	K5325	特別支援教育概論	②		3～4	S	◎			EEHE1053a0	
			K5330	知的障害者の心理・生理・病理	②		3～4	S	◎			EEHE2054a0	
			K5335	肢体不自由者の心理・生理・病理	②		3～4	W	◎			EEHE2055a0	
			K5340	病弱者の心理・生理・病理	②		3～4	W	◎			EEHE2056a0	集中講義
			K5345	知的障害教育論	②		3～4	W	◎			EEHE2057a0	
			J4915	肢体不自由教育論	②		5～6	S	◎			EEHE2058a0	集中講義
			J4920	病弱教育論	②		5～6	S	◎			EEHE2059a0	
			J4925	障害者指導法		②	5～6	S	○		◎	EEHE2060a0	
			J4930	障害者教育探究		②	7～8	S	○		◎	EEHE3061a0	
			J4935	視覚障害教育総論		②	5～6	W	◎			EEHE3062a0	集中講義
			J4940	聴覚障害教育総論		②	5～6	W	◎			EEHE3063a0	
			J4945	重複・発達障害教育総論		②	5～6	S	◎			EEHE3064a0	

●教育学科 小学校教育コース　専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	小学校教育コース	特別支援教育領域	J4950	教育実習指導（特支）		①	5～6	S	◎	○		EEHE2065a0	
			J4960	教育実習（特支）		②	5～6	S		○	◎	EEHE3066a0	
			K5395	発達障害の理論と指導		2	1～2	W	◎	○		EEHE1067a0	
			K5400	発達障害と教育方法		2	3～4	W	○		◎	EEHE2068a0	
			J4980	障害特性とICTの活用		2	3～4	R7年度開講せず	○		◎	EEHE2069a0	
			J4985	障害特性と自立活動		2	5～6	S	◎		○	EEHE2070a0	
			J4990	情緒障害教育論		2	7～8	R7年度開講せず	◎			EEHE3071a0	
			J4995	インクルーシブ教育の探究		2	7～8	S	◎		○	EEHE3072a0	
		幼児教育領域	K5415	幼児教育課程総論		②	3～4	S	◎	○		EEHF2073a0	
			J5005	保育方法論		②	5～6	W	○		◎	EEHF2074a0	
			K4525	幼児理解（教育相談を含む）		②	3～4	W	◎			EEHF1075a0	
			K5430	幼児と健康		②	3～4	S	◎		○	EEHF1183a0	令和5年度入学生
			K5435	幼児と人間関係		②	3～4	S	◎		○	EEHF1184a0	令和5年度入学生
			K5440	幼児と環境		②	1～2	W	◎		○	EEHF1185a0	令和5年度入学生
			K5445	幼児と言葉		②	3～4	W	◎		○	EEHF1186a0	令和5年度入学生
			K5450	幼児と表現Ⅰ		②	3～4	S	◎		○	EEHF1187a0	令和5年度入学生
			J500F	幼児と表現Ⅱ		②	5～6	S	◎		○	EEHF1188a0	令和5年度入学生
			K5490	保育内容総論	②		3～4	W	◎			EEHF2076a0	
			J5020	保育内容の理論と方法（健康）	②		5～6	W	○		◎	EEHF2077a0	
			J5025	保育内容の理論と方法（人間関係）	②		5～6	W	○		◎	EEHF2078a0	
			J5030	保育内容の理論と方法（環境）	②		5～6	S	○		◎	EEHF2079a0	
			J5035	保育内容の理論と方法（言葉）	②		5～6	S	○		◎	EEHF2080a0	
			J5040	保育内容の理論と方法（表現活動・音楽）	②		5～6	W	○		◎	EEHF2081a0	
			J5045	保育内容の理論と方法（表現活動・造形）	②		5～6	S	○		◎	EEHF2082a0	
			K5495	日本と世界の幼児教育概説		2	1～2	S	◎			EEHF1083a0	
			J5055	子育て支援論		2	1～2	R7年度開講せず	◎			EEHF1084a0	
			J5060	障害児教育論		2	5～6	R7年度開講せず	◎			EEHF2085a0	
			J5065	保育方法演習		1	7～8	R7年度開講せず	○		◎	EEHF3086a0	
		英語教育領域	K5500	英語学概説	②		3～4	S	◎			EEHG2087c0	
			J5075	英語音声学		②	5～6	W	◎			EEHG2088c0	
			J5080	英文法Ⅰ	②		1～2	S	◎			EEHG1089c0	
			J5085	英文法Ⅱ		②	3～4	W	◎			EEHG2090c0	
			J5090	英語文学概説	②		5～6	W	◎			EEHG2091c0	
			J5095	英語文学Ⅰ（英文学）		②	5～6	W	◎			EEHG2092c0	

●教育学科 小学校教育コース　専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	小学校教育コース	英語教育領域	J5100	英語文学Ⅱ（米文学）		②	5～6	W	◎			EEHG2093c0	
			K5550	ベーシックコミュニケーションⅠ	②		1～2	W	◎			EEHG1094c0	
			K5555	ベーシックコミュニケーションⅡ	②		1～2	W	◎			EEHG1095c0	
			K5560	ベーシックコミュニケーションⅢ	②		3～4	S	◎			EEHG2096c0	
			K5565	ベーシックコミュニケーションⅣ		②	3～4	W	◎			EEHG2097c0	
			J5125	アドバンストコミュニケーションⅠ		②	5～6	S	◎			EEHG3098c0	
			J5130	アドバンストコミュニケーションⅡ		②	5～6	W	◎			EEHG3099c0	
			J5135	英語圏文化概説	②		3～4	W	◎			EEHG1100c0	
			J5140	世界英語の文化圏Ⅰ		②	5～6	W	◎			EEHG2101c0	
			J5145	世界英語の文化圏Ⅱ		②	7～8	S	◎			EEHG3102c0	
			K5595	中等英語科教育法Ⅰ		②	3～4	S	○		◎	EEHG1103c0	
			K5600	中等英語科教育法Ⅱ		②	3～4	W	○		◎	EEHG2104c0	
			J5160	中等英語科教育法Ⅲ		②	5～6	S	○		◎	EEHG2105c0	
			J5165	中等英語科教育法Ⅳ		②	5～6	W	○		◎	EEHG3106c0	
			J5170	教育実習指導（英語）		①	5～6	S	○	○		EEHG2107c0	
			J5180	教育実習Ⅰ（英語）		④	5～6	S		○	◎	EEHG3108c0	
			J5190	教育実習Ⅱ（英語）		②	5～6	S		○	◎	EEHG3109c0	
			J5200	英語授業探究		2	5～6	S	○		◎	EEHG2110c0	
			J5205	英語ファンタジーの世界		2	7～8	R7年度開講せず	◎	○		EEHG2111c0	
		数学教育領域	K5650	線形代数学	②		1～2	S	◎			EEHH1112a0	
			K5655	代数学Ⅰ	②		3～4	S	◎			EEHH1113a0	
			J5220	代数学Ⅱ		②	5～6	S	◎			EEHH2114a0	
			K5665	幾何学Ⅰ	②		3～4	W	◎			EEHH1115a0	
			J5230	幾何学Ⅱ		②	5～6	W	◎			EEHH2116a0	
			J5235	位相数学		②	5～6	S	◎			EEHH3117a0	
			K5680	解析学Ⅰ	②		3～4	S	◎			EEHH1118a0	
			J5245	解析学Ⅱ		②	5～6	W	◎			EEHH2119a0	
			J5250	微分積分学		②	5～6	S	◎			EEHH3120a0	
			K5695	確率・統計学Ⅰ	②		3～4	W	◎			EEHH1121a0	
			J5260	確率・統計学Ⅱ		②	5～6	W	◎			EEHH2122a0	
			K5705	コンピュータ概論	②		1～2	S	◎			EEHH1123a0	集中講義
			J5270	コンピュータ演習		②	7～8	S	◎			EEHH3124a0	
			K5715	数学的リテラシー	②		1～2	W	◎			EEHH1125a0	
			J5280	数学史と現代数学		②	1～2	W	○		◎	EEHH1126a0	

●教育学科 小学校教育コース　専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	小学校教育コース	数学教育領域	K5725	子どもの発達と算数・数学		②	3～4	W	○		◎	EEHH2127a0	
			K5730	中等数学科教育法Ⅰ		②	3～4	S	○		◎	EEHH1128a0	
			K5735	中等数学科教育法Ⅱ		②	3～4	W	○		◎	EEHH2129a0	
			J5300	中等数学科教育法Ⅲ		②	5～6	S	○		◎	EEHH2130a0	
			J5305	中等数学科教育法Ⅳ		②	5～6	W	○		◎	EEHH3131a0	
			J5310	教育実習指導（数学）		①	5～6	S		◎		EEHH2132a0	
			J5320	教育実習Ⅰ（数学）		④	5～6	S		○	◎	EEHH3133a0	
			J5330	教育実習Ⅱ（数学）		②	5～6	S		○	◎	EEHH3134a0	
			J5340	問い直す数学		2	1～2	R7年度開講せず	○		◎	EEHH1135a0	
			J5345	問い続ける数学		2	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEHH2136a0	
			J5350	数学的探究		2	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEHH3137a0	
	子ども関連	子ども教育領域	J6040	教師としての批判的リテラシー		2	7～8	R7年度開講せず	◎	○	○	EEHI2138a0	
			J6045	幼保小中接続研究		2	3～4	R7年度開講せず	○			EEHI2139a0	
			J6050	インクルーシブ教育の理論と方法		2	5～6	W	○	○	◎	EEHI2140a0	
			J6055	社会と教育の研究		2	3～4	R7年度開講せず	◎	○		EEHI2141a0	
			J6060	世界と教育の研究		2	1～2	R7年度開講せず	◎	○		EEHI2142a0	
			J6065	教科内容探究		2	5～6	W	○		◎	EEHI2143a0	
			J6070	授業方法探究		2	5～6	W	○		◎	EEHI2144a0	
			J6075	学級経営探究		2	5～6	R7年度開講せず		○	◎	EEHI2145a0	
			J6080	初等国語科教育演習		1	3～4	R7年度開講せず	○		◎	EEHI3146a0	
			J6085	初等社会科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEHI3147a0	
			J6090	初等算数科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEHI3148a0	
			J6095	初等理科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEHI3149a0	
			J6100	初等生活科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEHI3150a0	
			J6105	初等音楽科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEHI3151a0	
			J6110	初等図画工作科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEHI3152a0	
			J6115	初等家庭科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEHI3153a0	
			J6120	初等体育科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEHI3154a0	
			J6125	初等英語科教育演習		1	3～4	R7年度開講せず	○		◎	EEHI3155c0	
			J6130	教科内容研究Ⅰ		2	5～6	W	◎			EEHI1156a0	
			J6135	教科内容研究Ⅱ		2	7～8	S	◎			EEHI2157a0	
			J6140	教科内容研究Ⅲ		2	7～8	R7年度開講せず	◎			EEHI3158a0	
			J6145	教科総合演習Ⅰ		2	5～6	S	◎			EEHI1159a0	
			J6150	教科総合演習Ⅱ		2	5～6	W	◎			EEHI2160a0	

●教育学科 小学校教育コース　専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	子ども関連	子ども教育領域	J6155	教職演習Ⅰ		2	5～6	S		◎		EEHI1161a0	
			J6160	教職演習Ⅱ		2	5～6	W		◎		EEHI2162a0	
			J6165	教職研究Ⅰ		2	5～6	W		◎		EEHI1163a0	
			J6170	教職研究Ⅱ		2	7～8	S		◎		EEHI2164a0	
			K5860	科学的探究の方法		2	3～4	S	◎			EEHI2165a0	
			K5260	音楽表現Ⅰ		1	1～2	S/W	◎			EEHI1166a0	
			J6185	音楽表現Ⅱ		1	1～2	R7年度開講せず	◎			EEHI2167a0	
			K5265	運動基礎Ⅰ		1	1～2	W	◎			EEHI1168a0	
			K6295	運動基礎Ⅱ		1	1～2	R7年度開講せず	◎			EEHI2169a0	
		子ども理解領域	J6200	多様な子ども理解入門		2	1～2	S	○	◎		EEHJ1170a0	
			J6205	現代の子ども･若者論		2	7～8	R7年度開講せず	◎			EEHJ2171a0	
			J6210	子ども発達環境論		2	5～6	R7年度開講せず	◎			EEHJ2172a0	
			J6215	多様な子どもとメディア		2	1～2	R7年度開講せず	◎			EEHJ2173a0	
			J6220	多様な子どもとICT論（プログラミングを含む）		2	7～8	R7年度開講せず	◎			EEHJ2174a0	
			J6225	多様な子どもと音楽表現		2	3～4	R7年度開講せず	◎			EEHJ2175a0	
			J6230	多様な子どもと造形表現		2	1～2	R7年度開講せず	◎			EEHJ2176a0	
			J6235	世界の子ども事情		2	1～2	R7年度開講せず	◎			EEHJ2177a0	
			J6240	子ども支援ボランティア論		2	3～4	R7年度開講せず			◎	EEHJ2178a0	
			J6245	子ども支援の仕事		2	5～6	R7年度開講せず			◎	EEHJ2179a0	
			J6250	子ども企業研究		2	5～6	R7年度開講せず			◎	EEHJ2180a0	
			J6255	子どもサービス演習		2	7～8	R7年度開講せず			◎	EEHJ2181a0	
			J6260	病児教育論		2	7～8	R7年度開講せず	◎			EEHJ2182a0	
卒業に必要な最低修得単位数													
小学校教育コース					56	42							

1. 履修上、小学校教育コース、幼児教育保育コース、英語教育・小学校コース、保健教育コースの 4 つのコースを設ける。
2. 各コースの教育職員免許状および保育士資格については、別に定める。
3. 必修は学科共通、所属コースから表の通り合計単位数を修得のこと。選択は学科共通、所属コースおよび子ども関連から合計単位数を修得のこと。
   ただし、小学校教育コースの必修については、4 つの領域のうち、いずれか 1 領域から表の通り合計単位数を修得、もしくは 4 つの領域と子ども教育領域・子ども理解領域から合計で 14 単位修得のこと。

（注 1）各授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ 1 単位付与する。
（注 2）各授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ 2 単位付与する。
（注）必修は学科共通、所属コースから表の通り合計単位数を修得のこと。選択は学科共通、所属コースおよび子ども関連から合計単位数を修得のこと。ただし、小学校教育コースの必修については、4 つの領域のうち、いずれか 1 領域から表の通り合計単位数を修得、もしくは 4 つの領域と子ども教育領域・子ども理解領域から 14 単位修得のこと。

教育学部 教育学科 小学校教育コース 履修系統図

身につけるべき能力		領　域	1年次	2年次
①	教員としての自己分析・自己研鑽の力 学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校、子どもに応えることができる専門的知識および実践力、指導力を身に付け、「いい先生」とは何かを常に問い続け、自己の実践を振り返り、自己を高めていくことができる。	教職一般領域	特別支援教育 教職論　S/W 教育心理学　S/W	道徳教育の理論と方法 教育方法・技術（情報通信技術 生徒指導論（進路指導 教育相談の理論と方法（小・中・高・養）
		初等教育領域	教科内容論（国語） 教科内容論（英語） 初等国語科教育法 初等英語科教育法 教科内容論（社会） 教科内容論（算数）	教科内容論（理科） 初等社会科教育法 初等算数科教育法 教科内容論（生活） 教科内容論（音楽） 教科内容論（体育） 教科内容論
		学科共通領域		
		コース共通領域	英語探究の扉 数理探究の扉	子ども理解とケア
		特別支援教育領域	発達障害の理論と指導	特別支援教育概論 知的障害者の心理・生理・病理
		幼児教育領域	日本と世界の幼児教育概説 子育て支援論 幼児と環境	幼児教育課程総論 幼児と健康 幼児理解（教育相談を含む）
		英語教育領域	ベーシックコミュニケーションⅠ 英文法Ⅰ ベーシックコミュニケーションⅡ	英文法Ⅱ ベーシックコミュニケーションⅢ
		数学教育領域	線形代数学 数学的リテラシー コンピュータ概論	代数学Ⅰ 幾何学Ⅰ
		子ども教育領域	世界と教育の研究 音楽表現Ⅰ 運動基礎Ⅰ 音楽表現Ⅱ 運動基礎Ⅱ	社会と教育の研究
		子ども理解領域	世界の子ども事情 多様な子どもとメディア 多様な子どもと造形表現	多様な子どもと音楽表現
②	教員としてふさわしい豊かな人間性 多様な立場、考え方の存在を認め、「いい先生」になるという強い意志と情熱および教員としての使命感や責任感を持ち、子どもの多様なニーズを共感的に理解し、課題の解決に他者と協働して取り組むことができる。	教職一般領域	教育原論　S/W	
		学科共通領域		教育基礎演習Ⅰ インターンシップⅠ
		コース共通領域	パフォーマンス演習	多文化探究の扉
		数学教育領域		
		子ども教育領域		
③	変化する社会、学校で活躍できる力 学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校、子どもを的確に理解し、専門的知識および実践力、指導力を基に協働して課題の解決や改革に取り組み、実現することができる。	教職一般領域		
		学科共通領域		教育学特殊講義（プログラミング教育Ⅰ）
		コース共通領域		
		特別支援教育領域		発達障害と教育方法
		幼児教育領域		
		英語教育領域		中等英語科教育法Ⅰ
		数学教育領域	問い直す数学 数学史と現代数学	中等数学科教育法Ⅰ 子どもの発達と算数・数学
		子ども教育領域		初等国語科教育演習
		子ども理解領域		

（令和５年度入学生用）

※カリキュラムポリシー（CP）はP.116～118を参照してください。

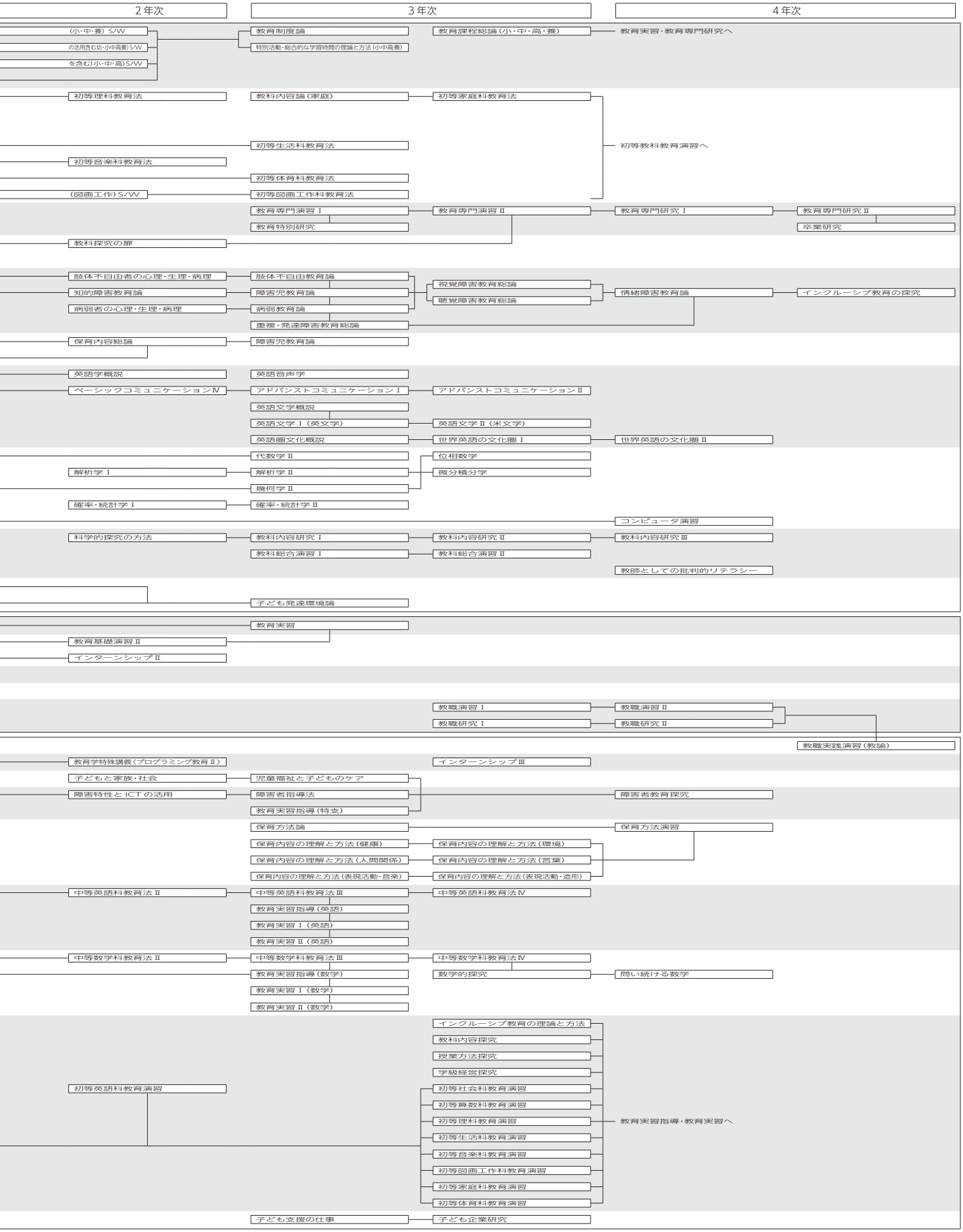
2年次	3年次	4年次
(小・中・養) S/W	教育制度論	教育課程総論(小・中・高・養) → 教育実習・教育専門研究へ
の活用含む)小・中高養)S/W	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法(小中高養)	
を含む)小・中・高)S/W		
初等理科教育法	教科内容論(家庭)	初等家庭科教育法
	初等生活科教育法	初等教科教育演習へ
初等音楽科教育法		
	初等体育科教育法	
(図画工作)S/W	初等図画工作科教育法	
	教育専門演習Ⅰ	教育専門演習Ⅱ → 教育専門研究Ⅰ → 教育専門研究Ⅱ
	教育特別研究	卒業研究
教科探究の扉		
肢体不自由者の心理・生理・病理	肢体不自由教育論	
知的障害教育論	障害児教育論	視覚障害教育総論 / 聴覚障害教育総論 → 情緒障害教育論 → インクルーシブ教育の探究
病弱者の心理・生理・病理	病弱教育論	
	重複・発達障害教育総論	
保育内容総論	障害児教育論	
幼児と言葉		
幼児と人間関係		
幼児と表現Ⅰ	幼児と表現Ⅱ	
英語学概説	英語音声学	
ベーシックコミュニケーションⅣ	アドバンストコミュニケーションⅠ	アドバンストコミュニケーションⅡ
	英語文学概説	
	英語文学Ⅰ(英文学)	英語文学Ⅱ(米文学)
	英語圏文化概説	世界英語の文化圏Ⅰ → 世界英語の文化圏Ⅱ
	代数学Ⅱ	位相数学
解析学Ⅰ	解析学Ⅱ	微分積分学
	幾何学Ⅱ	
確率・統計学Ⅰ	確率・統計学Ⅱ	
		コンピュータ演習
科学的探究の方法	教科内容研究Ⅰ	教科内容研究Ⅱ → 教科内容研究Ⅲ
	教科総合演習Ⅰ	教科総合演習Ⅱ
		教師としての批判的リテラシー
	子ども発達環境論	
	教育実習	
教育基礎演習Ⅱ		
インターンシップⅡ		
		教職演習Ⅰ → 教職演習Ⅱ
		教職研究Ⅰ → 教職研究Ⅱ
		教職実践演習(教諭)
教育学特殊講義〈プログラミング教育Ⅱ〉		インターンシップⅢ
子どもと家族・社会	児童福祉と子どものケア	
障害特性とICTの活用	障害者指導法	障害者教育探究
	教育実習指導(特支)	
	保育方法論	保育方法演習
	保育内容の理解と方法(健康)	保育内容の理解と方法(環境)
	保育内容の理解と方法(人間関係)	保育内容の理解と方法(言葉)
	保育内容の理解と方法(表現活動・音楽)	保育内容の理解と方法(表現活動・造形)
中等英語科教育法Ⅱ	中等英語科教育法Ⅲ	中等英語科教育法Ⅳ
	教育実習指導(英語)	
	教育実習Ⅰ(英語)	
	教育実習Ⅱ(英語)	
中等数学科教育法Ⅱ	中等数学科教育法Ⅲ	中等数学科教育法Ⅳ
	教育実習指導(数学)	数学的探究 → 問い続ける数学
	教育実習Ⅰ(数学)	
	教育実習Ⅱ(数学)	
		インクルーシブ教育の理論と方法
		教科内容探究
		授業方法探究
		学級経営探究
初等英語科教育演習		初等社会科教育演習
		初等算数科教育演習
		初等理科教育演習 → 教育実習指導・教育実習へ
		初等生活科教育演習
		初等音楽科教育演習
		初等図画工作科教育演習
		初等家庭科教育演習
		初等体育科教育演習
	子ども支援の仕事	子ども企業研究

教育学部 教育学科 小学校教育コース 履修系統図

	身につけるべき能力	領　域	1年次	2年次
①	教員としての自己分析・自己研鑽の力 学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校、子どもに応えることができる専門的知識および実践力、指導力を身に付け、「いい先生」とは何かを常に問い続け、自己の実践を振り返り、自己を高めていくことができる。	教職一般領域	特別支援教育 教職論　S/W 教育心理学　S/W	道徳教育の理論と方法 教育方法・技術（情報通信技術 生徒指導論（進路指導 教育相談の理論と方法（小・中・高・養）
		初等教育領域	教科内容論（国語） 教科内容論（英語） 初等国語科教育法 教科内容論（社会） 教科内容論（算数） 初等英語科教育法	教科内容論（理科） 初等社会科教育法 初等算数科教育法 教科内容論（生活） 教科内容論（音楽） 教科内容論（体育） 教科内容論
		学科共通領域		
		コース共通領域	英語探究の扉 数理探究の扉	子ども理解とケア
		特別支援教育領域	発達障害の理論と指導	特別支援教育概論 知的障害者の心理・生理・病理
		幼児教育領域	日本と世界の幼児教育概説 子育て支援論	幼児教育課程総論 幼児理解（教育相談を含む）
		英語教育領域	英文法Ⅰ ベーシックコミュニケーションⅠ ベーシックコミュニケーションⅡ	英文法Ⅱ ベーシックコミュニケーションⅢ
		数学教育領域	線形代数学 数学的リテラシー コンピュータ概論	代数学Ⅰ 幾何学Ⅰ
		子ども教育領域	世界と教育の研究 音楽表現Ⅰ 運動基礎Ⅰ 音楽表現Ⅱ 運動基礎Ⅱ	社会と教育の研究
		子ども理解領域	世界の子ども事情 多様な子どもとメディア 多様な子どもと造形表現	多様な子どもと音楽表現
②	教員としてふさわしい豊かな人間性 多様な立場、考え方の存在を認め、「いい先生」になるという強い意志と情熱および教員としての使命感や責任感を持ち、子どもの多様なニーズを共感的に理解し、課題の解決に他者と協働して取り組むことができる。	教職一般領域	教育原論　S/W	
		学科共通領域		教育基礎演習Ⅰ インターンシップⅠ
		コース共通領域	パフォーマンス演習	多文化探究の扉
		数学教育領域		
		子ども教育領域		
③	変化する社会、学校で活躍できる力 学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校、子どもを的確に理解し、専門的知識および実践力、指導力を基に協働して課題の解決や改革に取り組み、実現することができる。	教職一般領域		
		学科共通領域		教育学特殊講義〈プログラミング教育Ⅰ〉
		コース共通領域		
		特別支援教育領域		発達障害と教育方法
		幼児教育領域		
		英語教育領域		中等英語科教育法Ⅰ
		数学教育領域	問い直す数学 数学史と現代数学	中等数学科教育法Ⅰ 子どもの発達と算数・数学
		子ども教育領域		初等国語科教育演習
		子ども理解領域		

（令和４年度入学生用）

※カリキュラムポリシー（CP）はP.116～118を参照してください。



●教育学科 幼児教育保育コース

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

教育学科幼児教育保育コースは、多様なニーズのある社会、保育施設等、子どもに応えることができる豊かな人間性と幼児教育・保育に関する専門的知識および実践力、指導力を持ち、「いい先生」とは何かを問い、生涯にわたり学び続け、社会や保育施設等で活躍できる優れた保育者になることを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の 3 点とします。

卒業時点において学生が身につけるべき能力

① 保育者としての自己分析・自己研鑽の力
学びや実践を通して多様なニーズのある社会、保育施設等、子どもに応えることができる専門的知識および実践力、指導力を身につけ、「いい先生」とは何かを常に問い続け、自己の実践を振り返り、自己を高めていくことができる。

② 保育者としてふさわしい豊かな人間性
多様な立場、考え方の存在を認め、「いい先生」になるという強い意志と情熱および保育者としての使命感や責任感を持ち、子どもの多様なニーズを共感的に理解し、課題の解決に他者と協働して取り組むことができる。

③ 変化する社会、保育施設等で活躍できる力
学びや実践を通して多様なニーズのある社会、保育施設等、子どもを的確に理解し、専門的知識および実践力、指導力を基に協働して課題の解決や改革に取り組み、実現することができる。

※各科目との対応については授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

教育学科幼児教育保育コースは、幼稚園教諭 1 種免許状、保育士資格、小学校教諭 1 種免許状の取得を基本的な考えとし、就学前の教育・保育から小学校教育への連続性を理解した保育者を養成するための教育課程を編成します。幼児教育・保育の基本である遊びを通した総合的な指導について修得するとともに、保護者と協働して子どもの発達を支援する専門性を身につけるための科目を配置します。講義科目と演習科目をともに配置し、それらを通した学びと実習やインターンシップ等での実践場面との往還を図り、保育者として必要な専門的知識および実践力、指導力を身につけることを目指した教育課程を編成します。

1） 教育・保育の本質や目的に関する科目として、「教育原論」「保育原理」「子ども学概論」「子ども家庭福祉」「保育者論」などの科目を配置します。
2） 教育・保育の対象の理解に関する科目として、「保育の心理学」「子ども家庭支援の心理学」「幼児理解（教育相談を含む）」「子どもの保健」「多様な子ども理解入門」などの科目を配置します。
3） 教育・保育の内容・方法・指導法に関する科目として、「幼児教育課程総論」「保育内容総論」「保育内容の理論と方法（健康）」「子どもと遊び」「音楽実践演習（器楽）」などの科目を配置します。
4） 教育・保育現場での実践力を高める科目として、「インターンシップ」「保育インターンシップ」「教育実習」「保育実習Ⅰ～Ⅲ」などの科目を配置します。
5） 小学校での教科内容や指導法に関する科目として、「教科内容論（国語）」「教科内容論（生活）」「初等算数科教育法」「初等音楽科教育法」「道徳教育の理論と方法（小・中・養）」などの科目を配置します。

【教育方法】

1） 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。

2） 保育実践力の育成に向け、模擬保育室を利用した模擬保育の実施や視聴覚教材等を活用した保育実践の具体化を行い、学修方法の改善に努めます。

3） 最新の教育・保育現場の情報の把握、幼稚園・保育所・認定こども園・児童福祉施設等での保育者の役割等の理解を図るため、「大学基礎演習」や「教育基礎演習」を中心に、本学の卒業生の現役保育者などを招聘し、講習会やセミナーを実施します。

4） 幼稚園・保育所等での実践的な学びを推進するため、2 ～ 3 年次の保育実習・教育実習に加え、1 年次に「大学基礎演習」で「ハローナーサリー」（保育所体験）、2 年次に「インターンシップ」（幼稚園でのインターンシップ）、「保育インターンシップ」（保育所等でのインターンシップ）を実施し、幼稚園・保育所等での教育・保育活動に積極的に参加します。

【学修成果の評価方法】

1） 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2） 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。

3） 評価観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修や課題追求の過程をパフォーマンス評価します。

4） 授業、インターンシップ、実習等での課題活動を通して、保育者として必要な資質・能力や適性を評価します。

5） 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、履修カルテ等）および上記 2）～ 4）等をもとに、担任教員との面談（振り返り等）等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学修方法の改善等を図ります。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

教育学科幼児教育保育コースは、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

⑴ 「いい先生」になるという強い意志と情熱を持って専門的に学びながら「いい先生」とは、と問い続けていくことができること。また、子どもを一人の人間として尊重し、一人ひとりの子どもの「心もち」に寄り添い、発達課題に応じた支援やケアを考えようとすることができること

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

⑵ 本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で習得すべき基礎学力を有し、教育・保育についての学びや実践を、子どもの育ちや子どもが育つ家庭環境や地域社会の状況を考え、広い視野から現代の教育・保育課題を捉えながら、教育・保育活動にいかしていこうとすることができること

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

⑶ 他者や社会との対話を通して自己の考えを表現し、豊かな人間関係を築きながら協働しようとし、探究心と洞察力を持ち、新しい課題にも果敢に挑戦し、実践力、指導力を身につけようとすることができること　〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

●教育学科 幼児教育保育コース　専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	保育士	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	学科共通	教職一般領域	K5010	教育原論	②		○	1～2	S/W	○	◎		EEIA1001a0	教育学部の専門教育科目は他学部・他学科の学生は履修することはできない。
			K5015	特別支援教育	②			1～2	S	◎	○		EEIA1002a0	
			K5020	教職論	②			1～2	W	◎	○		EEIA1003a0	
			K5025	教育心理学	②			1～2	S/W	◎	○		EEIA1004a0	
			J4520	教育制度論	②			5～6	W	◎	○		EEIA1005a0	
			J4525	教育課程総論（小・中・高・養）		②		5～6	W	◎	○		EEIA1006a0	
			J4530	道徳教育の理論と方法（小・中・養）		②		7～8	S	◎	○		EEIA1007a0	
			J4535	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（小中高養）		②		7～8	W	◎	○		EEIA1008a0	
			J4541	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	②			5～6	W	◎	○		EEIA1009a0	
			J4545	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）		②		7～8	S	◎	○		EEIA1010a0	
			J4550	教育相談の理論と方法（小・中・高・養）	②			5～6	W	◎	○		EEIA1011a0	
			J4555	教育実習指導		①		5～6	S	◎	○		EEIA2012a0	
			J4560	教育実習		④		5～6	S		◎	○	EEIA3013a0	
			J4570	教職実践演習（教諭）		②		7～8	W	○	○	◎	EEIA3014a0	
		初等教育領域	K5080	教科内容論（国語）	②			3～4	S	◎			EEIB1015a0	
			K5085	教科内容論（社会）	②			3～4	W	◎			EEIB1016a0	
			K5090	教科内容論（算数）	②			3～4	S/W	◎			EEIB1017a0	
			K5095	教科内容論（理科）	②			3～4	S/W	◎			EEIB1018a0	
			K5100	教科内容論（生活）		②		1～2	W	◎			EEIB1019a0	
			K5105	教科内容論（音楽）		②		1～2	S	◎			EEIB1020a0	
			K5110	教科内容論（図画工作）		②		3～4	S/W	◎			EEIB1021a0	
			J4610	教科内容論（家庭）		②		3～4	S	◎			EEIB1822a0	令和4年度入学生
			J4610	教科内容論（家庭）		②		5～6	S	◎			EEIB1022a0	令和5年度入学生
			K5120	教科内容論（体育）		②		3～4	S/W	◎			EEIB1023a0	
			J4620	教科内容論（英語）	②			5～6	S	◎			EEIB1024c0	
			K5130	初等国語科教育法		①		3～4	W	◎		○	EEIB2025a0	
			J4630	初等社会科教育法		①		5～6	S	◎		○	EEIB2026a0	
			J4635	初等算数科教育法		①		5～6	S	◎		○	EEIB2027a0	
			J4640	初等理科教育法		①		5～6	W	◎		○	EEIB2028a0	
			J4645	初等生活科教育法		①		3～4	S	◎		○	EEIB2029a0	
			K5155	初等音楽科教育法		①		3～4	S/W	◎		○	EEIB2030a0	
			J4655	初等図画工作科教育法		①		5～6	S	◎		○	EEIB2031a0	
			J4660	初等家庭科教育法		①		5～6	W	◎		○	EEIB2032a0	
			J4665	初等体育科教育法		①		5～6	W	◎		○	EEIB2033a0	
			J4670	初等英語科教育法		①		5～6	W	◎		○	EEIB2034c0	

●教育学科 幼児教育保育コース　専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	保育士	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	学科共通	学科共通領域	K5180	教育基礎演習Ⅰ	2			3～4	S	○	◎		EEIC1035a0	
			K5185	教育基礎演習Ⅱ	2			3～4	W	○	◎		EEIC1036a0	
			J4685	教育専門演習Ⅰ	2			5～6	S	◎		○	EEIC2037a0	
			J4690	教育専門演習Ⅱ	2			5～6	W	◎		○	EEIC2038a0	
			J4695	教育専門研究Ⅰ	2			7～8	S	◎		○	EEIC3039a0	
			J4700	教育専門研究Ⅱ	2			7～8	W	◎		○	EEIC3040a0	
			K5220	インターンシップⅠ		2		3～4	S	○	◎		EEIC2041a0	
			K5225	インターンシップⅡ		1		3～4	W	○	◎		EEIC2042a0	
			J4716	インターンシップⅢ		1		5～6	W	○	○	◎	EEIC3043a0	
				卒業研究		4		7～8		◎			EEIC3044a0	
				教育特別研究(注1)		1				◎				
				教育学特殊講義(注2)		2				◎				
			J4784	〈児童英語教育実践研究Ⅰ〉		2		3～4	S	◎			EEHC1146c0	
			J4785	〈児童英語教育実践研究Ⅱ〉		2		3～4	W	◎			EEHC2147c0	
			K5215	〈プログラミング教育Ⅰ〉		2		3～4	S	○		◎	EEHC1148a0	
	幼児教育保育コース	コース共通領域	K6310	音楽への扉	2		△	1～2	S	◎			EEID1045a0	
			J4866	パフォーマンス演習		2		1～2	R7年度開講せず		◎		EEID2046a0	
			J4870	子どもと家族・社会		2		3～4	S		○	◎	EEID1047a0	
			J4875	子ども理解とケア		2		3～4	R7年度開講せず	◎	○		EEID1048a0	
			J4880	児童福祉と子どものケア		2		5～6	R7年度開講せず		○	◎	EEID1049a0	
		幼児保育領域	K6285	子ども学概論		2	○	1～2	W	◎	○		EEIE1050a0	
			K6180	保育原理		2	○	1～2	S	◎	○		EEIE1051a0	
			K6185	子ども家庭福祉		2	○	1～2	S	◎	○		EEIE1052a0	
			K6190	社会福祉		2	○	3～4	S	◎			EEIE1053a0	
			J5420	子ども家庭支援論		2	○	5～6	W	◎			EEIE2054a0	
			K6200	社会的養護Ⅰ		2	○	1～2	W	◎			EEIE1055a0	
			K6205	保育者論	2		○	1～2	W	○	◎		EEIE1056a0	
			K6210	保育の心理学		2	○	3～4	S	◎			EEIE1057a0	
			K6215	子ども家庭支援の心理学		2	○	3～4	W	◎			EEIE2058a0	
			K6220	子どもの保健		2	○	1～2	W	◎			EEIE1059a0	
			J5450	子どもの食と栄養		2	○	5～6	S	◎			EEIE1060a0	
			K6100	幼児教育課程総論		②	○	3～4	S	◎	○		EEIE1061a0	
			J5460	保育方法論		②	△	5～6	W	◎		○	EEIE2062a0	
			K6110	幼児理解（教育相談を含む）		②	○	3～4	W	◎			EEIE1063a0	
			K6115	幼児と健康		②		1～2	W				EEIE1140a0	令和5年度入学生

●教育学科 幼児教育保育コース　専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	保育士	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	幼児教育保育コース	幼児保育領域	K6120	幼児と人間関係		②		3～4	S				EEIE1141a0	令和5年度入学生
			K6125	幼児と環境		②		1～2	S				EEIE1142a0	令和5年度入学生
			K6130	幼児と言葉		②		1～2	W				EEIE1143a0	令和5年度入学生
			K6135	幼児と表現Ⅰ		②		3～4	S				EEIE1144a0	令和5年度入学生
			K6140	幼児と表現Ⅱ		②		3～4	W				EEIE1145a0	令和5年度入学生
			K6175	保育内容総論	②		○	1～2	S	◎			EEIE1064a0	
			K6145	保育内容の理論と方法（健康）	②		○	3～4	S	◎		○	EEIE2065a0	
			K6150	保育内容の理論と方法（人間関係）	②		○	3～4	W	◎		○	EEIE2066a0	
			K6155	保育内容の理論と方法（環境）	②		○	1～2	W	◎		○	EEIE2067a0	
			K6160	保育内容の理論と方法（言葉）	②		○	3～4	S	◎		○	EEIE2068a0	
			J5495	保育内容の理論と方法（表現活動・音楽）	②		○	5～6	S	◎		○	EEIE2069a0	
			J5500	保育内容の理論と方法（表現活動・造形）	②		○	5～6	S	◎		○	EEIE2070a0	
			K6230	子どもと遊び		2	○	1～2	S	◎	○		EEIE1071a0	
			K6315	音楽実践演習（声楽）		1	△	1～2	W	◎		○	EEIE1072a0	
			K6235	音楽実践演習（器楽）		1	○	3～4	S	◎		○	EEIE2073a0	
			K6320	音楽実践演習（弾き歌い）		1	△	3～4	W	◎		○	EEIE2074a0	
			K6245	子どもと造形表現		1	○	3～4	W	◎		○	EEIE1075a0	
			J5530	小児体育		1	○	5～6	S	◎		○	EEIE2076a0	
			K6250	乳児保育Ⅰ		2	○	3～4	S	◎			EEIE1077a0	
			K6255	乳児保育Ⅱ		1	○	3～4	W	◎		○	EEIE2078a0	
			K6260	子どもの健康と安全		1	○	3～4	W	◎		○	EEIE2079a0	
			K6265	障害児保育		2	○	3～4	W	◎		○	EEIE2080a0	
			K6270	社会的養護Ⅱ		1	○	3～4	W	◎		○	EEIE2081a0	
			J5560	子育て支援		1	○	5～6	S	◎		○	EEIE2082a0	
			J5565	フィールドワーク演習（子ども支援）		1	△	7～8	R7年度開講せず		○	◎	EEIE3083a0	
			J5570	フィールドワーク演習（子育て支援）		1	△	7～8	S		○	◎	EEIE3084a0	
			K6325	保育インターンシップ		2	△	3～4	W	○	◎		EEIE2085a0	
			J5580	保育実践演習		2	○	7～8	W	○	○	◎	EEIE3086a0	
			K6330	保育実習指導Ⅰ（保育所）		1	○	3～4	W	◎	○		EEIE1087a0	
			J5590	保育実習指導Ⅰ（施設）		1	○	5～6	S	◎	○		EEIE1088a0	
			J5600	保育実習Ⅰ（施設）		2	○	5～6	S	◎	○		EEIE2089a0	
			K6340	保育実習Ⅰ（保育所）		2	○	3～4	W	◎	○		EEIE2090a0	
			J5620	保育実習指導Ⅱ（保育所）		1	㋐	5～6	W	○	○	◎	EEIE2091a0	
			J5625	保育実習指導Ⅲ（施設）		1	㋑	5～6	W	○	○	◎	EEIE2092a0	

●教育学科 幼児教育保育コース　専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	保育士	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	幼児教育保育コース	幼児保育領域	J5630	保育実習Ⅱ（保育所）		2	㋐	5～6	W	○	○	◎	EEIE3093a0	
			J5640	保育実習Ⅲ（施設）		2	㋑	5～6	W	○	○	◎	EEIE3094a0	
	子ども関連	子ども教育領域	J6040	教師としての批判的リテラシー		2		7～8	R7年度開講せず	◎	○	○	EEIF2095a0	
			J6045	幼保小中接続研究		2	△	3～4	R7年度開講せず	◎			EEIF2096a0	
			J6050	インクルーシブ教育の理論と方法		2		5～6	W	○	○	◎	EEIF2097a0	
			J6055	社会と教育の研究		2		3～4	R7年度開講せず	◎	○		EEIF1098a0	
			J6060	世界と教育の研究		2		1～2	R7年度開講せず	◎	○		EEIF1099a0	
			J6065	教科内容探究		2		5～6	W	○		◎	EEIF2100a0	
			J6070	授業方法探究		2		5～6	W	○		◎	EEIF2101a0	
			J6075	学級経営探究		2		5～6	R7年度開講せず		○	◎	EEIF2102a0	
			J6080	初等国語科教育演習		1		3～4	R7年度開講せず	○		◎	EEIF2103a0	
			J6085	初等社会科教育演習		1		5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEIF2104a0	
			J6090	初等算数科教育演習		1		5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEIF2105a0	
			J6095	初等理科教育演習		1		5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEIF2106a0	
			J6100	初等生活科教育演習		1		5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEIF2107a0	
			J6105	初等音楽科教育演習		1		5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEIF2108a0	
			J6110	初等図画工作科教育演習		1		5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEIF2109a0	
			J6115	初等家庭科教育演習		1		5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEIF2110a0	
			J6120	初等体育科教育演習		1		5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEIF2111a0	
			J6125	初等英語科教育演習		1		3～4	R7年度開講せず	○		◎	EEIF2112a0	
			J6130	教科内容研究Ⅰ		2		5～6	W	◎			EEIF1113a0	
			J6135	教科内容研究Ⅱ		2		7～8	S	◎			EEIF2114a0	
			J6140	教科内容研究Ⅲ		2		7～8	R7年度開講せず	◎			EEIF2115a0	
			J6145	教科総合演習Ⅰ		2		5～6	S	◎			EEIF2116a0	
			J6150	教科総合演習Ⅱ		2		5～6	W	◎			EEIF2117a0	
			J6155	教職演習Ⅰ		2		5～6	S		◎		EEIF2118a0	
			J6160	教職演習Ⅱ		2		5～6	W		◎		EEIF3119a0	
			J6165	教職研究Ⅰ		2		5～6	W		◎		EEIF2120a0	
			J6170	教職研究Ⅱ		2		7～8	S		◎		EEIF3121a0	
			K5860	科学的探究の方法		2		3～4	S	◎			EEIF2122a0	
			K5260	音楽表現Ⅰ		1		1～2	S/W	◎			EEIF1123a0	
			J6185	音楽表現Ⅱ		1		1～2	R7年度開講せず	◎			EEIF2124a0	
			K5265	運動基礎Ⅰ		1		1～2	W	◎			EEIF1125a0	
			J6195	運動基礎Ⅱ		1		1～2	R7年度開講せず	◎			EEIF2126a0	

●教育学科 幼児教育保育コース　専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	保育士	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	子ども関連	子ども理解領域	K6295	多様な子ども理解入門		2	△	1～2	S	○	◎		EEIG1127a0	
			J6205	現代の子ども･若者論		2		7～8	R7年度開講せず	◎			EEIG2128a0	
			J6210	子ども発達環境論		2		5～6	R7年度開講せず	◎			EEIG2129a0	
			J6215	多様な子どもとメディア		2		1～2	R7年度開講せず	◎			EEIG1130a0	
			J6220	多様な子どもとICT論（プログラミングを含む）		2		7～8	R7年度開講せず	◎			EEIG2131a0	
			J6225	多様な子どもと音楽表現		2		3～4	R7年度開講せず	◎			EEIG2132a0	
			J6230	多様な子どもと造形表現		2		1～2	R7年度開講せず	◎			EEIG2133a0	
			J6235	世界の子ども事情		2		1～2	R7年度開講せず	◎			EEIG1134a0	
			J6240	子ども支援ボランティア論		2		3～4	R7年度開講せず			◎	EEIG1135a0	
			J6245	子ども支援の仕事		2		5～6	R7年度開講せず			◎	EEIG2136a0	
			J6250	子ども企業研究		2		5～6	R7年度開講せず			◎	EEIG1137a0	
			J6255	子どもサービス演習		2		7～8	R7年度開講せず			◎	EEIG2138a0	
			J6260	病児教育論		2		7～8	R7年度開講せず	◎			EEIG2139a0	
卒業に必要な最低修得単位数														
幼児教育保育コース					54	44								

1. 履修上、小学校教育コース、幼児教育保育コース、英語教育・小学校コース、保健教育コースの 4 つのコースを設ける。
2. 各コースの教育職員免許状および保育士資格については、別に定める。
3. 必修は学科共通、所属コースから表の通り合計単位数を修得のこと。選択は学科共通、所属コースおよび子ども関連から合計単位数を修得のこと。
   ただし、小学校教育コースの必修については、4 つの領域のうち、いずれか 1 領域から表の通り合計単位数を修得、もしくは 4 つの領域と子ども教育領域・子ども理解領域から合計で 14 単位修得のこと。

（注 1）各授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ 1 単位付与する。
（注 2）各授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ 2 単位付与する。
（注）必修は学科共通、所属コースから表の通り合計単位数を修得のこと。選択は学科共通、所属コースおよび子ども関連から合計単位数を修得のこと。

履修する際の注意点

※　**保育士資格（p.266 ～参照）**

○：必修

△：選択必修

㋐～㋑：㋐「保育実習指導Ⅱ（保育所）」、「保育実習Ⅱ（保育所）」または㋑「保育実習指導Ⅲ（施設）」、「保育実習Ⅲ（施設）」3 単位は必ず修得すること。

共通教育科目「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」のいずれかと「英語Ⅰ・Ⅱ」、「スポーツⅠ」、「体育講義」は必修

※　**保育士養成課程科目の履修要件**

授　業　科　目	履　修　要　件
「保育実習Ⅰ（保育所）」 および 「保育実習指導Ⅰ（保育所）」	履修する前セメスターまでに、次の要件を満たしていること。 • 卒業に必要となる修得単位数が、基礎教育科目「和の精神Ⅰ」および「和の精神Ⅱ」の 2 単位を含んで 65 単位以上であること。 • 専門教育科目「教育原論」、「保育原理」、「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「社会的養護Ⅰ」、「保育者論」、「保育内容総論」、「乳児保育Ⅰ」、「子どもの保健」のうち 7 科目 14 単位以上、および「音楽への扉」を修得していること。
「保育実習Ⅰ（施設）」 および 「保育実習指導Ⅰ（施設）」	履修する前セメスターまでに、次の要件を満たしていること。 • 卒業に必要となる修得単位数が、基礎教育科目「和の精神Ⅰ」および「和の精神Ⅱ」の 2 科目 2 単位を含んで 65 単位以上であること。 • 専門教育科目「保育原理」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」の 3 科目 6 単位を修得していること。
「保育実習Ⅱ（保育所）」 または 「保育実習Ⅲ（施設）」	• 履修する前セメスターまでに、卒業に必要となる修得単位数が、専門教育科目「音楽実践演習（声楽）」「音楽実践演習（弾き歌い）」を含んで 100 単位以上であること。 • 履修する前セメスターまでに「保育実習Ⅰ（保育所）」および「保育実習Ⅰ（施設）」を終えていること。

教育学部 教育学科 幼児教育保育コース 履修系統図

	身につけるべき能力	領　域	1年次		2年次
①	保育者としての自己分析・自己研鑽の力 学びや実践を通して多様なニーズのある社会、保育施設等、子どもに応えることができる専門的知識および実践力、指導力を身につけ、「いい先生」とは何かを常に問い続け、自己の実践を振り返り、自己を高めていくことができる。	教職一般領域	教職論	教育心理学	
			特別支援教育		
		初等教育領域	教科内容論(生活)		初等生活科教育法
			教科内容論(音楽)		初等音楽科教育法
					教科内容論(国語)
					教科内容論(社会)
					教科内容論(算数)
					教科内容論(理科)
					教科内容論(図画工作)
					教科内容論(家庭)
					教科内容論(体育)
		学科共通領域	教育学特殊講義		
		コース共通領域	音楽への扉		子ども理解とケア
		幼児保育領域	子ども学概論	保育原理	社会福祉
			子ども家庭福祉	社会的養護Ⅰ	社会的養護Ⅱ
			子どもの保健		子どもの健康と安全
					幼児教育課程総論
			幼児と環境	保育内容理論と方法(環境)	
				幼児と健康	保育内容理論と方法(健康)
			保育内容総論	幼児と言葉	
			子どもと遊び		幼児と人間関係
					幼児と表現Ⅰ
			音楽実践演習(声楽)		音楽実践演習(器楽)
					子どもと造形表現
					乳児保育Ⅰ
					保育実習指導Ⅰ(保育所)
		子ども教育領域	世界と教育の研究		社会と教育の研究
			音楽表現Ⅰ	音楽表現Ⅱ	
			運動基礎Ⅰ	運動基礎Ⅱ	
		子ども理解領域	多様な子どもとメディア	多様な子どもと造形表現	多様な子どもと音楽表現
			世界の子ども事情		
					教育学特殊講義〈児童英語教育実践研究Ⅰ〉
					教育学特殊講義〈教職数学演習〉
②	保育者としてふさわしい豊かな人間性 多様な立場、考え方の存在を認め、「いい先生」になるという強い意志と情熱および保育者としての使命感や責任感を持ち、子どもの多様なニーズを共感的に理解し、課題の解決に他者と協働して取り組むことができる。	教職一般領域	教育原論		
		学科共通領域			教育基礎演習Ⅰ
					インターンシップⅠ
		コース共通領域	パフォーマンス演習		
		幼児保育領域	保育者論		保育インターンシップ
		子ども教育領域			
		子ども理解領域	多様な子ども理解入門		
③	変化する社会、保育施設等で活躍できる力 学びや実践を通して多様なニーズのある社会、保育施設等、子どもを的確に理解し、専門的知識および実践力、指導力を基に協働して課題の解決や改革に取り組み、実現することができる。	教職一般領域			
		学科共通領域			
		コース共通領域			子どもと家族・社会
		幼児保育領域			
		子ども教育領域			
		子ども理解領域			子ども支援ボランティア論
					教育学特殊講義〈プログラミング教育Ⅰ〉

（令和 5 年度入学生用）

※カリキュラムポリシー（CP）は P.130・131 を参照してください。

2 年次	3 年次		4 年次	
セル幅：318.5 mm	教育制度論	教育課程総論（小・中・高・養）	道徳教育の理論と方法（小・中・養）	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（小中高養）
	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	教育相談の理論と方法（小・中・高・養）	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	
初等国語科教育法	教科内容論（英語）	初等英語科教育法		
	初等社会科教育法			
	初等算数科教育法			
	初等理科教育法			
	初等図画工作科教育法			
	初等家庭科教育法			
	初等体育科教育法			
	教育専門演習Ⅰ	教育専門演習Ⅱ	教育専門研究Ⅰ	教育専門研究Ⅱ
	教育特別研究			卒業研究
保育の心理学	子育て支援			
子ども家庭支援の心理学	子ども家庭支援論			
障害児保育	子どもの食と栄養			
幼児理解（教育相談を含む）	保育方法論			
保育内容理論と方法（言葉）				
保育内容理論と方法（人間関係）				
	保育内容理論と方法（表現活動　音楽）			
幼児と表現Ⅱ	保育内容理論と方法（表現活動・造形）			
音楽実践演習（弾き歌い）	小児体育			
乳児保育Ⅱ				
保育実習Ⅰ（保育所）	保育実習指導Ⅰ（施設）	保育実習Ⅰ（施設）		
幼保小中接続研究	教科内容研究Ⅰ	教科内容研究Ⅱ	教科内容研究Ⅲ	
	教科総合演習Ⅰ	教科総合演習Ⅱ	教師としての批判的リテラシー	
	科学的探究の方法			
	子ども発達環境論		現代の子ども・若者論	病児教育論
			多様な子どもと ICT 論（プログラミングを含む）	
教育学特殊講義（児童英語教育実践研究Ⅱ）				
	教育実習指導	教育実習		
教育基礎演習Ⅱ				
	教職演習Ⅰ		教職演習Ⅱ	
	教職研究Ⅰ		教職研究Ⅱ	
			教育実践演習（教諭）	
	児童福祉と子どものケア			
	保育実習指導Ⅱ（保育所）	保育実習Ⅱ（保育所）	フィールドワーク演習（子ども支援）	保育実践演習
	保育実習指導Ⅲ（施設）	保育実習Ⅲ（施設）	フィールドワーク演習（子育て支援）	
	初等国語科教育演習	初等英語科教育演習		
	初等社会科教育演習	初等算数科教育演習		
	初等理科教育演習	初等生活科教育演習		
	初等音楽科教育演習	初等図画工作科教育演習		
	初等家庭科教育演習	初等体育科教育演習		
	インクルーシブ教育の理論と方法	教科内容探究		
	授業方法探究	学級経営探究		
	子ども支援の仕事	子ども企業研究	子どもサービス演習	
教育学特殊講義（プログラミング教育Ⅱ）				

教育学部 教育学科 幼児教育保育コース 履修系統図

	身につけるべき能力	領域	1年次		2年次
①	保育者としての自己分析・自己研鑽の力 学びや実践を通して多様なニーズのある社会、保育施設等、子どもに応えることができる専門的知識および実践力、指導力を身につけ、「いい先生」とは何かを常に問い続け、自己の実践を振り返り、自己を高めていくことができる。	教職一般領域	教職論	教育心理学	
			特別支援教育		
		初等教育領域	教科内容論(生活)		初等生活科教育法
			教科内容論(音楽)		初等音楽科教育法
					教科内容論(国語)
					教科内容論(社会)
					教科内容論(算数)
					教科内容論(理科)
					教科内容論(図画工作)
					教科内容論(家庭)
					教科内容論(体育)
		学科共通領域	教育学特殊講義		
		コース共通領域	音楽への扉		子ども理解とケア
		幼児保育領域	子ども学概論	保育原理	社会福祉
			子ども家庭福祉	社会的養護Ⅰ	社会的養護Ⅱ
			子どもの保健		子どもの健康と安全
					幼児教育課程総論
			保育内容総論	保育内容の理論と方法(環境)	保育内容の理論と方法(健康)
			子どもと遊び		
			音楽実践演習(声楽)		音楽実践演習(器楽)
					子どもと造形表現
					乳児保育Ⅰ
					保育実習指導Ⅰ(保育所)
		子ども教育領域	世界と教育の研究		社会と教育の研究
			音楽表現Ⅰ	音楽表現Ⅱ	
			運動基礎Ⅰ	運動基礎Ⅱ	
		子ども理解領域	多様な子どもとメディア	多様な子どもと造形表現	多様な子どもと音楽表現
			世界の子ども事情		
					教育学特殊講義〈児童英語教育実践研究Ⅰ〉
					教育学特殊講義〈教職数学演習〉
②	保育者としてふさわしい豊かな人間性 多様な立場、考え方の存在を認め、「いい先生」になるという強い意志と情熱および保育者としての使命感や責任感を持ち、子どもの多様なニーズを共感的に理解し、課題の解決に他者と協働して取り組むことができる。	教職一般領域	教育原論		
		学科共通領域			教育基礎演習Ⅰ
					インターンシップⅠ
		コース共通領域	パフォーマンス演習		
		幼児保育領域	保育者論		保育インターンシップ
		子ども教育領域			
		子ども理解領域	多様な子ども理解入門		
③	変化する社会、保育施設等で活躍できる力 学びや実践を通して多様なニーズのある社会、保育施設等、子どもを的確に理解し、専門的知識および実践力、指導力を基に協働して課題の解決や改革に取り組み、実現することができる。	教職一般領域			
		学科共通領域			
		コース共通領域			子どもと家族・社会
		幼児保育領域			
		子ども教育領域			
		子ども理解領域			子ども支援ボランティア論
					教育学特殊講義〈プログラミング教育Ⅰ〉

（令和４年度入学生用）

※カリキュラムポリシー（CP）はP.130・131を参照してください。

2年次	3年次		4年次	
	教育制度論	教育課程総論（小・中・高・養）	道徳教育の理論と方法（小・中・養）	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（小中高養）
	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	教育相談の理論と方法（小・中・高・養）	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	
初等国語科教育法	教科内容論（英語）	初等英語科教育法		
	初等社会科教育法			
	初等算数科教育法			
	初等理科教育法			
	初等図画工作科教育法			
	初等家庭科教育法			
	初等体育科教育法			
	教育専門演習Ⅰ	教育専門演習Ⅱ	教育専門研究Ⅰ	教育専門研究Ⅱ
	教育特別研究			卒業研究
保育の心理学	子育て支援			
子ども家庭支援の心理学	子ども家庭支援論			
障害児保育	子どもの食と栄養			
幼児理解（教育相談を含む）	保育方法論			
保育内容の理論と方法（人間関係）	保育内容の理論と方法（表現活動・音楽）			
保育内容の理論と方法（言葉）	保育内容の理論と方法（表現活動・造形）			
音楽実践演習（弾き歌い）	小児体育			
乳児保育Ⅱ				
保育実習Ⅰ（保育所）	保育実習指導Ⅰ（施設）	保育実習Ⅰ（施設）		
幼保小中接続研究	教科内容研究Ⅰ	教科内容研究Ⅱ	教科内容研究Ⅲ	
	教科総合演習Ⅰ	教科総合演習Ⅱ	教師としての批判的リテラシー	
	科学的探究の方法			
	子ども発達環境論		現代の子ども・若者論	病児教育論
			多様な子どもとICT論（プログラミングを含む）	
教育学特殊講義（児童英語教育実践研究Ⅱ）				
	教育実習指導	教育実習		
教育基礎演習Ⅱ				
	教職演習Ⅰ		教職演習Ⅱ	
	教職研究Ⅰ		教職研究Ⅱ	
			教職実践演習（教諭）	
	児童福祉と子どものケア			
	保育実習指導Ⅱ（保育所）	保育実習Ⅱ（保育所）	フィールドワーク演習（子ども支援）	保育実践演習
	保育実習指導Ⅲ（施設）	保育実習Ⅲ（施設）	フィールドワーク演習（子育て支援）	
	初等国語科教育演習	初等英語科教育演習		
	初等社会科教育演習	初等算数科教育演習		
	初等理科教育演習	初等生活科教育演習		
	初等音楽科教育演習	初等図画工作科教育演習		
	初等家庭科教育演習	初等体育科教育演習		
	インクルーシブ教育の理論と方法	教科内容探究		
	授業方法探究	学級経営探究		
	子ども支援の仕事	子ども企業研究	子どもサービス演習	
教育学特殊講義（プログラミング教育Ⅱ）				

●教育学科 英語教育・小学校コース

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

英語教育・小学校コースは、建学の精神にある「利他」（自分の利益を考えずに他人の利益を優先し、他人の幸福を願うこと）を主体的に実践し、日本国憲法および教育基本法の理念である「外国語（英語）教育を通じた人格の向上と国際平和に寄与できる国民」の育成に貢献できる教育者を育てることを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の３点とします。

卒業時点において学生が身につけるべき能力

① 異文化対応能力
異文化にかかわる多様な事象に興味と関心を持ち、自己と他者への理解を深め、豊かな人間性と、他者と協働する態度を身につけている。

② 自己表現力
中学校・高等学校の英語教員に相応しい英語能力を修得し、教員としての基本的専門的知識を体系的に身につけている。また、自身の考えや意見を、日本語や英語などで的確に表現し、他者に伝える能力を身につけている。

③ 思考力・判断力
英語の能力を養い、教員としての論理的思考、問題発見解決力、判断力を身につけている。

※各科目との対応については授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

教育学科英語教育・小学校コースの教育課程は、「基礎教育科目」、「共通教育科目」、「専門教育科目」の三つの科目群を柱として構成します。英語教育の重要性がますます高まる中、中学校・高等学校における英語教育を担当するのに十分な英語力・指導力を備えた教員を養成します。

1） 1年次は、専門知識を修得するとともに、幅広い教養を身につけ、教職への関心を高め、意欲の向上を図ります。同時に、教育者として必要なコミュニケーション能力や表現力を養います。「ことばへの扉」、「英語学概説」、「英語音声学」、「英文法Ⅰ・Ⅱ」、「中等英語科教育法Ⅰ」、「ベーシックコミュニケーションⅠ・Ⅱ」、「英語圏文化概説」などを開講しています。

2） 2年次は、1年次での学びを深め、広げていくと共に、十分な英語力・指導力を備えた教員を目指し、より実践的な科目を履修します。「英語文学概説」、「英語文学Ⅰ・Ⅱ」、「中等英語科教育法Ⅱ・Ⅲ」、「英語学特論Ⅱ（英語教授法）」、「ベーシックコミュニケーションⅢ・Ⅳ」、「世界英語の文化圏Ⅰ・Ⅱ」などを開講します。

3） 3年次は、2年間の学びを基礎にさらなる充実を図り、教育現場での英語教諭の職務と役割を理解し、総合的な教育力・使命感・責任感を身につけます。「第二言語習得論」、「英語学特論Ⅰ（認知言語学）」、「中等英語科教育法Ⅳ」、「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「アドバンストコミュニケーションⅠ・Ⅱ」、「教育実習指導（英語）」、「教育実習Ⅰ・Ⅱ（英語）」などを開講します。

4） 4年次は、大学生活の集大成として、これまでに学んだ知識と教育実習で修得した教科指導力を統合し、使命感や責任感、学識と技能、実践的な指導力を有する英語教諭としての資質の構築とその確認を行います。「教職実践演習（教諭）」「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究」などを開講しています。

【教育方法】

1） 講義および演習では、教員の講義だけでなく、学生による発表やディスカッション、グループワーク等のアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた双方向的授業を展開しています。

2） 少人数制を活かし、数多くの模擬授業を学生に体験させています。模擬授業では一般教室に加え ICT 教室も利用し、電子黒板やタブレット等の ICT を活用した効果的な学修方法を教員と学生がともに模索しています。
3） インターネットを利用した授業支援システム（IBU.net）を導入し、授業時間外での課題の提示や双方向の議論を可能にしています。
4） 最近の教育現場の状況を把握し英語教諭の役割を理解するために、本学の卒業生や現役の教諭を招聘し、講演会やセミナーを実施しています。
5） 教育実習に加え、学校インターシップ、地域の学校ボランティア活動を通して、授業方法の他に諸活動や学校運営について学び、教育の実践力を高めます。

【学修成果の評価方法】

1） 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
2） 知識の理解を確認する定期試験および授業内小テストや課題レポート、ならびに授業への参加態度や意欲、学生による授業評価などにより、各科目がシラバスに明示した目標への到達度を総合的に評価します。
3） 評価観点とレベルを示したルーブリックなどを用いて、自己評価と他者による評価をもとに、学修成果を客観的に把握します。
4） 講義（重要事項の知識の修得）・教育実習（小・中・高）・介護等体験などの課題活動を通して、教員として必要な資質能力が身についているかを振り返る自己評価シート（履修カルテ）を定期的に点検し、教育者としての適性を評価します。
5）「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」において、学生自らが課題を見つけ、「卒業研究」として発表し、教員がその研究の課程と成果を評価します。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

教育学科英語教育・小学校コースでは、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

⑴ 建学の精神を理解し、「利他」の精神を実践できること
〔求める要素：関心・意欲・態度、主体性・多様性・協働性〕
⑵ 英語を通して異文化の窓口となれること
〔求める要素：関心・意欲・態度、知識・技能、主体性・多様性・協働性〕
⑶ 英語についての知識（英語の文法・語法および歴史や文化）と英語を実際に使う技能の両方を向上させるための努力を惜しまないこと 〔求める要素：関心・意欲・態度〕
⑷ 入学の段階で論理的・批判的思考に耐えうる英語力を身につけていることに加えて「英語が好きである」「外国語に興味がある」ということ 〔求める要素：思考力・判断力、関心・意欲・態度〕
⑸ 外国語として英語を学ぶ生徒のロールモデルとしての教員の役割を自覚し、英語で英語を教える力をつけるための努力を惜しまないこと
〔求める要素：関心・意欲・態度、表現力、主体性・多様性・協働性〕
⑹ 英語を苦手とする生徒・児童の気持ちを理解し、心に寄り添えること
〔求める要素：関心・意欲・態度、表現力、主体性・多様性・協働性〕
⑺ 入学後、国内外の英語研修や自主勉強会などに積極的に参加し、自らの英語力を高めようという意欲があること 〔求める要素：関心・意欲・態度、主体性・多様性・協働性〕

●教育学科英語教育・小学校コース　専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	学科共通	教職一般領域	K5010	教育原論	②		1～2	S/W	○	◎		EEJA1001a0	教育学部の専門教育科目は他学部・他学科の学生は履修することはできない。
			K5015	特別支援教育	②		1～2	S	◎	○		EEJA1002a0	
			K5020	教職論	②		1～2	W	◎	○		EEJA1003a0	
			K5025	教育心理学	②		1～2	S/W	◎	○		EEJA1004a0	
			J4520	教育制度論	②		5～6	S	◎	○		EEJA1005a0	
			J4525	教育課程総論（小・中・高・養）		②	5～6	S	◎	○		EEJA1006a0	
			K5040	道徳教育の理論と方法（小・中・養）		②	3～4	W	◎	○		EEJA1007a0	
			J4535	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（小中高養）		②	5～6	S	◎	○		EEJA1008a0	
			K5050	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	②		3～4	S/W	◎	○		EEJA1009a0	
			K5055	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）		②	3～4	W	◎	○		EEJA1010a0	
			K5060	教育相談の理論と方法（小・中・高・養）	②		3～4	S/W	◎	○		EEJA1011a0	
			J4555	教育実習指導		①	5～6	S	◎	○		EEJA2012a0	
			J4560	教育実習		④	5～6	S		◎	○	EEJA3013a0	
			J4570	教職実践演習（教諭）		②	7～8	W	○	○	◎	EEJA3014a0	
		初等教育領域	K5080	教科内容論（国語）	②		1～2	S	◎			EEJB1015a0	
			K5085	教科内容論（社会）	②		1～2	W	◎			EEJB1016a0	
			K5090	教科内容論（算数）	②		1～2	S/W	◎			EEJB1017a0	
			K5095	教科内容論（理科）	②		3～4	S/W	◎			EEJB1018a0	
			K5100	教科内容論（生活）		②	3～4	W	◎			EEJB1019a0	
			K5105	教科内容論（音楽）		②	3～4	S	◎			EEJB1020a0	
			K5110	教科内容論（図画工作）		②	3～4	S/W	◎			EEJB1021a0	
			J4615	教科内容論（家庭）		②	5～6	S	◎			EEJB1022a0	
			K5120	教科内容論（体育）		②	3～4	S/W	◎			EEJB1023a0	
			K5125	教科内容論（英語）	②		1～2	W	◎			EEJB1024c0	
			K5130	初等国語科教育法		①	1～2	W	◎		○	EEJB2025a0	
			K5135	初等社会科教育法		①	3～4	S	◎		○	EEJB2026a0	
			K5140	初等算数科教育法		①	3～4	W	◎		○	EEJB2027a0	
			K5145	初等理科教育法		①	3～4	S	◎		○	EEJB2028a0	
			J4645	初等生活科教育法		①	5～6	S	◎		○	EEJB2029a0	
			K5155	初等音楽科教育法		①	3～4	S/W	◎		○	EEJB2030a0	
			J4655	初等図画工作科教育法		①	5～6	S	◎		○	EEJB2031a0	
			J4660	初等家庭科教育法		①	5～6	W	◎		○	EEJB2032a0	
			J4665	初等体育科教育法		①	5～6	S	◎		○	EEJB2033a0	
			K5175	初等英語科教育法		①	1～2	S	◎		○	EEJB2034c0	
		学科共通領域	K5180	教育基礎演習Ⅰ	2		3～4	S	○	◎		EEJC1035a0	
			K5185	教育基礎演習Ⅱ	2		3～4	W	○	◎		EEJC1036a0	
			J4685	教育専門演習Ⅰ	2		5～6	S	◎		○	EEJC2037a0	

●教育学科英語教育・小学校コース　専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	学科共通	学科共通領域	J4690	教育専門演習Ⅱ	2		5～6	W	◎		○	EEJC2038a0	
			J4695	教育専門研究Ⅰ	2		7～8	S	◎		○	EEJC3039a0	
			J4700	教育専門研究Ⅱ	2		7～8	W	◎		○	EEJC3040a0	
			K5220	インターンシップⅠ		2	3～4	S	○	◎		EEJC2041a0	
			K5225	インターンシップⅡ		1	3～4	W	○	◎		EEJC2042a0	
			J4716	インターンシップⅢ		1	5～6	W	○	○	◎	EEJC3043a0	
				卒業研究		4	7～8		◎			EEJC3044a0	
				教育特別研究(注1)		1			◎				
				教育学特殊講義(注2)		2			◎				
			J4784	〈児童英語教育実践研究Ⅰ〉		2	3～4	S	◎			EEJC1122c0	
			J4785	〈児童英語教育実践研究Ⅱ〉		2	3～4	W	◎			EEJC2123c0	
			K5215	〈プログラミング教育Ⅰ〉		2	3～4	S	○		◎	EEJC1126a0	
			K5635	〈海外教育実践プロジェクト〉		2	5～6	W		○	◎	EEJC1129a0	
	英語教育・小学校コース	コース共通領域	J4855	ことばへの扉	2		1～2	R7年度開講せず	◎			EEJD1045a0	
			J4866	パフォーマンス演習		2	1～2	R7年度開講せず		◎		EEJD1046a0	
			J4870	子どもと家族・社会		2	3～4	R7年度開講せず		○	◎	EEJD2047a0	
			J4875	子ども理解とケア		2	3～4	R7年度開講せず	◎	○		EEJD2048a0	
			J4880	児童福祉と子どものケア		2	5～6	R7年度開講せず		○	◎	EEJD3049a0	
		英語教育領域	J5700	英語学概説	②		1～2	S		○	◎	EEJE1050c0	
			J5705	英語音声学		②	1～2	S		◎	○	EEJE1051c0	
			J5710	英文法Ⅰ	②		1～2	S		○	◎	EEJE1052c0	
			J5715	英文法Ⅱ		②	1～2	W		○	◎	EEJE1053c0	
			J5720	英語文学概説	②		3～4	W	◎	○		EEJE2054c0	
			J5725	英語文学Ⅰ（英文学）		②	3～4	W	◎	○		EEJE2055c0	
			J5730	英語文学Ⅱ（米文学）		②	3～4	W	◎	○		EEJE2056c0	
			J5735	ベーシックコミュニケーションⅠ	②		1～2	W	○	◎		EEJE1057b0	
			J5740	ベーシックコミュニケーションⅡ	②		1～2	W	○	◎		EEJE1058b0	
			J5745	ベーシックコミュニケーションⅢ	②		3～4	S	○	◎		EEJE2059b0	
			J5750	ベーシックコミュニケーションⅣ	②		3～4	W	○	◎		EEJE2060b0	
			J5755	アドバンストコミュニケーションⅠ		②	5～6	S	○	◎		EEJE3061b0	
			J5760	アドバンストコミュニケーションⅡ		②	5～6	W	○	◎		EEJE3062b0	
			J5765	英語圏文化概説	②		1～2	W	◎		○	EEJE1063c0	
			J5770	世界英語の文化圏Ⅰ		②	3～4	W	◎		○	EEJE2064c0	
			J5775	世界英語の文化圏Ⅱ		②	3～4	S	◎		○	EEJE2065c0	
			J5780	中等英語科教育法Ⅰ	②		1～2	S			◎	EEJE1066c0	
			J5785	中等英語科教育法Ⅱ	②		3～4	W	◎			EEJE2067c0	
			J5790	中等英語科教育法Ⅲ		②	3～4	S		◎		EEJE2068c0	

●教育学科英語教育・小学校コース　専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	英語教育・小学校コース	英語教育領域	J5795	中等英語科教育法Ⅳ		②	5～6	S		◎		EEJE3069c0	
			J5800	教育実習指導（英語）		①	5～6	S		◎		EEJE3070a0	
			J5810	教育実習Ⅰ（英語）		④	5～6	S		◎		EEJE3071a0	
			J5820	教育実習Ⅱ（英語）		②	5～6	S		◎		EEJE3072a0	
			J5830	第二言語習得論		②	5～6	W	○		◎	EEJE3073c0	
			J5835	英語学特論Ⅰ（認知言語学）		②	5～6	S	○		◎	EEJE3074c0	
			K5530	英語学特論Ⅱ（英語教授法）		②	3～4	W	○		◎	EEJE3075c0	
			J5845	異文化理解		2	3～4	R7年度開講せず	○		◎	EEJE3076c0	
	子ども関連	子ども教育領域	J6040	教師としての批判的リテラシー		2	7～8	R7年度開講せず	◎	○	○	EEJF2077a0	
			J6045	幼保小中接続研究		2	3～4	R7年度開講せず	◎			EEJF2078a0	
			J6050	インクルーシブ教育の理論と方法		2	5～6	W	○	○	◎	EEJF2079a0	
			J6055	社会と教育の研究		2	3～4	R7年度開講せず	◎	○		EEJF2080a0	
			J6060	世界と教育の研究		2	1～2	R7年度開講せず	◎	○		EEJF2081a0	
			J6065	教科内容探究		2	5～6	W	○		◎	EEJF2082a0	
			J6070	授業方法探究		2	5～6	W	○		◎	EEJF2083a0	
			J6075	学級経営探究		2	5～6	R7年度開講せず		○	◎	EEJF2084a0	
			J6080	初等国語科教育演習		1	3～4	R7年度開講せず	○		◎	EEJF3085a0	
			J6085	初等社会科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEJF3086a0	
			J6090	初等算数科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEJF3087a0	
			J6095	初等理科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEJF3088a0	
			J6100	初等生活科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEJF3089a0	
			J6105	初等音楽科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEJF3090a0	
			J6110	初等図画工作科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEJF3091a0	
			J6115	初等家庭科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEJF3092a0	
			J6120	初等体育科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEJF3093a0	
			J6125	初等英語科教育演習		1	3～4	R7年度開講せず	○		◎	EEJF3094c0	
			J6130	教科内容研究Ⅰ		2	5～6	W	◎			EEJF1095a0	
			J6135	教科内容研究Ⅱ		2	7～8	S	◎			EEJF2096a0	
			J6140	教科内容研究Ⅲ		2	7～8	R7年度開講せず	◎			EEJF3097a0	
			J6145	教科総合演習Ⅰ		2	5～6	S	◎			EEJF1098a0	
			J6150	教科総合演習Ⅱ		2	5～6	W	◎			EEJF2099a0	
			J6155	教職演習Ⅰ		2	5～6	S		◎		EEJF1100a0	
			J6160	教職演習Ⅱ		2	5～6	W		◎		EEJF2101a0	
			J6165	教職研究Ⅰ		2	5～6	W		◎		EEJF1102a0	
			J6170	教職研究Ⅱ		2	7～8	S		◎		EEJF2103a0	
			K5860	科学的探究の方法		2	3～4	S	◎			EEJF2104a0	
			K5260	音楽表現Ⅰ		1	1～2	S/W	◎			EEJF1105a0	

●教育学科英語教育・小学校コース　専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	子ども関連	子ども教育領域	J6185	音楽表現Ⅱ		1	1～2	R7年度開講せず	◎			EEJF2106a0	
			K5265	運動基礎Ⅰ		1	1～2	W	◎			EEJF1107a0	
			J6195	運動基礎Ⅱ		1	1～2	R7年度開講せず	◎			EEJF2108a0	
		子ども理解領域	K6295	多様な子ども理解入門		2	1～2	S	○	◎		EEJG1109a0	
			J6205	現代の子ども・若者論		2	7～8	R7年度開講せず	◎			EEJG2110a0	
			J6210	子ども発達環境論		2	5～6	R7年度開講せず	◎			EEJG2111a0	
			J6215	多様な子どもとメディア		2	1～2	R7年度開講せず	◎			EEJG2112a0	
			J6220	多様な子どもとICT論（プログラミングを含む）		2	7～8	R7年度開講せず	◎			EEJG2113a0	
			J6225	多様な子どもと音楽表現		2	3～4	R7年度開講せず	◎			EEJG2114a0	
			J6230	多様な子どもと造形表現		2	1～2	R7年度開講せず	◎			EEJG2115a0	
			J6235	世界の子ども事情		2	1～2	R7年度開講せず	◎			EEJG2116a0	
			J6240	子ども支援ボランティア論		2	3～4	R7年度開講せず			◎	EEJG2117a0	
			J6245	子ども支援の仕事		2	5～6	R7年度開講せず			◎	EEJG2118a0	
			J6250	子ども企業研究		2	5～6	R7年度開講せず			◎	EEJG2119a0	
			J6255	子どもサービス演習		2	7～8	R7年度開講せず			◎	EEJG2120a0	
			J6260	病児教育論		2	7～8	R7年度開講せず	◎			EEJG2121a0	
卒業に必要な最低修得単位数													
英語教育・小学校コース					58	40							

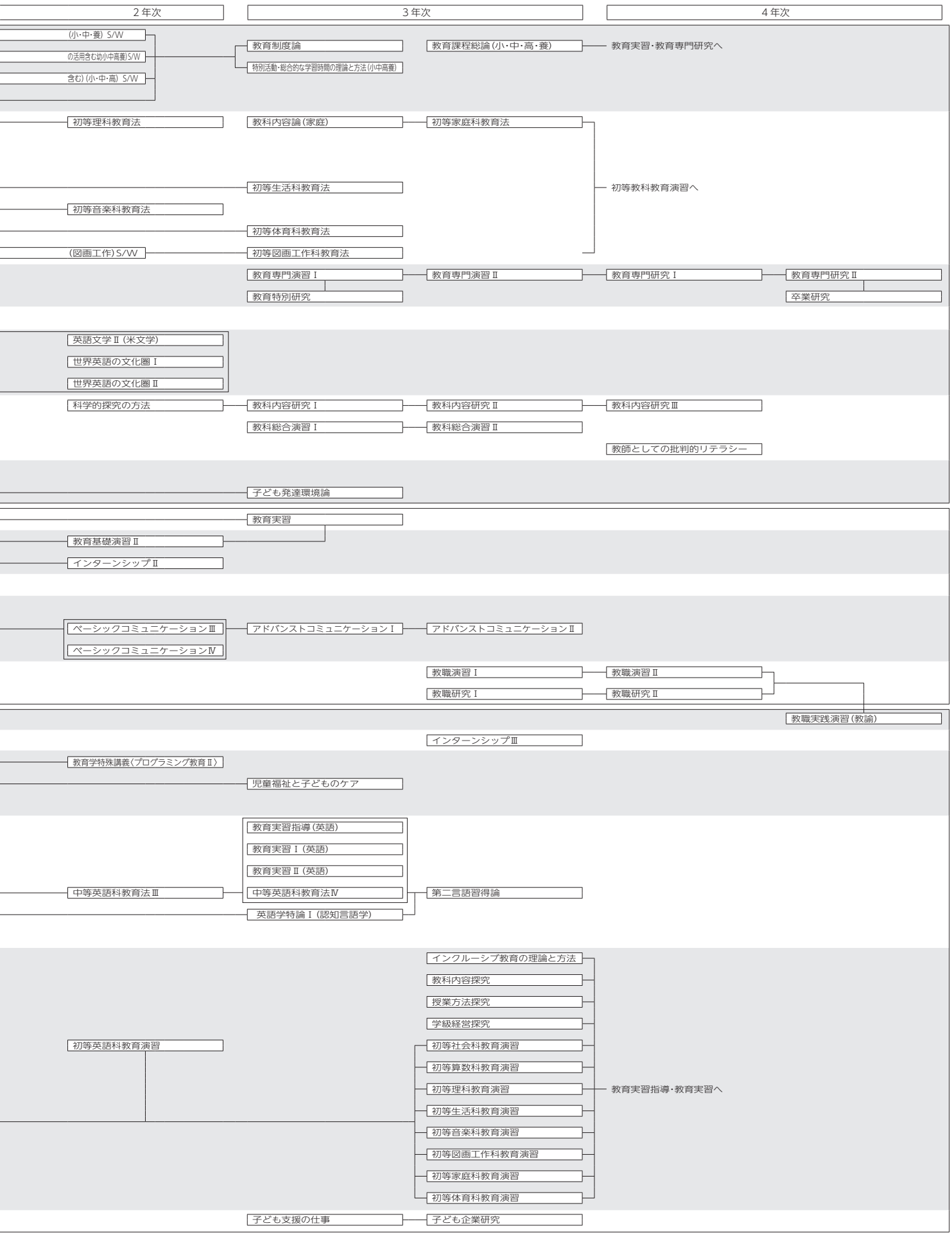
1. 履修上、小学校教育コース、幼児教育保育コース、英語教育・小学校コース、保健教育コースの 4 つのコースを設ける。
2. 各コースの教育職員免許状および保育士資格については、別に定める。
3. 必修は学科共通、所属コースから表の通り合計単位数を修得のこと。選択は学科共通、所属コースおよび子ども関連から合計単位数を修得のこと。
   ただし、小学校教育コースの必修については、4 つの領域のうち、いずれか 1 領域から表の通り合計単位数を修得、もしくは 4 つの領域と子ども教育領域・子ども理解領域から合計で 14 単位修得のこと。

（注 1）各授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ 1 単位付与する。
（注 2）各授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ 2 単位付与する。
（注）必修は学科共通、所属コースから表の通り合計単位数を修得のこと。選択は学科共通、所属コースおよび子ども関連から合計単位数を修得のこと。

教育学部 教育学科 英語教育・小学校コース 履修系統図

	身につけるべき能力	領　域	1年次	2年次
①	異文化対応能力 異文化にかかわる多様な事象に興味と関心を持ち、自己と他者への理解を深め、豊かな人間性と、他者と協働する態度を身につけている。	教職一般領域	特別支援教育 教職論　S/W 教育心理学　S/W	道徳教育の理論と方法 教育方法・技術（情報通信技術 生徒指導論（進路指導を 教育相談の理論と方法（小・中・高・養）
		初等教育領域	教科内容論（国語） 初等国語科教育法 教科内容論（社会） 教科内容論（算数） 教科内容論（英語） 初等英語科教育法	教科内容論（理科） 初等社会科教育法 初等算数科教育法 教科内容論（生活） 教科内容論（音楽） 教科内容論（体育） 教科内容論
		学科共通領域		
		コース共通領域	ことばへの扉	
		英語教育領域	英語圏文化概説	英語文学概説 英語文学Ⅰ（英文学）
		子ども教育領域	世界と教育の研究 音楽表現Ⅰ 音楽表現Ⅱ 運動基礎Ⅰ 運動基礎Ⅱ	社会と教育の研究
		子ども理解領域	世界の子ども事情 多様な子どもとメディア 多様な子どもと造形表現	多様な子どもと音楽表現
②	自己表現力 中学校・高等学校の英語教員に相応しい英語能力を修得し、教員としての基本的専門的知識を体系的に身につけている。また、自身の考えや意見を、日本語や英語などで的確に表現し、他者に伝える能力を身につけている。	教職一般領域	教育原論　S/W	
		学科共通領域		教育基礎演習Ⅰ インターンシップⅠ
		コース共通領域	パフォーマンス演習	
		英語教育領域	英語音声学 ベーシックコミュニケーションⅠ ベーシックコミュニケーションⅡ	
		子ども教育領域		
③	思考力・判断力 英語の能力を養い、教員としての論理的思考、問題発見解決力、判断力を身につけている。	教職一般領域		
		学科共通領域		
		コース共通領域		教育学特殊講義〈プログラミング教育Ⅰ〉 子どもと家族・社会 子どもと理解とケア
		英語教育領域	英文法Ⅰ 英文法Ⅱ 中等英語科教育法Ⅰ 英語学概説	中等英語科教育法Ⅱ 英語学特論Ⅱ（英語教授法） 異文化理解
		子ども教育領域		初等国語科教育演習
		子ども理解領域		

※カリキュラムポリシー（CP）はP.142・143を参照してください。



●教育学科 保健教育コース

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

教育学科保健教育コースは、子どもの多様な現代的健康課題に対応できる広い視野と専門的な知識・技能および教育現場に求められる実践力・指導力を有し、子どもの些細な心身の変化にもいち早く気づいて寄り添える優しさ、思いやり、温かさを兼ね備えた養護教諭を育成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の３点とします。

卒業時点において学生が身につけるべき能力

① 養護教諭としての自己分析・自己研鑽の力
養護教諭としての学修課題を受け止め、学びの意義を見出し、専門的知識と技能、養護実践力・指導力を身につけ、自己の教育理念と教育実践を相対化し、省察することができる。

② 養護教諭としてふさわしい豊かな人間性
子どもの健やかな心と体を育みいのちを護る養護教諭としての熱意や責任感を持ち、子どもが発するサインに気づき、迅速かつ的確に対処することができる。また、慈愛の心をもち、子どもに寄り添い、多様なニーズを共感的に理解し、寛容な態度で子どもと接することができる。

③ 変化する社会、学校園で活躍できる力
養護教諭の職責と社会が求める役割を理解し、チーム学校の一員として、他の職員と連携し、子どもの抱える多様な健康課題の解決に取り組み、実現することができる。また、地域の医療機関や関連機関の機能を理解し、コーディネーターとしての役割を果たすことができる。

※各科目との対応については授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

教育学科保健教育コースの教育課程は、「基礎教育科目」、「共通教育科目」および「専門教育科目」から成り、時代の要請に応える実践的且つ専門性の高い優れた養護教諭を養成するため、理論（大学における講義・演習での学び）と実践（学校・医療機関を始めとする臨地実習での学び）の往還を図り、教養の豊かさと専門の深さとを兼ね備えた内容とします。また、４年間で、養護教諭免許状、小学校教諭免許状が取得できるよう、充実した教育内容・カリキュラムを編成します。さらに、教員以外の就職を望む学生には、２年次よりキャリア関連科目の履修が可能となり、企業インターンシップへの参加、キャリア相談会等、一般就職への支援も強化します。

保健教育コースで配置する専門教育科目の主な内容は下記の通りです。

1） 教育職員としての養護教諭の基本原理
養護教諭の歴史と制度、養護教諭の専門性と基本的責務、保健室の機能とその果たす役割を学ぶため、「保健室への扉」と「養護概説」を配置します。また、子どもの健全な発育発達を促す学校保健および学校安全の意義と制度、学校保健活動や学校安全活動の実際について理解するため、「学校保健」を配置します。

2） 発達過程にある子どもの理解
からだのしくみ、発達過程における各期の発達の特徴や病的変化、病態の特徴および治療法を学ぶため、「解剖生理学」、「学校看護学Ⅱ（疾病Ⅰ）」、「学校看護学Ⅲ（疾病Ⅱ）」、「微生物学」、「薬理概論」を配置します。また、特別な支援を必要とする子どもとその発達過程についての専門的知識と技能を

修得するため、「学校看護学Ⅰ（基礎）」と「精神保健」を配置します。

3） 発達観・健康観の育成と養護実践を進める方法

子どもの発達と健康にかかわる生活習慣や環境、発達と健康の評価方法、養護実践を支える社会資源について理解を深めるため、「栄養学（食品学を含む）」、「衛生学」、「公衆衛生学（予防医学を含む）」を配置します。

4） 養護実践の内容と方法

学童期・思春期に発生する傷病の特性とその適切な対処法等、養護実践を行うために必要な知識・技術・方法を修得し、統合化を図る能力を養い、養護教諭の専門性を一層高めるため、「学校救急処置」、「健康相談」、「学校看護学Ⅳ（応用）」を配置します。

5） 臨地における実地研究

学校教育の場で子どもと直接かかわり、養護実践について学び、必要な技術・態度を修得するため、「インターンシップⅠ～Ⅲ」、「養護実習」、「臨床看護学演習」等、種々の実習・演習を設けます。また、これらの臨地実習を通し、医療機関における機能と役割、学校と医療機関との連携についても理解を深めます。さらに、大学で学んだ理論を臨地で実証し研究するとともに、研究して得られた成果を一般化する実践と研究の相互関連を学び、教育専門職としての自覚を深め、能力向上を図ります。

【教育方法】

1） 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。

2） 定期的に保健教育の模擬授業実践演習を実施しており、一般教室および ICT 教室での授業実践とビデオによる収録を通し、振り返りを常に行いながら、授業技術と指導力の向上を目指します。

3） 養護教諭の実践技術力向上のため、少人数クラスでの、救急処置法と学校看護技術、健康相談と保健指導に必要なカウンセリング的技能等の実技指導を行います。

4） 実際の保健室の状況を把握し、養護教諭の役割をより深く理解するため、本学卒業生で現役養護教諭を招聘し、講演会やセミナーを開催します。

5） 臨地実習に加え、インターンシップ、保健室ボランティア活動では、一定期間連続して学校に出向き、学校の諸活動や子どもの現状、保健室運営等について学びます。また、高大連携校での保健指導と健康診断の補助を行い、養護教諭の実践教育力を高めます。

【学修成果の評価方法】

1） 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2） 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価、出欠の状況等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。

3） 保健教育に関わる授業実践、救急処置等の養護教諭に求められる看護技術、各種演習において、評価観点とレベルを示したルーブリックを用いて、学修や課題追求、考察の過程をパフォーマンス評価し、学修成果を客観的に把握します。

4） 講義・養護実習・教育実習（小学校）・介護等体験などの課外活動を通して、教員として必要な資質・能力や適性を評価します。

5） 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、履修カルテ等）および上記 2）～ 4）等をもとに、担任教員との面談（振り返り等）等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学修方法の改善等を図ります。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

教育学科保健教育コースでは、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

⑴ 「いい先生」になるという強い意志と情熱をもち、専門的に学びながら、「いい先生」とは、と問い続けていくことができること。また、豊かな人間性（慈愛の心・利他の精神）を身につけ、子どもの訴えに心から耳を傾け、子どもの多様な課題やニーズを共感的に理解し、一人ひとりに応じた支援やケアを考えようとすることができること　〔求める要素：関心・意欲・態度〕

⑵ 本学の専門分野を学ぶために、高等学校までの学習を幅広く修得しており、広い視野で教育・社会問題の現状と子どもを取り巻く心身の健康課題をとらえながら、教育活動に活かしていこうとする意欲があること　〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

⑶ 他者や社会との対話を通して自己の考えを表現し、豊かな人間関係を築きながら協働しようとし、探求心と洞察力を持ち、新しい課題にも果敢に挑戦し、実践力、指導力を身に付けようとすることができること　〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

●教育学科 保健教育コース 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	学科共通	教職一般領域	K5010	教育原論	②		1～2	S/W	○	◎		EEKA1001a0	教育学部の専門教育科目は他学部・他学科の学生は履修することはできない。
			K5015	特別支援教育	②		1～2	S	◎	○		EEKA1002a0	
			K5020	教職論	②		1～2	W	◎	○		EEKA1003a0	
			K5025	教育心理学	②		1～2	S/W	◎	○		EEKA1004a0	
			J4520	教育制度論	②		5～6	S	◎	○		EEKA1005a0	
			J4525	教育課程総論（小・中・高・養）		②	5～6	S	◎	○		EEKA1006a0	
			K5040	道徳教育の理論と方法（小・中・養）		②	3～4	W	◎	○		EEKA1007a0	
			J4535	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（小中高養）		②	5～6	S	◎	○		EEKA1008a0	
			K5050	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	②		3～4	S/W	◎	○		EEKA1009a0	
			K5055	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）		②	3～4	W	◎	○		EEKA1010a0	
			K5060	教育相談の理論と方法（小・中・高・養）	②		3～4	S/W	◎	○		EEKA1011a0	
			J4555	教育実習指導		①	5～6	S	◎	○		EEKA2012a0	
			J4560	教育実習		④	5～6	S		◎	○	EEKA3013a0	
			J4570	教職実践演習（教諭）		②	7～8	W	○	○	◎	EEKA3014a0	
		初等教育領域	K5080	教科内容論（国語）	②		1～2	S	◎			EEKB1015a0	
			K5085	教科内容論（社会）	②		1～2	W	◎			EEKB1016a0	
			K5090	教科内容論（算数）	②		1～2	S/W	◎			EEKB1017a0	
			K5095	教科内容論（理科）	②		3～4	S/W	◎			EEKB1018a0	
			K5100	教科内容論（生活）		②	3～4	W	◎			EEKB1019a0	
			K5105	教科内容論（音楽）		②	3～4	S	◎			EEKB1020a0	
			K5110	教科内容論（図画工作）		②	3～4	S/W	◎			EEKB1021a0	
			J4610	教科内容論（家庭）		②	5～6	S	◎			EEKB1022a0	
			K5120	教科内容論（体育）		②	3～4	S/W	◎			EEKB1023a0	
			K5125	教科内容論（英語）	②		1～2	W	◎			EEKB1024c0	
			K5130	初等国語科教育法		①	1～2	W	◎		○	EEKB2025a0	
			K5135	初等社会科教育法		①	3～4	S	◎		○	EEKB2026a0	
			K5140	初等算数科教育法		①	3～4	W	◎		○	EEKB2027a0	
			K5145	初等理科教育法		①	3～4	S	◎		○	EEKB2028a0	
			J4645	初等生活科教育法		①	5～6	S	◎		○	EEKB2029a0	
			K5155	初等音楽科教育法		①	3～4	S/W	◎		○	EEKB2030a0	
			J4655	初等図画工作科教育法		①	5～6	S	◎		○	EEKB2031a0	
			J4660	初等家庭科教育法		①	5～6	W	◎		○	EEKB2032a0	
			J4665	初等体育科教育法		①	5～6	S	◎		○	EEKB2033a0	
			K5175	初等英語科教育法		①	1～2	S	◎		○	EEKB2034c0	

●教育学科 保健教育コース 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	学科共通	学科共通領域	K5180	教育基礎演習Ⅰ	2		3～4	S	○	◎		EEKC1035a0	
			K5185	教育基礎演習Ⅱ	2		3～4	W	○	◎		EEKC1036a0	
			J4685	教育専門演習Ⅰ	2		5～6	S	◎		○	EEKC2037a0	
			J4690	教育専門演習Ⅱ	2		5～6	W	◎		○	EEKC2038a0	
			J4695	教育専門研究Ⅰ	2		7～8	S	◎		○	EEKC3039a0	
			J4700	教育専門研究Ⅱ	2		7～8	W	◎		○	EEKC3040a0	
			K5220	インターンシップⅠ		2	3～4	S	○	◎		EEKC2042a0	
			K5225	インターンシップⅡ		1	3～4	W	○	◎		EEKC3043a0	
			J4716	インターンシップⅢ		1	5～6	W	○	○	◎	EEKC3044a0	
				卒業研究		4	7～8		◎			EEKC3044a0	
				教育特別研究(注1)		1			◎				
				教育学特殊講義(注2)		2			◎				
			J4784	〈児童英語教育実践研究Ⅰ〉		2	3～4	S	◎			EEKC1116c0	
			J4785	〈児童英語教育実践研究Ⅱ〉		2	3～4	W	◎			EEKC2117c0	
			K5215	〈プログラミング教育Ⅰ〉		2	3～4	S	○		◎	EEKC1118a0	
	保健教育コース	コース共通領域	J4860	保健室への扉	2		1～2	S	◎	○		EEKD1045a0	
			J4866	パフォーマンス演習		2	1～2	R7年度開講せず		◎		EEKD1046a0	
			J4870	子どもと家族・社会		2	3～4	S		○	◎	EEKD2047a0	
			J4875	子ども理解とケア		2	3～4	R7年度開講せず	◎	○		EEKD2048a0	
			J4880	児童福祉と子どものケア		2	5～6	R7年度開講せず		○	◎	EEKD2049a0	
		養護教育領域	K5930	衛生学	②		1～2	W	◎			EEKE1050a0	
			J5905	公衆衛生学（予防医学を含む）	②		3～4	W	◎			EEKE2051a0	
			K5940	学校保健	②		1～2	W	◎	○	○	EEKE1052a0	
			K5945	養護概説	②		1～2	S	○	◎	○	EEKE1053a0	
			K5950	健康相談		②	3～4	S	○	○	◎	EEKE2054a0	
			J5925	栄養学（食品学を含む）	②		1～2	R7年度開講せず	◎			EEKE1055a0	
			K5960	解剖生理学	②		1～2	W	◎			EEKE1056a0	
			J5935	微生物学		②	5～6	S	◎			EEKE2057a0	
			J5940	薬理概論		②	5～6	S	◎			EEKE2058a0	
			K5975	精神保健		②	3～4	W	○	◎		EEKE2059a0	
			K5980	学校看護学Ⅰ（基礎）	②		1～2	S	◎	○		EEKE1060a0	
			K5985	学校看護学Ⅱ（疾病Ⅰ）	②		1～2	S	◎	○		EEKE2061a0	
			K5990	学校看護学Ⅲ（疾病Ⅱ）		②	3～4	W	◎	○		EEKE2062a0	
			J5965	学校看護学Ⅳ（応用）		②	3～4	W	○	◎		EEKE2063a0	

●教育学科 保健教育コース 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	保健教育コース	養護教育領域	J5970	臨床看護学演習		②	3～4	W	○		◎	EEKE3064a0	
			K6005	学校救急処置	②		3～4	W	◎	○		EEKE2065a0	
			J5980	生徒指導論（養）		②	3～4	S	◎	○	○	EEKE2066a0	
			J5990	養護実習指導		①	5～6	S	◎	○	○	EEKE3067a0	
			J6000	養護実習		④	5～6	S	◎	○	○	EEKE3068a0	
			J6010	教職実践演習（養護教諭）		②	7～8	W	○	○	◎	EEKE3069a0	
			J6015	保健統計学		2	5～6	R7年度開講せず	◎			EEKE3070a0	
	子ども関連	子ども教育領域	J6040	教師としての批判的リテラシー		2	7～8	R7年度開講せず	○	○	○	EEKF2071a0	
			J6045	幼保小中接続研究		2	3～4	R7年度開講せず	◎			EEKF2072a0	
			J6050	インクルーシブ教育の理論と方法		2	5～6	W	○	○	◎	EEKF2073a0	
			J6055	社会と教育の研究		2	3～4	R7年度開講せず	◎	○		EEKF2074a0	
			J6060	世界と教育の研究		2	1～2	R7年度開講せず	◎	○		EEKF2075a0	
			J6065	教科内容探究		2	5～6	W	○		◎	EEKF2076a0	
			J6070	授業方法探究		2	5～6	W	○		◎	EEKF2077a0	
			J6075	学級経営探究		2	5～6	R7年度開講せず		○	◎	EEKF2078a0	
			J6080	初等国語科教育演習		1	3～4	R7年度開講せず	○		◎	EEKF3079a0	
			J6085	初等社会科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEKF3080a0	
			J6090	初等算数科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEKF3081a0	
			J6095	初等理科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEKF3082a0	
			J6100	初等生活科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEKF3083a0	
			J6105	初等音楽科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEKF3084a0	
			J6110	初等図画工作科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEKF3085a0	
			J6115	初等家庭科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEKF3086a0	
			J6120	初等体育科教育演習		1	5～6	R7年度開講せず	○		◎	EEKF3087a0	
			J6125	初等英語科教育演習		1	3～4	R7年度開講せず	○		◎	EEKF3088c0	
			J6130	教科内容研究Ⅰ		2	5～6	W	◎			EEKF1089a0	
			J6135	教科内容研究Ⅱ		2	7～8	S	◎			EEKF2090a0	
			J6140	教科内容研究Ⅲ		2	7～8	R7年度開講せず	◎			EEKF3091a0	
			J6145	教科総合演習Ⅰ		2	5～6	S	◎			EEKF1092a0	
			J6150	教科総合演習Ⅱ		2	5～6	W	◎			EEKF2093a0	
			J6155	教職演習Ⅰ		2	5～6	S		◎		EEKF1094a0	
			J6160	教職演習Ⅱ		2	5～6	W		◎		EEKF2095a0	
			J6165	教職研究Ⅰ		2	5～6	W		◎		EEKF1096a0	
			J6170	教職研究Ⅱ		2	7～8	S		◎		EEKF2097a0	

●教育学科 保健教育コース 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.195 ～で調べて履修すること。

（注）学科共通科目および子ども関連科目については、p.116 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別			授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	子ども関連	子ども教育領域	K5860	科学的探究の方法		2	3～4	S	◎			EEKF2098a0	
			K5260	音楽表現Ⅰ		1	1～2	S/W	◎			EEKF1099a0	
			J6185	音楽表現Ⅱ		1	1～2	R7年度開講せず	◎			EEKF2100a0	
			K5265	運動基礎Ⅰ		1	1～2	W	◎			EEKF1101a0	
			J6195	運動基礎Ⅱ		1	1～2	R7年度開講せず	◎			EEKF2102a0	
		子ども理解領域	K6295	多様な子ども理解入門		2	1～2	S	○	◎		EEKG1103a0	
			J6205	現代の子ども･若者論		2	7～8	R7年度開講せず	◎			EEKG2104a0	
			J6210	子ども発達環境論		2	5～6	R7年度開講せず	◎			EEKG2105a0	
			J6215	多様な子どもとメディア		2	1～2	R7年度開講せず	◎			EEKG2106a0	
			J6220	多様な子どもとICT論（プログラミングを含む）		2	7～8	R7年度開講せず	◎			EEKG2107a0	
			J6225	多様な子どもと音楽表現		2	3～4	R7年度開講せず	◎			EEKG2108a0	
			J6230	多様な子どもと造形表現		2	1～2	R7年度開講せず	◎			EEKG2109a0	
			J6235	世界の子ども事情		2	1～2	R7年度開講せず	◎			EEKG2110a0	
			J6240	子ども支援ボランティア論		2	3～4	R7年度開講せず			◎	EEKG2111a0	
			J6245	子ども支援の仕事		2	5～6	R7年度開講せず			◎	EEKG2112a0	
			J6250	子ども企業研究		2	5～6	R7年度開講せず			◎	EEKG2113a0	
			J6255	子どもサービス演習		2	7～8	R7年度開講せず			◎	EEKG2114a0	
			J6260	病児教育論		2	7～8	R7年度開講せず	◎			EEKG2115a0	
卒業に必要な最低修得単位数													
保健教育コース					56	42							

1. 履修上、小学校教育コース、幼児教育保育コース、英語教育・小学校コース、保健教育コースの 4 つのコースを設ける。
2. 各コースの教育職員免許状および保育士資格については、別に定める。
3. 必修は学科共通、所属コースから表の通り合計単位数を修得のこと。選択は学科共通、所属コースおよび子ども関連から合計単位数を修得のこと。
   ただし、小学校教育コースの必修については、4 つの領域のうち、いずれか 1 領域から表の通り合計単位数を修得、もしくは 4 つの領域と子ども教育領域・子ども理解領域から 14 単位修得のこと。

（注 1）各授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ 1 単位付与する。
（注 2）各授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ 2 単位付与する。
※　必修は学科共通、所属コースから表の通り合計単位数を修得のこと。選択は学科共通、所属コースおよび子ども関連から合計単位数を修得のこと。
（＊1）「臨床看護学演習」を履修するには、前セメスター修了までに、「養護概説」「解剖生理学」「学校看護学Ⅰ（基礎）」「学校看護学Ⅱ（疾病Ⅰ）」「学校看護学Ⅲ（疾病Ⅱ）」「学校救急処置」の 6 科目 12 単位を修得していることが必要。

教育学部 教育学科 保健教育コース 履修系統図

	身につけるべき能力	領　域	1年次		2年次
①	養護教諭としての自己分析・自己研鑽の力 養護教諭としての学修課題を受け止め、学びの意義を見出し、専門的知識と技能、養護実践力・指導力を身につけ、自己の教育理念と教育実践を相対化し、省察することができる。	教職一般領域	教職論	教育心理学	教育相談の理論と方法(小・中・高・養)
			特別支援教育		道徳教育の理論と方法(小・中・養)
		初等教育領域			教科内容論(生活)
					教科内容論(音楽)
			教科内容論(英語)	初等英語科教育法	
			教科内容論(国語)	初等国語科教育法	
				教科内容論(社会)	初等社会科教育法
				教科内容論(算数)	初等算数科教育法
					教科内容論(理科)
					教科内容論(図画工作)
					教科内容論(体育)
		学科共通領域	教育学特殊講義〈初歩からの数学〉		
					教育学特殊講義〈児童英語教育実践研究Ⅰ〉
					教育学特殊講義〈教職数学演習〉
		コース共通領域	保健室への扉		子ども理解とケア
		保健教育領域（養護教育）	学校保健	衛生学	
			解剖生理学	学校看護学Ⅱ（疾病Ⅰ）	学校看護学Ⅲ（疾病Ⅱ）
			栄養学	学校看護学Ⅰ（基礎）	学校救急処理
					生徒指導論（養護教諭）
		子ども教育領域	世界と教育の研究		社会と教育の研究
			音楽表現Ⅰ	音楽表現Ⅱ	
			運動基礎Ⅰ	運動基礎Ⅱ	
		子ども理解領域	多様な子どもとメディア	多様な子どもと造形表現	多様な子どもと音楽表現
			世界の子ども事情		
②	養護教諭としてふさわしい豊かな人間性 子どもの健やかな心と体を育みいのちを護る養護教諭としての熱意や責任感を持ち、子どもが発するサインに気づき、迅速かつ的確に対処することができる。また、慈愛の心をもち、子どもに寄り添い、多様なニーズを共感的に理解し、寛容な態度で子どもと接することができる。	教職一般領域	教育原論		
		初等教育領域			
		学科共通領域			教育基礎演習Ⅰ
					インターンシップⅠ
		コース共通領域	パフォーマンス演習		
		保健教育領域（養護教育）		養護概説	精神保健
		子ども教育領域			
		子ども理解領域	多様な子ども理解入門		
③	変化する社会、学校園で活躍できる力 養護教諭の職責と社会が求める役割を理解し、チーム学校の一員として、他の職員と連携し、子どもの抱える多様な健康課題の解決に取り組み、実現することができる。また、地域の医療機関や関連機関の機能を理解し、コーディネーターとしての役割を果たすことができる。	教職一般領域			
		初等教育領域			
		学科共通領域			教育学特殊講義〈プログラミング教育Ⅰ〉
		コース共通領域			子どもと家族・社会
		保健教育領域（養護教育）			
		子ども教育領域			初等国語科教育演習
		子ども理解領域			子ども支援ボランティア論

※カリキュラムポリシー（CP）はP.150・151を参照してください。

2年次	3年次		4年次	
教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	教育制度論	教育課程総論（小・中・高・養）		
生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（小中高養）			
初等生活科教育法				
初等音楽科教育法				
初等理科教育法				
	初等図画工作科教育法			
	教科内容論（家庭）	初等家庭科教育法		
	初等体育科教育法			
	教育専門演習Ⅰ	教育専門演習Ⅱ	教育専門研究Ⅰ	教育専門研究Ⅱ
	教育特別研究			卒業研究
教育学特殊講義〈児童英語教育実践研究Ⅱ〉				
公衆衛生学		保健統計学		
	微生物学			
	薬理学概論			
幼保小中接続研究	教科内容研究Ⅰ	教科内容研究Ⅱ	教科内容研究Ⅲ	
	教科総合演習Ⅰ	教科総合演習Ⅱ	教師としての批判的リテラシー	
	科学的探究の方法			
	子ども発達環境論		現代の子ども・若者論	病児教育論
			多様な子どもとICT論（プログラミングを含む）	
	教育実習指導	教育実習		
	養護実習指導	養護実習		
教育基礎演習Ⅱ				
インターンシップⅡ				
学校看護学Ⅳ				
	教職演習Ⅰ		教職演習Ⅱ	
	教職研究Ⅰ		教職研究Ⅱ	
			教職実践演習（養護教諭）	
			教職実践演習（教諭）	
	インターンシップⅢ			
教育学特殊講義〈プログラミング教育Ⅱ〉				
	児童福祉と子どものケア			
健康相談				
臨床看護学演習				
初等英語科教育演習				
		初等社会科教育演習		
		初等算数科教育演習		
		初等理科教育演習		
		初等生活科教育演習		
		初等音楽科教育演習		
		初等図画工作科教育演習		
		初等家庭科教育演習		
		初等体育科教育演習		
		インクルーシブ教育の理論と方法		
		教科内容探究		
	授業方法探究	学級経営探究		
	子ども支援の仕事	子ども企業研究	子どもサービス演習	

●経営学部

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

経営学部では、学生一人ひとりの個性を伸ばし、幅広い教養と高い専門的知識を効果的に修得し、将来、民間企業や国・地方公共団体などの組織において活躍し、あるいは起業や事業承継を通じて社会に貢献できる人材を養成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の４点とします。

卒業時点において学生が身につけるべき能力

①　社会人としての幅広い教養と専門性

企業や各種団体、国・地方公共団体などの組織において活躍する、また自ら起業家として事業を創造、継承するために備えるべき経営学の専門的知識と一般教養を体系的に修得している。

②　社会人としての課題解決能力

経営活動や組織運営等における課題を発見し、正確に把握・分析したうえで、専門知識を用いて論理的かつ創造的に思考し、仲間とともに協働することによって、これらの課題に果敢に取り組み、解決する能力を備えている。

③　協働のためのコミュニケーション能力と行動力

多様な立場・考え方を認めたうえで、自らの知識や考えを他者にわかりやすく伝え、周囲を説得できる説明能力、他者との協働を円滑に行えるコミュニケーション能力および行動力を備えている。

④　社会の変化に対応できる自己実現力

和の精神に基づき、社会人として組織の期待や信頼に応えるための誠実な資質と高い倫理観を備え、与えられた役割に対しては使命感をもって遂行し、生涯にわたり、社会の変化に対応して自らを継続的に変革し、高めるために学び続ける意欲と姿勢を備えている。

※各科目との対応については、授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

経営学部における教育課程編成・実施の基本的な考え方として、経営学に加えて法学の各領域の専門科目について、目標に応じて基礎分野から応用分野まで確実に修得できるように学年の進行に合わせて配置します。この体系的なカリキュラムから希望する進路に合わせて、自由に科目が選択できるように編成します。公務員として活躍するために必要な専門科目や企業人としての適性を発見するインターンシップを中心とするキャリア開発科目、多様な公的資格取得を支援する科目など、キャリア目標を達成するために必要な科目を学年に応じて段階的に配置します。

【教育方法】

1）開講科目全般については、従来の講義形式に加え、ICT を効果的に活用し、学生と教員間、学生と学生間の双方向性ある授業を実施します。

2）学生の将来の進路を見据えた特徴ある科目を専攻ごとに基本から実践まで設けます。公共経営専攻では、公務員として必要な知識を習得する演習科目である「公務員基礎演習」「行政職特別演習」に加えて、「公務員特別演習」等の演習科目を設け、企業経営専攻では将来のキャリアを見据えた演習科目として「キャリア演習」「インターンシップ」を必修化し、適性の向上を図ります。

3）公的資格（簿記、FP、販売士、PC 検定、ビジネス実務法務、ビジネス実務マナー等）を、無理なく

段階的に取得するための支援授業を体系的に配置します。

4）体験型、地域連携型科目を数多く設け、またゼミナールや授業外プロジェクトを通じて積極的かつ継続的なアクティブ・ラーニングを効果的に行うことによって、学生自らが課題を発見し、能動的に情報収集・調査・分析・発表・議論・研究できる環境を整えます。

【学修成果の評価方法】

教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

経営学部では、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を求める条件として、具体的には次のような能力・資質、目的意識をもった人物を求めます。

⑴ 高等学校の教育課程を幅広く修得しており、将来、経営や法律に関する専門知識や経験を社会で活かしたいという意欲があること　〔求める要素：知識・技能、関心・意欲・態度〕

⑵ 将来、企業人や公務員としてさまざまな分野で活躍し、社会に貢献しようとする高い就業意欲や使命感があること　〔求める要素：知識・技能、関心・意欲・態度〕

⑶ 高等学校等での課外活動やボランティア活動などの経験があり、グループ学習などでは他者と協働しながら課題をやり遂げ、発表・報告時には、論理的に説明できること　〔求める要素：主体性・多様性・協働性、思考力・判断力・表現力、表現力〕

⑷ 入学後、建学の礎である聖徳太子の「和」の精神の理解に努め、他者を思いやり、周囲との協働を重んじて行動できること　〔求める要素：関心・意欲・態度、協働性〕

●経営学科 公共経営専攻

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

経営学科公共経営専攻は、学生一人ひとりの個性を伸ばし、幅広い教養と高い専門的知識を効果的に修得し、将来、公務員として国や地方公共団体の各種機関で活躍して社会公共の利益に資する人材、または公益団体および企業でリーダーシップを発揮して社会に貢献できる人材を養成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の４点とします。

卒業時点において学生が身につけるべき能力

① 公務員としての幅広い教養と専門性
公務員として、または民間企業や各種団体等で活躍するために備えるべき専門的知識と幅広い教養を体系的に修得している。

② 社会貢献できる課題解決能力
行政や地域コミュニティ、NPO 等の存在意義や連携・協働等について理解し、時代の要請に応じた地域の活性化や発展に向けて一定の指針や政策を提示できる柔軟な創造力と的確な判断力を備え、複雑化した社会の諸問題や公共政策について多角的・客観的な観点から課題を分析し、解決策を導くために論理的に思考することができる。

③ 他者を理解し、協働するための行動力
多様な立場・考え方を認めたうえで、自らの知識や考えを他者にわかりやすく伝え、周囲を説得できる説明能力、他者との協働を円滑に行える行動力および多様な社会に対応できる能力等を備えている。

④ 社会の変化に対応できる自己実現力
和の精神に基づき、行政の担い手として、社会の期待や信頼に応えるためにより高い倫理観を有し、公益を優先する強い使命感と責任感を持って、社会に奉仕しようとする意欲に満ち、社会の変化に応じて、生涯にわたり自らを高めるために、常に目標を掲げ、その実現のために継続的な努力ができる。

※各科目との対応については授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

経営学科公共経営専攻における教育課程編成・実施の基本的な考え方として、経営学・法学の各領域の専門科目について基礎分野から応用分野まで確実に修得できるように学年進行に合わせて配置し、公務員として活躍するために必要な専門科目を将来の進路に合わせて体系的に選択できるよう編成します。また、将来、学生一人ひとりが社会で活躍の場を広げるために、学内外での体験学修を取り入れた実践的な専門科目に加えて資格取得支援科目も自由に選択できるよう配置します。

1） 経営学・法学の基本的知識を修得します。
経営学科の根幹をなす「経営学基礎Ⅰ・Ⅱ」「経営管理論」「商業簿記Ⅰ・Ⅱ」「憲法Ⅰ・Ⅱ」「民法Ⅰ～Ⅴ」などに関して、基礎から応用までを段階的、体系的に学びます。

2） 公務員となるために必要な基本的知識を修得します。
教養として求められる基本的知識に加え、公務員試験で必要となる基礎力を養成する「キャリア演習Ⅰ・Ⅱ」「公務員基礎演習」を含め、公務員として働くうえで必ず備えておくべき基本となる知識を体系的に修得します。

3） 公務員として活躍するために必要な専門的知識を学びます。

「行政法」「行政職特別演習」「公務員基礎演習」などをはじめとする、公務員試験で求められる知識を含め、公務員として働くうえで修得しておくべき専門領域を深く学ぶことによって、公務員試験に合格できる知識とともに、実際に公務員として働く際に応用すべき知識の土壌を培います。

4） 地域を支える行政や企業等の多様な団体に対する理解を深めます。

行政と連携・協働して地域を支えている企業などの実態理解を促進するために、実践的な科目として「実学マネジメント論Ⅰ・Ⅱ」「経営学研究」などを配置しています。アクティブ・ラーニングやICT 教育を積極的に取り入れ、地域の活性化や発展に向けて課題を発見・解決できる論理的思考力と主体的な行動力を養います。

5） 公務員としての資質を向上させます。

「法と倫理」「専門演習Ⅰ～Ⅳ」に加え、キャリア関連科目の履修によって、公務員に求められる倫理観、使命感を育み、資質の向上を支援します。「専門演習Ⅰ～Ⅳ」は、3、4 年次の必修科目として、4 年間の学びを深化させる機会とするとともに、希望者は「卒業研究」論文に取り組みます。

【教育方法】

1） 公共経営に関する科目全般については、学生が自ら設定した目標達成のために、従来の講義に加え、学生が ICT を効果的に活用し、能動的に調査・分析のうえ、一定の結論を導き出し、発表や議論をするなど、積極的にアクティブ・ラーニングを実施します。

2） 公務員に必要な知識の修得については、双方向形式の講義を通じて体系的な学びを促進することに加え、公務員試験に対応するために幅広い教養を養うとともに、実践的かつ具体的な指導を行うことによって即戦力となる資質を養成します。

3） 専門科目や専門ゼミ等において、学問的および実務的な観点からも公務員の職務について探究し、行政サービス、福祉政策はじめ、社会問題の解決を視野に入れた企画・提案に取り組む機会を設け、学生主導型の積極的な学びにより、公務員が備えるべき高度な人権感覚をもって職務が遂行できる力を養います。

4） 公務員として備えるべき倫理的価値観の向上を図るとともに、地域連携型科目をとおして地域を支える行政等に対する理解を深め、学外活動においても積極的に地域に関わり、市民に貢献する経験を通じて、より実践的に地域社会で活躍できる人材を養成します。

【学修成果の評価方法】

1） 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2） 公共経営に関する科目全般において、学生はセメスター開始時に学修目標を設定し、セメスター終了時、その達成度を自己評価（省察）します。

3） 各科目において習熟度を測るために学期末試験、中間試験や小テストを行うとともに、科目の特色に応じて、レポート等の課題を与え、受講姿勢も含めて総合的に評価します。体験型の科目については、アクティブ・ラーニングの一環として実施するグループワーク、発表・報告等に加え、平素の意欲的な学修姿勢も含めて総合的に評価します。

4） 公務員試験に直結する科目については、セメスターごとに全国的評価を行っている外部機関による模擬試験を実施することにより、目標とするキャリアの獲得に向けて学修の進捗度を評価する機会を設けます。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

経営学科公共経営専攻は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施

の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような能力・資質、目的意識をもった人物を求めます。

⑴　高等学校の教育課程を幅広く修得しており、将来、経営や法学に関する専門知識や多様な経験を社会で活かしたいという意欲があること　〔求める要素：知識・技能、関心・意欲・態度〕

⑵　将来、公務員としてさまざまな分野で活躍し、社会のために奉仕しようとする就業意欲があること　〔求める要素：知識・技能、関心・意欲・態度〕

⑶　高等学校等での課外活動やボランティア活動などの経験があり、グループ学習などでは、他者と協働しながら、課題をやり遂げ、発表・報告時には、論理的に説明できること　〔求める要素：主体性・多様性・協働性、思考力・判断力、表現力〕

⑷　入学後、建学の礎である和の精神を理解し、その実践に努め、他者を思いやり、周囲との協働を重んじて行動できること　〔求める要素：関心・意欲・態度、協働性〕

●経営学科 公共経営専攻 専門教育科目編成表

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	他学部・他学科履修	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	身につけるべき能力 ④	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	学科共通科目	K7010	経営学基礎Ⅰ	2		1～2	S		○	◎			BBLA1001a0	
		K7610	経営学基礎Ⅱ		2	1～2	W		○	◎			BBLA1002a0	
		K7015	商業簿記Ⅰ	2		1～2	S		◎				BBLA1003a0	
		K7705	商業簿記Ⅱ		2	1～2	W		◎				BBLA1004a0	
		K7105	キャリア演習Ⅰ	2		3～4	S	不可	◎			○	BBLA1005a0	企業経営専攻のみ履修可。ただし要件を満たした者に限る。担当教員に相談すること。
		K7110	キャリア演習Ⅱ	2		3～4	W	不可	◎			○	BBLA1006a0	
		J6535	専門演習Ⅰ	2		5～6	S			○		◎	BBLA1007a0	
		J6540	専門演習Ⅱ	2		5～6	W			○		◎	BBLA1008a0	
		J6545	専門演習Ⅲ	2		7～8	S			○		◎	BBLA2009a0	
		J6550	専門演習Ⅳ	2		7～8	W			○		◎	BBLA3010a0	
			卒業研究		4	7～8				◎		○	BBLA3011a0	
		J6556	法と倫理	2	2	5～6	W				○	◎	BBLA2012a0	
		J6557	企業倫理		2	5～6	W					◎	BBLA2013a0	
		J6558	仏教と経営		2	5～6	W					◎	BBLA2014a0	
		K7615	経営管理論		2	1～2	S		◎	○			BBLA1015a0	
		K7620	経営組織論		2	3～4	W		◎			○	BBLA2016a0	
		K7040	経営戦略論		2	3～4	W			◎			BBLA2017a0	
		K7035	会計学概論		2	1～2	W		◎			○	BBLA1018a0	
		K7715	工業簿記Ⅰ		2	1～2	S		◎				BBLA1019a0	
		K7030	マーケティングⅠ		2	1～2	S		◎	○			BBLA1020a0	
		K7195	マーケティングⅡ		2	1～2	W		◎		○		BBLA1021a0	
		K7020	憲法Ⅰ（人権）		2	1～2	W				◎	○	BBLA1022a0	
		K7025	民法Ⅰ（総則）		2	1～2	S		◎			○	BBLA1023a0	
		K7645	会社法Ⅰ		2	3～4	W		○	◎			BBLA1024a0	
		K7640	企業法概論		2	3～4	S		○	◎			BBLA2025a0	
		K7670	労働法概論		2	3～4	S		○	◎			BBLA2026a0	
		K6615	ビジネス法入門		2	1～2	R7年度開講せず		○	◎			BBLA1027a0	
		K7045	人的資源管理論		2	3～4	W			◎	○		BBLA2028a0	
		J6630	経営心理学		2	5～6	S			◎	○		BBLA2029a0	
		J6635	国際ビジネス論		2	5～6	S		◎			○	BBLA3030a0	
		J6645	ＮＰＯ運営法		2	5～6	W		○	◎			BBLA2031a0	
		J6650	社会的企業論		2	5～6	R7年度開講せず		○	◎			BBLA2032a0	
		K7060	経済学概論		2	1～2	W		○	◎			BBLA1033a0	
		K7065	ミクロ経済学		2	3～4	S		○	◎			BBLA2034a0	
		K7070	マクロ経済学		2	3～4	W		○	◎			BBLA2035a0	
		J6680	社会政策		2	5～6	R7年度開講せず		○	◎			BBLA2036a0	
		K7075	財政学		2	3～4	W		◎				BBLA2037a0	

●経営学科 公共経営専攻 専門教育科目編成表

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	他学部・他学科履修	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	身につけるべき能力 ④	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	学科共通科目	K7505	経営数学		2	1～2	W		◎				BBLA1038a0	
		K7510	英語(文章読解)		2	3～4	W		◎		○		BBLA1039c0	
		K7790	ビジネス実務概論		2	3～4	W				◎	○	BBLA2040a0	
		K7240	実学マネジメント論Ⅰ		2	3～4	W			○		○	BBLA2041a0	
		J6695	実学マネジメント論Ⅱ		2	5～6	W			○		◎	BBLA2042a0	
		J1560	キャリアマネジメントⅠ		2	3～4	S			◎			BBLA1043a0	
		J1565	キャリアマネジメントⅡ		2	3～4	W			◎			BBLA1044a0	
		J1570	キャリアゼミ		2	5～6	W			◎			BBLA2045a0	
		J1575	キャリアゼミ実践演習	2		5～6	S			◎			BBLA3046a0	
		K7225	地域活性化演習Ⅰ		2	3～4	S			◎			BBLA2047a0	
		K7230	地域活性化演習Ⅱ		2	3～4	W			◎			BBLA2048a0	
		K7235	地域活性化演習Ⅲ		2	3～4	W			◎			BBLA2049a0	
		K7085	公務員基礎演習(教養数学)		2	3～4	S	不可	◎				BBLA1050a0	
		K7090	公務員基礎演習(自然科学)		2	3～4	S	不可	◎				BBLA1051a0	
		K7095	公務員基礎演習(人文社会科学)		2	3～4	W	不可	◎				BBLA1052a0	
		K7100	公務員基礎演習(実践文章)		2	3～4	W	不可	◎				BBLA1053a0	
			経営学研究(注1)		2									
		J6730	〈公共経営論〉		2	5～6	S				◎		BBLA2084a0	
		J6729	〈ライセンスセミナー公務員Ⅱ〉		2	5～6	W		◎				BBLA2085a0	
	公共経営専攻	K7410	憲法Ⅱ(統治機構)		2	3～4	S				◎	○	BBLB2054a0	
		K7415	民法Ⅱ(物権)		2	1～2	W		◎			○	BBLB1055a0	
		K7420	民法Ⅲ(債権総論・不法行為法等)		2	3～4	S		◎			○	BBLB2056a0	
		K7425	民法Ⅳ(契約法)		2	3～4	W		◎			○	BBLB2057a0	
		J6830	民法Ⅴ(家族法)		2	5～6	S		◎			○	BBLB2058a0	
		K7655	商法総則		2	5～6	S		○	◎			BBLB2059a0	
		J6840	会社法Ⅱ		2	3～4	R7年度開講せず		○	◎			BBLB2060a0	
		J6845	商取引法		2	5～6	R7年度開講せず		○	◎			BBLB2061a0	
		J6855	独占禁止法		2	5～6	W		○		◎		BBLB2062a0	
		J6860	消費者と法		2	3～4	R7年度開講せず		○			◎	BBLB2063a0	
		J6865	知的財産法		2	5～6	W		○			◎	BBLB2064a0	
		J6880	社会保険法		2	5～6	W			◎		○	BBLB2065a0	
		K7435	行政法		2	3～4	S		◎	○			BBLB2066a0	
		J6916	公務員入門		2	1～2	R7年度開講せず	不可	◎				BBLB1067a0	
		J6917	キャリア開発		2	5～6	W				◎	○	BBLB2068a0	
		J6920	ライセンスセミナー法学		2	3～4	R7年度開講せず		◎	○			BBLB2069a0	
		K7320	ライセンスセミナー宅建		2	3～4	S		◎				BBLB2070a0	
		J6922	ライセンスセミナー公務員		2	5～6	S	不可	◎				BBLB2071a0	

●経営学科 公共経営専攻 専門教育科目編成表

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	他学部・他学科履修	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	身につけるべき能力 ④	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	公共経営専攻	J6923	公務員特別演習Ⅰ		2	5～6	S		◎	○			BBLB3072a0	
		J6924	公務員特別演習Ⅱ		2	5～6	W		◎	○			BBLB3073a0	
		K7460	行政職特別演習(憲法)		2	3～4	S	不可	◎				BBLB2074a0	
		K7465	行政職特別演習(行政法)		2	3～4	W	不可	◎				BBLB2075a0	
		K7470	行政職特別演習(民法Ⅰ)		2	3～4	S	不可	◎				BBLB2076a0	
		K7475	行政職特別演習(民法Ⅱ)		2	3～4	W	不可	◎				BBLB2077a0	
		K7480	行政職特別演習(経済Ⅰ)		2	3～4	S	不可	◎				BBLB2078a0	
		K7485	行政職特別演習(経済Ⅱ)		2	3～4	W	不可	◎				BBLB2079a0	
		K7490	行政職特別演習(政治学・行政学)		2	3～4	S	不可	◎				BBLB2080a0	
卒業に必要な最低修得単位数				20	66									

(注 1) 授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ 2 単位付与する。

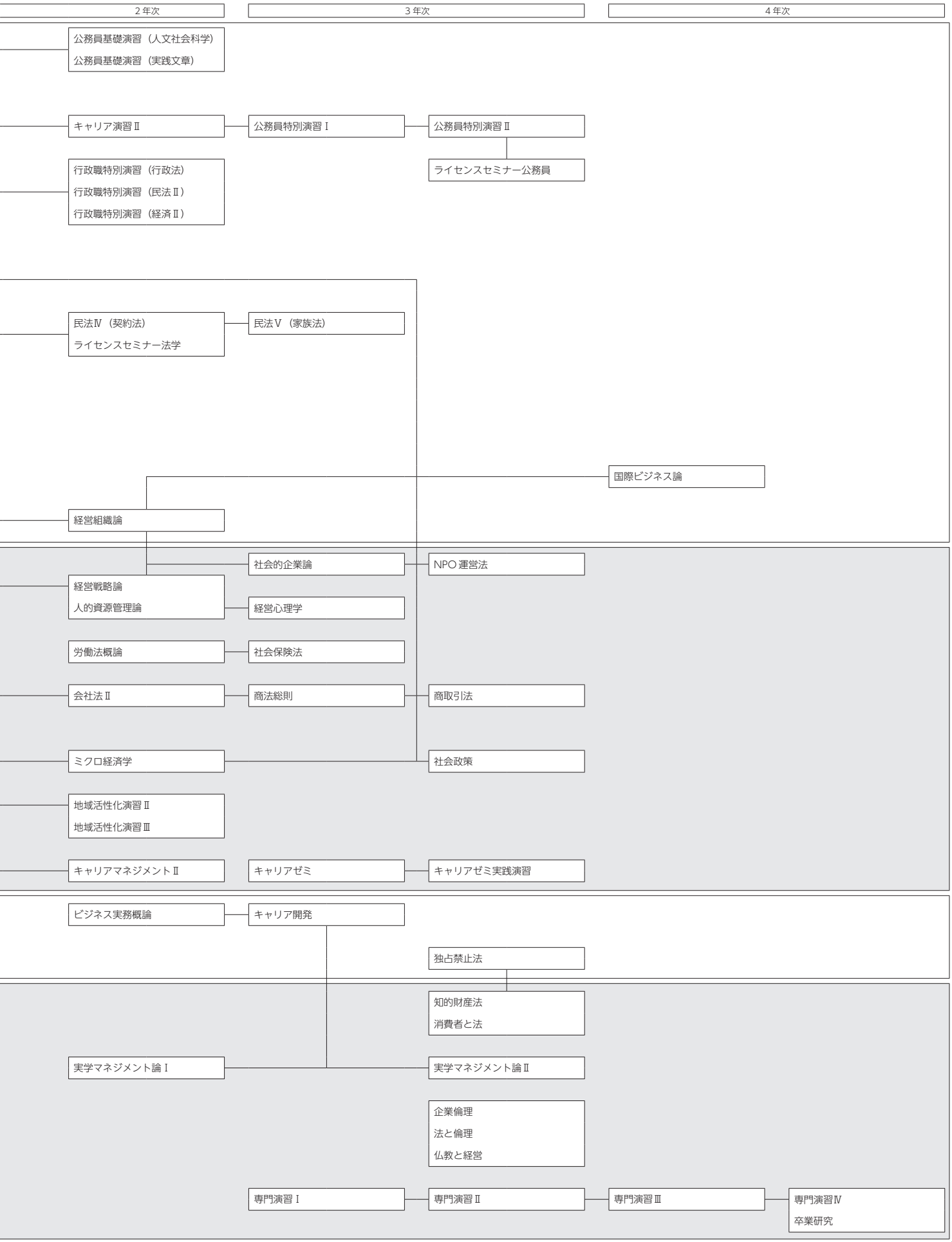
※注意：他学部・他学科履修について

他学部・他学科履修はシラバスを確認し、必ず担当教員の許可を得てから履修登録してください。
IBU.net 上で履修登録できる状態にある、あるいは科目編成表の「他学部・他学科履修」欄に『不可』がなくても他学部・他学科履修を許可しない場合があります。

経営学部 経営学科 公共経営専攻 履修系統図

	身につけるべき能力	1年次		2年次
①	公務員としての幅広い教養と専門性 公務員として、または民間企業や各種団体等で活躍するために備えるべき専門的知識と幅広い教養を体系的に修得している。	公務員入門	経営数学	英語（文章読解） 公務員基礎演習（教養数学） 公務員基礎演習（自然科学）
				キャリア演習Ⅰ
				行政職特別演習（憲法） 行政職特別演習（民法Ⅰ） 行政職特別演習（経済Ⅰ） 行政職特別演習（政治学・行政学）
				財政学
		民法Ⅰ（総則）	民法Ⅱ（物権）	民法Ⅲ（債権総論・不法行為等） ライセンスセミナー宅建
		商業簿記Ⅰ	商業簿記Ⅱ 工業簿記Ⅰ 会計学概論	
		マーケティングⅠ	マーケティングⅡ	
		経営管理論		
②	社会貢献できる課題解決能力 行政や地域コミュニティ、NPO等の存在意義や連携・協働等について理解し、時代の要請に応じた地域の活性化や発展に向けて一定の指針や政策を提示できる柔軟な創造力と的確な判断力を備え、複雑化した社会の諸問題や公共政策について多角的・客観的な観点から課題を分析し、解決策を導くために論理的に思考することができる。	経営学基礎Ⅰ	経営学基礎Ⅱ	
			ビジネス法入門	会社法Ⅰ 企業法概論
			経済学概論	ミクロ経済学
				地域活性化演習Ⅰ
				キャリアマネジメントⅠ
③	他者を理解し、協働するための行動力 多様な立場・考え方を認めたうえで、自らの知識や考えを他者にわかりやすく伝え、周囲を説得できる説明能力、他者との協働を円滑に行える行動力および多様な社会に対応できる能力等を備えている。			行政法
			憲法Ⅰ（人権）	憲法Ⅱ（統治機構）
④	社会の変化に対応できる自己実現力 和の精神に基づき、行政の担い手として、社会の期待や信頼に応えるためにより高い倫理観を有し、公益を優先する強い使命感と責任感を持って、社会に奉仕しようとする意欲に満ち、社会の変化に応じて、生涯にわたり自らを高めるために、常に目標を掲げ、その実現のために継続的な努力ができる。			

※カリキュラムポリシー（CP）はP.162・163を参照してください。



●経営学科 企業経営専攻

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

経営学科企業経営専攻は、学生一人ひとりが個性を伸ばし、高い専門的知識を効果的に修得して、将来、民間企業などで幅広く活躍できる人材、起業家精神を発揮して事業を創出、継承、発展させることができる人材を養成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の４点とします。

卒業時点において学生が身につけるべき能力

① 企業人としての幅広い教養と専門性
幅広い経営学に関する高い専門知識と一般教養を体系的に修得している。

② リーダーに必要な課題解決能力
実社会のさまざまな経済・経営事象、社会や経済の動向も踏まえて、自ら論理的かつ創造的に思考し、適格な判断力や明快な説得力をもって物事に対処することができる。経営の諸問題を発見し、自らが身につけた専門知識を用いて正確に把握・分析し、仲間とともに協働しながらこれらを果敢に解決する能力を備えている。

③ 協働のためのコミュニケーション能力
多様な立場・考え方を認めたうえで、自らの知識や考えを他者にわかりやすく伝え、周囲を説得し、他者との協働を円滑に行える行動力およびコミュニケーション能力を備えている。

④ 社会の変化に対応できる自己実現力
高い倫理観を有し、和の精神に基づいて、さまざまな形で社会（組織）に貢献できる誠実な資質を備え、物事に関心を持ってかかわり、社会（組織）の変化に柔軟かつ的確に対応するとともに、自らのキャリアに関係する知識・スキルなどの修得に積極的かつ継続的に励み、生涯にわたり学び続ける意欲と姿勢を備えている。

※各科目との対応については、授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

経営学科企業経営専攻における教育課程編成・実施の基本的な考え方として、経営学の各領域について基礎分野から応用分野まで学年進行に合わせて専門科目を配置し、体系的なカリキュラムから希望する進路に合わせて、自由に科目が選択できるように編成します。また、学生一人ひとりの将来のキャリア形成を支援するために、インターンシップを中心とするキャリア開発科目に加えて、多様な公的資格取得を支援する科目も学年に応じて段階的に配置します。

1） 経営学の基本的知識から無理なく専門知識までの修得を支援します。
経営学科の根幹をなす「経営学基礎Ⅰ・Ⅱ」「マーケティングⅠ・Ⅱ」「商業簿記Ⅰ・Ⅱ」などの科目を軸に、「経営管理論」「流通論」「経営分析」「財務会計」「会社法Ⅰ」「企業倫理」などの科目を有機的に配置し、学年進行に合わせて無理なく段階的、体系的に編成します。3、4年次には専門知識の深化を図る「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を必修とし、希望者は担任教員の指導の下、「卒業研究」論文に取り組みます。

2） 企業経営や職業に関する理解を深めるために、実践的な学びを支援します。
「実学マネジメント論Ⅰ・Ⅱ」「ビジネスモデル研究」「美容・健康ビジネス論」など、より具体的

に企業経営や職業に関する理解を深める科目を各年次に配置するとともに、ICT 教育やアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行います。

3） 公的資格の取得を支援します。

公的資格試験合格を活用したキャリア開発資質の向上を促進する科目として「ライセンスセミナー」を設け、公的資格試験に挑戦し、合格することで専門知識に加え、職業適性を開発します。公的資格試験として、簿記、ファイナンシャル・プランニング技能士、販売士、ビジネス実務法務、ビジネス実務マナー、PC 関連資格などの指導を行います。

4） キャリア開発に直結する指導をします。

企業経営専攻独自の準備講義「キャリア演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」において社会人としての資質向上支援を行い、「インターンシップⅠ・Ⅱ」で実際の就業体験をすることにより、適性にあったキャリア開発を促進するとともに、将来のキャリアに必要な専門知識を深める機会をすべての学生に提供します。

【教育方法】

1） 企業経営に関する科目全般の方向性として、従来の講義形式に加えて、学生と教員間、学生と学生間の双方向性ある授業を実施します。

2） 学生自らが設定した目標達成のために、課題を発見し、能動的に研究・調査・分析・発表・議論する体験型授業を多く設けることによって、積極的かつ継続的にアクティブ・ラーニングを効果的に行います。

3） 学生のキャリア開発のために、経営学部独自のキャリア教育科目を設け、入学時から継続的に教授します。また、国内でのインターンシップ必修化に加え、海外インターンシップを実施し、グローバル社会にも対応できる職業人を養成することに加え、地域連携型授業をとおして地域社会で活躍できる人材の育成を推進します。

4） 公的資格（簿記、FP、販売士、PC 検定、ビジネス実務法務、ビジネス実務マナー等）を取得するための授業をカリキュラムに体系的に配置することで、初級レベルから上級レベルまで学生が段階的に学修し、無理なく資格取得できる力を養成します。

【学修成果の評価方法】

1） 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2） 企業経営に関する科目全般において、学生はセメスター開始時に学修目標を設定し、セメスター終了時、その達成度を自己評価（省察）します。

3） 各科目において習熟度を測るために学期末試験を行うとともに、科目の特色に応じて中間試験や小テストを行い、課題を与えて評価します。体験型の科目については、アクティブ・ラーニングの一環として実施するグループワーク、発表・報告等に加え、平素の意欲的な学修姿勢も含めて総合的に評価します。

4） 国内外でのインターンシップ科目については、インターンシップ実施企業と連携して、実践可能な到達目標を設定し、教員、企業、学生の自己評価等多面的できめ細やかな評価を行います。

5） 資格取得を目標とする科目については、小テスト、中間・学期末試験、平素の受講態度等に加えて、外部評価となる資格取得の成果も評価の対象とします。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

経営学科企業経営専攻は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような能力・資質、目的意識をもった人物を求めます。

(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得しており、将来、経営に関する知識や経験を企業人として社会で活かしたいという意欲があること　〔求める要素：知識・技能、関心・意欲・態度〕

(2) 企業・団体等への高い就業意欲や起業、事業継承に向けての意欲があり、そのために資格取得や国内外で実施するインターンシップに積極的かつ誠実に取り組む気持ちがあること
〔求める要素：知識・技能、関心・意欲・態度〕

(3) 高等学校等での課外活動やボランティア活動などの経験があり、グループ学習などでは、他者と協働しながら、課題をやり遂げ、発表・報告時には、論理的に説明できること
〔求める要素：主体性・多様性・協働性、思考力・判断力、表現力〕

(4) 入学後、建学の礎である和の精神の理解に努め、他者を思いやり、周囲との協働を重んじて行動できること　〔求める要素：関心・意欲・態度、協働性〕

●経営学科 企業経営専攻 専門教育科目編成表

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	他学部・他学科履修	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	身につけるべき能力 ④	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	学科共通科目	K7010	経営学基礎Ⅰ	2		1～2	S		◎	○			BBMA1001a0	
		K7610	経営学基礎Ⅱ		2	1～2	W			◎		○	BBMA1002a0	
		K7015	商業簿記Ⅰ	2		1～2	S		◎				BBMA1003a0	
		K7705	商業簿記Ⅱ		2	1～2	W		◎				BBMA1004a0	
		K7105	キャリア演習Ⅰ	2		3～4	S	不可	○			◎	BBMA1005a0	公共経営専攻のみ履修可。ただし、要件を満たした者に限る。担当者に相談すること。
		K7110	キャリア演習Ⅱ	2		3～4	W	不可	○			◎	BBMA1006a0	
		J6535	専門演習Ⅰ	2		5～6	S			◎	○		BBMA1007a0	
		J6540	専門演習Ⅱ	2		5～6	W			◎	○		BBMA1008a0	
		J6545	専門演習Ⅲ	2		7～8	S			◎	○		BBMA2009a0	
		J6550	専門演習Ⅳ	2		7～8	W			◎	○		BBMA3010a0	
			卒業研究		4	7～8				◎		○	BBMA3011a0	
		J6556	法と倫理	2	2	5～6	W				○	◎	BBMA2012a0	
		J6557	企業倫理		2	5～6	W				○	◎	BBMA2013a0	
		J6558	仏教と経営		2	5～6	W				○	◎	BBMA2014a0	
		K7615	経営管理論		2	1～2	S		◎	○			BBMA1015a0	
		K7620	経営組織論		2	3～4	W		◎	○			BBMA2016a0	
		K7040	経営戦略論		2	3～4	W			◎			BBMA2017a0	
		K7035	会計学概論		2	1～2	W		◎	○			BBMA1018a0	
		K7715	工業簿記Ⅰ		2	1～2	S		◎				BBMA1019a0	
		K7030	マーケティングⅠ		2	1～2	S		◎	○			BBMA1020a0	
		K7195	マーケティングⅡ		2	1～2	W		◎		○		BBMA1021a0	
		K7020	憲法Ⅰ（人権）		2	1～2	W				◎	○	BBMA1022a0	
		K7025	民法Ⅰ（総則）		2	1～2	S		◎			○	BBMA1023a0	
		K7645	会社法Ⅰ		2	3～4	W			○	◎		BBMA1024a0	
		K7640	企業法概論		2	3～4	S			○	◎		BBMA2025a0	
		K7670	労働法概論		2	3～4	S			○	◎		BBMA2026a0	
		J6615	ビジネス法入門		2	1～2	R7年度開講せず			○	◎		BBMA1027a0	
		K7045	人的資源管理論		2	3～4	W		◎			○	BBMA2028a0	
		J6630	経営心理学		2	5～6	S		◎			○	BBMA2029a0	
		J6635	国際ビジネス論		2	5～6	S		◎			○	BBMA3030a0	
		J6645	ＮＰＯ運営法		2	5～6	W		○	◎			BBMA2031a0	
		J6650	社会的企業論		2	5～6	R7年度開講せず		◎	○			BBMA2032a0	
		K7060	経済学概論		2	1～2	W		◎	○			BBMA1033a0	
		K7065	ミクロ経済学		2	3～4	S		◎	○			BBMA2034a0	
		K7070	マクロ経済学		2	3～4	W		◎	○			BBMA2035a0	
		J6680	社会政策		2	5～6	R7年度開講せず		◎	○			BBMA2036a0	
		K7075	財政学		2	3～4	W		◎				BBMA2037a0	

●経営学科 企業経営専攻 専門教育科目編成表

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	他学部・他学科履修	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	身につけるべき能力 ④	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	学科共通科目	K7505	経営数学		2	1～2	W		◎				BBMA1038a0	
		K7510	英語(文章読解)		2	3～4	W		○		◎		BBMA1039c0	
		K7790	ビジネス実務概論		2	3～4	W		◎			○	BBMA2040a0	
		K7240	実学マネジメント論Ⅰ		2	3～4	W			◎		○	BBMA2041a0	
		J6695	実学マネジメント論Ⅱ		2	5～6	W			◎		○	BBMA2042a0	
		J1560	キャリアマネジメントⅠ		2	3～4	S			◎			BBMA1043a0	
		J1565	キャリアマネジメントⅡ		2	3～4	W			◎			BBMA1044a0	
		J1570	キャリアゼミ		2	5～6	W			◎			BBMA2045a0	
		J1575	キャリアゼミ実践演習	2		5～6	S			◎			BBMA3046a0	
		K7225	地域活性化演習Ⅰ		2	3～4	S			◎			BBMA2047a0	
		K7230	地域活性化演習Ⅱ		2	3～4	W			◎			BBMA2048a0	
		K7235	地域活性化演習Ⅲ		2	3～4	W			◎			BBMA2049a0	
		K7085	公務員基礎演習(教養数学)		2	3～4	S	不可	◎				BBMA1050a0	
		K7090	公務員基礎演習(自然科学)		2	3～4	S	不可	◎				BBMA1051a0	
		K7095	公務員基礎演習(人文社会科学)		2	3～4	W	不可	◎				BBMA1052a0	
		K7110	公務員基礎演習(実践文章)		2	3～4	W	不可	◎				BBMA1053a0	
			経営学研究(注1)		2									
		J6731	〈キャリア演習Ⅳ〉		2	5～6	W	不可				◎	BBMA3102a0	集中講義
	企業経営専攻	J6965	インターンシップⅠ	2		5～6	S				○	◎	BBMB2054a0	
		J6970	インターンシップⅡ	2		5～6	S				○	◎	BBMB3055a0	
		K7685	キャリア演習Ⅲ	2		3～4	W				◎	○	BBMB2056a0	
		K7710	商業簿記Ⅲ		2	3～4	S		◎				BBMB2057a0	
		J6973	商業簿記Ⅳ		2	5～6	R7年度開講せず		◎				BBMB3058a0	
		J6975	財務管理論		2	5～6	S		◎	○			BBMB2059a0	
		J6980	中小企業経営論		2	5～6	S		○	◎			BBMB2060a0	
		K7255	アントレプレナー論		2	1～2	S		○	◎			BBMB1061a0	
		K7260	ビジネスモデル研究		2	3～4	W			◎		○	BBMB2062a0	
		K7200	マーケティングマネジメント論		2	1～2	W		◎	○			BBMB1063a0	
		K7205	マーチャンダイジング		2	3～4	W		◎		○		BBMB2064a0	
		K7795	流通論		2	3～4	S		◎	○			BBMB2065a0	
		J7025	商品論		2	5～6	S		◎	○			BBMB2066a0	
		J7035	消費者心理学		2	5～6	S		◎		○		BBMB2067a0	
		K7730	財務会計		2	3～4	S		◎	○			BBMB2068a0	
		J7060	国際会計		2	5～6	R7年度開講せず		◎		○		BBMB3069a0	
		J7066	工業簿記Ⅱ		2	3～4	R7年度開講せず		◎				BBMB1070a0	
		K7725	工業簿記Ⅲ		2	3～4	S		◎				BBMB2071a0	
		K7720	原価計算		2	5～6	W		◎	○			BBMB2072a0	

●経営学科 企業経営専攻 専門教育科目編成表

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	他学部・他学科履修	身につけるべき能力 ①	身につけるべき能力 ②	身につけるべき能力 ③	身につけるべき能力 ④	ナンバリングコード	備考
専門教育科目	企業経営専攻	J7080	会計監査		2	5～6	S		○			◎	BBMB2073a0	
		J7085	税務会計		2	5～6	W		○			◎	BBMB2074a0	
		J7090	経営分析		2	3～4	S		○	◎			BBMB2075a0	
		J7095	パソコン会計		2	3～4	S		○			◎	BBMB2076a0	
		J7100	ファイナンス概論		2	1～2	S		◎			○	BBMB1077a0	
		J7105	金融論		2	5～6	R7年度開講せず		◎			○	BBMB2078a0	
		J7110	証券投資論		2	5～6	R7年度開講せず		◎			○	BBMB2079a0	
		K7755	ファイナンシャルプランニングⅠ		2	3～4	W		◎			○	BBMB2080a0	
		K7760	ファイナンシャルプランニングⅡ		2	3～4	W		◎			○	BBMB2081a0	
		K7265	起業研究		2	3～4	W			◎		○	BBMB2082a0	
		J7170	ショップビジネス論		2	5～6	W		◎	○			BBMB2083a0	
		K7805	美容・健康ビジネス論		2	3～4	W		◎			○	BBMB2084a0	
		J7185	テーブルコーディネート論		2	3～4	S		◎			○	BBMB2085a0	
		J7195	観光ビジネス論		2	5～6	W		◎		○		BBMB2086a0	
		J7200	旅行ビジネス論		2	5～6	S		◎		○		BBMB2087a0	
		K7855	ビジネス英語基礎		2	1～2	S		○		◎		BBMB1088c0	
		K7860	ビジネス英語応用		2	3～4	W		○		◎		BBMB2089c0	
		J7215	ビジネス英語実践		2	3～4	R7年度開講せず		○		◎		BBMB3090c0	
		K7770	ライセンスセミナー簿記Ⅰ		2	1～2	S		○			◎	BBMB1091a0	
		K7775	ライセンスセミナー簿記Ⅱ		2	1～2	W		○			◎	BBMB1092a0	
		K7780	ライセンスセミナー簿記Ⅲ		2	3～4	S		○			◎	BBMB2093a0	
		J7236	ライセンスセミナーFP		2	3～4	R7年度開講せず		◎				BBMB2094a0	
		K7800	ライセンスセミナー販売士		2	3～4	S		◎	○			BBMB2095a0	
		K7845	ライセンスセミナー医療事務Ⅰ		2	3～4	W		○			◎	BBMB1096a0	
		K7850	ライセンスセミナー医療事務Ⅱ		2	3～4	W		○			◎	BBMB2097a0	
		K7865	ライセンスセミナー秘書・ビジネス実務Ⅰ		2	3～4	S				○	◎	BBMB1098a0	
		J7270	ライセンスセミナー秘書・ビジネス実務Ⅱ		2	3～4	W				○	◎	BBMB2099a0	
		K7210	ライセンスセミナーPC文書作成		2	1～2	W				○	◎	BBMB1100a0	
		K7215	ライセンスセミナーPCデータ活用		2	3～4	S				○	◎	BBMB1101a0	
卒業に必要な最低修得単位数				26	60									

（注１）授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ２単位付与する。

※注意：他学部・他学科履修について

他学部・他学科履修はシラバスを確認し、必ず担当教員の許可を得てから履修登録してください。
IBU.net 上で履修登録できる状態にある、あるいは科目編成表の「他学部・他学科履修」欄に『不可』がなくても他学部・他学科履修を許可しない場合があります。

経営学部 経営学科 企業経営専攻 履修系統図

	身につけるべき能力	1年次	2年次
①	企業人としての幅広い教養と専門性 幅広い経営学に関する高い専門知識と一般教養を体系的に修得している。	経営学基礎Ⅰ 経営管理論 商業簿記Ⅰ マーケティングⅠ 民法Ⅰ（総則）	商業簿記Ⅱ 会計学概論 工業簿記Ⅰ マーケティングⅡ マーケティングマネジメント論 ファイナンス概論 経済学概論 経営数学
②	リーダーに必要な課題解決能力 実社会のさまざまな経済・経営事象、社会や経済の動向も踏まえて、自ら論理的かつ創造的に思考し、適格な判断力や明快な説得力をもって物事に対処することができる。経営の諸問題を発見し、自らが身につけた専門知識を用いて正確に把握・分析し、仲間とともに協働しながらこれらを果敢に解決する能力を備えている。	経営学基礎Ⅱ アントレプレナー論 憲法Ⅰ（人権）	パソコン会計 財務会計 経営分析 工業簿記Ⅱ 流通論 ライセンスセミナー販売士 テーブルコーディネート論 ファイナンシャルプランニングⅠ ミクロ経済学 財政学 公務員基礎演習（教養数学） 公務員基礎演習（自然科学） 起業研究 地域活性化演習Ⅰ キャリアマネジメントⅠ
③	協働のためのコミュニケーション能力 多様な立場・考え方を認めたうえで、自らの知識や考えを他者にわかりやすく伝え、周囲を説得し、他者との協働を円滑に行える行動力およびコミュニケーション能力を備えている。	ビジネス英語基礎 ビジネス法入門	ビジネス英語応用 英語（文章読解） 会社法Ⅰ 企業法概論
④	社会の変化に対応できる自己実現能力 高い倫理観を有し、和の精神に基づいて、さまざまな形で社会（組織）に貢献できる誠実な資質を備え、物事に関心を持ってかかわり、社会（組織）の変化に柔軟かつ的確に対応するとともに、自らのキャリアに関係する知識・スキルなどの修得に積極的かつ継続的に励み、生涯にわたり学び続ける意欲と姿勢を備えている。	ライセンスセミナー簿記Ⅰ	ライセンスセミナー簿記Ⅱ ライセンスセミナーPC文書作成 ライセンスセミナー簿記Ⅲ ライセンスセミナー医療事務Ⅰ ライセンスセミナー秘書・ビジネス実務Ⅰ キャリア演習Ⅰ

※カリキュラムポリシー（CP）はP.170・171を参照してください。

2年次	3年次	4年次
経営組織論 人的資源管理論 ビジネス実務概論	財務管理論 経営心理学 消費者心理学	国際ビジネス論
商業簿記Ⅲ	商業簿記Ⅳ	
会計監査 税務会計	国際会計	
工業簿記Ⅲ	原価計算	
マーチャンダイジング	商品論	
美容・健康ビジネス論	ショップビジネス論 旅行ビジネス論	観光ビジネス論
ファイナンシャルプランニングⅠ ライセンスセミナーFP	証券投資論	金融論
マクロ経済学	社会政策	
公務員基礎演習（人文社会科学） 公務員基礎演習（実践文章）		

専門演習Ⅰ	専門演習Ⅱ	専門演習Ⅲ	専門演習Ⅳ 卒業研究
経営戦略論			
ビジネスモデル研究	中小企業経営論		
実学マネジメント論Ⅰ	実学マネジメント論Ⅱ		
地域活性化演習Ⅱ 地域活性化演習Ⅲ	社会的企業論	NPO運営法	
キャリアマネジメントⅡ	キャリアゼミ	キャリアゼミ実践演習	

ビジネス英語実践	
労働法概論	

仏教と経営 企業倫理 法と倫理	
ライセンスセミナー医療事務Ⅱ	
ライセンスセミナーPCデータ活用	
ライセンスセミナー秘書・ビジネス実務Ⅱ	
キャリア演習Ⅱ キャリア演習Ⅲ	インターンシップⅠ インターンシップⅡ

●看護学部

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

看護学部は、教育理念に基づき、①豊かな教養と高い倫理観を醸成すること、②自ら考え、課題を発見し、解決の方法を見出し、行動できる主体性と創造性を涵養すること、③看護の本質を熟考し続け、どんな状況であっても最善の看護を提供できる実践力を身につけることを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下７点とします。

卒業時点において学生が身につけるべき能力

① 高い倫理観を備え、他者と関係を築く力
　1）人間を多局面から統合的に理解することができる。
　2）他者と相互理解を深め、成長し合う関係を築くことができる。
　3）人間の尊厳と権利を擁護することができる。

② 課題を発見し、対応する能力
　1）情報を目的に応じて活用することができる。
　2）課題を発見し、優先順位をつけて、課題解決の方法を考え対応できる。
　3）学際的な幅広い知識と看護学の専門知識を体系的に修得することができる。

③ 健康と生活を包括的、継続的に支援する看護実践力
　1）特定の健康課題に対応した生活を支援する看護実践ができる。
　2）科学的根拠に基づく看護実践ができる。
　3）地域の健康課題をとらえ、課題解決のための方法を見出し実践できる。

④ 看護者の責務を認識し、他職種と協働する力
　1）社会における看護の役割と責務を理解できる。
　2）他職種の専門性を尊重し、情報交換や問題解決のための連携ができる。

⑤ 変化を生み出す力
　1）社会の動向や人々のヘルスケアニーズの変化に関心を持つことができる。
　2）新たな健康課題に対応し、主体的・創造的に看護を実践しようとする態度を身につけることができる。
　3）自分の力を信じて挑戦し続けることができる。

⑥ 国際的活動の基本的能力
　1）世界の様々な国や地域の健康上の課題とその背景を理解できる。
　2）異文化や異なる価値観を持つ人を受け入れ、関係を築くことができる。
　3）看護専門職として国際貢献に関心を持つことができる。

⑦ 自己研鑽を継続する能力
　1）生涯を通じて、自発的な能力開発を継続しようとする態度を身につける。
　2）看護を探求し続けるために、自己の課題を見出すことができる。

※各科目との対応については授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

看護学部のカリキュラム編成においては、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）で示された卒業時に修得すべき能力を、学生が 4 年間でバランスよく、確実に修得できるように科目を配置しています。

また、教育の方法は、学生の主体性を引き出し、学生自らが進んで調べて考えるという学ぶ力を身につけることを重視するアクティブ・ラーニングを主体としています。

したがって教員には、アクティブ・ラーニングの理念を理解し、教授方法を修得すること、学習環境を整え、明確な課題と学習目標を設定して学生の学習を支援することが求められています。

1） ケアすることの価値について熟考し、自分自身の実践の核となる看護観を構築できるように支援する。
2） 教養科目を充実させ、安定した人間性と高い倫理観の醸成や、人間、社会、環境の理解など学際的な知識の理解を支援する。
3）「知識を与えるだけの教育」から「自ら考える力を醸成する教育」への転換を図り、学生自らの気づきや考えを尊重し、学生が意見や考えを自由に表現し、行動に移せるように支援する。
4） 健康が人々の生活や文化に密接に関係していること、生活を支援することがどういうことかを深く理解して、生活に着目した看護が実践できるよう講義、演習、実習の繋がりを重視した教育を行う。
5） 多様な実習の場を提供し、体験学習を通して、地域におけるケアの重要性を認識できる教育を行う。
6） 他職種と連携・協働する重要性とその方法を理解するために、実際の活動を通して実践的に学べるよう支援する。
7） グローバルな視野で世界の健康課題を理解できるよう異文化体験、海外研修等の教育内容を提示する。
8） 学生が看護学を基盤とした自らのキャリアデザインを描けるように支援する。

【教育方法】

1） 常に看護とは何かを探求し続け、新たな看護の創造に貢献できる人材を育てます。専門科目において、大学基礎演習（看護基礎ゼミ）、看護と倫理、看護研究法、課題研究、統合実習などの看護について探求し、思考することを学ぶ科目を、学生の学習レベルに応じて段階的に配置します。
2） 人を生活者として理解するために、1 年次から実習を配置します。2 年次・3 年次では、病気や健康障害による生活への影響と人々の反応に着目した看護の原理と方法を学ぶ実習科目を配置します。
3） 多職種との連携や協働について学び、看護の責務と役割を理解するために、一般教養科目、専門科目における講義、実習を配置します。
4） 学習者の主体性を引き出し、自立して行動できる力を育てる教育を行います。講義・演習科目において、アクティブ・ラーニングを推進します。また、看護実践でのあらゆる状況、患者の状態を学習者の学習準備状況に合わせて再現した環境での体験型学習であるシミュレーション教育を行います。

【学修成果の評価方法】

教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。具体的な評価指標は次の 4 項目。

1） 授業目標への到達度の総合的評価：各科目において、定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等
2） 看護実践力評価：演習科目、実習科目における取り組み、看護師国家試験模試、看護師国家試験
3） 半年ごとの自己省察と目標修正・設定（学修ポートフォリオおよび上記 1）2）をもとに、担任教員またはチューター、実習担当教員と面談を行う）
4） 就職先アンケート、卒業生アンケート

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

看護学部は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような能力・資質、目的意識をもった人物を求めます。

⑴　看護学を学ぶための基礎的能力を有している人　〔求める要素：知識・技能〕

⑵　人間の生命や尊厳を大切にし、他者の苦痛や悩みを理解しようとする人　〔求める要素：思考力・判断力〕

⑶　学問への真摯な態度を持ち、自ら学ぼうとする人　〔求める要素：関心・意欲・態度〕

⑷　人間の可能性や柔軟な心を信じ、人間に関心を寄せられる人　〔求める要素：思考力・判断力、知識・技能〕

⑸　失敗を恐れず、失敗から謙虚に学び、成長しようとする人　〔求める要素：関心・意欲・態度〕

⑹　看護を通して社会に貢献しようという志を持つ人〔求める要素：表現力、主体性・多様性・協働性〕

●看護学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.260 ～ 265 で調べて履修すること。

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	授業の方法	身につけるべき能力 ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	ナンバリングコード	備考
健康科学科目	身体のしくみと働き	K8100	人体の構造と機能Ⅰ	②		1～2	S	講義	○	◎	○					NNNA1001a0	看護学科の専門教育科目は他学部・他学科の学生は履修することはできない。
		K8105	人体の構造と機能Ⅱ	2		1～2	S	講義	○	◎	○					NNNA1002a0	
		K8110	病態生理学	2		1～2	W	講義	○	◎	○					NNNA1003a0	
		K8115	栄養と代謝	②		1～2	W	講義	○	◎	○					NNNA1004a0	
		K8120	臨床心理学		2 (※1)	1～2	W	講義	○	◎	○					NNNA1005a0	
	疾病からの回復過程	K8125	疾病と治療Ⅰ	②		1～2	W	講義	○	◎	○					NNNB2006a0	
		K8130	疾病と治療Ⅱ	2		1～2	W	講義	○	◎	○					NNNB2007a0	
		K8135	疾病と治療Ⅲ	1		3～4	S	講義	○	◎	○					NNNB2008a0	
		K8140	薬理学	②		3～4	S	講義	○	◎	○					NNNB2009a0	
	健康と生活	K8145	生活健康論	1		1～2	S	講義	◎	○	○					NNNC1010a0	
		K8150	精神保健	②		3～4	S	講義	○	◎						NNNC2011a0	
		K8155	疫学		② (※1,3,4)	3～4	W	講義	○	◎			○			NNNC2012a0	
		K8160	保健行動論		2 (※1)	1～2	W	講義	○	◎	○					NNNC1013a0	
	社会保障と健康政策	K8165	社会保障制度	2		1～2	W	講義			○	○	◎			NNND1014a0	
		K8170	国際保健学	2		3～4	S	講義		○		○	○	◎		NNND2015a0	
		K8180	保健統計学		2 (※1,3)	3～4	W	講義		○	○		◎			NNND2016a0	集中講義
		J8180	医療と経済		2 (※1)	5～6	R7年度開講せず	講義		○	○		◎			NNND3017a0	
		K8185	保健行政論		2 (※1,3)	1～2	W	講義			○	○	◎			NNND1018a0	
看護科学科目	看護の基盤	K8190	看護概論	②		1～2	S	講義	◎		○	○			○	NNNE1019a0	
		K8195	看護の歴史	2		3～4	S	講義	○		○	◎				NNNE1020a0	
		K8200	生活支援論	2		1～2	S	講義	○	◎	○				○	NNNE1021a0	
		K8205	ライフサイクルにおける発達課題と健康	1		1～2	S	講義	◎	○	○				○	NNNE1022a0	
		K8210	看護と倫理	②		3～4	S	講義	◎			○		○	○	NNNE2023a0	
		K8215	コミュニケーション論	1		1～2	W	講義	◎	○						NNNE2024a0	
		K8220	初期実習Ⅰ（生活をみる）	1		1～2	S	実習	◎	○						NNNE1025a0	集中講義
		K8225	初期実習Ⅱ（コミュニケーションの実践）	1		1～2	S	実習	◎	○						NNNE1026a0	集中講義
		K8230	大学基礎演習（看護基礎ゼミ）	1		1～2	S	演習	◎	○					○	NNNE1027a0	
	療養生活支援看護	K8235	療養生活支援論（成人・高齢者）	2		3～4	W	講義		◎	○	○				NNNF2028a0	
		K8240	フィジカルアセスメント	2		3～4	W	演習		◎	○	○				NNNF2029a0	
		K8245	生活支援技術演習	1		3～4	S	演習		○	◎	○			○	NNNF2030a0	
		K8250	看護治療技術演習	①		3～4	S	演習		◎	○	○				NNNF2031a0	
		J8265	療養生活支援技術演習Ⅰ	3		5～6	S	演習		◎	○	○				NNNF2032a0	
		J8270	療養生活支援技術演習Ⅱ	2		5～6	S	演習		◎	○	○				NNNF2033a0	
		K8265	療養生活支援基礎実習	2		3～4	W	実習		○	◎	○			○	NNNF2034a0	
		J8290	療養生活支援実習Ⅰ（急性・回復期）	2		5～6	W	実習		○	◎	○				NNNF3035a0	
		J8300	療養生活支援実習Ⅱ（慢性期）	2		5～6	W	実習		○	◎	○				NNNF3036a0	
		J8310	療養生活支援実習Ⅲ（老化に伴う健康課題）	2		5～6	W	実習		○	◎	○				NNNF3037a0	

●看護学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.260 ～ 265 で調べて履修すること。

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	授業の方法	身につけるべき能力 ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	ナンバリングコード	備考
看護科学科目	女性の健康と成育支援看護	K8285	女性の発達課題と健康	1		3～4	W	講義		◎	○	○				NNNG2038a0	
		J8325	母性生活支援技術演習	2		5～6	S	演習		◎	○	○				NNNG2039a0	
		J8330	母性生活支援実習	2		5～6	W	実習		○	◎	○				NNNG3040a0	
		K8300	成育生活支援論	①		3～4	W	講義		◎	○	○				NNNG2041a0	
		J8345	成育療養生活支援技術演習	②		5～6	S	演習		◎	○	○				NNNG2042a0	
		J8350	成育療養生活支援実習	②		5～6	W	実習		○	◎	○				NNNG3043a0	
	コミュニティにおける継続的な看護	K8315	在宅療養生活支援論	1		3～4	S	講義		◎	○	○				NNNH2044a0	
		K8320	在宅療養生活支援技術演習	2		3～4	W	演習		◎	○	○				NNNH2045a0	
		J8370	ケースマネジメントと多職種連携	2		5～6	S	講義		○	○	◎	○			NNNH3046a0	集中講義
		K8330	精神健康と生活支援	1		3～4	W	講義		○	◎	○				NNNH2047a0	
		J8380	精神療養生活支援技術演習	2		5～6	S	演習		○	◎	○				NNNH2048a0	
		K8340	家族の健康課題と生活支援	1		3～4	S	講義		◎	○	○				NNNH2049a0	
		K8345	産業保健論		2 (※3)	3～4	W	講義		◎	○	○				NNNH2050a0	集中講義
		K8350	学校保健論		② (※3,4)	3～4	S	講義		◎	○	○				NNNH2051a0	
		J8400	グローバルヘルスと国際看護	2		7～8	S	講義	○	○			○	◎		NNNH3052a0	集中講義
		K8400	災害看護支援論	2		3～4	W	講義		○	◎	○	○	○		NNNH2053a0	
		J8410	在宅療養生活支援実習	2		5～6	W	実習		○	◎	○				NNNH3054a0	
		J8420	精神療養生活支援実習	2		5～6	W	実習		○	◎	○				NNNH3055a0	
		J8425	災害看護支援技術演習		1 (※2)	7～8	S･W	演習		○	◎	○	○	○		NNNH2056a0	集中講義
		J8430	国際看護フィールドワーク		1 (※2)	7～8	S/W	演習	○	○			◎	◎		NNNH2057a0	集中講義
	健康の増進と疾病予防の看護	K8425	地域生活支援論Ⅰ	②		3～4	S	講義		◎	○	○	○			NNNI2058a0	
		J8437	地域生活支援論Ⅱ		2 (※3)	5～6	S	講義		○	◎	○	○			NNNI3059a0	
		J8440	地域生活支援技術論		2 (※3)	5～6	S	講義		◎	○	○	○			NNNI2060a0	
		J8445	地域生活支援技術演習Ⅰ		1 (※3)	5～6	W	演習		○	◎	○	○			NNNI2061a0	集中講義
		J8452	地域生活支援技術演習Ⅱ		2 (※3)	7～8	S	演習		○	◎	○	○			NNNI3062a0	集中講義
		K8450	健康教育論		2 (※3)	3～4	W	講義		○	◎	○	○			NNNI2063a0	
	看護の探求と統合	J8460	看護研究法	2		5～6	S	講義		◎			○			NNNJ1064a0	
		J8465	課題研究	2		7～8	S･W	演習	○	◎			○		○	NNNJ3065a0	
		K8465	キャリアマネジメント	1		3～4	W	講義				○	○		◎	NNNJ1066a0	
		J8475	看護政策		1 (※2)	7～8	W	講義		◎		○	○			NNNJ2067a0	集中講義
		J8480	看護システムマネジメント論	2		5～6	S	講義	○	○		◎	○			NNNJ2068a0	
		J8490	看護管理実習	2		5～6	W	実習	○	○	○	◎	○			NNNJ3069a0	
		J8500	統合実習	3		7～8	S/W	実習	○	○		◎	○		○	NNNJ3070a0	
	保健師コース	J8510	地域生活支援実習		5	7～8	S	実習	○	○	◎	○	○		○	NNNK3071a0	
	助産師コース	J8521	助産学概論		2	5～6	S	講義	◎	○		○	○	○	○	NNNL2072a0	
		J8525	周産期医学		2	5～6	S	講義	○	◎	○	○	○		○	NNNL2073a0	
		J8531	助産診断・技術学Ⅰ		3	5～6	W	講義	○	◎		○	○		○	NNNL2074a0	集中講義

●看護学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.260 ～ 265 で調べて履修すること。

種別		授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	授業の方法	身につけるべき能力 ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	ナンバリングコード	備考
看護科学科目	助産師コース	J8536	助産診断・技術学Ⅱ		2	7～8	S	講義	○	◎		○	○		○	NNNL2075a0	集中講義
		J8541	助産診断・技術学Ⅲ		3	7～8	S	講義	○	◎		○	○		○	NNNL2076a0	集中講義
		J8546	助産技術学演習Ⅰ		1	5～6	W	演習	○	○	◎	○			○	NNNL2077a0	集中講義
		J8551	助産技術学演習Ⅱ		1	7～8	S	演習	○	○	◎	○			○	NNNL2078a0	集中講義
		J8554	地域母子保健		1	7～8	W	講義	○	○	◎	○	○		○	NNNL3079a0	
		J8555	助産管理論		1	7～8	W	講義	◎	○	○	○	○		○	NNNL3080a0	
		J8560	助産実習		11	7～8	S	実習	○	○	◎	○	○		○	NNNL3081a0	
	養護教諭コース	K8545	養護概説		②	3～4	W	講義	○	○	◎	○	○		○	NNNM2082a0	
		J8575	健康相談		②	5～6	S	講義	○	○	◎	○	○		○	NNNM2083a0	
		J8580	養護実習		5	7～8	S	実習	○	○	◎	○	○		○	NNNM3084a0	
卒業に必要な最低修得単位数				102	0												

1. 健康科学科目（必修科目 22 単位、選択科目 6 単位）……（※ 1）の内、3 科目 6 単位を選択必修とする。
   看護科学科目（必修科目 73 単位、選択科目 1 単位）……（※ 2）のいずれか 1 科目 1 単位を選択必修とする。
2. 保健師国家試験受験資格取得には、卒業要件に加え、（※ 3）と「保健師コース」の全てを修得すること。
3. 助産師国家試験受験資格取得には、卒業要件に加え、「助産師コース」の全てを修得すること。
4. 養護教諭一種免許状取得には、卒業要件に加え、（※ 4）と「養護教諭コース」と教職に関する科目の全てを修得すること。

（注）
- 助産師コースの科目は、女子のみ履修を可能とする。
- 養護教諭二種免許状取得には、「日本国憲法」「スポーツⅠ・Ⅱ」「上級英語Ⅰ・Ⅱ」「情報処理演習Ⅰ」または「情報処理演習Ⅱ」を修得し、保健師免許を取得することで免許申請が可能となる。

●「課題研究」の履修要件

1）6 セメスターを終了して、「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の 2 単位、「看護研究法」の 2 単位および統合実習の実習参加要件（P.184）を満たすこと。

2）7・8 セメスターの履修登録時に「課題研究」の履修登録を行う。

●実習科目の履修要件

1）履修要覧（P.184 ～ P.186）に定められている実習参加要件を満たしていること。

2）毎年行われている定期健康診断を受けていること、および看護学部において指定した感染症の抗体価検査を受け、必要な感染予防対策を行っていること。

3）実習において必要な一般社団法人日本看護学校協議会共済会の総合補償制度 Will に加入していること。

【注意】

実習によっては実習先に健康診断書や抗体などの検査結果を提出します。「学生定期健康診断」を必ず受診してください。

実習先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾病名等の健康情報を原則記載します。不都合等あれば事前に保健センターに相談してください。

※詳細は、オリエンテーションで説明があります。

■看護師国家試験受験資格取得　実習参加要件

下記科目を履修するために先修科目の単位を取得しておくこと

年　次	科　　目	先修科目
2 年次	療養生活支援基礎実習（2 単位）	初期実習Ⅰ（生活をみる）（1 単位） 初期実習Ⅱ（コミュニケーションの実践）（1 単位） 看護概論（2 単位） 生活支援技術演習（1 単位） 看護治療技術演習（1 単位）
3 年次	療養生活支援実習Ⅰ（急性・回復期）（2 単位） 療養生活支援実習Ⅱ（慢性期）（2 単位） 療養生活支援実習Ⅲ（老化に伴う健康課題）（2 単位） 母性生活支援実習（2 単位） 成育療養生活支援実習（2 単位） 在宅療養生活支援実習（2 単位） 精神療養生活支援実習（2 単位） 看護管理実習（2 単位）	療養生活支援基礎実習（2 単位）
4 年次	統合実習（3 単位）	療養生活支援実習Ⅰ（急性・回復期）（2 単位） 療養生活支援実習Ⅱ（慢性期）（2 単位） 療養生活支援実習Ⅲ（老化に伴う健康課題）（2 単位） 母性生活支援実習（2 単位） 成育療養生活支援実習（2 単位） 在宅療養生活支援実習（2 単位） 精神療養生活支援実習（2 単位） 看護管理実習（2 単位） （全ての単位修得していることが望ましいが、やむをえない場合は、検討する。P.361 第 28 条を参照）

■保健師国家試験受験資格取得　学内選抜試験および実習参加要件

本学では、保健師コースを選択できる定員は 10 人以内とし、選抜時期は 2 年次冬学期の成績評価終了後に行います。出願方法は IBU.net で連絡します。選抜試験を受験するためには、4 セメスターまでに配当された必修科目及び下記の指定された選択科目（教養教育科目、語学・情報科学科目、健康科学科目、看護科学科目）の単位を修得する必要があります。なお、選抜試験の評価は、面接試験と 4 セメスターまでに配当されている健康科学および看護科学科目のうち実習を除く必修科目の GPA により行います。

選抜試験・授業科目	受験・履修条件
選抜試験応募条件 定員　10 名	在学 4 セメスター終了までに次の要件を満たしていること。 • 基礎教育科目「和の精神Ⅰ」、「和の精神Ⅱ」、「仏教概説」、「現代社会と人権」の 4 科目 6 単位を修得していること。 • 共通教育科目の教養教育科目が「生物学」1 科目 2 単位を含んで 8 単位以上であること。 • 共通教育科目の語学・情報科学科目が「統計学」、「上級英語Ⅰ」、「上級英語Ⅱ」、「上級英語Ⅲ（医療英語）」、「上級英語Ⅳ（英語論文読解）」の 5 科目 6 単位を含んで 10 単位以上であること。 • 専門教育科目の 4 セメスターまでに配当された必修科目 35 科目 55 単位および「保健行政論」、「保健統計学」、「疫学」、「学校保健論」、「産業保健論」、「健康教育論」の 6 科目 12 単位を修得していること。
「地域生活支援実習」	• 選抜試験に合格していること。 • 専門教育科目の 6 セメスターまでに配当された必修科目 51 科目 88 単位を修得していること。「地域生活支援論Ⅱ」「地域生活支援技術論」、「地域生活支援技術演習Ⅰ」、「地域生活支援技術演習Ⅱ」の 4 科目 7 単位を修得していること。

■助産師国家試験受験資格取得　学内選抜試験および実習参加要件

本学では、助産師コースを選択できる定員は 5 人以内とし、選抜時期は 3 年次夏学期の成績評価終了後に行います。出願方法は IBU.net で連絡します。選抜試験を受験するためには、5 セメスターまでに配当された必修科目及び下記の指定された選択科目（教養教育科目、語学・情報科学科目、健康科学科目、看護科学科目）の単位を修得する必要があります。なお、選抜試験の評価は、面接試験と 5 セメスターまでに配当されている健康科学および看護科学科目のうち実習を除く必修科目の GPA により行います。

選抜試験・授業科目	受験・履修条件
選抜試験応募条件 定員　5 名	在学 5 セメスター終了までに次の要件を満たしていること。 • 基礎教育科目「和の精神Ⅰ」、「和の精神Ⅱ」、「仏教概説」、「現代社会と人権」の 4 科目 6 単位を修得していること。 • 共通教育科目の教養教育科目が「生物学」1 科目 2 単位を含んで 8 単位以上であること。 • 共通教育科目の語学・情報科学科目が「統計学」、「上級英語Ⅰ」、「上級英語Ⅱ」、「上級英語Ⅲ（医療英語）」、「上級英語Ⅳ（英語論文読解）」の 5 科目 6 単位を含んで 10 単位以上であること。 • 専門教育科目の 5 セメスターまでに配当された必修科目 43 科目 72 単位および「助産学概論」の 1 科目 2 単位を修得していること。
「助産実習」	• 選抜試験に合格していること。 • 専門教育科目の 6 セメスターまでに配当された必修科目 51 科目 88 単位を修得していること。「周産期医学」、「助産診断・技術学Ⅰ」、「助産診断・技術学Ⅱ」、「助産診断・技術学Ⅲ」、「助産技術学演習Ⅰ」、「助産技術学演習Ⅱ」の 6 科目 12 単位を修得していること。

■養護教諭一種免許状　学内選抜試験および実習参加要件

本学では、養護教諭コースを選択できる定員は 20 人程度とし、選抜時期は 2 年次冬学期の成績評価終了後に行います。出願方法は IBU.net で連絡します。選抜試験を受験するためには、4 セメスターまでに配当された必修科目及び下記の指定された選択科目（教養教育科目、語学・情報科学科目、健康科学科目、看護科学科目、教職科目）の単位を修得する必要があります。なお、選抜試験の評価は、面接試験と 4 セメスターまでに配当されている健康科学および看護科学科目のうち実習を除く必修科目及び教職に関する科目のうち「教職論」「教育原論」「教育心理学」「特別支援教育」の科目の GPA により行います。

選抜試験・授業科目	受験・履修条件
選抜試験応募条件 定員　20 名	在学 4 セメスター終了までに次の要件を満たしていること。 • 基礎教育科目「和の精神Ⅰ」、「和の精神Ⅱ」、「仏教概説」、「現代社会と人権」の 4 科目 6 単位を修得していること。 • 共通教育科目が「生物学」、「日本国憲法」、「スポーツⅠ」、「スポーツⅡ」、「統計学」、「上級英語Ⅰ」、「上級英語Ⅱ」、「上級英語Ⅲ（医療英語）」、「上級英語Ⅳ（英語論文読解）」の 9 科目 12 単位および「情報処理演習Ⅰ」または「情報処理演習Ⅱ」いずれか 1 科目 2 単位を含んで 16 単位以上であること。 • 専門教育科目で 4 セメスターまでに配当された必修科目 35 科目 55 単位および「疫学」、「学校保健論」、「養護概説」の 3 科目 6 単位を修得していること。 • 教職に関する科目「教職論」、「教育原論」、「教育心理学」、「特別支援教育」、「教育方法・技術（情報通信技術の活用含む中高養）」、「生徒指導論（養）」、「教育相談の理論と方法（中・高・養）」の 7 科目 14 単位を修得していること。
「養護実習」	• 選抜試験に合格していること。 • 専門教育科目で 6 セメスターまでに配当された必修科目 51 科目 88 単位および「健康相談」の 1 科目 2 単位を修得していること。 • 教職に関する科目「教育制度論」、「教育課程総論（中・高・養）」、「特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（中高養）」の 3 科目 6 単位を修得していること。

看護学部 看護学科 履修系統図

	身につけるべき能力	種　別	1年次		2年次
①	高い倫理観を備え、他者と関係を築く力 1)人間を多局面から総合的に理解することができる。 2)他者と相互理解を深め、成長し合う関係を築くことができる。 3)人間の尊厳と権利を擁護することができる。	健康と生活	生活健康論	保健行動論	
		社会保障と健康政策		社会保障制度	
		看護の基盤	大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 看護概論 ライフサイクルにおける発達課題と健康 初期実習Ⅰ 初期実習Ⅱ	コミュニケーション論	看護と倫理
		助産師コース			
②	課題を発見し、対応する能力 1)情報を目的に応じて活用することができる。 2)課題を発見し、優先順位をつけて、課題解決の方法を考え対応できる。 3)学際的な幅広い知識と看護学の専門知識を体系的に修得することができる。	身体のしくみと働き	人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ	栄養と代謝 病態生理学 臨床心理学	
		疾病からの回復過程		疾病と治療Ⅰ 疾病と治療Ⅱ	疾病と治療Ⅲ 薬理学
		健康と生活			精神保健
		社会保障と健康政策			
		看護の基盤	生活支援論		
		療養生活支援看護			看護治療技術演習
		女性の健康と生育支援看護			
		コミュニティにおける継続的な看護			家族の健康課題と生活支援 在宅療養生活支援論 学校保健論
		健康の増進と疾病予防の看護			地域生活支援論Ⅰ
		看護の探求と統合			
		助産師コース			
③	健康と生活を包括的、継続的に支援する看護実践力 1) 特定の健康課題に対応した生活を支援する看護実践ができる。 2) 科学的根拠に基づく看護実践ができる。 3) 地域の健康課題をとらえ、課題解決のための方法を見出し実践できる。	社会保障と健康政策		保健行政論	
		療養生活支援看護			生活支援技術演習
		女性の健康と生育支援看護			
		コミュニティにおける継続的な看護			
		健康の増進と疾病予防の看護			
		保健師コース			
		助産師コース			
		養護教諭コース			
④	看護者の責務を認識し、他職種と協働する力 1)社会における看護の役割と債務を理解できる。 2)他職種の専門性を尊重し、情報交換や問題解決のための連携ができる。	社会保障と健康政策			
		看護の基盤			看護の歴史
		コミュニティにおける継続的な看護			
		看護の探求と統合			
⑤	変化を生み出す力 1)社会の動向や人々のヘルスケアニーズの変化に関心を持つことができる。 2)新たな健康課題に対応し、主体的・創造的に看護を実践しようとする態度を身につけることができる。 3)自分の力を信じて挑戦し続けることができる。	健康と生活			
		社会保障と健康政策			
		看護の探求と統合			
⑥	国際的活動の基本的能力 1)世界の様々な国や地域の健康上の課題とその背景を理解できる。 2)異文化や異なる価値観を持つ人を受け入れ、関係を築くことができる。 3)看護専門職として国際貢献に関心を持つことができる。	社会保障と健康政策			国際保健
		コミュニティにおける継続的な看護			
⑦	自己研鑽を継続する能力 1)生涯を通じて、自発的な能力開発を継続しようとする態度を身につける。 2)看護を探究し続けるために、自己の課題を見出すことができる。	看護の探求と統合			

※カリキュラムポリシー（CP）は P.179 を参照してください。

2 年次	3 年次		4 年次
	助産学概論		助産管理論
フィジカルアセスメント	療養生活支援技術演習 Ⅰ		
療養生活支援論（成人・高齢者）	療養生活支援技術演習 Ⅱ		
女性の発達課題と健康	成育療養生活支援技術演習		
成育生活支援論	母性生活支援技術演習		
在宅療養生活支援技術演習			
産業保健論			
	地域生活支援技術論		
			看護政策
		助産診断・技術学 Ⅰ	助産診断・技術学 Ⅱ
		周産期医学	助産診断・技術学 Ⅲ
療養生活支援基礎実習		療養生活支援実習 Ⅰ（急性期・回復期）	
		療養生活支援実習 Ⅱ（慢性期）	
		療養生活支援実習 Ⅲ（老化に伴う健康課題）	
		母性生活支援実習	
		成育療養生活支援実習	
災害看護支援論	精神療養生活支援技術演習	精神療養生活支援実習	災害看護支援技術演習
精神健康と生活支援		在宅療養生活支援実習	
健康教育論			
	地域生活支援論 Ⅱ	地域生活支援技術演習 Ⅰ	地域生活支援技術演習 Ⅱ
			地域生活支援実習
			地域母子保健
		助産技術学演習 Ⅰ	助産技術学演習 Ⅱ
			助産実習
養護概説	健康相談		養護実習
保健統計学			
	ケースマネジメントと多職種連携		
	看護システムマネジメント論	看護管理実習	統合実習
疫学			
	医療と経済		
	看護研究法		課題研究
			グローバルヘルスと国際看護
			国際看護フィールドワーク
キャリアマネジメント			

●教職に関する科目（人文社会学部）（教育の基礎的理解に関する科目等）・（「教科の指導法に関する科目」）

種別	授業概要コード	科目名	単位数 中免 必修	単位数 中免 選択	単位数 高免 必修	単位数 高免 選択	配当セメスター	開講学期	ナンバリングコード	備考
教職に関する科目	K9010	教職論	2		2		1～2	S/W	TTTT1001a2	
	K9020	教育原論	2		2		1～2	S	TTTT1002a2	
	K9030	教育心理学	2		2		1～2	S/W	TTTT1003a2	
	J9040	教育制度論	2		2		5～6	S	TTTT1004a2	
	K9050	特別支援教育	2		2		1～2	S/W	TTTT1005a2	
	J9060	教育課程総論（中・高・養）	2		2		5～6	S	TTTT1006a2	
	J9070	教科教育法Ⅰ（国語）	8（注1）	2	4（注2）	2	5～6	S	TTTT2007a2	
	J9080	教科教育法Ⅱ（国語）		2		2	5～6	S	TTTT2008a2	
	J9090	教科教育法Ⅲ（国語）		2			5～6	W	TTTT2009a2	
	J9100	教科教育法Ⅳ（国語）		2			5～6	W	TTTT2010a2	
	J9110	教科教育法Ⅰ（書道）				2	5～6	S	TTTT2011a2	
	J9120	教科教育法Ⅱ（書道）				2	5～6	W	TTTT2012a2	
	J9130	教科教育法Ⅰ（英語）		2		2	5～6	S	TTTT2013a2	
	J9140	教科教育法Ⅱ（英語）		2		2	5～6	W	TTTT2014a2	
	J9150	教科教育法Ⅲ（英語）		2			5～6	S	TTTT2015a2	
	J9160	教科教育法Ⅳ（英語）		2			5～6	W	TTTT2016a2	
	J9170	社会教科教育法Ⅰ		2			5～6	S	TTTT2017a2	
	J9180	社会教科教育法Ⅱ		2			5～6	W	TTTT2018a2	
	J9190	社会地理歴史教科教育法		2		2	5～6	S	TTTT2019a2	
	J9200	地理歴史教科教育法				2	5～6	W	TTTT2020a2	
	J9210	社会公民教科教育法		2		2	5～6	S	TTTT2021a2	
	J9220	公民教科教育法				2	5～6	S	TTTT2022a2	
	J9230	教科教育法Ⅰ（福祉）				2	5～6	S	TTTT2023a2	
	J9240	教科教育法Ⅱ（福祉）				2	5～6	W	TTTT2024a2	
	K9250	道徳教育の理論と方法（中・養）	2				3～4	S	TTTT1025a2	
	J9260	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（中高養）	2		2		5～6	W	TTTT1026a2	
	K9270	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む中高養）	2		2		3～4	S	TTTT1027a2	
	K9280	生徒指導論（進路指導を含む）（中・高）	2		2		3～4	W	TTTT1028a2	
	K9300	教育相談の理論と方法（中・高・養）	2		2		3～4	W	TTTT1029a2	
	J9310	教育実習指導	1		1		5～6	W	TTTT2030a2	
	J9320	教育実習Ⅰ	4		2（注3）	4	5～6	W	TTTT3031a2	
	J9330	教育実習Ⅱ				2	5～6	W	TTTT3032a2	
	J9350	教職実践演習（中・高）	2		2		7～8	W	TTTT3033a2	
教員職員免許取得のための必要最低単位数			37		29					

（注1）
- 中学一種免許は同一教科のⅠ～Ⅳの４科目８単位必修。
- 中学一種社会免許は、社会教科教育法Ⅰ・Ⅱ、社会地理歴史教科教育法、社会公民教科教育法の４科目８単位必修。

（注2）
- 高校一種免許は同一教科のⅠ～Ⅱの２科目４単位必修。
- 高校一種地理歴史免許は、社会地理歴史教科教育法、地理歴史教科教育法の２科目４単位必修。

・高校一種公民免許は、社会公民教科教育法、公民教科教育法の 2 科目 4 単位必修。
（注3）　高校一種免許は教育実習Ⅰまたは教育実習Ⅱを選択必修。

（※1）　教育職員免許状を取得しようとするものは、p.199「中学校・高等学校教諭一種免許状の課程（人文社会学部）」を参照のこと。
（※2）　「教職に関する科目」（教育の基礎的理解に関する科目等）（「教科の指導法に関する科目」）の修得単位数は、教育職員免許状の取得のみに有効で、卒業に必要な単位には算入できない。
また各規程（教育実習参加についての要件）に定められている単位数にも算入できない。
（※3）　複数の免許を取得する場合は、それぞれの教科教育法を履修しなければならない。
（※4）　中高両方の免許を取得する場合は、「教育実習Ⅰ」を履修すること。高一種のみ取得する場合は、「教育実習Ⅱ」を履修すること。
（※5）　各教科教育法の履修方法
中一種を取得する場合……該当教科のⅠ～Ⅳ必修
高一種を取得する場合……該当教科のⅠ・Ⅱ必修
但し、英語・国語の高一種を取得する場合は、Ⅲ・Ⅳについても履修することが望ましい。
社会を取得する場合……「社会教科教育法Ⅰ・Ⅱ」「社会地理歴史教科教育法」「社会公民教科教育法」の 4 科目 8 単位必修
地理歴史を取得する場合……「社会地理歴史教科教育法」「地理歴史教科教育法」の 2 科目 4 単位必修
公民を取得する場合……「社会公民教科教育法」「公民教科教育法」の 2 科目 4 単位必修
福祉を取得する場合……希望する者は、教育実習は「公民」で行われる事が多いため、教科教育法については、「教科教育法Ⅰ・Ⅱ（福祉）」に加えて、「社会公民教科教育法」「公民教科教育法」を履修すること。
また「福祉」と「公民」両方の免許を取得することが望ましい。

●教職に関する科目（看護学部）（教育の基礎的理解に関する科目等）

種別	授業概要コード	科目名	単位数 養免 必修	単位数 養免 選択	配当セメスター	開講学期	ナンバリングコード	備考
教職に関する科目	K9010	教職論	2		1～2	S/W	TTTN1001a2	
	K9020	教育原論	2		1～2	W	TTTN1002a2	
	K9030	教育心理学	2		1～2	S/W	TTTN1003a2	
	J9040	教育制度論	2		5～6	S	TTTN1004a2	
	K9050	特別支援教育	2		1～2	S/W	TTTN1005a2	
	J9060	教育課程総論（中・高・養）	2		5～6	S	TTTN1006a2	
	K9250	道徳教育の理論と方法（中・養）	2		3～4	S	TTTN1007a2	
	J9260	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（中高養）	2		5～6	W	TTTN1008a2	
	K9270	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む中高養）	2		3～4	S	TTTN1009a2	
	K9290	生徒指導論（養）	2		3～4	S	TTTN1010a2	
	K9300	教育相談の理論と方法（中・高・養）	2		3～4	W	TTTN1011a2	
	J9360	教職実践演習（養護教諭）	2		7～8	W	TTTN3012a2	
教員職員免許取得のための必要最低単位数			24					

養護実習 5 単位は看護学科専門教育科目で充当する。教員免許状取得のための必要最低単位数は 29 単位とする。

●司書教諭の講習に関する科目

人文社会学部および教育学部の学生で学校図書館司書教諭の資格を取得する場合は、「司書教諭の講習に関する科目」を修得する必要があります。

司書教諭の講習に関する科目

種別	授業概要コード	科目名	単位数 必修	単位数 選択	配当セメスター	開講学期	ナンバリングコード	備考
学校図書館司書教諭科目	J9600	学校経営と学校図書館	2		7～8	S	LLLL2001a2	
	J9610	学校図書館メディアの構成	2		7～8	S	LLLL2002a2	
	J9620	学習指導と学校図書館	2		7～8	S	LLLL2003a2	
	J9630	読書と豊かな人間性	2		7～8	S	LLLL2004a2	
	J9640	情報メディアの活用	2		7～8	S	LLLL2005a2	
学校図書館司書教諭講習の修了証書取得に必要な修得単位数			10					

学校図書館司書教諭講習の修了証書を取得しようとするものは、教職課程（対象となる免許は小一種・中一種・高一種）を履修した上に、さらに、学校図書館司書教諭講習規程による上表の科目 10 単位を履修しなければならない。

（p.277「司書教諭の講習に関する科目」参照）

上記の科目により修得した単位は、学校図書館司書教諭講習の修了証書の取得のみに有効で、卒業に必要な単位には算入できない。

●重ねて履修できない科目一覧表

※下記太枠内の科目は重ねて２科目以上履修できません。各自、所属学科の科目を履修すること。

大/短	授　業　科　目	種別・学科
大	異文化コミュニケーション論	社会
短	異文化理解Ⅰ	共通
大	異文化理解	共通
大	異文化理解	日本
大	異文化理解	国際
大	異文化理解	英小
大	英語学	国際
大	英語学特論Ⅰ・Ⅱ	英小
大	英語学概説	国際
大	英語学概説	教小
大	英語学概説	英小
大	英文法Ⅰ	国際
大	英文法Ⅰ	教小
大	英文法Ⅰ	英小
大	英文法Ⅱ	国際
大	英文法Ⅱ	教小
大	英文法Ⅱ	英小
大	英語音声学	国際
大	英語音声学	教小
大	英語音声学	英小
大	家族社会学	社会
大	家族社会学	人健
大	子どもと家族・社会	教育
大	教職論	教育
大	教職論	教職
大	教育原論	教職
大	教育原論	教育
短	教育原理（制度的事項等を含む）	保育
大	教育心理学	教職
大	教育心理学	教育
大	教育制度論	教職
大	教育制度論	教育
大	特別支援教育	教職
大	特別支援教育	教育
短	特別支援教育	保育
大短	特別支援教育概論	共通
大	特別支援教育概論	教小
大	教育課程総論（中・高・養）	教職
大	教育課程総論（小・中・高・養）	教育
大	道徳教育の理論と方法（中・養）	教職
大	道徳教育の理論と方法（小・中・養）	教育
大	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（中高養）	教職
大	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（小中高養）	教育
大	教育の方法・技術（中・高・養）	教職
短	教育の方法・技術	保育
大	生徒指導論（進路指導を含む）（中・高）	教職
大	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	教育
大	教育相談の理論と方法（中・高・養）	教職
大	教育相談の理論と方法（小・中・高・養）	教育
大	教職実践演習（中・高）	教職
大	教職実践演習（教諭）	教育
大	ベーシックコミュニケーションⅠ・Ⅱ	国際
大	ベーシックコミュニケーションⅠ	教小
大	ベーシックコミュニケーションⅠ	英小
大	ベーシックコミュニケーションⅢ・Ⅳ	国際
大	ベーシックコミュニケーションⅡ	教小
大	ベーシックコミュニケーションⅡ	英小
大	ベーシックコミュニケーションⅤ・Ⅵ	国際
大	ベーシックコミュニケーションⅢ	教小
大	ベーシックコミュニケーションⅢ	英小
大	ベーシックコミュニケーションⅦ・Ⅷ	国際
大	ベーシックコミュニケーションⅣ	教小
大	ベーシックコミュニケーションⅣ	英小

大/短	授　業　科　目	種別・学科
短	アドバンストコミュニケーション	共通
大	アドバンストコミュニケーションⅠ	教小
大	アドバンストコミュニケーションⅠ	英小
大	児童英語教育実践研究Ⅰ	共通
大	児童英語教育実践研究Ⅰ	教育
大	児童英語教育実践研究Ⅱ	共通
大	児童英語教育実践研究Ⅱ	教育
大短	児童福祉論	共通
大	児童・家庭福祉	人健
大	子ども家庭福祉	教幼
短	子ども家庭福祉	保育
大	社会学概論	社会
大	社会学概論	人健
大	社会政策論	社会
大	社会政策	経営
大短	心理学Ⅰ・Ⅱ	共通
大	心理学概論	社会
大	心理学概論	人健
大	地域社会学	社会
大	地域社会学	人健
大	経営学基礎Ⅰ・Ⅱ	経営
短	経営学概論	ライフ
大短	法学入門	共通
大	法学（国際法を含む）	社会
大短	哲学入門	共通
大	哲学概論	社会
大	ビジネス実務概論	経営
短	ビジネス実務概論	ライフ
大	キャリア演習Ⅲ	経営
短	ビジネス文書	ライフ
大	マーケティング論	社会
大	マーケティングⅠ	経営
短	マーケティング論	ライフ
大	社会調査法	社会
大	社会福祉調査の基礎	人健
大短	障害者福祉	共通
大	障害者福祉	人健
大	国際経済論	社会
大	国際経済学	国際
大	国際経済学	人健
大	カウンセリング方法論	社会
大	カウンセリング方法論	人健
大	カウンセリング理論	社会
大	カウンセリング理論	人健
大	簿記Ⅰ・Ⅱ	経営
短	簿記演習Ⅰ・Ⅱ	ライフ
大	人的資源管理論	人健
大	人的資源管理論	経営
大	ジェンダーの社会学	共通
大	ジェンダー論	社会
大	情報社会の法と倫理（リテラシー含む）	共通
大	情報文化論（メディアリテラシーを含む）	日本
大	メディア文化論	社会
大	マクロ経済学	国際
大	マクロ経済学	経営
大	ミクロ経済学	国際
大	ミクロ経済学	経営
大	コンテンツ産業論	社会
大	コンテンツ産業論	経営
大	地域連携インターンシップⅠ（キャリア・プロジェクト研究）	共通
大	地域活性化演習Ⅰ（キャリア・プロジェクト研究）	共通
大	地域活性化演習Ⅰ	経営

大/短	授　業　科　目	種別・学科
大	地域連携インターンシップⅡ(キャリア・プロジェクト研究)	共通
大	地域活性化演習Ⅰ(キャリア・プロジェクト研究)	共通
大	地域活性化演習Ⅱ	経営
大	地域連携インターンシップⅢ(キャリア・プロジェクト研究)	共通
大	地域歴史文化演習(キャリア・プロジェクト研究)	共通
大	地域連携インターンシップⅣ(キャリア・プロジェクト研究)	共通
大	地域活性化演習Ⅲ(キャリア・プロジェクト研究)	共通
大	地域活性化演習Ⅲ	経営
大	産業組織心理学	社会
大	経営心理学	経営
大	旅行産業論	日本
大	旅行ビジネス論	経営
大	ファッションビジネス論	経営
短	ファッションビジネス論	ライフ
大	国際問題論	国際
大	国際問題論	社会
大	国際ビジネス論	国際
大	国際ビジネス論	社会
大	国際ビジネス論	経営
大	国際政治学	国際
大	国際政治論	社会
大	情報特別演習Ⅰ	国際
大	情報処理実践演習Ⅰ	社会
大	情報特別演習Ⅱ	国際
大	情報処理実践演習Ⅱ	社会
大	ビジネス英語Ⅰ	国際
大	ビジネス英語基礎	経営
大	ビジネス英語Ⅱ	国際
大	ビジネス英語応用	経営
大	日本思想史	日本
大	日本思想史	社会
大	パフォーマンス実践演習	日本
大	パフォーマンス演習	教小
大	パフォーマンス演習	教幼
大	パフォーマンス演習	英小
大	パフォーマンス演習	教健
大	日本史概論	日本
大	日本史概説Ⅰ・Ⅱ	社会
大	英語圏文化概説	国際
大	英語圏文化概説	教小
大	英語圏文化概説	英小
大	英語学概説	教小
大	英語学概説	英小
大	英語文学Ⅰ(英文学)	教小
大	英語文学Ⅰ(英文学)	英小
大	英語文学Ⅱ(米文学)	教小
大	英語文学Ⅱ(米文学)	英小
大	世界英語の文化圏Ⅰ	教小
大	世界英語の文化圏Ⅰ	英小
大	世界英語の文化圏Ⅱ	教小
大	世界英語の文化圏Ⅱ	英小
大	中等英語科教育法Ⅰ	教小
大	中等英語科教育法Ⅰ	英小
大	中等英語科教育法Ⅱ	教小
大	中等英語科教育法Ⅱ	英小
大	中等英語科教育法Ⅲ	教小
大	中等英語科教育法Ⅲ	英小
大	中等英語科教育法Ⅳ	教小
大	中等英語科教育法Ⅳ	英小

大/短	授　業　科　目	種別・学科
大	教育実習指導(英語)	教小
大	教育実習指導(英語)	英小
大	教育実習Ⅰ(英語)	教小
大	教育実習Ⅰ(英語)	英小
大	教育実習Ⅱ(英語)	教小
大	教育実習Ⅱ(英語)	英小
大	幼児教育課程総論	教小
大	幼児教育課程総論	教幼
大	保育方法論	教小
大	保育方法論	教幼
大	幼児理解(教育相談を含む)	教小
大	幼児理解(教育相談を含む)	教幼
大	保育内容総論	教小
大	保育内容総論	教幼
大	保育内容の理論と方法(健康)	教小
大	保育内容の理論と方法(健康)	教幼
大	保育内容の理論と方法(人間関係)	教小
大	保育内容の理論と方法(人間関係)	教幼
大	保育内容の理論と方法(環境)	教小
大	保育内容の理論と方法(環境)	教幼
大	保育内容の理論と方法(言葉)	教小
大	保育内容の理論と方法(言葉)	教幼
大	保育内容の理論と方法(表現活動・音楽)	教小
大	保育内容の理論と方法(表現活動・音楽)	教幼
大	保育内容の理論と方法(表現活動・造形)	教小
大	保育内容の理論と方法(表現活動・造形)	教幼
大	博物館概論	日本
大	博物館概論	社会
大	生涯学習概論	日本
大	生涯学習概論	社会
大	博物館展示論	日本
大	博物館展示論	社会
大	博物館資料論	日本
大	博物館資料論	社会
大	博物館教育論	日本
大	博物館教育論	社会
大	博物館経営論	日本
大	博物館経営論	社会
大	博物館資料保存論	日本
大	博物館資料保存論	社会
大	博物館情報・メディア論	日本
大	博物館情報・メディア論	社会
大	博物館実習A・B・C	日本
大	博物館実習A・B・C	社会
大	臨床心理学	社会
大	臨床心理学	人健
大	アジア文化概説	日本
大	アジア文化概説	国際
大	アジア文化概説	社会
大	日中交流史	日本
大	日中交流史	国際
大	日中交流史	社会
大	日中比較文化論	日本
大	日中比較文化論	国際
大	日中比較文化論	社会
大	文化人類学	共通
大	文化人類学	社会
大	教育方法・技術(情報通信技術の活用含む中高養)	教職
大	教育方法・技術(情報通信技術の活用含む幼小中高養)	教育

※人文社会学部人間福祉学科・教育学部・看護学部・短期大学部の専門教育科目は、他学部・他学科の学生が履修することはできない。

教職に関する科目の履修について
〈教 育 学 科〉 教育学科の学生で教免を希望する者は、教育学科で開設されている教科・教職科目を履修すること
〈教育学科以外〉 教免を希望する者は、「教職に関する科目（教育の基礎的理解に関する科目等）」で開設されている科目を履修すること。

各種免許・資格

教育職員免許状（以下「教員免許状」という）取得のための
基礎資格と教育職員免許法上の最低修得単位数について …… 196

「各種免許・資格」に関する注意事項 …… 198

本学で取得可能な教員免許状・資格等について …… 198
── 取得可能な免許・資格等を一覧で示しています。

人文社会学部

全学科	教職に関する科目	190 ～
全学科	学校図書館司書教諭に関する科目	192、227
日本学科	中・高一種免許状（国語）	199 ～、205 ～
日本学科	高一種免許状（書道）	199 ～、207 ～
国際キャリア学科	中・高一種免許状（英語）	199 ～、209 ～
社会学科	中一種免許状（社会）	199 ～、211 ～
社会学科	高一種免許状（地歴）	199 ～、214 ～
社会学科	高一種免許状（公民）	199 ～、216 ～
人間福祉学科健康福祉専攻	高一種免許状（公民）	199 ～、218 ～
人間福祉学科健康福祉専攻	高一種免許状（福祉）	199 ～、220 ～
人間福祉学科健康福祉専攻	社会福祉士国家試験受験資格	270 ～
人間福祉学科健康福祉専攻	精神保健福祉士国家試験受験資格	274 ～
全学科	社会福祉主事任用資格	278
全学科	日本語教員養成プログラム	279 ～
日本学科・社会学科	博物館学芸員	281 ～
全学科	児童指導員任用資格	282
社会学科	社会調査士	283
社会学科	認定心理士	284
人間福祉学科健康福祉専攻	身体障害者福祉司任用資格	286
人間福祉学科健康福祉専攻	知的障害者福祉司任用資格	286
人間福祉学科健康福祉専攻	公認初級パラスポーツ指導員	287
人間福祉学科健康福祉専攻	児童福祉司任用資格	287
人間福祉学科健康福祉専攻	レクリエーション・インストラクター	288
全学科	地域共創プログラム	291

教育学部

全コース	学校図書館司書教諭に関する科目	192、277
小学校教育コースで取得できる教員免許状の課程		222
幼児教育保育コースで取得できる教員免許状の課程		235
英語教育・小学校コースで取得できる教員免許状の課程		243
保健教育コースで取得できる教員免許状の課程		251
幼児教育保育コース	保育士	266
全コース	社会福祉主事任用資格	278
全コース	児童指導員任用資格	282
全コース	ピアヘルパー受験資格	285

経営学部

全専攻	社会福祉主事任用資格	278
全専攻	地域共創プログラム	291

看護学部

看護学科	養護一種免許状	260 ～
看護学科	看護師国家試験受験資格	289
看護学科	保健師国家試験受験資格	289
看護学科	助産師国家試験受験資格	290
看護学科	教職に関する科目	191

教員免許状取得のための基礎資格と教育職員免許法上の最低修得単位数について

●基礎資格

学士の学位を有すること

〈中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状〉

	教育職員免許法上の最低修得単位数				
	教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目	大学が独自に設定する科目
中学校教諭一種免許状	28 単位	10 単位	10 単位	7 単位	4 単位
高等学校教諭一種免許状	24 単位	10 単位	8 単位	5 単位	12 単位

（合計：59 単位）

〈幼稚園一種免許状〉

教育職員免許法上の最低修得単位数				
領域及び保育内容の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目	大学が独自に設定する科目
16 単位	10 単位	4 単位	7 単位	14 単位

（合計：51 単位）

〈小学校教諭一種免許状〉

教育職員免許法上の最低修得単位数				
教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目	大学が独自に設定する科目
30 単位	10 単位	10 単位	7 単位	2 単位

（合計：59 単位）

〈養護教諭一種免許状〉

教育職員免許法上の最低修得単位数				
養護に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目	大学が独自に設定する科目
28 単位	8 単位	6 単位	7 単位	7 単位

（合計：56 単位）

●基礎資格

学士の学位を有すること及び、幼稚園、小学校、中学校、高等学校いずれかの普通免許状を有すること。

〈特別支援学校教諭一種免許状〉

教育職員免許法上の最低修得単位数			
特別支援教育の基礎理論に関する科目	特別支援教育領域に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習
2 単位	16 単位	5 単位	3 単位

（合計：26 単位）

※上記修得単位数と別に、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目（8 単位）の修得が必要となる。

教員免許状の申請について

教員免許状は、教育職員免許法に定められた単位を修得し、大学を卒業した学生が、各都道府県教育委員会に申請することにより授与されます。いずれの教育委員会から授与される教員免許状も全国共通で使用できます。

教員免許状の申請方法は、①一括申請と②個人申請があります。

①一括申請

本学が窓口となり、当該年度の教員免許状取得見込者を取りまとめて手続きを行う申請方法です。本学は、大阪府教育委員会に申請をしています。一括申請を行わなければ、卒業時に教員免許状を得ることはできません。

一括申請対象者は、以下の全ての項目を満たす学生です。

・在学生で、申請年度 3 月に卒業見込者
・本学が定めた申請期間内に手続きをした者
・教育職員免許法第 5 条に定める所要資格及び本学が定める教員免許状取得に必要な最低修得単位数を修得した者

②個人申請

一括申請を行わなかった学生、一括申請の対象外となった学生及び卒業後に科目等履修生などで教員免許取得条件を満たした学生が、卒業後、個人で行う申請方法です。個人申請は、居住地の都道府県教育委員会へ所定の手続きをもって申請します。都道府県ごとに申請方法、申請書類等が異なるため、各申請者において申請される教育委員会に問い合わせてください。

〈「各種免許・資格」に関する注意事項〉

このページに記載されている科目名や実習の参加要件等が、巻末の規程と異なっている場合がありますが、この「各種免許・資格」ページに記載されている科目名や要件に従い、履修や学修を進めてください。

本学で取得可能な教員免許状・資格等について

本学では、所定の授業科目を履修することにより、下表の●印・○印の免許資格を取得することができます。履修にあたっては、免許・資格ごとに要件等が定められていますので、注意してください。また、この表は複数免許・資格の同時取得を保証するものではありません。

（注 1）○印の教員免許状を取得する場合は、各コースの●印の教員免許を取得することを前提として許可しています。なお○印の免許状は 4 年間の在学中にその免許取得要件を満たせるとは限りません。

（注 2）各免許・資格の取得については、該当ページで必ず詳細を確認してください。（※）については、特定の資格を取得することが要件となっています。

（注 3）教育学科保健教育コースおよび幼児教育保育コースの場合、学校図書館司書教諭取得には、小学校一種免許状の取得が必要となります。

（注 4）養護教諭　二種免許状および第一種衛生管理者免許の取得については、P.290「保健師国家試験受験資格　取得要件科目一覧」下に記載されている※印の事項を確認してください。

		学科・専攻（コース）									
		日本	国際	社会	人健	教小	教幼	英小	教健	経営	看護
教員免許状の種類	中学校教諭　一種免許状（国語）	●									
	高等学校教諭　一種免許状（国語）	●									
	高等学校教諭　一種免許状（書道）	●									
	中学校教諭　一種免許状（英語）		●			○		●			
	高等学校教諭　一種免許状（英語）		●			○		●			
	中学校教諭　一種免許状（社会）			●							
	高等学校教諭　一種免許状（地理歴史）			●							
	高等学校教諭　一種免許状（公民）			●	●						
	高等学校教諭　一種免許状（福祉）				●						
	中学校教諭　一種免許状（数学）					○					
	高等学校教諭　一種免許状（数学）					○					
	小学校教諭　一種免許状					●	○	○	○		
	幼稚園教諭　一種免許状					○	●				
	特別支援学校教諭　一種免許状（知・肢・病）					○					
	養護教諭　一種免許状								●		●（選抜）
	養護教諭　二種免許状										○（※）
資格	学校図書館司書教諭	●	●	●	●	●	●	●	●		
	保育士資格						●				
	社会福祉主事任用資格	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	社会福祉士国家試験受験資格				●						
	精神保健福祉士国家試験受験資格				●（選抜）						
	児童指導員任用資格	●（※）	●（※）	●	●	●	●	●	●		
	日本語教員養成プログラム修了証明書	●	●	●	●						
	地域共創プログラム修了証明書*	●	●	●	●						
	認定心理士			●							
	社会調査士			●							
	身体障害者福祉司任用資格				●（※）						
	知的障害者福祉司任用資格				●（※）						
	児童福祉司任用資格				●（※）						
	レクリエーション・インストラクター				●						
	公認初級パラスポーツ指導員				●						
	ピアヘルパー受験資格					●	●	●	●		
	第一種衛生管理者免許										○（※）
	博物館学芸員	●		●							
	看護師国家試験受験資格										●
	保健師国家試験受験資格										●（選抜）
	助産師国家試験受験資格										●（選抜）

＊本学独自で発行する証明書です。

中学校・高等学校教諭一種免許状の課程
（人文社会学部）

●教育職員免許状を取得するために必要な要件

「教職に関する科目」の必要単位の修得（「教育の基礎的理解に関する科目等」）	「教職に関する科目」は卒業に必要な単位に含まない（「教育の基礎的理解に関する科目等」）
「教科及び教科の指導法に関する科目」の必要単位の修得	「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）」は卒業に必要な単位に含まない
「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6」に定められている科目※の修得	※「日本国憲法」 「スポーツⅠ・Ⅱ」 「英語Ⅰ・Ⅱ（国際キャリア学科はベーシックコミュニケーションⅠ）」 「情報処理演習ⅠまたはⅡ」
「介護等体験」への参加	高校の免許のみを取得する場合は、「介護等体験」参加は不要
免許や実習に関するガイダンスへの出席	
教育実習への参加	
教育職員免許状申請	
大学の卒業	

●教職課程履修者に対する連絡

教職課程履修者への連絡はすべて IBU.net で行いますので、十分に注意してください。

※履修及び修得すべき科目・単位は各自で必ず確認すること。

●学外実習について

学外実習について質問がある場合は、教職教育推進センターに来てください。

●学外実習に参加するための心得

学外実習は要件を満たしているからといって、それだけの理由で安易に行うべきものではありません。量・質ともに過密なスケジュールをこなしている学校の現場で多大な迷惑をかけながら、実習させていただくのです。教育実習を行うにあたっては、将来実際に教職につくことを強く希望しているということが、一番の要件になるということを強く自覚してください。

●人文社会学部　教育実習および「介護等体験」の予定

1　学外実習については、学則による開講日だけでなく休業日にも実施します。
2　中学校教育職員免許状取得希望者は、「介護等体験」への参加が必要です。

1 セメスター 入学後	教職課程履修等オリエンテーション、「履修カルテ」の作成、「介護等体験」についての説明
↓	
3 セメスター 5 月	教育実習申込み登録ガイダンス
↓	
3 セメスター 5 月～ 6 月	実習希望校へ教育実習の内諾依頼（各自）
↓	
4 セメスター 3 月	実習希望校へ正式依頼書を提出
↓	
4 セメスター 9 月～	「介護等体験」事前研修（3 回程度） 参加申込手続、参加費振込、レポート提出等
↓	
5 ～ 6 セメスター 5 月～ 2 月	**「介護等体験」**参加（社会福祉施設 5 日間、特別支援学校 2 日間）
↓	
5 セメスター 6 月～ 7 月	実習先とのオリエンテーション
↓	
5 セメスター 7 月	教育実習事前ガイダンス（人権教育特別講義）
↓	
6 セメスター 9 月～ 10 月	**教育実習参加** 中学校 3 週間、高等学校 2 週間
↓	
6 セメスター 9 月～ 10 月	教育実習終了【実習記録等提出（終了後 2 週間以内）】

※オリエンテーション、ガイダンス、事前研修等を欠席した場合は、「介護等体験」・教育実習に参加できません。

●人文社会学部　「介護等体験」の参加要件

中学校教育職員免許状を取得するためには、教育実習とは別に、特別支援学校で 2 日間、社会福祉施設で 5 日間、計 7 日間の「介護等体験」を行うことが義務付けられています。

その目的は、介護などの経験を通じて学んだことを教育の現場に活かしていくことにあります。詳細については、「介護等体験」事前研修において説明します。

- 参加時期は、上記の予定を参照してください。

- 「介護等体験」には、次の参加要件を満たさないと参加できません。
  ① 4 セメスターを修了していること。
  ② 参加する前年度の夏学期までに、次のⒶⒷのとおり単位を修得していること。

Ⓐ

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
	和の精神Ⅱ	1 単位
卒業に必要となる修得単位数が上記 2 科目を含んで、46 単位以上		

Ⓑ

教職に関する科目	教職論	2 科目 4 単位以上
	教育原論	
	教育心理学	

  ③ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。
- 体験先は大学から公的機関に依頼し決定します。他大学の学生と一緒に実習をする場合もあります。
- 体験参加申込金および体験先への謝礼金が必要です。
- 体験先には健康診断書を提出します。「学生定期健康診断」を必ず受診してください。体験先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾患名等の健康情報を原則記載します。不都合があれば事前に保健センターに相談してください。
- 体験先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。
- 体験先（社会福祉施設）には腸内細菌検査結果を提出する必要があります。

●人文社会学部　「教科教育法」の履修要件

教員免許を取得するためには、取得しようとする教科の「教科教育法」の単位を修得する必要があります。各学科における「教科教育法」の履修要件は以下のとおりです。

日本学科

- 「教科教育法Ⅱ（国語）」は、履修登録する前セメスターまでに以下①②の要件を満たしていなければ履修登録ができません。
  ① 次のとおり単位を修得していること。

日本学科専門教育科目	古典Ⅰ（日本）	18 単位以上
	古典Ⅱ（中国）	
	日本語学Ⅰ	
	日本語学Ⅱ	
	日本文学史Ⅰ（近現代）	
	日本文学史Ⅱ（古典）	
	日本語文法Ⅰ（現代）	
	日本語文法Ⅱ（古典）	
	日本文学論Ⅰ（近現代）	
	日本文学論Ⅱ（古典）	
	国語教育論 A	
	国語教育論 B	

  ② ①の科目群のグレード・ポイントの平均が 2.0 以上であること。
  ただし、グレード・ポイントの平均の計算に際し、再履修により単位を修得した授業科目については、再履修によって得たほうの成績評価を算入するものとする。※
  ※上記、グレード・ポイントの平均の算出方法は、人文社会学部日本学科の定めるものであり、日本学科に確認すること。

国際キャリア学科

- 「教科教育法Ⅰ（英語）」は、履修登録する前セメスターまでに以下のいずれかの点数または等級を取得していなければ履修登録ができません。

CASEC	600 点以上
実用英語技能検定	2 級以上
TOEIC L & R	550 点以上　（IP 含む）

※「教科教育法Ⅰ（英語）」は開講学期開始前までに教務部長宛に履修登録願書を提出する必要があります。

- 「教科教育法Ⅱ（英語）」は、履修登録する前セメスターまでに以下①②の要件を満たしていなければ履修登録ができません。

① 次のとおり単位を修得していること。

国際キャリア学科専門教育科目	英語圏文化概説	16 単位以上
	英文法Ⅰ	
	英文法Ⅱ	
	ベーシックコミュニケーションⅢ	
	ベーシックコミュニケーションⅣ	
	ベーシックコミュニケーションⅤ	
	ベーシックコミュニケーションⅥ	
	英語音声学	
	英語文学概説	
	英語学概説	
	英語学	

② 累積 GPA が 2.5 以上であること。

社会学科

- 「社会教科教育法Ⅰ」「社会教科教育法Ⅱ」「社会地理歴史教科教育法」「地理歴史教科教育法」「社会公民教科教育法」「公民教科教育法」は、履修登録する前セメスターまでに以下①②の要件を満たしていなければ履修登録ができません。

① 次のとおり単位を修得していること。

社会学科専門教育科目	社会科教育研究Ⅰ	2 単位
	社会科教育研究Ⅱ	2 単位
卒業に必要となる修得単位数が上記 2 科目を含んで、80 単位以上		

② 累積 GPA が 2.0 以上であること。

人間福祉学科

- 「社会公民教科教育法」「公民教科教育法」「教科教育法Ⅰ（福祉）」「教科教育法Ⅱ（福祉）」は、履修登録する前セメスターまでに以下①②の要件を満たしていなければ履修登録ができません。

① 次のとおり単位を修得していること。

教職に関する科目	教職論	3 科目 6 単位以上
	教育原論	
	教育心理学	
	特別支援教育	

② 累積 GPA が 2.0 以上であること。

●人文社会学部　「教育実習」参加の要件

「教職に関する科目」の中には、学外での教育実習が含まれます。

- 実習参加時期は、p.200 を参照してください。
- 「教育実習」は、以下①～⑥全ての要件を満たしていなければ履修登録ができません。

① 5 セメスターを修了していること。

②「教育実習」を履修登録する前セメスターまでに、次のⒶ～Ⓒのとおり単位を修得していること。

Ⓐ

基礎教育科目	和の精神 Ⅰ	1 単位
	和の精神 Ⅱ	1 単位
卒業に必要となる修得単位数が上記 2 科目を含んで、77 単位以上		

Ⓑ

教職に関する科目	教職論	3 科目 6 単位以上
	教育原論	
	教育心理学	
	特別支援教育	

Ⓒ 「教育実習」を履修登録する前セメスターまでに開講している「教科教育法」（取得を希望する免許状教科）の単位全て

③ 日本学科で中・高教諭一種免許状（国語）の取得を希望する場合は、次のとおり単位を修得していること。

日本学科専門教育科目	国語教育論 A	2 単位
	国語教育論 B	2 単位

④ 社会学科で中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）の取得を希望する場合は、累積 GPA が 2.0 以上であること。

⑤「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。

⑥ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

- 実習先は前年度に学生本人が依頼して決定します（自治体によって例外あり）。
  依頼方法等についてはガイダンスで説明します。
- 実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。
- 実習先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。

●人文社会学部　「履修カルテ」について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、8 セメスター時に開講される「教職実践演習（中・高)」の授業を受けるまでに、各自で 1 年次から「履修カルテ」を作成することが義務付けられています。「履修カルテ」とは、教職課程を履修する学生が、授業や学外活動等において、何を学んだのかを振り返り記録するとともに、今後どのような学習が必要かを考える手がかりにしてもらうためのものです。

それをもとに「教職実践演習（中・高)」では、教員として必要な資質能力がどの程度形成されたかを確認します。

「履修カルテ」が作成されていない場合や、「履修カルテ」に記入漏れがある場合、8 セメスター時に「教職実践演習（中・高)」を履修できないこともあります。

●人文社会学部　「履修カルテ」記入の仕方

入学後オリエンテーションにて説明を受け、IBU.net で 3 項目について記入します。

⑴　教員志望理由と動機の記入　1 年次終了時
　はじめに教員を志望する理由と動機について記入（100 字程度)

⑵　教職関連科目の履修状況の記入　2 セメ、4 セメ、6 セメ終了時
　履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」(「教科に関する専門的事項」）と「教職に関する科目」(「教育の基礎的理解に関する科目等」）について振り返り、「履修カルテ」の項目ごとに自己評価を記入

⑶　「介護等体験」や教育実習の状況の記入
　「介護等体験」や教育実習を通じて学んだこと等を記入（100 字程度)

※ IBU.net での「履修カルテ」の記入は、指定された文字数内・時間内（30 分）で各自入力し、終了時に「 」を押してください。
(文字数を越えた場合、時間を過ぎた場合や「 」を押していない場合は更新できません)

●教育職員免許状申請、証明書について

1. 教育職員免許状申請

教職に就くには、都道府県の教育委員会へ申請を行い、「教育職員免許状」を取得する必要があります。原則、大学で取りまとめて大阪府教育委員会に申請し、申請方法は、8 セメスター時に説明します。

教育職員免許状取得に必要な単位を修得し、大学で申請を行った学生には、学位授与式で「教育職員免許状」を配付します。

※教育職員免許状の制度が変更になった場合は、手続きの方法が変わる可能性があります。
※大学の指定した期日までに申請しなかった場合は、個人で各都道府県の教育委員会に申請しなければ免許状を取得することができません。

2. 就職活動等に使用する証明書発行

7 セメスター以降、証明書発行サービスで「免許状取得見込証明書」を発行してください。

3. 教育職員免許状の紛失等について

「教育職員免許状」を紛失した場合は、大阪府教育委員会へ問い合わせてください。大学で教育職員免許状の再発行はできません。

中学校・高等学校教諭一種免許状【国語】
（日本学科）

①「教職に関する科目」対応表

（「教育の基礎的理解に関する科目等」）

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開講されている授業科目	単位				配当年次				備　考
			中	高							
科目	各科目に含めることが必要な事項		必修	必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	2			○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2	2			○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2	2					○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	2			○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	2			○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程総論（中・高・養）	2	2					○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法（中・養）	2	—				○			中学免許のみ
	• 総合的な学習の時間の指導法＊1 • 総合的な探究の時間の指導法＊2 • 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（中高養）	2	2					○		
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む中高養）	2	2				○			
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論（進路指導を含む）（中・高）	2	2				○			
	• 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法（中・高・養）	2	2				○			
教育実践に関する科目	• 教育実習	教育実習指導	1	1					○		中学免許は当該教科の教育実習指導及び教育実習Ⅰの2科目を必修とする。 高校免許は当該教科の教育実習指導及び教育実習Ⅰまたは教育実習Ⅱのいずれか1科目を選択必修とする。
		教育実習Ⅰ	4		2	4			○		
		教育実習Ⅱ	—			2			○		
	• 教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2	2						○	
最低修得単位数合計			29	25（必23、選必2）							

＊1　中学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「総合的な学習の時間の指導法」となる。
＊2　高等学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「総合的な探究の時間の指導法」となる。

履修の際の注意事項

1. 中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
2. 中学校教諭一種免許状のみを取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
3. 高等学校教諭一種免許状のみを取得する者は、当該教科の「教育実習指導」を必修、「教育実習Ⅰ」か「教育実習Ⅱ」のいずれか1科目を選択必修とする。
4. 「教職実践演習（中・高）」を履修するためには、1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
5. 教育実習参加要件に注意して履修すること。

②「教科及び教科の指導法に関する科目」対応表

免許法施行規則に定める科目区分等			本学で開講されている授業科目	単位/履修区分			配当年次				備考
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		中必修	高必修	中高選択	1年	2年	3年	4年	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	日本語史			2		○			
			日本語学Ⅰ	2	2		○				
			日本語学Ⅱ	2	2		○				
			日本語文法Ⅰ（現代）	2	2			○			
			日本語文法Ⅱ（古典）	2	2			○			
			講読Ⅰ（日本語学）			2		○			
			国語教材研究論Ⅰ（近現代）			2			○		
		国文学（国文学史を含む。）	日本文学論Ⅰ（近現代）			2		○			
			日本文学論Ⅱ（古典）	2	2			○			
			日本文学史Ⅰ（近現代）	2	2		○				
			日本文学史Ⅱ（古典）	2	2		○				
			古典Ⅰ（日本）	2	2		○				
			講読Ⅱ（近現代文学）			2		○			
			講読Ⅲ（古典文学）			2		○			
			国語教材研究論Ⅱ（古典）			2			○		
		漢文学	古典Ⅱ（中国）	2	2		○				
			漢文学	2	2			○			
			国語教材研究論Ⅲ（漢文）			2			○		
		書道（書写を中心とする。）	書道Ａ	2	－		○				中学免許のみ必修
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）※卒業要件に含まない		教科教育法Ⅰ（国語）	2	2				○		中学免許はⅠ～Ⅳ必修、高校免許はⅠ～Ⅱ必修
			教科教育法Ⅱ（国語）（※1）	2	2				○		
			教科教育法Ⅲ（国語）	2	－				○		
			教科教育法Ⅳ（国語）	2	－				○		
中学校教諭一種免許状のみを取得する場合の最低修得単位数				30（必30）							
高等学校教諭一種免許状のみを取得する場合の最低修得単位数				34（必24、選10）							
中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する場合の最低修得単位数			中学校教諭一種免許状取得 最低修得単位数	30（必30）							
			高等学校教諭一種免許状取得 最低修得単位数	32（必24、選8）							

※１　履修要件があります。（P.201 参照）

（注）「国語教育論Ａ」「国語教育論Ｂ」は、教育実習参加要件科目です。（P.203 参照）

③「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」対応表

免許法施行規則に定める科目区分	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○				
	英語Ⅱ	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○				Ⅰ か Ⅱ、いずれか 1 科目を修得すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○				
最低修得単位数合計		8（必6、選必2）							

高等学校教諭一種免許状【書道】
（日本学科）

①「教職に関する科目」対応表

（「教育の基礎的理解に関する科目等」）

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開講されている授業科目	単位			配当年次				備　考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2			○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2			○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2					○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2			○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2			○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程総論（中・高・養）	2					○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 総合的な探究の時間の指導法 • 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（中高養）	2					○		
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む中高養）	2				○			
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論（進路指導を含む）（中・高）	2				○			
	• 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法（中・高・養）	2				○			
教育実践に関する科目	• 教育実習	教育実習指導	1					○		高校免許は当該教科の教育実習指導及び、教育実習Ⅰまたは教育実習Ⅱのいずれか１科目を選択必修とする。
		教育実習Ⅰ		2	4			○		
		教育実習Ⅱ			2			○		
	• 教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2						○	
最低修得単位数合計			25（必23、選必2）							

履修の際の注意事項
1. 当該教科の「教育実習指導」を必修、「教育実習Ⅰ」か「教育実習Ⅱ」のいずれか１科目を選択必修とする。
2. 中学校教諭一種免許状（国語）と同時に取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の２科目を必修とする。
3. 「教職実践演習（中・高）」を履修するためには、１年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
4. 教育実習参加要件に注意して履修すること。

②「教科及び教科の指導法に関する科目」対応表

免許法施行規則に定める科目区分等			本学で開講されている授業科目	単位/履修区分		配当年次				備考
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		必修	選択	1年	2年	3年	4年	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	書道（書写を含む。）	書道Ａ	2		○				
			書道Ｂ	2		○				
			書道Ｃ	2			○			
			書道Ｄ	2			○			
		書道史	書道史Ⅰ	2				○		
			書道史Ⅱ		2			○		
		「書論、鑑賞」	書論・鑑賞Ⅰ	2				○		
			書論・鑑賞Ⅱ		2			○		
		「国文学、漢文学」	日本文学論Ⅰ（近現代）		2		○			
			日本文学論Ⅱ（古典）		2		○			
			日本文学史Ⅰ（近現代）	2		○				
			日本文学史Ⅱ（古典）	2		○				
			古典Ⅰ（日本）	2		○				
			古典Ⅱ（中国）	2		○				
			講読Ⅱ（近現代文学）		2		○			
			講読Ⅲ（古典文学）		2		○			
			漢文学		2		○			
			国語教材研究論Ⅱ（古典）		2			○		
			国語教材研究論Ⅲ（漢文）		2			○		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）※卒業要件に含まない		教科教育法Ⅰ（書道）	2				○		
			教科教育法Ⅱ（書道）	2				○		
高等学校教諭一種免許状のみを取得する場合の最低修得単位数				34（必24、選10）						
中学校教諭・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する場合の最低修得単位数				32（必24、選8）						

③「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」対応表

免許法施行規則に定める科目区分	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○				
	英語Ⅱ	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○				ⅠかⅡ、いずれか 1 科目を修得すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○				
最低修得単位数合計		8（必6、選必2）							

中学校・高等学校教諭一種免許状【英語】
（国際キャリア学科）

①「教職に関する科目」対応表

（「教育の基礎的理解に関する科目等」）

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開講されている授業科目	単位				配当年次				備　考
			中	高							
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	2			○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2	2			○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2	2					○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	2			○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	2			○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程総論（中・高・養）	2	2					○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法（中・養）	2	—				○			中学免許のみ
	• 総合的な学習の時間の指導法＊1 • 総合的な探究の時間の指導法＊2 • 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（中高養）	2	2					○		
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む中高養）	2	2				○			
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論（進路指導を含む）（中・高）	2	2				○			
	• 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法（中・高・養）	2	2				○			
教育実践に関する科目	• 教育実習	教育実習指導	1	1					○		中学免許は当該教科の教育実習指導及び教育実習Ⅰの2科目を必修とする。 高校免許は当該教科の教育実習指導及び、教育実習Ⅰ又は教育実習Ⅱのいずれか1科目を選択必修とする。
		教育実習Ⅰ	4		2	4			○		
		教育実習Ⅱ	—			2			○		
	• 教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2	2						○	
最低修得単位数合計			29	25（必23、選必2）							

＊1　中学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「総合的な学習の時間の指導法」となる。
＊2　高等学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「総合的な探究の時間の指導法」となる。

履修の際の注意事項
1. 中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
2. 中学校教諭一種免許状のみを取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
3. 高等学校教諭一種免許状のみを取得する者は、当該教科の「教育実習指導」を必修、「教育実習Ⅰ」か「教育実習Ⅱ」のいずれか1科目を選択必修とする。
4. 「教職実践演習（中・高）」を履修するためには、1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
5. 教育実習参加要件に注意して履修すること。

②「教科及び教科の指導法に関する科目」対応表

免許法施行規則に定める科目区分等			本学で開講されている授業科目	単位/履修区分			配当年次				備考
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		中	高	中高					
				必修	必修	選択	1年	2年	3年	4年	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	英語学概説	2	2			○			
			英語音声学			2	○				
			英文法Ⅰ			2	○				
			英文法Ⅱ			2	○				
			英語学			2		○			
			Reading（Language）			2			○		
		英語文学	英語文学概説	2	2		○				
			Reading（Literature）			2		○			
		英語コミュニケーション	ベーシックコミュニケーションⅠ	2	2		○				
			ベーシックコミュニケーションⅡ	2	2		○				
			ベーシックコミュニケーションⅢ			2	○				
			ベーシックコミュニケーションⅣ			2	○				
			アドバンストコミュニケーションⅠ			2			○		
			アドバンストコミュニケーションⅡ			2			○		
		異文化理解	英語圏文化概説	2	2		○				
			Reading（Culture）			2		○			中学免許はⅠ～Ⅳ必修 高校免許はⅠ～Ⅱ必修
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む） ※卒業要件に含まない		教科教育法Ⅰ（英語）　※1	2	2				○		
			教科教育法Ⅱ（英語）	2	2				○		
			教科教育法Ⅲ（英語）	2					○		
			教科教育法Ⅳ（英語）	2					○		
中学校教諭一種免許状のみを取得する場合の最低修得単位数				30 (必18、選12)							
高等学校教諭一種免許状のみを取得する場合の最低修得単位数				34 (必14、選20)							
中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する場合の最低修得単位数			中学校教諭一種免許状取得 最低修得単位数	30 (必18、選12)							
			高等学校教諭一種免許状取得 最低修得単位数	32 (必14、選18)							

※1　履修要件があります。

③「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」対応表

免許法施行規則に定める科目区分	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	ベーシックコミュニケーションⅠ	2			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○				ⅠかⅡ、いずれか 1 科目を修得すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○				
最低修得単位数合計		8 (必6、選必2)							

中学校教諭一種免許状【社会】
（社会学科）

①「教職に関する科目」対応表

（「教育の基礎的理解に関する科目等」）

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開講されている授業科目	単位	配当年次				備　考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2	○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2			○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程総論（中・高・養）	2			○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法（中・養）	2		○			
	• 総合的な学習の時間の指導法 • 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（中高養）	2			○		
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む中高養）	2		○			
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論（進路指導を含む）（中・高）	2		○			
	• 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法（中・高・養）	2		○			
教育実践に関する科目	• 教育実習	教育実習指導	1			○		該当教科の実習指導について必修 中学免許は当該教科の教育実習指導及び教育実習Ⅰの２科目が必修
		教育実習Ⅰ	4			○		
		教育実習Ⅱ	—					
	• 教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2				○	
最低修得単位数合計			29					

履修の際の注意事項

1. 当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の２科目を必修とする。
2. 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）（公民）と同時に取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の２科目を必修とする。
3. 「教職実践演習（中・高）」を履修するためには、１年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
4. 教育実習参加要件に注意して履修すること。

②「教科及び教科の指導法に関する科目」対応表

免許法施行規則に定める科目区分等			本学で開講されている授業科目	単位/履修区分		配当年次				備考
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		必修	選択	1年	2年	3年	4年	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	日本史・外国史	入門歴史学	2		○				
			日本史概説Ⅰ		2	○				
			日本史概説Ⅱ		2	○				
			日本史研究Ⅰ		2		○			
			日本史研究Ⅱ		2		○			
			日本思想史		2	○				
			西洋史	2			○			
			アジア史	2			○			
			中国史	2			○			
			歴史学特論（日本史）		2			○		
			歴史学特論（外国史）		2			○		
			史料講読		2			○		
		地理学（地誌を含む。）	人文地理学	2				○		
			自然地理学	2				○		
			地理学特論		2			○		
			地誌	2				○		
		「法律学、政治学」	法学（国際法を含む）（※1）	2		○				
			国際政治論		2			○		
		「社会学、経済学」	社会学概論		2	○				
			社会学理論Ⅰ	2		○				
			社会学理論Ⅱ		2			○		
			ジェンダー論		2			○		
			産業社会学		2		○			
			家族社会学		2		○			
			現代社会論		2		○			
			社会調査法		2	○				
			マス・メディア論		2	○				
			社会意識論		2		○			
			社会病理学		2	○				
			国際社会学		2			○		
			経済学（※1）	2		○				
			国際経済論		2		○			
		「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概論	2		○				
			宗教学	2			○			
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）※卒業要件に含まない		社会教科教育法Ⅰ（※2）	2				○		
			社会教科教育法Ⅱ（※2）	2				○		
			社会地理歴史教科教育法（※2）	2				○		
			社会公民教科教育法（※2）	2				○		
中学校教諭一種免許状のみを取得する場合の最低修得単位数				32（必32）						

※1 「法学（国際法を含む）」「経済学」は社会学科専門教育科目を修得すること
※2 履修要件があります。

③「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」対応表

免許法施行規則に定める科目区分	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○				
	英語Ⅱ	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○				ⅠかⅡ、いずれか 1 科目を修得すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○				
最低修得単位数合計		8 (必6、選必2)							

高等学校教諭一種免許状【地理歴史】
（社会学科）

①「教職に関する科目」対応表

（「教育の基礎的理解に関する科目等」）

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開講されている授業科目	単位			配当年次				備　考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2			○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2			○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2					○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2			○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2			○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程総論（中・高・養）	2					○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 総合的な探究の時間の指導法 • 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（中高養）	2					○		
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む中高養）	2				○			
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論（進路指導を含む）（中・高）	2				○			
	• 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法（中・高・養）	2				○			
教育実践に関する科目	• 教育実習	教育実習指導	1					○		高校免許は当該教科の教育実習指導及び教育実習Ⅰ又は教育実習Ⅱのいずれか1科目を選択必修とする
		教育実習Ⅰ		2	4			○		
		教育実習Ⅱ			2			○		
	• 教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2						○	
最低修得単位数合計			25（必23、選必2）							

履修の際の注意事項

1. 当該教科の「教育実習指導」を必修、「教育実習Ⅰ」か「教育実習Ⅱ」のいずれか1科目を選択必修とする。
2. 中学校教諭一種免許状（社会）と同時に取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
3. 「教職実践演習（中・高）」を履修するためには、1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
4. 教育実習参加要件に注意して履修すること。

②「教科及び教科の指導法に関する科目」対応表

免許法施行規則に定める科目区分等			本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分		配当年次				備　考
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		必修	選択	1年	2年	3年	4年	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	日本史	日本史概説Ⅰ	2		○				
			日本史概説Ⅱ	2		○				
			日本史研究Ⅰ		2		○			
			日本史研究Ⅱ		2		○			
			日本文化史Ⅰ		2		○			日本学科※1
			日本文化史Ⅱ		2		○			日本学科※1
			日本思想史	2		○				
			歴史学特論（日本史）		2			○		
			史料講読		2			○		
		外国史	西洋史	2			○			
			英国史		2			○		国際キャリア学科※1
			米国史		2			○		国際キャリア学科※1
			アジア史	2			○			
			中国史	2			○			
			歴史学特論（外国史）		2			○		
		人文地理学及び自然地理学	人文地理学	2				○		
			自然地理学	2				○		
			地理学特論		2			○		
		地誌	地誌	2				○		
			地域史研究	2				○		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）※卒業要件に含まない		社会地理歴史教科教育法　※2	2				○		
			地理歴史教科教育法　※2	2				○		
高等学校教諭一種免許状のみを取得する場合の最低修得単位数				34（必24、選10）						
中学校教諭・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する場合の最低修得単位数				32（必24、選8）						

※1　「国際キャリア学科」「日本学科」に開設の科目は、他学部他学科履修として、修得すること。
※2　履修要件があります。

③「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」対応表

免許法施行規則に定める科目区分	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○				
	英語Ⅱ	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○				Ⅰ か Ⅱ、いずれか 1 科目を修得すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○				
最低修得単位数合計		8（必6、選必2）							

高等学校教諭一種免許状【公民】
（社会学科）

①「教職に関する科目」対応表

（「教育の基礎的理解に関する科目等」）

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開講されている授業科目	単位			配当年次				備　考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2			○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2			○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2					○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2			○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2			○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程総論（中・高・養）	2					○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 総合的な探究の時間の指導法 • 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（中高養）	2					○		
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む中高養）	2				○			
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論（進路指導を含む）（中・高）	2				○			
	• 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法（中・高・養）	2				○			
教育実践に関する科目	• 教育実習	教育実習指導	1					○		該当教科の実習指導について必修 高校免許は当該教科の教育実習指導及び教育実習Ⅰまたは教育実習Ⅱのいずれか1科目を選択必修
		教育実習Ⅰ		2	4			○		
		教育実習Ⅱ			2			○		
	• 教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2						○	
最低修得単位数合計			25（必23、選必2）							

履修の際の注意事項

1. 当該教科の「教育実習指導」を必修、「教育実習Ⅰ」か「教育実習Ⅱ」のいずれか1科目を選択必修とする。
2. 中学校教諭一種免許状（社会）と同時に取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
3. 「教職実践演習（中・高）」を履修するためには、1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
4. 教育実習参加要件に注意して履修すること。

②「教科及び教科の指導法に関する科目」対応表

免許法施行規則に定める科目区分等			本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分		配当年次				備　考
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		必修	選択	1年	2年	3年	4年	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	法学（国際法を含む）	2		○				
			国際政治論		2			○		
		「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	社会学概論		2	○				
			現代社会論		2		○			
			社会学理論Ⅰ	2		○				
			社会学理論Ⅱ		2			○		
			ジェンダー論		2			○		
			産業社会学		2		○			
			家族社会学		2		○			
			社会調査法		2	○				
			マス・メディア論		2	○				
			社会意識論		2		○			
			社会病理学		2	○				
			国際社会学		2			○		
			経済学	2		○				
			国際経済論		2		○			
		「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	入門心理学		2	○				
			社会心理学	2			○			
			臨床心理学		2		○			
			コミュニティ心理学		2			○		
			哲学概論	2		○				
			宗教学	2			○			
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）※卒業要件に含まない		社会公民教科教育法　（※）	2				○		
			公民教科教育法　（※）	2				○		
高等学校教諭一種免許状のみを取得する場合の最低修得単位数				34（必16、選18）						
中学校教諭・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する場合の最低修得単位数				32（必16、選16）						

（※）　履修要件があります。

③「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」対応表

免許法施行規則に定める科目区分	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○				
	英語Ⅱ	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○				Ⅰ か Ⅱ、いずれか 1 科目を修得すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○				
最低修得単位数合計		8（必6、選必2）							

高等学校教諭一種免許状【公民】
（人間福祉学科）

①「教職に関する科目」対応表

（「教育の基礎的理解に関する科目等」）

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開講されている授業科目	単位	配当年次				備　考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2	○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2			○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程総論（中・高・養）	2			○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 総合的な探究の時間の指導法 • 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（中高養）	2			○		
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む中高養）	2		○			
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論（進路指導を含む）（中・高）	2		○			
	• 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法（中・高・養）	2		○			
教育実践に関する科目	• 教育実習	教育実習指導	1			○		該当教科の実習指導について必修
		教育実習Ⅱ	2			○		
	• 教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2				○	
最低修得単位数合計			25					

履修の際の注意事項
1.「教職実践演習（中・高）」を履修するためには、1 年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
2. 教育実習参加要件に注意して履修すること。

②「教科及び教科の指導法に関する科目」対応表

免許法施行規則に定める科目区分等			本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分		配当年次				備　考
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	法学（国際法を含む）	2		○				社会学科で開設（共通教育科目不可）※1
			政治学	2		○				共通教育科目開設
			権利擁護を支える法制度		2			○		
			刑事司法と福祉		2			○		
		「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	社会と人間		2	○				
			社会学と社会システム	2		○				
			家族社会学		2	○				
			地域社会学		2		○			
			地域福祉と包括的支援体制Ⅰ		2		○			
			地域福祉と包括的支援体制Ⅱ		2		○			
			社会保障Ⅱ		2			○		
			貧困に対する支援		2		○			
			経済学入門	2			○			
			国際経済学		2			○		
		「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	心理学と心理的支援	2		○				
			臨床心理学	2	2	○				「臨床心理学」「福祉心理学」「カウンセリング理論」の中から 1 科目を必ず修得すること
			福祉心理学		2		○			
			カウンセリング理論		2		○			
			カウンセリング方法論		2			○		
			「いのち」の権利論（生命倫理と遺伝）		2			○		
			ターミナルケア論		2			○		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）※卒業要件に含まない		社会公民教科教育法　※ 2	2				○		
			公民教科教育法　※ 2	2				○		
高等学校教諭一種免許状のみを取得する場合の最低修得単位数				34（必16、選18）						
中学校教諭・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する場合の最低修得単位数				32（必16、選16）						

※ 1　「社会学科」に開設の科目は、他学部他学科履修として修得すること。(共通教育科目での修得は不可)
※ 2　履修要件があります。

③「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」対応表

免許法施行規則に定める科目区分	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○				
	英語Ⅱ	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○				ⅠかⅡ、いずれか 1 科目を修得すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○				
最低修得単位数合計		8（必6、選必2）							

高等学校教諭一種免許状【福祉】
（人間福祉学科）

①「教職に関する科目」対応表

（「教育の基礎的理解に関する科目等」）

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開講されている授業科目	単位	配当年次				備　考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2	○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2			○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程総論（中・高・養）	2			○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 総合的な探究の時間の指導法 • 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（中高養）	2			○		
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む中高養）	2		○			
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論（進路指導を含む）（中・高）	2		○			
	• 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法（中・高・養）	2		○			
教育実践に関する科目	• 教育実習	教育実習指導	1			○		該当教科の実習指導について必修
		教育実習Ⅱ	2			○		
	• 教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2				○	
最低修得単位数合計			25					

履修の際の注意事項

1. 教科教育法については、「教科教育法Ⅰ（福祉）」「教科教育法Ⅱ（福祉）」が必修であるが、教育実習は「公民」で行われることが多いため、「社会公民教科教育法」「公民教科教育法」の単位を併せて修得すること。
2. 「教職実践演習（中・高）」を履修するためには、1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
3. 教育実習参加要件に注意して履修すること。

②「教科及び教科の指導法に関する科目」対応表

免許法施行規則に定める科目区分等			本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分		配当年次				備　考
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	社会福祉学（職業指導を含む。）	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2		○				
			福祉法学		2	○				
			社会保障Ⅰ		2			○		
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2		○				
		高齢者福祉、児童福祉・障害者福祉	高齢者福祉	2			○			
			高齢者支援と福祉		2		○			
			児童・家庭福祉	2			○			
			児童・家庭支援と福祉		2		○			
			障害者福祉	2			○			
			障害者支援と福祉		2		○			
		社会福祉援助技術	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2		○				
			ソーシャルワーク演習Ⅱ	2			○			
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2			○			
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2			○			
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ		2			○		
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ		2			○		
		介護理論・介護技術	介護福祉	2			○			
			介護演習	2			○			
		社会福祉総合実習（社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。）	ソーシャルワーク実習指導Ａ	2			○			
			ソーシャルワーク実習指導Ｂ	2			○			
			社会福祉調査の基礎		2			○		
		人体構造に関する理解・日常生活行動に関する理解	人体・生活の研究	2				○		
		加齢に関する理解・障害に関する理解	加齢・障害の研究	2				○		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）※卒業要件に含まない。		教科教育法Ⅰ（福祉）（※）	2				○		
			教科教育法Ⅱ（福祉）（※）	2				○		
高等学校教諭一種免許状のみを取得する場合の最低修得単位数				34（必34）						

※　履修要件があります。

③「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」対応表

免許法施行規則に定める科目区分	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○				
	英語Ⅱ	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○				ⅠかⅡ、いずれか 1 科目を修得すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○				
最低修得単位数合計		8（必6、選必2）							

教育学部教育学科　小学校教育コースで取得できる教育職員免許状の課程

●教育職員免許状を取得するために必要な要件

要　　件	小学校教諭	特別支援教諭※2	幼稚園教諭※3	数学教諭※3 英語教諭※3
「教職に関する科目」の必要単位の修得	○		○	○
「教科及び教科の指導法に関する科目」の必要単位の修得	○			○
「教科に関する科目」（領域及び保育内容の指導法に関する科目）の必要単位の修得			○	
「特別支援教育に関する科目」の必要単位の修得		○		
「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6」に定められている科目※1 の修得	○		○	○
「介護等体験」への参加	○			○
インターンシップ・スクールサポーターへの参加	○			
免許や実習に関するガイダンスへの出席	○	○	○	○
教育実習への参加	○	○	○	○
教育職員免許状申請	○	○	○	○
大学の卒業	○	○	○	○

※１　どの教員免許を取得する場合も「日本国憲法」「スポーツⅠ・Ⅱ」「英語Ⅰ・Ⅱ」「情報処理演習ⅠまたはⅡ」の６科目を修得すること。
※２　小学校教諭一種免許状を取得することが必須要件となります。
※３　小学校教諭一種免許状の取得を前提として許可しています。

●教職課程履修者に対する連絡

教職課程履修者への連絡はすべて IBU.net で行いますので、十分に注意してください。
※履修及び修得すべき科目・単位は各自で必ず確認すること。

●学外実習について

学外実習について質問がある場合は、教職教育推進センターに来てください。

●学外実習に参加するための心得

学外実習は要件を満たしているからといって、それだけの理由で安易に行うべきものではありません。量・質ともに過密なスケジュールをこなしている学校の現場で多大な迷惑をかけながら、実習させていただくのです。教育実習を行うにあたっては、将来実際に教職につくことを強く希望しているということが、一番の要件になるということを強く自覚してください。

●教育学科〔小学校教育コース対象〕インターンシップ・教育実習・「介護等体験」の予定

1　学外実習については、学則による開講日だけでなく休業日にも実施します。

2　小学校・中学校教育職員免許状取得希望者は、「介護等体験」への参加が必要です。

1 セメスター 入学直後	教職課程履修等オリエンテーション、「履修カルテ」の作成、「介護等体験」についての説明
2 セメスター 9 月下旬～	「介護等体験」事前研修（4 回程度） 参加申し込み手続き、参加費振込、レポート提出等
2 セメスター 12 月～ 1 月	「インターンシップⅠ・Ⅱ」「教育実習」ガイダンス 参加申し込み手続き
3 セメスター 4 月	「インターンシップⅠ」事前指導、事前訪問
3 セメスター 5 月～ 7 月	**「インターンシップⅠ」参加**
3 ～ 4 セメスター 5 月～ 2 月	**「介護等体験」参加**　社会福祉施設 5 日間、特別支援学校 2 日間
3 セメスター 7 月	「インターンシップⅠ」実習継続判断（一次）
4 セメスター 9 月	「インターンシップⅠ」報告会 「教育実習」事前ガイダンス
4 セメスター 9 月～ 3 月	**「インターンシップⅡ」参加**
4 セメスター 1 月	「インターンシップⅡ」実習継続判断（二次）
5 セメスター 4 月	「教育実習」事前指導（人権教育特別講義）
5 セメスター 4 月～ 6 月	**「教育実習（小学校）」参加**　（18 日間）
5 セメスター 7 月	「教育実習」実習日誌等提出
6 セメスター 9 月～ 10 月	**「教育実習ⅠまたはⅡ（英語・数学）」参加**　（15 日間） **「教育実習（特支）」参加**　（10 日間）
6 セメスター 10 月	「教育実習ⅠまたはⅡ（英語・数学）」「教育実習（特支）」 実習日誌等提出
6 セメスター 9 月～ 3 月	**「インターンシップⅢ」参加**

※オリエンテーション、ガイダンス、事前研修等を欠席した場合は、「介護等体験」・教育実習に参加できません。

●教育学部　「介護等体験」の参加要件

小学校または中学校教育職員免許状を取得するためには、教育実習とは別に、特別支援学校で 2 日間、社会福祉施設で 5 日間、計 7 日間の「介護等体験」を行うことが義務付けられています。

その目的は、介護などの経験を通じて学んだことを教育の現場に活かしていくことにあります。詳細については、「介護等体験」事前研修において説明します。

- 「介護等体験」には、次の参加要件を満たさなければ参加できません。
  ① 2 セメスターを修了していること。
  ② 参加する前年度の夏学期までに、次の科目を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
卒業に必要となる修得単位数が上記 1 科目を含んで、15 単位以上		

  ③ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。
- 体験先は大学から公的機関に依頼し決定します。他大学の学生と一緒に実習をする場合もあります。
- 体験参加申込金および体験先への謝礼金が必要です。
- 体験先には健康診断書を提出します。「学生定期健康診断」を必ず受診してください。体験先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾患名等の健康情報を原則記載します。不都合等あれば事前に保健センターに相談してください。
- 体験先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。
- 体験先（社会福祉施設）には腸内細菌検査結果を提出する必要があります。

＊この要件は、科目等履修生にも適用されます。

●教育学部　教育実習参加の要件〔小学校教育コース対象〕

「教職に関する科目」（「教育の基礎的理解に関する科目等」）および「特別支援教育に関する科目」の中には、学外での教育実習が含まれます。

- 教育実習には、参加する前セメスターまでに下記の参加要件を満たさないと参加できません。
- 実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。
- 実習先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。

＊この要件は、科目等履修生にも適用されます。

教育実習〈小学校教諭一種免許状〉

① 4 セメスターを修了していること。

② 次の科目の単位を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
	和の精神Ⅱ	1 単位
教育学科 専門教育科目	教職論	2 科目 4 単位以上
	教育原論	
	特別支援教育	
	教育心理学	
	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	1 科目 2 単位以上
	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	
	インターンシップⅠ	2 単位
	インターンシップⅡ	1 単位
卒業に必要となる修得単位数が上記 7 科目を含んで、60 単位以上		

③「介護等体験」を修了していること。

④「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。

⑤ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

教育実習（特支）〈特別支援学校教諭一種免許状（知・肢・病）〉

① 4 セメスターを修了していること。

② 次の科目の単位を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
	和の精神Ⅱ	1 単位
教育学科 専門教育科目	教職論	2 科目 4 単位以上
	教育原論	
	特別支援教育	
	教育心理学	
	特別支援教育概論	2 単位
	知的障害者の心理・生理・病理	2 単位
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2 単位
	知的障害教育論	2 単位
教育学科専門教育科目が上記 6 科目を含んで、60 単位以上		
卒業に必要となる修得単位数が上記科目を含んで、75 単位以上		

③「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。

④ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

教育実習　〈幼稚園教諭一種免許状〉

① 4 セメスターを修了していること。

② 次の科目の単位を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
	和の精神Ⅱ	1 単位
教育学科 専門教育科目	教職論	2 科目 4 単位以上
	教育原論	
	特別支援教育	
	教育心理学	
	幼児教育課程総論	4 科目 8 単位以上
	保育内容の理論と方法（健康）	
	保育内容の理論と方法（人間関係）	
	保育内容の理論と方法（環境）	
	保育内容の理論と方法（言葉）	
卒業に必要となる修得単位数が上記 8 科目を含んで、60 単位以上		

③「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。

④ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

教育実習Ⅰ（英語）または教育実習Ⅱ（英語）〈中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）〉

① 4 セメスターを修了していること。

② 次の科目の単位を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
	和の精神Ⅱ	1 単位
教育学科 専門教育科目	教職論	2 科目 4 単位以上
	教育原論	
	特別支援教育	
	教育心理学	
	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	1 科目 2 単位以上
	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	
	中等英語科教育法Ⅰ	2 単位
	中等英語科教育法Ⅱ	2 単位
	英文法Ⅰ	2 単位
	英文法Ⅱ	2 単位
	インターンシップⅠ	2 単位
	インターンシップⅡ	1 単位
卒業に必要となる修得単位数が上記 11 科目を含んで、60 単位以上		

③「教育実習Ⅰ（英語）」を履修する場合は、「介護等体験」を修了していること。

④「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。

⑤ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

教育実習Ⅰ（数学）または教育実習Ⅱ（数学）〈中学校・高等学校教諭一種免許状（数学）〉

① 4セメスターを修了していること。

② 次の科目の単位を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1単位
	和の精神Ⅱ	1単位
教育学科 専門教育科目	教職論	2科目4単位以上
	教育原論	
	特別支援教育	
	教育心理学	
	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	1科目2単位以上
	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	
	数学的リテラシー	2単位
	子どもの発達と算数・数学	2単位
	中等数学科教育法Ⅰ	2単位
	中等数学科教育法Ⅱ	2単位
	教育学科専門教育科目が上記7科目を含んで、60単位以上	
卒業に必要となる修得単位数が上記科目を含んで、75単位以上		

③「教育実習Ⅰ（数学）」を履修する場合は、「介護等体験」を修了していること。

④「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。

⑤ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

●教職に関する科目（「教育の基礎的理解に関する科目等」）

【教育学科】小学校教諭一種免許状

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開講されている授業科目	単位	配当年次				備　考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2	○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2			○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程総論（小・中・高・養）	2			○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法（小・中・養）	2		○			
	• 総合的な学習の時間の指導法 • 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（小中高養）	2			○		
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	2		○			
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	2		○			
	• 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法（小・中・高・養）	2		○			
教育実践に関する科目	• 教育実習	教育実習指導	1			○		
		教育実習	4			○		※1
	• 教職実践演習	教職実践演習（教諭）	2				○	※2
最低修得単位数合計			29					

※1 「教育実習」は前述の参加要件（⇒ p.225）を満たさなければ参加できない。
※2 「教職実践演習（教諭）」を履修するためには1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。

●教科及び教科の指導法に関する科目

【教育学科】小学校教諭一種免許状

免許法施行規則に定める科目区分等			本学で開講されている授業科目	単位	配当年次				備　考
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		必修	1年	2年	3年	4年	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語（書写を含む。）	教科内容論（国語）	2	○				
		社会	教科内容論（社会）	2	○				
		算数	教科内容論（算数）	2	○				
		理科	教科内容論（理科）	2		○			
		生活	教科内容論（生活）	2		○			
		音楽	教科内容論（音楽）	2		○			
		図画工作	教科内容論（図画工作）	2		○			
		家庭	教科内容論（家庭）	2			○		
		体育	教科内容論（体育）	2		○			
		外国語	教科内容論（英語）	2	○				
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	国語（書写を含む。）	初等国語科教育法	1	○				
		社会	初等社会科教育法	1		○			
		算数	初等算数科教育法	1		○			
		理科	初等理科教育法	1		○			
		生活	初等生活科教育法	1			○		
		音楽	初等音楽科教育法	1		○			
		図画工作	初等図画工作科教育法	1			○		
		家庭	初等家庭科教育法	1			○		
		体育	初等体育科教育法	1		○			
		外国語	初等英語科教育法	1	○				
最低修得単位数合計				30					

（注）配当年次は所属コースにより異なる場合があります。各コースの専門教育科目編成表にて確認して下さい。

●教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められている科目

免許法施行規則に定める科目区分	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○				
	英語Ⅱ	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○				ⅠかⅡ、いずれか 1 科目を修得すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○				
最低修得単位数合計		8（必6、選必2）							

●特別支援教育に関する科目

【教育学科】特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者）（肢体不自由者）（病弱者）

免許法施行規則に定める科目区分		必要な最低修得単位数	本学で開講されている授業科目	単位	配当年次				備考
				必修	1年	2年	3年	4年	
特別支援教育の基礎理論に関する科目		2	特別支援教育概論	2		○			
特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	16	知的障害者の心理・生理・病理	2		○			
			肢体不自由者の心理・生理・病理	2		○			
			病弱者の心理・生理・病理	2		○			
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		知的障害教育論	2		○			
			肢体不自由教育論	2			○		
			病弱教育論	2			○		
			障害者指導法	2			○		
	• 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 • 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		障害者教育探究	2				○	
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	• 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 • 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	5	視覚障害教育総論	2			○		
			聴覚障害教育総論	2			○		
			重複・発達障害教育総論	2			○		
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習		3	教育実習指導（特支）	1			○		
			教育実習（特支）	2			○		
計		26	最低修得単位数合計	27					

（注）特別支援学校教諭一種免許状を取得するには必ず小学校教諭一種免許状を同時に取得すること。
（注）「教育実習（特支）」は前述の参加要件（⇒ p.225）を満たさないと参加できない。

●教職に関する科目（「教育の基礎的理解に関する科目等」）教科に関する科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目）

【教育学科】幼稚園教諭一種免許状

幼児教育保育コースの科目表（p.239 ～ 241）を参照してください。

【教育学科】中学校・高等学校教諭一種免許状〈英語〉

英語教育・小学校コースの科目表（p.247 ～ 249）を参照してください。

●教職に関する科目（「教育の基礎的理解に関する科目」等）

【教育学科】　中学校・高等学校教諭一種免許状＜数学＞

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開講されている授業科目	単位				配当年次				備　考
			中	高							
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
① 教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	2			○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2	2			○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2	2					○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	2			○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	2			○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程総論（小・中・高・養）	2	2					○		
② 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法（小・中・養）	2	—				○			中学免許のみ
	• 総合的な学習の時間の指導法*1 • 総合的な探究の時間の指導法*2 • 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（小中高養）	2	2					○		
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育の方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	2	2				○			
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	2	2				○			
	• 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法（小・中・高・養）	2	2				○			
③ 教育実践に関する科目	• 教育実習	教育実習指導（数学）	1	1					○		中学免許は当該教科の教育実習指導及び教育実習Ⅰの2科目を必修とする。 高校免許は当該教科の教育実習指導及び、教育実習Ⅰ又は教育実習Ⅱのいずれか1科目を選択必修とする。
		教育実習Ⅰ（数学）	4		2	4			○		
		教育実習Ⅱ（数学）	—			2			○		
	• 教職実践演習	教職実践演習（教諭）	2	2						○	
計		最低修得単位数合計	29	25（必23、選必2）							

＊1　中学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「総合的な学習の時間の指導法」となる。
＊2　高等学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「総合的な探究の時間の指導法」となる。

履修の際の注意事項

1. 中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
2. 中学校教諭一種免許状のみを取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
3. 高等学校教諭一種免許状のみを取得する者は、当該教科の「教育実習指導」を必修、「教育実習Ⅰ」か「教育実習Ⅱ」のいずれか1科目を選択必修とする。
4. 複数教科の免許状を取得する者は、当該教科全ての教科教育法の単位を修得すること。
5. 「教職実践演習（教諭）」を履修するためには、1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
6. 「教育実習」を履修するためには、教育実習参加の要件（p.227）を満たさなければならない。
7. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、教育実習に参加する前年度までに「介護等体験」を修了していること。

●教科及び教科の指導法に関する科目

【教育学科】中学校・高等学校教諭一種免許状＜数学＞

免許法施行規則に定める科目区分等			本学で開講されている授業科目	単位／履修区分			配当年次				備　考
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		中 必修	高 必修	中高 選択	1年	2年	3年	4年	
④教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	代数学	線形代数学			2	○				
			代数学Ⅰ	2	2			○			
			代数学Ⅱ			2			○		
		幾何学	幾何学Ⅰ	2	2			○			
			幾何学Ⅱ			2			○		
			位相数学			2			○		
		解析学	解析学Ⅰ	2	2			○			
			解析学Ⅱ			2			○		
			微分積分学			2			○		
		「確率論、統計学」	確率・統計学Ⅰ	2	2			○			
			確率・統計学Ⅱ			2			○		
		コンピュータ	コンピュータ概論	2	2		○				
			コンピュータ演習			2				○	
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		中等数学科教育法Ⅰ	2	2			○			中学免許はⅠ～Ⅳ必修 高校免許はⅠ～Ⅱ必修
			中等数学科教育法Ⅱ	2	2			○			
			中等数学科教育法Ⅲ	2	－				○		
			中等数学科教育法Ⅳ	2	－				○		
中学校教諭一種免許状のみを取得する場合の最低修得単位数				28（必18、選10）							
高等学校教諭一種免許状のみを取得する場合の最低修得単位数				28（必14、選14）							

科目区分	本学で開講されている授業科目	単位／履修区分			配当年次				備　考
		中 必修	高 必修	中高 選択	1年	2年	3年	4年	
⑤大学が独自に設定する科目	数学的リテラシー			2	○				
	数学史と現代数学			2	○				
	子どもの発達と算数・数学			2		○			

【重要】免許取得のための要件

A：中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得するには、以下の⑴～⑶全ての要件を満たす必要がある。
⑴　①②③の単位を全て修得する。（中免の 29 単位）
⑵　④の科目から 32 単位修得する。（中免の必修 18 単位、高免の選択 14 単位）
⑶　⑤の科目から「数学的リテラシー」と「子どもの発達と算数・数学」の 2 科目 4 単位を修得する。（「数学的リテラシー」「子どもの発達と算数・数学」は教育実習参加要件科目）

B：中学校教諭一種免許状のみを取得するには、以下の⑴～⑶全ての要件を満たす必要がある。
⑴　①②③の単位を全て修得する。（29 単位）
⑵　④の科目から 28 単位修得する。（必修 18 単位、選択 10 単位）
⑶　⑤の科目から「数学的リテラシー」と「子どもの発達と算数・数学」の 2 科目 4 単位を修得する。（「数学的リテラシー」「子どもの発達と算数・数学」は教育実習参加要件科目）

C：高等学校教諭一種免許状のみを取得するには、以下の⑴～⑶全ての要件を満たす必要がある。
⑴　①②③の単位を全て修得する。（25 単位）
⑵　④の科目から 28 単位修得する。（必修 14 単位、選択 14 単位）
⑶　以下 a）又は b）の要件を満たし単位を修得する。
　a）⑤の 3 科目 6 単位全てを修得する。
　b）⑤の科目から「数学的リテラシー」と「子どもの発達と算数・数学」（教育実習参加要件科目）及び⑵で修得していない④の選択科目の中から 1 科目 2 単位を修得する。

●教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められている科目

免許法施行規則に定める科目区分	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○				
	英語Ⅱ	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○				Ⅰ かⅡ、いずれか 1 科目を修得すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○				
最低修得単位数合計		8 (必6、選必2)							

●教育学部　「履修カルテ」について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、8 セメスター時に開講される「教職実践演習（教諭）」の授業を受けるまでに、各自で 1 年次から「履修カルテ」を作成することが義務付けられています。「履修カルテ」とは、教職課程を履修する学生が、授業や学外活動等において、何を学んだのかを振り返り記録するとともに、今後どのような学習が必要かを考える為の手がかりにしてもらうためのものです。

それをもとに「教職実践演習（教諭）」では、教員として必要な資質能力がどの程度形成されたかを確認します。

「履修カルテ」が作成されていない場合や、「履修カルテ」に記入漏れがある場合、8 セメスター時に「教職実践演習（教諭）」を履修できないこともあります。

●教育学部　「履修カルテ」記入の仕方

入学後オリエンテーションにて説明を受け、IBU.net で 3 項目について記入します。

⑴　教員志望理由と動機の記入　1 セメ終了時
　はじめに教員を志望する理由と動機について記入（100 字程度）

⑵　教職関連科目の履修状況の記入　2 セメ、4 セメ、6 セメ終了時
　履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」と「教職に関する科目」（「教育の基礎的理解に関する科目等」）について振り返り、「履修カルテ」の項目ごとに自己評価を記入

⑶　「介護等体験」や教育実習の状況の記入
　「介護等体験」や教育実習を通じて学んだこと等を記入（100 字程度）

※ IBU.net での「履修カルテ」の記入は、指定された文字数内・時間内（30 分）で各自入力し、終了時に「 」を押してください。
（文字数を越えた場合、時間を過ぎた場合や「 」を押していない場合は更新できません）

●教育職員免許状申請、証明書について

1. 教育職員免許状申請

教職に就くには、都道府県の教育委員会へ申請を行い、「教育職員免許状」を取得する必要があります。大学で取りまとめて大阪府教育委員会に申請します。申請方法は、8 セメスター時に説明します。

教育職員免許状に必要な単位を修得し、申請を行った学生には、学位授与式で「教育職員免許状」を配付します。

※教育職員免許状の制度が変更になった場合は、手続きの方法が変わる可能性があります。

※大学の指定した期日までに申請しなかった場合は、個人で各都道府県の教育委員会に申請しなければ免許状を取得することができません。

2. 就職活動等に使用する証明書発行

7 セメスター以降、証明書発行サービスで「免許状取得見込証明書」を発行してください。

3. 教育職員免許状の紛失等について

「教育職員免許状」を紛失した場合は、大阪府教育委員会へ問い合わせてください。大学で教育職員免許状の再発行はできません。

教育学部教育学科 幼児教育保育コースで取得できる教育職員免許状の課程

●教育職員免許状を取得するために必要な要件

要　　件	幼稚園教諭	小学校教諭※2
「教職に関する科目」の必要単位の修得	○	○
「教科に関する科目」（「領域及び保育内容の指導法に関する科目」）の必要単位の修得	○	
「教科及び教科の指導法に関する科目」の必要単位の修得		○
「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6」に定められている科目※1 の修得	○	○
「介護等体験」への参加		○※3
免許や実習に関するガイダンスへの出席	○	○
教育実習への参加	○	○
教育職員免許状申請	○	○
大学の卒業	○	○

※1　「日本国憲法」「スポーツⅠ・Ⅱ」「英語Ⅰ・Ⅱ」「情報処理演習ⅠまたはⅡ」の 6 科目。
※2　幼稚園教諭一種免許状の取得を前提として許可しています。
※3　保育士資格をめざす場合、保育実習に参加すれば「介護等体験」が免除される場合があります。詳しくは保育実習ガイダンスで説明します。

●教職課程履修者に対する連絡

教職課程履修者への連絡はすべて IBU.net で行いますので、十分に注意してください。
※履修及び修得すべき科目・単位は各自で必ず確認すること。

●学外実習について

学外実習について質問がある場合は、教職教育推進センターに来てください。

●学外実習に参加するための心得

学外実習は要件を満たしているからといって、それだけの理由で安易に行うべきものではありません。量・質ともに過密なスケジュールをこなしている幼稚園の現場で多大な迷惑をかけながら、実習させていただくのです。教育実習を行うにあたっては、将来実際に教職につくことを強く希望しているということが、一番の要件になるということを強く自覚してください。

●教育学科 幼児教育保育コース 教育実習および保育実習の予定

1　学外実習については、学則による開講日だけでなく休業日にも実施します。

2　保育実習Ⅰ（施設）の実習先から「介護等体験」証明書が発行されれば、「介護等体験」にかえることができます。

〈保育実習〉			〈教育実習〉
1セメスター 入学直後	教職課程履修等オリエンテーション、履修カルテの作成についての説明、保育士養成課程の履修についての説明		1セメスター 入学直後
3セメスター 4月	保育実習Ⅰ（保育所）実習参加申込書提出、申込金納付	インターンシップ	3セメスター 4月～7月
	教育実習申込ガイダンス、教育実習申込金納付		
4セメスター 9月～1月	保育実習Ⅰ（保育所）事前指導（学内）	保育インターンシップ	4セメスター 9月～1月
4セメスター 12月	保育実習Ⅰ（施設）実習参加申込金納付		
4セメスター 1月	保育実習Ⅰ（保育所） 事前オリエンテーション（実習先）		
4セメスター 2月	**保育実習Ⅰ（保育所）10日間実習参加**		
4セメスター 3月	保育実習Ⅰ（保育所）実習記録提出、成績評価表・出席表の返送		
5セメスター 4月	保育実習Ⅱ（保育所）またはⅢ（施設）の選択、申込書提出、申込金納付		
5セメスター 4月～7月	教育実習事前指導（学内） 保育実習Ⅰ（施設）事前指導（学内）		5セメスター 4月～7月
5セメスター 7月	人権教育特別講義 教育実習事前オリエンテーション（実習先） 保育実習Ⅰ（施設）事前オリエンテーション（実習先）		5セメスター 7月
5セメスター 8月	**保育実習Ⅰ（施設）10日間実習参加**		
	教育実習（幼稚園）20日間実習参加		5セメスター 9月
6セメスター 10月	保育実習Ⅰ（施設）実習記録提出、成績評価表・出席表の返送 教育実習実習記録提出、成績評価表・出席表の返送		6セメスター 10月
6セメスター 10月～1月	保育実習Ⅱ（保育所）またはⅢ（施設） 事前指導（学内）		
6セメスター 1月	**保育実習Ⅱ（保育所）またはⅢ（施設） 事前オリエンテーション（実習先）**		
6セメスター 2月	**保育実習Ⅱ（保育所）またはⅢ（施設） 10日間実習参加**		
6セメスター 3月	保育実習Ⅱ（保育所）またはⅢ（施設）実習記録提出、成績評価表・出席表の返送		

※オリエンテーション、ガイダンス等を欠席した場合は、保育実習・教育実習に参加できません。

●教育学部　「介護等体験」の参加要件

※保育士資格をめざす場合、保育実習に参加すれば「介護等体験」が免除される場合があります。詳しくは保育実習ガイダンスで説明します。

小学校または中学校教育職員免許状を取得するためには、教育実習とは別に、特別支援学校で 2 日間、社会福祉施設で 5 日間、計 7 日間の「介護等体験」を行うことが義務付けられています。

その目的は、介護などの経験を通じて学んだことを教育の現場に活かしていくことにあります。詳細については、「介護等体験」事前研修において説明します。

- 「介護等体験」には、次の参加要件を満たさなければ参加できません。
  ① 2 セメスターを修了していること。
  ② 参加する年度の前年度の夏学期までに、次の科目を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
卒業に必要となる修得単位数が上記 1 科目を含んで、15 単位以上		

  ③ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。
- 体験先は大学から公的機関に依頼し決定します。他大学の学生と一緒に実習をする場合もあります。
- 体験参加申込金および体験先への謝礼金が必要です。
- 体験先には健康診断書を提出します。「学生定期健康診断」を必ず受診してください。体験先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾患名等の健康情報を原則記載します。不都合等あれば事前に保健センターに相談してください。
- 体験先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。
- 体験先（社会福祉施設）には腸内細菌検査結果を提出する必要があります。

＊この要件は、科目等履修生にも適用されます。

●教育学部　教育実習参加の要件〔幼児教育保育コース対象〕

「教職に関する科目」（「教育の基礎的理解に関する科目等」）の中には、学外での教育実習が含まれます。

- 教育実習には、参加するセメスターまでに下記の参加要件を満たさなければ参加できません。
- 実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。
- 実習先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。

＊この要件は、科目等履修生にも適用されます。

教育実習〈幼稚園教諭一種免許状〉

① 4 セメスターを修了していること。

② 次の科目の単位を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
	和の精神Ⅱ	1 単位
教育学科 専門教育科目	教職論	2 科目 4 単位以上
	教育原論	
	特別支援教育	
	教育心理学	
	幼児教育課程総論	4 科目 8 単位以上
	保育内容の理論と方法（健康）	
	保育内容の理論と方法（人間関係）	
	保育内容の理論と方法（環境）	
	保育内容の理論と方法（言葉）	
卒業に必要となる修得単位数が上記 8 科目を含んで、60 単位以上		

③「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。

④ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

教育実習〈小学校教諭一種免許状〉

① 4 セメスターを修了していること。

② 次の科目の単位を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
	和の精神Ⅱ	1 単位
教育学科 専門教育科目	教職論	2 科目 4 単位以上
	教育原論	
	特別支援教育	
	教育心理学	
	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	1 科目 2 単位以上
	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	
	インターンシップⅠ	2 単位
	インターンシップⅡ	1 単位
卒業に必要となる修得単位数が上記 7 科目を含んで、60 単位以上		

③「介護等体験」を修了していること。

④「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。

⑤ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

● 教職に関する科目（「教育の基礎的理解に関する科目等」）

【教育学科】幼稚園教諭一種免許

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開講されている授業科目	単位(必修)	配当年次				備　考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項			1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2	○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2			○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	幼児教育課程総論	2		○			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育方法論	2			○		
		教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	2			○		
	• 幼児理解の理論及び方法 • 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	幼児理解（教育相談を含む）	2		○			
教育実践に関する科目	• 教育実習	教育実習指導	1			○		※1
		教育実習	4			○		
	• 教職実践演習	教職実践演習（教諭）	2				○	※2
最低修得単位数合計			25					

※1 「教育実習」は前述の参加要件（⇒ p.238）を満たさなければ参加できない。
小学校教諭一種免許状の取得も希望する場合、教育実習は小学校または幼稚園のどちらかに参加し単位を修得すれば、両方の免許を取得できる。2回参加する必要はない。

※2 「教職実践演習（教諭）」を履修するためには1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。

令和５年度入学生用

●教科に関する科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目）

【教育学科】幼稚園教諭一種免許状

免許法施行規則に定める科目区分等			本学で開講されている授業科目	単位	配当年次				備　考
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		必修	1年	2年	3年	4年	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健康	幼児と健康	2	○				
		人間関係	幼児と人間関係	2		○			
		環境	幼児と環境	2	○				
		言葉	幼児と言葉	2	○				
		表現	幼児と表現Ⅰ	2		○			
			幼児と表現Ⅱ	2		○			
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容の理論と方法（健康）	2		○			
			保育内容の理論と方法（人間関係）	2		○			
			保育内容の理論と方法（環境）	2	○				
			保育内容の理論と方法（言葉）	2		○			
			保育内容の理論と方法（表現活動・音楽）	2			○		
			保育内容の理論と方法（表現活動・造形）	2			○		
			保育内容総論	2	○				
最低修得単位数合計				26					

（注）配当年次は所属コースにより異なる場合があります。各コースの専門教育科目編成表にて確認してください。

令和４年度入学生用

●教科に関する科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目）

【教育学科】幼稚園教諭一種免許状

免許法施行規則に定める科目区分等			本学で開講されている授業科目	単位	配当年次				備　考
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		必修	1年	2年	3年	4年	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	国語	教科内容論（国語）	2		○			
		算数	教科内容論（算数）	2		○			
		生活	教科内容論（生活）	2	○				
		音楽	教科内容論（音楽）	2	○				
		図画工作	教科内容論（図画工作）	2		○			
		体育	教科内容論（体育）	2		○			
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容の理論と方法（健康）	2		○			
			保育内容の理論と方法（人間関係）	2		○			
			保育内容の理論と方法（環境）	2	○				
			保育内容の理論と方法（言葉）	2		○			
			保育内容の理論と方法（表現活動・音楽）	2			○		
			保育内容の理論と方法（表現活動・造形）	2			○		
			保育内容総論	2	○				
最低修得単位数合計				26					

（注）配当年次は所属コースにより異なる場合があります。各コースの専門教育科目編成表にて確認して下さい。

●教職に関する科目（「教育の基礎的理解に関する科目等」）教科及び教科の指導法に関する科目

【教育学科】　小学校教諭一種免許状

小学校教育コースの科目表（p.228 ～ 229）を参照してください。

●教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められている科目

令和 4・5 年度入学生用

免許法施行規則に定める科目区分	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○				
	英語Ⅱ	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○				Ⅰ かⅡ、いずれか 1 科目を修得すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○				
最低修得単位数合計		8 (必6、選必2)							

●教育学部　「履修カルテ」について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、8 セメスター時に開講される「教職実践演習（教諭）」の授業を受けるまでに、各自で 1 年次から「履修カルテ」を作成することが義務付けられています。「履修カルテ」とは、教職課程を履修する学生が、授業や学外活動等において、何を学んだのかを振り返り記録するとともに、今後どのような学習が必要かを考える為の手がかりにしてもらうためのものです。

それをもとに「教職実践演習（教諭）」では、教員として必要な資質能力がどの程度形成されたかを確認します。

「履修カルテ」が作成されていない場合や、「履修カルテ」に記入漏れがある場合、8 セメスター時に「教職実践演習（教諭）」を履修できないこともあります。

●教育学部　「履修カルテ」記入の仕方

入学後オリエンテーションにて説明を受け、IBU.net で 3 項目について記入します。

⑴　教員志望理由と動機の記入　1 セメ終了時
　はじめに教員を志望する理由と動機について記入（100 字程度）

⑵　教職関連科目の履修状況の記入　2 セメ、4 セメ、6 セメ終了時
　履修した「教科に関する科目」（領域及び保育内容の指導法に関する科目）と「教職に関する科目」（「教育の基礎的理解に関する科目等」）について振り返り、「履修カルテ」の項目ごとに自己評価を記入

⑶　「介護等体験」や教育実習の状況の記入
　「介護等体験」や教育実習を通じて学んだこと等を記入（100 字程度）

※ IBU.net での「履修カルテ」の記入は、指定された文字数内・時間内（30 分）で各自入力し、終了時に「 」を押してください。
（文字数を越えた場合、時間を過ぎた場合や「 」を押していない場合は更新できません）

●教育職員免許状申請、証明書について

1. 教育職員免許状申請

教職に就くには、都道府県の教育委員会へ申請を行い、「教育職員免許状」を取得する必要があります。大学で取りまとめて大阪府教育委員会に申請します。申請方法は、8 セメスター時に説明します。

教育職員免許状取得に必要な単位を修得し、申請を行った学生には、学位授与式で「教育職員免許状」を配付します。

※教育職員免許状の制度が変更になった場合は、手続きの方法が変わる可能性があります。

※大学の指定した期日までに申請しなかった場合は、個人で各都道府県の教育委員会に申請しなければ免許状を取得することができません。

2. 就職活動等に使用する証明書発行

7 セメスター以降、証明書発行サービスで「免許状取得見込証明書」を発行してください。

3. 教育職員免許状の紛失等について

「教育職員免許状」を紛失した場合は、大阪府教育委員会へ問い合わせてください。大学で教育職員免許状の再発行はできません。

教育学部教育学科 英語教育・小学校コースで取得できる教育職員免許状の課程

〈令和４～５年度入学生共通〉

●教育職員免許状を取得するために必要な要件

要　　件	英語教諭	小学校教諭※2
「教職に関する科目」の必要単位の修得	○	○
「教科及び教科の指導法に関する科目」の必要単位の修得	○	○
「教育職員免許法施行規則第 66 条の６」に定められている科目※1 の修得	○	○
「介護等体験」への参加	○	○
インターンシップ・スクールサポーターへの参加		○
免許や実習に関するガイダンスへの出席	○	○
教育実習への参加	○	○
教育職員免許状申請	○	○
大学の卒業	○	○

※１　「日本国憲法」「スポーツⅠ・Ⅱ」「英語Ⅰ・Ⅱ」「情報処理演習ⅠまたはⅡ」の６科目。
※２　英語教諭一種免許状の取得を前提として許可しています。

●教職課程履修者に対する連絡

教職課程履修者への連絡はすべて IBU.net で行いますので、十分に注意してください。
※履修及び修得すべき科目・単位は各自で必ず確認すること。

●学外実習について

学外実習について質問がある場合は、教職教育推進センターに来てください。

●学外実習に参加するための心得

学外実習は要件を満たしているからといって、それだけの理由で安易に行うべきものではありません。量・質ともに過密なスケジュールをこなしている学校の現場で多大な迷惑をかけながら、実習させていただくのです。教育実習を行うにあたっては、将来実際に教職につくことを強く希望しているということが、一番の要件になるということを強く自覚してください。

教育学科 英語教育・小学校コース対象
インターンシップ・教育実習・「介護等体験」の予定

1　学外実習については、学則による開講日だけでなく休業日にも実施します。

2　小学校・中学校教育職員免許状取得希望者は、「介護等体験」への参加が必要です。

1 セメスター 入学直後	教職課程履修等オリエンテーション、「履修カルテ」の作成、「介護等体験」についての説明
2 セメスター 9 月下旬～	「介護等体験」事前研修（4 回程度） 参加申し込み手続き、参加費振込、レポート提出等
2 セメスター 12 月～ 1 月	「インターンシップⅠ・Ⅱ」「教育実習」ガイダンス 参加申し込み手続き
3 セメスター 4 月	「インターンシップⅠ」事前指導、事前訪問
3 セメスター 5 月～ 7 月	**「インターンシップⅠ」参加**
3 ～ 4 セメスター 5 月～ 2 月	**「介護等体験」参加**　社会福祉施設 5 日間、特別支援学校 2 日間
3 セメスター 7 月	「インターンシップⅠ」実習継続判断（一次）
4 セメスター 9 月	「インターンシップⅠ」報告会 「教育実習」事前ガイダンス
4 セメスター 9 月～ 3 月	**「インターンシップⅡ」参加**
4 セメスター 1 月	「インターンシップⅡ」実習継続判断（二次）
5 セメスター 4 月	「教育実習」事前指導（人権教育特別講義）
5 セメスター 4 月～ 6 月	**「教育実習（小学校）」参加**　（18 日間）
5 セメスター 7 月	「教育実習」実習日誌等提出
6 セメスター 9 月～ 10 月	**「教育実習ⅠまたはⅡ（英語）」参加**　（15 日間）
6 セメスター 10 月	「教育実習ⅠまたはⅡ（英語）」実習日誌等提出
6 セメスター 9 月～ 3 月	**「インターンシップⅢ」参加**

※オリエンテーション、ガイダンス、事前研修等を欠席した場合は、「介護等体験」・教育実習に参加できません。

●教育学部　「介護等体験」の参加要件

小学校または中学校教育職員免許状を取得するためには、教育実習とは別に、特別支援学校で２日間、社会福祉施設で５日間、計７日間の「介護等体験」を行うことが義務付けられています。

その目的は、介護などの経験を通じて学んだことを教育の現場に活かしていくことにあります。詳細については、「介護等体験」事前研修において説明します。

- 「介護等体験」には、次の参加要件を満たさなければ参加できません。
  ① ２セメスターを修了していること。
  ② 参加する年度の前年度の夏学期終了時に、次の科目を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	１単位
卒業に必要となる修得単位数が上記１科目を含んで、15 単位以上		

  ③ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。
- 体験先は大学から公的機関に依頼し決定します。他大学の学生と一緒に実習をする場合もあります。
- 体験参加申込金および体験先への謝礼金が必要です。
- 体験先には健康診断書を提出します。「学生定期健康診断」を必ず受診してください。体験先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾患名等の健康情報を原則記載します。不都合等あれば事前に保健センターに相談してください。
- 体験先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。
- 体験先（社会福祉施設）には腸内細菌検査結果を提出する必要があります。

＊この要件は、科目等履修生にも適用されます。

●教育学部　教育実習参加の要件〔英語教育・小学校コース対象〕

「教職に関する科目」（「教育の基礎的理解に関する科目等」）の中には、学外での教育実習が含まれます。

- 教育実習には、参加する前セメスターまでに下記の参加要件を満たさなければ参加できません。
- 実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。
- 実習先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。

＊この要件は、科目等履修生にも適用されます。

教育実習Ⅰ（英語）または教育実習Ⅱ（英語）〈中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）〉

① 4セメスターを修了していること。

② 次の科目の単位を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1単位	
	和の精神Ⅱ	1単位	
教育学科 専門教育科目	教職論	2科目 4単位以上	
	教育原論		
	特別支援教育		
	教育心理学		
	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	1科目 2単位以上	
	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）		
	中等英語科教育法Ⅰ	2単位	
	中等英語科教育法Ⅱ	2単位	
	英文法Ⅰ	2単位	
	英文法Ⅱ	2単位	
	インターンシップⅠ	2単位	
	インターンシップⅡ	1単位	
卒業に必要となる修得単位数が上記11科目を含んで、60単位以上			

③「教育実習Ⅰ（英語）」4単位の取得を希望する場合は、「介護等体験」を修了していること。

④「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。

⑤ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

教育実習〈小学校教諭一種免許状〉

① 4セメスターを修了していること。

② 次の科目の単位を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1単位
	和の精神Ⅱ	1単位
教育学科 専門教育科目	教職論	2科目4単位以上
	教育原論	
	特別支援教育	
	教育心理学	
	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	1科目2単位以上
	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	
	インターンシップⅠ	2単位
	インターンシップⅡ	1単位
卒業に必要となる修得単位数が上記7科目を含んで、60単位以上		

③「介護等体験」を修了していること。

④「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。

⑤ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

●教職に関する科目（教育の基礎的理解に関する科目等）

【教育学科】　中学校教諭・高等学校教諭一種免許状＜英語＞

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開講されている授業科目	単位				配当年次				備　考
			中	高							
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	2			○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2	2			○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2	2					○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	2			○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	2			○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程総論（小・中・高・養）	2	2					○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法（小・中・養）	2	—				○			※中学免許のみ
	• 総合的な学習の時間の指導法＊1 • 総合的な探究の時間の指導法＊2 • 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（小中高養）	2	2					○		
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	2	2				○			
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	2	2				○			
	• 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法（小・中・高・養）	2	2				○			
教育実践に関する科目	• 教育実習	教育実習指導（英語）	1	1					○		中学免許は当該教科の教育実習指導及び教育実習Ⅰの2科目を必修とする。 ※1 高校免許は当該教科の教育実習指導及び、教育実習Ⅰ又は教育実習Ⅱのいずれか1科目を選択必修とする。
		教育実習Ⅰ（英語）	4		2	4			○		
		教育実習Ⅱ（英語）	—			2			○		
	• 教職実践演習	教職実践演習（教諭）	2	2						○	※2
最低修得単位数合計			29	25（必23、選必2）							

＊1　中学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「総合的な学習の時間の指導法」となる。
＊2　高等学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「総合的な探究の時間の指導法」となる。
※1「教育実習」は前述の参加要件（→ p.246）を満たさなければ参加できない。
※2「教職実践演習（教諭）」を履修するためには1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。

履修の際の注意事項
1. 中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
2. 中学校教諭一種免許状のみを取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
3. 高等学校教諭一種免許状のみを取得する者は、当該教科の「教育実習指導」を必修、「教育実習Ⅰ」か「教育実習Ⅱ」のいずれか1科目を選択必修とする。
4. 複数教科の免許状を取得する者は、当該教科全ての教科教育法の単位を修得すること。
5. 「教職実践演習（教諭）」を履修するためには、1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
6. 「教育実習」を履修するためには、教育実習参加の要件（p.245）を満たさなければならない。
7. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、教育実習に参加する前年度までに「介護等体験」を修了していること。

●教科及び教科の指導法に関する科目

【教育学科】　中学校教諭・高等学校教諭一種免許状＜英語＞

免許法施行規則に定める科目区分等			本学で開講されている授業科目	単位/履修区分			配当年次				備　考
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		中必修	高必修	中/高選択	1年	2年	3年	4年	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	英語学概説	2	2		○				
			英語音声学			2	○				
			英文法Ⅰ			2	○				
			英文法Ⅱ			2	○				
			第二言語習得論			2			○		※教小は履修不可
			英語学特論Ⅰ（認知言語学）			2			○		※教小は履修不可
			英語学特論Ⅱ（英語教授法）			2		○			※教小は履修不可
		英語文学	英語文学概説	2	2			○			
			英語文学Ⅰ（英文学）			2		○			
			英語文学Ⅱ（米文学）			2		○			
		英語コミュニケーション	ベーシックコミュニケーションⅠ	2	2		○				
			ベーシックコミュニケーションⅡ	2	2		○				
			ベーシックコミュニケーションⅢ			2		○			
			ベーシックコミュニケーションⅣ			2		○			
			アドバンストコミュニケーションⅠ			2			○		
			アドバンストコミュニケーションⅡ			2			○		
		異文化理解	英語圏文化概説	2	2		○				
			世界英語の文化圏Ⅰ			2		○			
			世界英語の文化圏Ⅱ			2		○			
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		中等英語科教育法Ⅰ	2	2		○				中学免許はⅠ～Ⅳ必修 高校免許はⅠ～Ⅱ必修
			中等英語科教育法Ⅱ	2	2			○			中学免許はⅠ～Ⅳ必修 高校免許はⅠ～Ⅱ必修
			中等英語科教育法Ⅲ	2	－			○			中学免許はⅠ～Ⅳ必修 高校免許はⅠ～Ⅱ必修
			中等英語科教育法Ⅳ	2	－				○		中学免許はⅠ～Ⅳ必修 高校免許はⅠ～Ⅱ必修
中学校教諭一種免許状のみを取得する場合の最低修得単位数				30（必18、選12）							
高等学校教諭一種免許状のみを取得する場合の最低修得単位数				34（必14、選20）							
中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する場合の最低修得単位数			中学校教諭一種免許状取得最低修得単位数	30（必18、選12）							
			高等学校教諭一種免許状取得最低修得単位数	32（必14、選18）							

（注）配当年次は所属コースにより異なる場合があります。各コースの専門教育科目編成表にて確認して下さい。

●教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められている科目

免許法施行規則に定める科目区分	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○				
	英語Ⅱ	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○				ⅠかⅡ、いずれか 1 科目を修得すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○				
最低修得単位数合計		8 (必6、選必2)							

●教育学部　「履修カルテ」について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、8 セメスター時に開講される「教職実践演習（教諭）」の授業を受けるまでに、各自で 1 年次から「履修カルテ」を作成することが義務付けられています。

「履修カルテ」とは、教職課程を履修する学生が、授業や学外活動等において、何を学んだのかを振り返り記録するとともに、今後どのような学習が必要かを考える為の手がかりにしてもらうためのものです。

それをもとに「教職実践演習（教諭）」では、教員として必要な資質能力がどの程度形成されたかを確認します。

「履修カルテ」が作成されていない場合や、「履修カルテ」に記入漏れがある場合、8 セメスター時に「教職実践演習（教諭）」を履修できないこともあります。

●教育学部　「履修カルテ」記入の仕方

入学後オリエンテーションにて説明を受け、IBU.net で 3 項目について記入します。

⑴　教員志望理由と動機の記入　1 セメ終了時
　はじめに教員を志望する理由と動機について記入（100 字程度）

⑵　教職関連科目の履修状況の記入　2 セメ、4 セメ、6 セメ終了時
　履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」と「教職に関する科目」（「教育の基礎的理解に関する科目等」）について振り返り、「履修カルテ」の項目ごとに自己評価を記入

⑶　「介護等体験」や教育実習の状況の記入
　「介護等体験」や教育実習を通じて学んだこと等を記入（100 字程度）

※ IBU.net での「履修カルテ」の記入は、指定された文字数内・時間内（30 分）で各自入力し、終了時に「 」を押してください。
(文字数を越えた場合、時間を過ぎた場合や「 」を押していない場合は更新できません)

●教育職員免許状申請、証明書について

1. 教育職員免許状申請

教職に就くには、都道府県の教育委員会へ申請を行い、「教育職員免許状」を取得する必要があります。大学で取りまとめて大阪府教育委員会に申請します。申請方法は、8 セメスター時に説明します。

教育職員免許状取得に必要な単位を修得し、申請を行った学生には、学位授与式で「教育職員免許状」を配付します。

※教育職員免許状の制度が変更になった場合は、手続きの方法が変わる可能性があります。
※大学の指定した期日までに申請しなかった場合は、個人で各都道府県の教育委員会に申請しなければ免許状を取得することができません。

2. 就職活動等に使用する証明書発行

7 セメスター以降、証明書発行サービスで「免許状取得見込証明書」を発行してください。

3. 教育職員免許状の紛失等について

「教育職員免許状」を紛失した場合は、大阪府教育委員会へ問い合わせてください。大学で教育職員免許状の再発行はできません。

教育学部教育学科 保健教育コースで取得できる教育職員免許状の課程

●教育職員免許状を取得するために必要な要件

要　　件	養護教諭	小学校教諭※2
「教職に関する科目」の必要単位の修得	○	○
「養護に関する科目」の必要単位の修得	○	
「教科及び教科の指導法に関する科目」の必要単位の修得		○
「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6」に定められている科目※1 の修得	○	○
「介護等体験」への参加		○
インターンシップⅠ・Ⅱへの参加	○	○
免許や実習に関するガイダンスへの出席	○	○
養護実習または教育実習への参加	○	○
教育職員免許状申請	○	○
大学の卒業	○	○

※１　「日本国憲法」「スポーツⅠ・Ⅱ」「英語Ⅰ・Ⅱ」「情報処理演習ⅠまたはⅡ」の６科目。
※２　養護教諭一種免許状の取得を前提として許可しています。

●教職課程履修者に対する連絡

教職課程履修者への連絡はすべて IBU.net で行いますので、十分に注意してください。
※履修及び修得すべき科目・単位は各自で必ず確認すること。

●学外実習について

学外実習について質問がある場合は、教職教育推進センターに来てください。

●学外実習に参加するための心得

学外実習は要件を満たしているからといって、それだけの理由で安易に行うべきものではありません。量・質ともに過密なスケジュールをこなしている教育・医療等の現場で多大な迷惑をかけながら、実習させていただくのです。学外実習を行うにあたっては、将来実際に教職につくことを強く希望しているということが、一番の要件になるということを強く自覚してください。

●教育学部　「介護等体験」の参加要件

小学校または中学校教育職員免許状を取得するためには、教育実習とは別に、特別支援学校で２日間、社会福祉施設で５日間、計７日間の「介護等体験」を行うことが義務付けられています。

その目的は、介護などの経験を通じて学んだことを教育の現場に活かしていくことにあります。詳細については、「介護等体験」事前研修において説明します。

- 「介護等体験」には、次の参加要件を満たさなければ参加できません。
  ① ２セメスターを修了していること。
  ② 参加する前年度の夏学期終了時に、次の科目を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	１単位
卒業に必要となる修得単位数が上記１科目を含んで、15 単位以上		

  ③ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。
- 体験先は大学から公的機関に依頼し決定します。他大学の学生と一緒に実習をする場合もあります。
- 体験参加申込金および体験先への謝礼金が必要です。
- 体験先には健康診断書を提出します。「学生定期健康診断」を必ず受診してください。体験先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾患名等の健康情報を原則記載します。不都合等あれば事前に保健センターに相談してください。
- 体験先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。
- 体験先（社会福祉施設）には腸内細菌検査結果を提出する必要があります。
  ※この要件は、科目等履修生にも適用されます。

●教育学科 保健教育コース
インターンシップ・養護実習・教育実習・臨床実習・「介護等体験」の予定

1　学外実習については、学則による開講日だけでなく休業日にも実施します。

2　小学校教育職員免許状取得希望者は、「介護等体験」への参加が必要です。

1 セメスター 入学直後	教職課程履修等オリエンテーション、「履修カルテ」の作成、「介護等体験」についての説明
2 セメスター 9 月下旬～	「介護等体験」事前研修（4 回程度） 参加申し込み手続き、参加費振込、レポート提出等
2 セメスター 12 月～ 1 月	「インターンシップⅠ・Ⅱ」「教育実習」ガイダンス 参加申し込み手続き
3 セメスター 4 月	「インターンシップⅠ」事前指導、事前訪問
3 セメスター 5 月～ 7 月	**「インターンシップⅠ」参加**
3 ～ 4 セメスター 5 月～ 2 月	**「介護等体験」参加**、社会福祉施設 5 日間、特別支援学校 2 日間
3 セメスター 7 月	「インターンシップⅠ」実習継続判断（一次）
4 セメスター 9 月	「インターンシップ」報告会 「教育実習」事前ガイダンス
4 セメスター 9 月	「臨床看護学演習」（臨床実習）履修、臨床実習の事前ガイダンス
4 セメスター 9 月～ 3 月	**「インターンシップⅡ」参加**
4 セメスター 1 月	「インターンシップⅡ」実習継続判断（二次）
4 セメスター 2 月～ 3 月	**「臨床実習」参加**　（1 週間）
5 セメスター 4 月	「教育実習」事前指導（人権教育特別講義）
5 セメスター 4 月～ 6 月	**「教育実習（小学校）」参加**　（18 日間）
5 セメスター 7 月	「教育実習（小学校）」実習日誌等提出
6 セメスター 9 月～ 10 月	**「養護実習」参加**　（15 日間）
6 セメスター 10 月	「養護実習」実習日誌等提出
6 セメスター 9 月～ 3 月	**「インターンシップⅢ」参加**

※オリエンテーション、ガイダンス、事前研修等を欠席した場合は、「介護等体験」・養護実習・教育実習に参加できません。

●臨床実習参加の要件

「養護に関する科目」の中には、学外実習である「臨床実習」を含む「臨床看護学演習」があります。

- 臨床実習には、下記の参加要件を満たさなければ参加できません。
  ① 3セメスターを修了していること。
  ② 参加するセメスターの前セメスターまでに、次の科目を修得していること。

専門教育科目	養護概説	2単位
	解剖生理学	2単位
	学校看護学Ⅰ（基礎）	2単位
	学校看護学Ⅱ（疾病Ⅰ）	2単位
	学校看護学Ⅲ（疾病Ⅱ）	2単位
	学校救急処置	2単位
合　計		12単位

  ③「臨床看護学演習」担当教員の許可を得ていること。
- 科目「臨床看護学演習」を履修すること。
  「臨床看護学演習」は、「臨床実習」の事前事後の指導を含みます。出席不良や、授業態度が教育者としてふさわしくないと見なされた場合は実習に参加できません。
- 授業以外に行われる実習参加ガイダンス等には、特別な事由がない限り、すべて出席しなければなりません。
- 教育者をめざすものとしてふさわしい礼儀や身なりなどの社会常識を身につけたうえで、自分の健康や時間厳守などの自己管理ができていること。なお、社会常識が著しく逸脱していると見なされたものは参加できません。
- 実習先は大学が決定します。
- 実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。
- 実習先には健康診断書を提出します。「学生定期健康診断」を必ず受診してください。実習先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾病名等の健康情報を原則記載します。
- 別途定められた感染症の検査を行う必要があります。大学の指示に従うこと。
- 実習先には腸内細菌検査結果を提出する必要があります。

＊この要件は、科目等履修生にも適用されます。

●教育学部　養護実習・教育実習参加の要件〔保健教育コース対象〕

「教職に関する科目」（「教育の基礎的理解に関する科目等」）の中には、学外での養護実習および教育実習が含まれます。

- 養護実習および教育実習には、参加する前年度までに下記の参加要件を満たさなければ参加できません。
- 実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。
- 実習先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。

＊この要件は、科目等履修生にも適用されます。

養護実習　〈養護教諭一種免許状〉

① 4 セメスターを修了していること。

② 次の科目を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
	和の精神Ⅱ	1 単位
教育学科 専門教育科目	教職論	2 科目 4 単位以上
	教育原論	
	特別支援教育	
	教育心理学	
	生徒指導論（養）	1 科目 2 単位以上
	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	
	インターンシップⅠ	2 単位
	インターンシップⅡ	1 単位
	養護概説	2 単位
	学校看護学Ⅰ（基礎）	2 単位
	学校看護学Ⅱ（疾病Ⅰ）	2 単位
	学校看護学Ⅲ（疾病Ⅱ）	2 単位
	学校看護学Ⅳ（応用）	2 単位
	学校救急処置	2 単位
卒業に必要となる修得単位数が上記 13 科目を含んで、60 単位以上		

③「養護実習指導」担当教員の許可を得ていること。

④ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

教育実習〈小学校教諭一種免許状〉

① 4 セメスターを修了していること。

② 次の科目を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
	和の精神Ⅱ	1 単位
教育学科 専門教育科目	教職論	2 科目 4 単位以上
	教育原論	
	特別支援教育	
	教育心理学	
	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	1 科目 2 単位以上
	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	
	インターンシップⅠ	2 単位
	インターンシップⅡ	1 単位
卒業に必要となる修得単位数が上記 7 科目を含んで、60 単位以上		

③「介護等体験」を修了していること。

④「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。

⑤ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

●教職に関する科目（教育の基礎的理解に関する科目等）

【教育学科】養護教諭一種免許状

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開講されている授業科目	単位	配当年次				備　考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2	○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2			○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程総論（小・中・高・養）	2			○		
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	道徳教育の理論と方法（小・中・養）	2		○			
		特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（小中高養）	2			○		
	• 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	2		○			
	• 生徒指導の理論及び方法	生徒指導論（養）	2		○			
	• 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法（小・中・高・養）	2		○			
教育実践に関する科目	• 養護実習	養護実習指導	1			○		※1
		養護実習	4					
	• 教職実践演習	教職実践演習（養護教諭）	2				○	※2
最低修得単位数合計			29					

※1　「養護実習」は前述の参加要件（⇒ p.255）を満たさなければ参加できない。
※2　「教職実践演習（養護教諭）」を履修するためには1セメスター時から「履修カルテ」を作成しなければならない。

●養護に関する科目

【教育学科】養護教諭一種免許状

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開講されている授業科目	単位/履修区分			配当年次				備　考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）	衛生学	2			○				
		公衆衛生学（予防医学を含む）	2				○			
	学校保健	学校保健	2			○				
	養護概説	養護概説	2			○				
	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	健康相談	2				○			
	栄養学（食品学を含む。）	栄養学（食品学を含む）	2			○				
	解剖学・生理学	解剖生理学	2			○				
	「微生物学、免疫学、薬理概論」	微生物学		2	2			○		1科目2単位選択必修
		薬理概論			2			○		
	精神保健	精神保健	2				○			
	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）	学校看護学Ⅰ（基礎）	2			○				
		学校看護学Ⅱ（疾病Ⅰ）	2			○				
		学校看護学Ⅲ（疾病Ⅱ）	2				○			
		学校看護学Ⅳ（応用）	2				○			
		臨床看護学演習	2				○			※1
		学校救急処置	2				○			
最低修得単位数合計			30（必28、選必2）							

※1　臨床看護学演習では学外実習である「臨床実習」に参加する。前述の参加要件（⇒ p.254）を満たさなければ参加できない。

●教職に関する科目（「教育の基礎的理解に関する科目等」）「教科及び教科の指導法に関する科目」

【教育学科】　小学校教諭一種免許

小学校教育コースの科目表（p.228 ～ 229）を参照してください。

●教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められている科目

免許法施行規則に定める科目区分	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○				
	英語Ⅱ	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○				Ⅰ かⅡ、いずれか 1 科目を修得すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○				
最低修得単位数合計		8（必6、選必2）							

●教育学部　「履修カルテ」について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、8 セメスター時に開講される「教職実践演習（養護教諭）」の授業を受けるまでに、各自で 1 年次から「履修カルテ」を作成することが義務付けられています。「履修カルテ」とは、教職課程を履修する学生が、授業や学外活動等において、何を学んだのかを振り返り記録するとともに、今後どのような学習が必要かを考える為の手がかりにしてもらうためのものです。

それをもとに「教職実践演習（養護教諭）」では、教員として必要な資質能力がどの程度形成されたかを確認します。

「履修カルテ」が作成されていない場合や、「履修カルテ」に記入漏れがある場合、8 セメスター時に「教職実践演習（養護教諭）」を履修できないこともあります。

※養護教諭と小学校教諭の免許状を取得する場合は、「教職実践演習（教諭）」と「教職実践演習（養護教諭）」の 2 科目を履修し、「履修カルテ」も 2 つ作成する必要があります。

●教育学部　「履修カルテ」記入の仕方

入学後オリエンテーションにて説明を受け、IBU.net で 3 項目について記入します。

⑴　教員志望理由と動機の記入

1 セメ終了時、はじめに教員を志望する理由と動機について記入（100 字程度）

⑵　教職関連科目の履修状況の記入

2 セメ、4 セメ、6 セメ終了時、履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」または「養護に関する科目」と「教職に関する科目」（「教育の基礎的理解に関する科目等」）について振り返り、「履修カルテ」の項目ごとに自己評価を記入

⑶　「介護等体験」や教育実習・養護実習の状況の記入

「介護等体験」や教育実習・養護実習を通じて学んだこと等を記入（100 字程度）

※ IBU.net での「履修カルテ」の記入は、指定された文字数内・時間内（30 分）で各自入力し、終了時に「 」を押してください。

（文字数を越えた場合、時間を過ぎた場合や「 」を押していない場合は更新できません）

●教育職員免許状申請、証明書について

1. 教育職員免許状申請

教職に就くには、都道府県の教育委員会へ申請を行い、「教育職員免許状」を取得する必要があります。大学で取りまとめて大阪府教育委員会に申請します。申請方法は、8 セメスター時に説明します。

教育職員免許状取得に必要な単位を修得し、申請を行った学生には、学位授与式で「教育職員免許状」を配付します。

※教育職員免許状の制度が変更になった場合は、手続きの方法が変わる可能性があります。

※大学の指定した期日までに申請しなかった場合は、個人で各都道府県の教育委員会に申請しなければ免許状を取得することができません。

2. 免許状取得見込証明書について

7 セメスター以降、証明書発行サービスで「免許状取得見込証明書」を発行してください。

3. 教育職員免許状の紛失等について

「教育職員免許状」を紛失した場合は、大阪府教育委員会へ問い合わせてください。大学で教育職員免許状の再発行はできません。

養護教諭一種免許状の課程
（看護学部　看護学科）

●教育職員免許状を取得するために必要な要件

「教職に関する科目」の必要単位の修得
（「教育の基礎的理解に関する科目等」）

※「教職に関する科目」は卒業に必要な単位に含まない
（「教育の基礎的理解に関する科目等」）

「養護に関する科目」の必要単位の修得

「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6」に定められている科目※の修得

※「日本国憲法」
「スポーツⅠ・Ⅱ」
「上級英語Ⅰ・Ⅱ」
「情報処理演習ⅠまたはⅡ」

学内選抜試験

免許や実習に関するガイダンスへの出席

養護実習への参加

教育職員免許状申請

※養護教諭一種免許状申請に必要な卒業までの
取得単位数は 161 単位である。

大学の卒業

●教職課程履修者に対する連絡

教職課程履修者への連絡はすべて IBU.net で行いますので、十分に注意してください。
※履修及び修得すべき科目・単位は各自で必ず確認すること。

●学外実習について

学外実習について質問がある場合は、教職教育推進センターに来てください。

●学外実習に参加するための心得

学外実習は要件を満たしているからといって、それだけの理由で安易に行うべきものではありません。量・質ともに過密なスケジュールをこなしている学校の現場で多大な負担をかけながら、実習させていただくのです。養護実習を行うにあたっては、将来実際に教職につくことを強く希望しているということが、一番の要件になるということを強く自覚してください。

●看護学部　養護実習の予定

学外実習については、学則による開講日だけでなく休業日にも実施します。

1 セメスター 入学後	教職課程履修等オリエンテーション 「履修カルテ」の作成について等
↓	
4 セメスター 3 月	学内選抜試験
↓	
5 セメスター 5 月	養護実習申込登録ガイダンス
↓	
5 セメスター 5 月～ 6 月	実習希望校へ教育実習の内諾依頼（各自）
↓	
6 セメスター 3 月	実習希望校へ正式依頼書を提出
↓	
7 セメスター 4 月	養護実習事前ガイダンス （人権教育特別講義）
↓	
7 セメスター 5 月	実習先とのオリエンテーション
↓	
7 セメスター 6 月	**養護実習参加** 小学校、中学校、高等学校＝ 3 週間
↓	
7 セメスター 7 月	養護実習終了 （終了後 2 週間以内に実習記録等を提出）

※オリエンテーション、ガイダンスを欠席した場合は、養護実習に参加できません。

●養護教諭コース　学内選抜試験

本学では、養護教諭コースを選択できる定員は 20 人程度とし、選抜時期は 2 年次冬学期の成績判定終了後に行います。出願方法は IBU.net で連絡します。選抜試験を受験するためには、4 セメスターまでに配当された基礎教育科目及び専門教育科目の必修科目及び下記の指定された選択科目（教養教育科目、語学・情報科学科目、健康科学科目、看護科学科目、教職科目）の単位数を修得する必要があります。なお、選抜試験の評価は、面接試験と 4 セメスターまでに配当されている健康科学及び看護科学科目のうち実習を除く必修科目及び教職に関する科目のうち「教職論」「教育原論」「教育心理学」「特別支援教育」の科目の GPA により行います。

基礎教育科目		和の精神Ⅰ	1 単位
		和の精神Ⅱ	1 単位
		仏教概説	2 単位
		現代社会と人権	2 単位
共通教育科目	教養教育科目	生物学	2 単位
		日本国憲法	2 単位
		スポーツⅠ	1 単位
		スポーツⅡ	1 単位
	語学・情報科学科目	統計学	2 単位
		上級英語Ⅰ	1 単位
		上級英語Ⅱ	1 単位
		上級英語Ⅲ（医療英語）	1 単位
		上級英語Ⅳ（英語論文読解）	1 単位
		情報処理演習Ⅰ	1 科目 2 単位以上
		情報処理演習Ⅱ	
	その他の共通教育科目 1 科目以上		2 単位以上
専門教育科目	4 セメスターまでに配当された必修科目 35 科目		55 単位
	健康科学科目	疫学	2 単位
	看護科学科目	学校保健論	2 単位
		養護概説	2 単位
教職に関する科目		教職論	2 単位
		教育原論	2 単位
		教育心理学	2 単位
		特別支援教育	2 単位
		教育方法・技術（情報通信技術の活用含む中高養）	2 単位
		生徒指導論（養）	2 単位
		教育相談の理論と方法（中・高・養）	2 単位

●看護学部　養護実習参加の要件

「教職に関する科目」（「教育の基礎的理解に関する科目等」）の中には、学外での養護実習が含まれます。

- 養護実習には、次の参加要件を満たさなければ参加できません。
  ① 選抜試験に合格していること。
  ② 6 セメスターを修了していること。
  ③ 参加する年度の前年度までに、次の科目を修得していること。

専門教育科目	6 セメスターまでに配当された必修科目 51 科目		88 単位
	看護科学科目	健康相談	2 単位
教職に関する科目		教育制度論	2 単位
		教育課程総論（中・高・養）	2 単位
		特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（中高養）	2 単位

  ④ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

- 依頼方法等についてはガイダンスで説明します。
- 実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。
- 実習先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。

●教職に関する科目（教育の基礎的理解に関する科目等）

【看護学科】養護教諭一種免許状

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開講されている授業科目	単位	配当年次				備　考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2	○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2			○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程総論（中・高・養）	2			○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	道徳教育の理論と方法（中・養）	2		○			
		特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（中高養）	2			○		
	• 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む中高養）	2		○			令和4・5年度入学生
	• 生徒指導の理論及び方法	生徒指導論（養）	2		○			
	• 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法（中・高・養）	2		○			
教育実践に関する科目	• 養護実習	養護実習	5				○	事前・事後指導を含む
	• 教職実践演習	教職実践演習（養護教諭）	2				○	
最低修得単位数合計			29					

●養護に関する科目

【看護学科】養護教諭一種免許状

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開講されている授業科目	単位/履修区分	配当年次				備　考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		必修	1年	2年	3年	4年	
養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）	地域生活支援論Ⅰ	2		○			
		疫学	2		○			
	学校保健	学校保健論	2		○			
	養護概説	養護概説	2		○			
	健康相談活動の理論及び方法	健康相談	2			○		
	栄養学（食品学を含む。）	栄養と代謝	2	○				
	解剖学及び生理学	人体の構造と機能Ⅰ	2	○				
	「微生物学、免疫学、薬理概論」	薬理学	2		○			
		疾病と治療Ⅰ	2	○				
	精神保健	精神保健	2		○			
	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）	看護概論	2	○				
		成育生活支援論	1		○			
		看護治療技術演習	1		○			
		成育療養生活支援技術演習	2			○		
		看護と倫理	2		○			
		成育療養生活支援実習	2			○		
最低修得単位数合計			30					

●教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められている科目

免許法施行規則に定める科目区分	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	上級英語Ⅰ	1			○				
	上級英語Ⅱ	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○				Ⅰ かⅡ、いずれか 1 科目を修得すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○				
最低修得単位数合計		8（必6、選必2）							

●看護学部　「履修カルテ」について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、8 セメスター時に開講される「教職実践演習（養護教諭）」の授業を受けるまでに、各自で 1 年次から「履修カルテ」を作成することが義務付けられています。

「履修カルテ」とは、教職課程を履修する学生が、授業や学外活動等において、何を学んだのかを振り返り記録するとともに、今後どのような学習が必要かを考える為の手がかりにしてもらうためのものです。

それをもとに「教職実践演習（養護教諭）」では、教員として必要な資質能力がどの程度形成されたかを確認します。

「履修カルテ」が作成されていない場合や、「履修カルテ」に記入漏れがある場合、8 セメスター時に「教職実践演習（養護教諭）」を履修できないこともあります。

●看護学部　「履修カルテ」記入の仕方

入学後オリエンテーションにて説明を受け、IBU.net で 3 項目について記入します。

⑴　教員志望理由と動機の記入　1 セメ終了時
　はじめに教員を志望する理由と動機について記入（100 字程度）

⑵　教職関連科目の履修状況の記入　2 セメ、4 セメ、6 セメ終了時
　履修した「養護に関する科目」と「教職に関する科目」（「教育の基礎的理解に関する科目等」）について振り返り、「履修カルテ」の項目ごとに自己評価を記入

⑶　養護実習の状況の記入
　養護実習を通じて学んだこと等を記入（100 字程度）

※ IBU.net での「履修カルテ」の記入は、指定された文字数内・時間内（30 分）で各自入力し、終了時に「 」を押してください。
（文字数を越えた場合、時間を過ぎた場合や「 」を押していない場合は更新できません）

●教育職員免許状申請、証明書について

1. 教育職員免許状申請

教職に就くには、都道府県の教育委員会へ申請を行い、「教育職員免許状」を取得する必要があります。大学で取りまとめて大阪府教育委員会に申請します。申請方法は、8 セメスター時に説明します。

教育職員免許状取得に必要な単位を修得し、申請を行った学生には、学位授与式で「教育職員免許状」を配付します。

※教育職員免許状の制度が変更になった場合は、手続きの方法が変わる可能性があります。

※大学の指定した期日までに申請しなかった場合は、個人で各都道府県の教育委員会に申請しなければ免許状を取得することができません。

2. 就職活動等に使用する証明書発行

7 セメスター以降、証明書発行サービスで「免許状取得見込証明書」を発行してください。

3. 教育職員免許状の紛失等について

「教育職員免許状」を紛失した場合は、大阪府教育委員会へ問い合わせてください。大学で教育職員免許状の再発行はできません。

保育士資格（教育学部　教育学科　幼児教育保育コース）

●保育士資格を取得するために必要な要件

保育士資格の教養科目、必修科目、選択科目の修得

「保育実習」への参加

保育士登録

大学の卒業

●保育士資格　教養科目

法令上の教科目				本学開講科目	授業形態	※2 履修単位数	
系列	教　科　目	授業形態	※1 設置単位数			必修	選択
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	仏教概説	講義	2	
				現代社会と人権	講義	2	
				情報処理演習Ⅰ	演習	2	2
				情報処理演習Ⅱ	演習		2
	外国語	演習	2以上	英語Ⅰ	演習	1	
				英語Ⅱ	演習	1	
	体　育	講義	1	体育講義	講義	2	
		実技	1	スポーツⅠ	実技	1	
合　　計		10単位以上			11単位		

※1　「設置単位数」は法令上開設しなければならない単位数。
※2　「履修単位数」は実際に修得しなければならない単位数。履修の際はこの欄に従うこと。

●保育士資格　必修科目

法令上の教科目				本学開講科目	授業形態	※2 履修単位数
系列	教　科　目	授業形態	※1 設置単位数			計
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2
	教育原理	講義	2	教育原論	講義	2
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	講義	2
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	保育の心理学	講義	2
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2
	子どもの理解と援助	演習	1	幼児理解（教育相談を含む）	演習	2
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	2
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	幼児教育課程総論	講義	2
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	2
	保育内容演習	演習	5	保育内容の理論と方法（健康）	演習	2
				保育内容の理論と方法（人間関係）	演習	2
				保育内容の理論と方法（環境）	演習	2
				保育内容の理論と方法（言葉）	演習	2
				保育内容の理論と方法（表現活動・音楽）	演習	2
				保育内容の理論と方法（表現活動・造形）	演習	2
	保育内容の理解と方法	演習	4	子どもと遊び	演習	2
				音楽実践演習（器楽）	演習	1
				小児体育	演習	1
				子どもと造形表現	演習	1
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	2
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	1
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	1
	障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	2
	社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	演習	1
	子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	1
保育実習	保育実習	実習	4	保育実習Ⅰ（施設）（※3）	実習	2
				保育実習Ⅰ（保育所）（※3）	実習	2
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ（施設）	演習	1
				保育実習指導Ⅰ（保育所）	演習	1
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育実践演習	演習	2
合　計		51 単位			61 単位	

※1　「設置単位数」は法令上開設しなければならない単位数。
※2　「履修単位数」は実際に修得しなければならない単位数。履修の際はこの欄に従うこと。
※3　「保育実習」の履修条件については、 ⇒ p.269 を参照すること。

●保育士資格　選択必修科目

法令上の教科目				本学開講科目	授業形態	※2 履修単位数	
系列	教　科　目	授業形態	※1 設置単位数			必修	選択
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15単位以上	子ども学概論	講義	2	
				幼保小中接続研究	講義		2
保育の対象の理解に関する科目				多様な子ども理解入門	講義		2
				フィールドワーク演習（子育て支援）	演習		1
				フィールドワーク演習（子ども支援）	演習		1
保育の内容・方法に関する科目				保育方法論	講義		2
				音楽への扉	演習		2
				音楽実践演習（声楽）	演習		1
				音楽実践演習（弾き歌い）	演習		1
				保育インターンシップ	演習		2
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ（保育所）（※3）	実習	2	2
				保育実習Ⅲ（施設）（※3）	実習		2
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ（保育所）（※3）	演習	1	1
				保育実習指導Ⅲ（施設）（※3）	演習		1
合　計			18単位以上			9単位以上	

※1　「設置単位数」は法令上開設しなければならない単位数。
※2　「履修単位数」は実際に修得しなければならない単位数。履修の際はこの欄に従うこと。
※3　「保育実習Ⅱ（保育所）」・「保育実習指導Ⅱ（保育所）」または「保育実習Ⅲ（施設）」・「保育実習指導Ⅲ（施設）」3単位は必ず修得すること。
また、「保育実習」の履修条件については、⇒ p.269 を参照すること。

●保育実習

前記必修科目と選択科目の中には、学外での保育実習が含まれます。

- 学外実習について質問がある場合は、教職教育推進センターに来てください。
- 実習参加時期は、p.236 を参照してください。
- 保育実習には、次の参加要件を満たさなければ参加できません。

「保育実習Ⅰ（保育所）」

① 3セメスターを修了していること。

② 参加する前セメスターまでに、次の科目を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1単位
	和の精神Ⅱ	1単位
教育学科 専門教育科目	教育原論	7科目14単位以上
	保育原理	
	社会福祉	
	子ども家庭福祉	
	社会的養護Ⅰ	
	保育者論	
	保育内容総論	
	乳児保育Ⅰ	
	子どもの保健	
	音楽への扉	2単位
卒業に必要となる修得単位数が上記10科目を含んで65単位以上		

③「保育実習指導Ⅰ（保育所）」担当教員の許可を得ていること。

「保育実習Ⅰ（施設）」

① 3セメスターを修了していること。

② 参加する前セメスターまでに、次の科目を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1単位
	和の精神Ⅱ	1単位
教育学科 専門教育科目	保育原理	2単位
	子ども家庭福祉	2単位
	社会的養護Ⅰ	2単位
卒業に必要となる修得単位数が上記5科目を含んで65単位以上		

③「保育実習指導Ⅰ（施設）」担当教員の許可を得ていること。

「保育実習Ⅱ（保育所）」または「保育実習Ⅲ（施設）」

① 5セメスターを修了していること。

② 参加する前セメスターまでに、次の科目を修得していること。

教育学科専門 教育科目	音楽実践演習（声楽）	1単位
	音楽実践演習（弾き歌い）	1単位
卒業に必要となる修得単位数が上記2科目を含んで、100単位以上		

③「保育実習Ⅰ（保育所）」および「保育実習Ⅰ（施設）」を終えていること。

④「保育実習指導Ⅱ（保育所）」または「保育実習指導Ⅲ（施設）」担当教員の許可を得ていること。

- 「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習Ⅲ（施設）」で実習を行う社会福祉施設は、大学が実習先を決定します。
- 「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅱ（保育所）」で実習を行う保育所は、大学が実習先を決定します。
- 実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。

- 実習先には健康診断書を提出します。「学生定期健康診断」を必ず受診してください。実習先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾患名等の健康情報を原則記載します。不都合等あれば事前に保健センターに相談してください。
- 実習先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。
- 実習先には腸内細菌検査結果の提出が必要です。

いずれも、「保育実習指導」で詳しく説明します。

●保育士登録、証明書について

1. 保育士登録

「保育士」になるには、日本保育協会登録事務処理センターへ「保育士登録」の申請を行い、「保育士登録簿」への登録を受ける必要があります。

大学で取りまとめて申請します。申請方法は、8 セメスター時に説明します。

登録の申請を行なうと、卒業後に登録事務処理センターより「保育士登録済通知書」「保育士証」が郵送されます。

※保育士の制度が変更になった場合は、手続きの方法が変わる可能性があります。

2. 就職活動等に使用する証明書発行

7 セメスター以降、証明書発行サービスで「資格取得見込証明書」を発行してください。

3. 卒業後の証明書発行

「保育士証」を紛失等で再発行する場合は、日本保育協会登録事務処理センターへ問い合わせてください。大学では発行できません。

社会福祉士国家試験受験資格
（人文社会学部　人間福祉学科）

●社会福祉士国家試験受験資格とは

社会福祉士とは、「社会福祉及び介護福祉士法」にもとづく国家資格です。社会福祉に関する専門的知識や技術を持って、身体に障害のある者や、環境上の理由で日常生活に支障のある者の福祉に関する相談に応じて助言・指導を行ったり、介護福祉士や医師など福祉サービスや保健医療サービス提供者の間にたって連絡・調整等の援助を行ったりすることが業務です。

この資格は、まず受験資格を取得し、国家試験に合格することで、取得できます。

人間福祉学科　健康福祉専攻の学生は、下記「指定科目」の単位を修得し、卒業が見込まれる場合に、社会福祉士国家試験の受験資格を取得できます。その場合、国家試験は在学中 8 セメスター時に受験することができます。

●社会福祉士国家試験受験資格　指定科目対応表

	社会福祉士国家試験受験資格指定科目	国家試験科目	本学開講の受験資格取得科目	
			科目名	取得単位
1	医学概論	○	医学概論	2
2	心理学と心理的支援	○	心理学と心理的支援	2
3	社会学と社会システム	○	社会学と社会システム	2
4	社会福祉の原理と政策	○	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2
			社会福祉の原理と政策Ⅱ	2
5	社会福祉調査の基礎	○	社会福祉調査の基礎	2
6	ソーシャルワークの基盤と専門職	○	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2
7	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	○	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2
8	ソーシャルワークの理論と方法	○	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2
9	ソーシャルワークの理論と方法（専門）	○	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2
10	地域福祉と包括的支援体制	○	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2
			地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2
11	福祉サービスの組織と経営	○	福祉サービスの組織と経営	2
12	社会保障	○	社会保障Ⅰ	2
			社会保障Ⅱ	2
13	高齢者福祉	○	高齢者福祉	2
14	障害者福祉	○	障害者福祉	2
15	児童・家庭福祉	○	児童・家庭福祉	2
16	貧困に対する支援	○	貧困に対する支援	2
17	保健医療と福祉	○	保健医療と福祉	2
18	権利擁護を支える法制度	○	権利擁護を支える法制度　※3	2
19	刑事司法と福祉	○	刑事司法と福祉	2
20	ソーシャルワーク演習		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
21	ソーシャルワーク演習（専門）		ソーシャルワーク演習Ⅱ	2
			ソーシャルワーク演習Ⅲ	2
			ソーシャルワーク演習Ⅳ	2
			ソーシャルワーク演習Ⅴ	2
22	ソーシャルワーク実習指導		ソーシャルワーク実習指導Ａ　※1、2	2
			ソーシャルワーク実習指導Ｂ　※1、2	2
			ソーシャルワーク実習指導Ｃ　※1、2	2
23	ソーシャルワーク実習		ソーシャルワーク実習Ａ　※1、2	2
			ソーシャルワーク実習Ｂ　※1、2	4

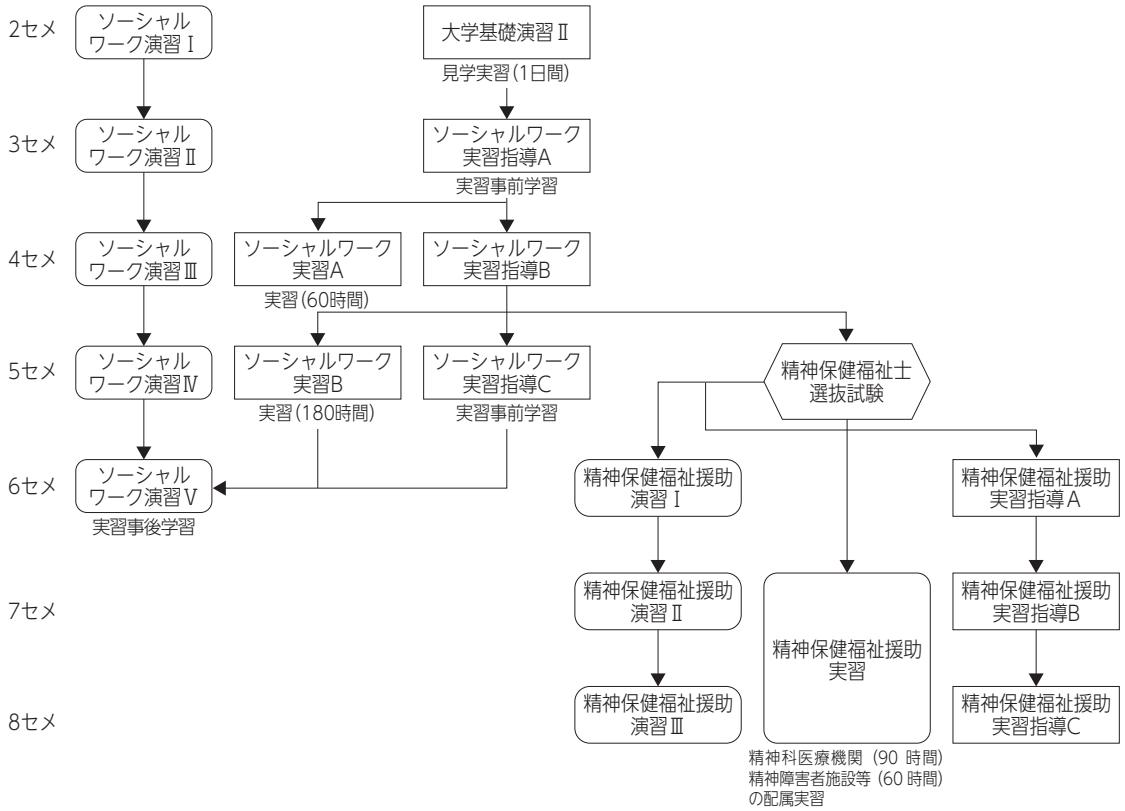
※1　表中※1以外の指定科目は、必ず在学中に修得すること。「ソーシャルワーク実習指導 Ａ・Ｂ・Ｃ」「ソーシャルワーク実習Ａ・Ｂ」については、卒業後に科目等履修制度で修得可能ですが、その場合在学中に国家試験を受験することはできません。

※2　「ソーシャルワーク実習指導 Ａ・Ｂ・Ｃ」、「ソーシャルワーク実習Ａ・Ｂ」の履修条件については、⇒p.109参照すること。

※3　精神保健福祉士国家試験受験資格を取得する場合は、「権利擁護を支える法制度」を必ず修得すること。

●社会福祉士国家試験　指定科目　学外実習・演習の流れ

指定科目の中には、演習科目や学外実習が含まれ、下図の順番で履修します。社会福祉士国家試験受験資格と、精神保健福祉士国家試験受験資格の両方を取得することも可能です。



- 学外実習には履修の条件があります。科目表を参照してください。
- 実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。
- 実習先には健康診断書を提出します。「学生定期健康診断」を必ず受診してください。実習先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾患名等の健康情報を原則記載します。不都合等あれば事前に保健センターに相談してください。
- 実習先には腸内細菌検査結果の提出が必要です。
- 学外実習については、学則による開講日だけでなく休業日にも実施します。

履修の実際については、大学基礎演習Ⅰ・Ⅱおよびソーシャルワーク実習指導Ａ・Ｂ・Ｃで説明します。

●社会福祉士国家試験　指定科目　学外実習・演習の予定

【大学基礎演習Ⅱ】（見学実習）

	【Ⅱ】履修登録	2 セメスター 9 月上旬
	【Ⅱ】見学実習 学外実習の手引きの配付 実習指導・実習全体像 オリエンテーション	2 セメスター 9 月中旬
	【Ⅱ】見学実習 参加費振込み 誓約書作成	2 セメスター 10 月下旬
	【Ⅱ】見学施設発表 実習ノート等 書類配付	
	【Ⅱ】見学実習 1 日	2 セメスター 12 月上旬
	【Ⅱ】実習ノート提出	2 セメスター 12 月上旬
	【Ⅱ】事後指導	2 セメスター 12 月中旬～ 1 月
①	【A】【B】 履修希望調査 実習 A 施設希望調査 実習指導・実習オリエンテーション 事前学習課題	2 セメスター 1 月

【ソーシャルワーク実習指導 A】（事前学習）

②	【A】【B】【C】【実習 A】【実習 B】 【演習Ⅴ】全体像 オリエンテーション	3 セメスター 4 月中旬
③	【A】履修登録	3 セメスター 4 月上旬
④	【A】【実習 A】事前指導	3 セメスター 4 ～ 7 月
⑤	【実習 A】実習施設の再希望調査 参加申込書提出 参加申込費納入	3 セメスター 5 ～ 6 月
⑥	【実習 A】仮配属施設発表 夏休み課題 (事前学習) (配属施設確定は 9/1)	3 セメ 7 月中～下旬

【ソーシャルワーク実習指導 B】
【ソーシャルワーク実習 A】

⑦	【B】【実習 A】実習謝礼金振込	4 セメスター
⑧	【B】【実習 A】履修登録	4 セメスター 9 月中旬
⑨	【B】【実習 A】 実習計画書 個人票・誓約書作成	4 セメスター 9 月下旬 ～ 10 月上旬
⑩	【B】【実習 A】 健康診断証明書・実習ノート・ 実習評価表等書類配付 腸内細菌検査	4 セメスター 10 月上旬～中旬
⑪	【B】【実習 A】 実習オリエンテーション オリエンテーション報告書提出 直前指導・リスクマネジメント	4 セメスター 10 月中旬～下旬 大学祭後 1 回 指導時間を確保
⑫	**【実習 A】　（9 日・約 70 時間）** 実習中は、必要に 応じて巡回指導	4 セメスター 11 月中旬～下旬 2 週間
⑬	【B】【実習 A】実習ノート提出 実習評価表 出席表返送	4 セメスター 11 月下～ 12 月中旬
⑭	【B】事後指導	4 セメスター 12 ～ 1 月
⑮	【実習 B】履修希望調査 実習施設希望調査	4 セメスター 12 月
⑯	【実習 B】参加申込書の提出	4 セメスター 12 月下旬～ 1 月下旬

【ソーシャルワーク実習指導 C】（事前学習・実践学習）
【ソーシャルワーク実習 B】

⑰	【C】【実習 B】 仮配属施設発表 春休み課題 (事前学習) (配属施設確定は 4/1)	⇒ 4 セメスター 3 月上旬 (5 セメ指導 C 第 1 回 授業)
⑱	【実習 B】 参加申込費・実習謝礼金振込	⇒ 5 セメスター 4 月上旬
⑲	【C】【実習 B】履修登録	⇒ 5 セメスター 4 月上旬
⑳	【C】【実習 B】 実習計画書 個人票・誓約書作成	⇒ 5 セメスター 4 月上旬～
㉑	【C】【実習 B】 健康診断証明書・実習ノート・実 習評価表等書類配付 腸内細菌検査	⇒ 5 セメスター 4 月中旬～下旬
㉒	【C】【実習 B】 実習オリエンテーション オリエンテーション報告書提出 直前指導・リスクマネジメント	⇒ 5 セメスター 5 月上旬～下旬
㉓	**【実習 B】実習（23 日・180 時間）**	⇒ 5 セメスター 6 ～ 7 月 (一部 8 月から 9 月) 第 1 週帰校指導 第 2 週巡回指導 第 3 週帰校指導 第4～5週巡回指導 場合によっては、 反省会での指導
㉔	【C】【実習 B】実習ノート提出 実習評価表 出席表返送	⇒ 5 セメスター 7 月中旬～下旬

【ソーシャルワーク演習Ⅴ】（事後学習）

㉕	【演習Ⅴ】履修登録	⇒ 6 セメスター 9 月中旬
㉖	【演習Ⅴ】事後指導 実習報告書 実習報告会	⇒ 6 セメスター 9 ～ 1 月

※学外実習については、学則による開講日だけでなく休業日にも実施する。
※期間等の詳細については、実習の手引き等で連絡する。
※夏学期開講前に実施される「学生定期健康診断」を必ず受診すること。

●社会福祉士国家試験受験資格　証明書等

1. 社会福祉士国家試験受験用の証明書発行

受験には、試験を主催する社会福祉振興・試験センターが指定する以下の証明書（2 種類）が必要です。いずれも大学で取りまとめて作成・送付します。

申込方法は、出願方法とともに、7 セメスター時に説明します。

- 国家試験出願時
  卒業見込証明書・社会福祉士指定科目履修見込証明書
- 学位授与式終了時
  卒業証明書・社会福祉士指定科目履修証明書

また、社会福祉士国家試験に合格した場合は、社会福祉振興・試験センターから合格通知とともに社会福祉士証書の申請方法が送付されますので、それに従って個人で手続きをしてください。（大学への申請ではありません。）

※社会福祉士国家試験の制度が変更になった場合は、手続きの方法が変わる可能性もあります。

2. 就職活動等に使用する証明書発行

7 セメスター以降、証明書発行サービスで「資格取得見込証明書」を発行してください。

3. 卒業後の証明書発行

- 社会福祉士国家試験を受験する場合、受験用の証明書を発行できます。

精神保健福祉士国家試験受験資格
（人文社会学部　人間福祉学科）

●精神保健福祉士国家試験受験資格とは

精神保健福祉士とは、「精神保健福祉士法」によって制定された国家資格であり、精神障害者の保健及び福祉に関する専門的知識及び技術をもって、精神科病院その他の医療施設において精神障害の医療を受け、または精神障害者の社会復帰の促進を図ることを目的とする施設を利用している者の社会復帰に関する相談に応じ、助言、指導、日常生活への適応のために必要な訓練その他の援助（相談援助）を行うことを業とするものです。

この資格は、まず受験資格を取得し、国家試験に合格することで、取得できます。

人間福祉学科　健康福祉専攻の学生は、後述の「指定科目」の単位を修得し、卒業が見込まれる場合に、精神保健福祉士国家試験の受験資格を取得できます。その場合、国家試験は在学中 8 セメスター時に受験することができます。

●精神保健福祉士国家試験受験資格　学内選抜試験

本学では、精神保健福祉士国家試験受験資格　指定科目を履修し資格取得できる定員は、1 学年につき最大 20 名とします。

学内選抜試験は 4 セメスター時に行います。出願方法は IBU.net で連絡します。

●精神保健福祉士国家試験受験資格　指定科目対応表

	精神保健福祉士国家試験 受験資格指定科目	国家試験 科目	本学開講の受験資格取得科目	
			科　目　名	取得 単位
1	医学概論	○	医学概論	2
2	心理学と心理的支援	○	心理学と心理的支援	2
3	社会学と社会システム	○	社会学と社会システム	2
4	社会福祉の原理と政策	○	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2
			社会福祉の原理と政策Ⅱ	2
5	地域福祉と包括的支援体制	○	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2
			地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2
6	社会保障	○	社会保障Ⅰ	2
			社会保障Ⅱ	2
7	障害者福祉	○	障害者福祉	2
8	権利擁護を支える法制度	○	権利擁護を支える法制度	2
9	刑事司法と福祉	○	刑事司法と福祉	2
10	社会福祉調査の基礎	○	社会福祉調査の基礎	2
11	精神医学と精神医療	○	精神医学と精神医療Ⅰ	2
			精神医学と精神医療Ⅱ	2
12	現代の精神保健の課題と支援	○	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2
			現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2
13	ソーシャルワークの基盤と専門職	○	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2
14	精神保健福祉の原理	○	精神保健福祉の原理Ⅰ	2
			精神保健福祉の原理Ⅱ	2
15	ソーシャルワークの理論と方法	○	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2
16	ソーシャルワークの理論と方法（専門）	○	精神保健福祉ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2
			精神保健福祉ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2
17	精神障害リハビリテーション論	○	精神障害リハビリテーション論	2
18	精神保健福祉制度論	○	精神保健福祉制度論	2
19	ソーシャルワーク演習		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
			ソーシャルワーク演習Ⅱ	2
			ソーシャルワーク演習Ⅲ	2
			ソーシャルワーク演習Ⅳ	2
			ソーシャルワーク演習Ⅴ	2
20	ソーシャルワーク演習（専門）		精神保健福祉援助演習Ⅰ	2
			精神保健福祉援助演習Ⅱ	2
			精神保健福祉援助演習Ⅲ	2
21	ソーシャルワーク実習指導		精神保健福祉援助実習指導 A	2
			精神保健福祉援助実習指導 B	2
			精神保健福祉援助実習指導 C	2
22	ソーシャルワーク実習		精神保健福祉援助実習	3
			ソーシャルワーク実習 B	4

●精神保健福祉士国家試験受験資格　指定科目　学外実習

- 実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。
- 実習先には健康診断書を提出します。「学生定期健康診断」を受診してください。実習先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾患名等の健康情報を原則記載します。不都合等があれば事前に保健センターに相談して下さい。
- 実習先には腸内細菌検査結果の提出が必要です。

履修の実際については、精神保健福祉援助実習指導Ａ・Ｂ・Ｃで説明します。

●精神保健福祉士国家試験受験資格　証明書等

1. 精神保健福祉士国家試験受験用の証明書発行

受験には、試験を主催する社会福祉振興・試験センターが指定する以下の証明書（2 種類）が必要です。いずれも大学で取りまとめて作成・送付します。

申込方法は、出願方法とともに、7 セメスター時に説明します。

- 国家試験出願時
  卒業見込証明書・精神保健福祉士指定科目履修見込証明書
- 学位授与式終了時
  卒業証明書・精神保健福祉士指定科目履修証明書

また、精神保健福祉士国家試験に合格した場合は、社会福祉振興・試験センターから合格通知とともに精神保健福祉士証書の申請方法が送付されますので、それに従って個人で手続きをしてください。（大学への申請ではありません。）

※精神保健福祉士国家試験の制度が変更になった場合は、手続きの方法が変わる可能性があります。

2. 就職活動等に使用する証明書発行

7 セメスター以降、証明書発行サービスで「資格取得見込証明書」を発行してください。

3. 卒業後の証明書発行

- 精神保健福祉士国家試験を受験する場合、受験用の証明書を発行できます。

学校図書館司書教諭（人文社会学部・教育学部）

●学校図書館司書教諭とは

学校図書館司書教諭とは、小学校、中学校及び高等学校に設置された学校図書館の専門的職務を司る教諭のことです。（学校図書館法第５条）。これは免許制ではなく、司書教諭の資格を得た者が小学校、中学校、または高等学校の教員となり、学校図書館の専門的職務にあたる場合、その学校の設置者（都道府県あるいは市町村の教育委員会）が発令を行います。

したがって、学校図書館司書教諭の講習の修了証書取得を希望する学生は、教育職員免許状取得（小一種・中一種・高一種）に必要な授業科目を履修した上で、さらに学校図書館司書教諭講習規程に定める司書教諭の講習に関する科目を必要単位数分、履修しなければなりません。なお、これらの科目も卒業に必要な単位には含まれませんので注意してください。

●司書教諭の講習に関する科目一覧

【人文社会学部・教育学部の教職課程者（小１種・中１種・高１種）】

種　別	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	１年	２年	３年	４年	
司書教諭の講習に関する科目	学校経営と学校図書館	2						○	
	学校図書館メディアの構成	2						○	
	学習指導と学校図書館	2						○	
	読書と豊かな人間性	2						○	
	情報メディアの活用	2						○	
資格取得に必要な修得単位数		合計 10 単位							

※「司書教諭の講習に関する科目」は卒業に必要な単位に含まない。

●学校図書館司書教諭講習修了書取得までの流れ（例：2025 年３月卒業生の場合）

2025 年５月初旬	大学より「2025 年度学校図書館司書教諭申込書」を自宅へ送付。
	記載事項を確認し、署名・捺印後に期限内に大学へ送付。

↓

2025 年夏	「2025 年度学校図書館司書教諭講習」を実施。
	→　書類参加のため実際に参加する必要はありません。

↓

2026 年３月下旬	「学校図書館司書教諭講習修了書」が自宅に送付されます。

※学校図書館司書教諭講習修了書は在学中（８セメスター時）に申込をしますが、取得は卒業してから１年後となります。

社会福祉主事任用資格
（人文社会学部・教育学部・経営学部）

●社会福祉主事任用資格とは

社会福祉主事とは、都道府県、市町村に設置される福祉事務所に置かれる職であり、生活保護法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法、老人福祉法、身体障害者福祉法及び知的障害者福祉法に定める援護、育成又は更生の措置に関する事務を行うことを職務とします。

社会福祉主事に任用される資格のことを、社会福祉主事任用資格と呼び、地方自治体に採用となり、福祉事務所に配属されてはじめて意味をなす「任用資格」です。

この資格は、必要科目を修得して卒業することが条件であるため、卒業後に不足の科目を科目等履修によって補うことはできません。

また必要科目に加え、共通教育科目の法学、経済学、社会学、心理学の分野も履修することが望ましいとされています。

●資格要件科目一覧

【人文社会学部　人間福祉学科】

種　別	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備 考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
人間福祉学科 健康福祉専攻 専門教育科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2			○				
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2			○				
	児童・家庭福祉	2				○			
	障害者福祉	2				○			
	高齢者福祉	2				○			
資格取得に必要な修得単位数		合計 10 単位							

【人間福祉学科以外の学科等】

種　別	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
共通教育科目	社会福祉概論	2			○	○	○		
	社会福祉行政	2			○	○	○		
	老人福祉論	2			○	○	○		
	児童福祉論（※）	2				○	○	○	
資格取得に必要な修得単位数		合計 8 単位							

（※）教育学科　幼児教育保育コースの学生は専門教育科目「子ども家庭福祉」2 単位を「児童福祉論」と読みかえることができる。

日本語教員養成プログラム
（人文社会学部　全学科）

●日本語教員養成プログラムとは

日本語教員養成プログラムは、日本語教員になるために必要な標準的教育内容が学べるように設定されています。各区分必要単位を修得して、合計 32 単位を取得すれば、日本語教員に必要な知識能力を修得したものとみなして、審議の上「四天王寺大学　日本語教員養成プログラム修了証明書」を発行します。将来、日本語教員を目指す学生は、所定の科目一覧で学修計画を立ててください。なお、このプログラムは、日本学科以外の人文社会学部学生にも履修が認められ、同様に修了証明書が発行されます。

●資格要件科目一覧

【人文社会学部】

3領域	5区分	種　別	本学設置授業科目名	単位／履修区分 必修	選択必修	選択	配当年次 1年	2年	3年	4年	備考
社会・文化・地域に関わる領域／教育に関わる領域／言語に関わる領域	社会・文化・地域	日本学科専門教育科目	日本語教育学概論Ⅰ	2			○				
			日本語教育学概論Ⅱ	2			○				
	言語と社会	日本学科専門教育科目	日本語学Ⅱ	2			○				
	言語と心理	国際キャリア学科専門教育科目	言語学概論	2					○		
	言語と教育	日本学科専門教育科目	日本語教育論Ⅰ	2				○			
			日本語教育論Ⅱ	2				○			
			日本語教授法Ⅰ	2					○		
			日本語教授法Ⅱ	2					○		
			日本語教育実習指導及び実習A	2						○	※1
			日本語教育実習指導及び実習B	2						○	※1
	言語		日本語学Ⅰ		4	2	○				
			日本語文法Ⅰ（現代）			2		○			
			講読Ⅰ（日本語学）			2		○			
			日本文化論Ⅰ		2	2	○				
			日本文化論Ⅱ			2	○				
			異文化理解			2			○		
		国際キャリア学科専門教育科目	異文化理解			2			○		
			異文化共生論			2		○			
			国際コミュニケーション論			2			○		
		社会学科専門教育科目	異文化コミュニケーション論			2		○			
プログラム修了に必要な専門科目の最低修得単位数				小計 26 単位							
	本学で定める外国語履修要件	共通教育科目	英語Ⅰ	1			○				※3
			英語Ⅱ	1			○				※3
			ドイツ語Ⅰ		2	1	○				
			ドイツ語Ⅱ			1	○				
			フランス語Ⅰ			1	○				
			フランス語Ⅱ			1	○				
			中国語Ⅰ			1	○				
			中国語Ⅱ			1	○				
			コリア語Ⅰ			1		○			
			コリア語Ⅱ			1		○			
			英語Ⅲ		2	1		○			※2
			英語Ⅳ			1		○			※2
			ドイツ語Ⅲ			1		○			※2
			ドイツ語Ⅳ			1		○			※2
			フランス語Ⅲ			1		○			※2
			フランス語Ⅳ			1		○			※2
			中国語Ⅲ			1		○			※2
			中国語Ⅳ			1		○			※2
			上級英語Ⅰ			1		○			※2
			上級英語Ⅱ			1		○			※2
	プログラム修了に必要な外国語の単位			小計 6 単位							
プログラム修了に必要な最低修得単位数				合計 32 単位							

※1　「日本語教育実習指導及び実習」A・Bは、グレード制とする。
※2　「英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれか同一言語でⅢ・Ⅳ」もしくは「上級英語Ⅰ・Ⅱ」を修得すること。
※3　国際キャリア学科については共通教育科目「英語Ⅰ・Ⅱ」の2科目2単位に代わり、専門教育科目「ベーシックコミュニケーションⅠ・Ⅱ」の2科目4単位を必修とする。

博物館学芸員（人文社会学部　日本学科・社会学科）

●学芸員とは

人文社会学部日本学科および社会学科では、博物館法に定める博物館学芸員資格の資格要件科目を履修し、その単位を取得することで学芸員の資格を得ることができます。

学芸員資格を持つ者は、博物館などに採用されて専門職員として資料の収集・保管・展示および調査研究などを行う学芸員としての職務に従事することができます。

なお、下記の資格要件科目中の「博物館実習」に参加するためには、同表の資格要件科目に加え、博物館実習に参加するまでに、日本学科の歴史・文化・観光学領域および社会学科のメディア・カルチャー領域の科目の中から 8 科目、合計 16 単位以上を履修していることが望ましいとしています。

また、「博物館実習」の履修については、時間割に定める授業日以外、さらには授業期間外に、学外での実習を行うことがあります。原則として、それらに欠席することは認められませんので、実施日程などに注意してください。

さらに、「博物館実習」の履修に関しては、以下の条件があります。

履修科目	履修条件
「博物館実習 A」	「博物館概論」・「博物館資料論」・「博物館展示論」の 3 科目を履修し、その単位を修得していること。
「博物館実習 B」	「博物館実習 A」を履修し、その単位を修得していること。
「博物館実習 C」	「博物館実習 A」および「博物館実習 B」を履修し、その単位を修得していること。

「博物館実習 B」の定員は 30 名とするため、当該科目に関しては履修登録者数を制限する場合がある。
制限人数を超えた場合は、「博物館資料論」「博物館展示論」「博物館教育論」の成績と GPA の点数の上位 30 位に履修許可を出すものとする。

なお、「博物館実習」で実施される施設見学に伴う交通費、入館料などの実費は受講者負担とし、さらに館園実習先で必要とされる実習費に関してもこれを受講者が負担するものとします。

●資格要件科目一覧

【日本学科、社会学科】

種　別	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
日本学科 社会学科 専門教育科目	生涯学習概論	2			○				
	博物館概論	2			○				
	博物館経営論	2					○		
	博物館資料論	2				○			
	博物館資料保存論	2					○		
	博物館展示論	2				○			
	博物館教育論	2				○			
	博物館情報・メディア論	2					○		
	博物館実習 A	1					○		
	博物館実習 B	1						○	定員 30 名とする
	博物館実習 C	1						○	
資格取得に必要な修得単位数		合計 19 単位							

児童指導員任用資格
（人文社会学部・教育学部）

●児童指導員任用資格とは

児童養護施設や障害児施設などの児童福祉施設に配置されている「児童指導員」として採用する際に、基準として厚生労働省が定めた資格です。

この任用資格をもって、児童福祉施設に採用され児童指導に携わる職に配属されることで、「児童指導員」となることができます。

児童指導員の仕事は、児童福祉施設において、0 歳～ 18 歳までの児童の成長を援助するとともに、基本的な生活習慣や学習の指導、生活上のアドバイスなどを行います。児童福祉施設では直接子どもたちを援助する仕事に携わる職種の場合、この児童指導員任用資格か保育士資格のいずれかが必須となっているところがほとんどです。

この資格は、本学人文社会学部社会学科・人間福祉学科および教育学部教育学科を卒業すれば、取得できます。また、人文社会学部日本学科・国際キャリア学科は、教育職員免許状を取得して卒業することで、取得できます。

社会調査士（人文社会学部　社会学科）

●社会調査士とは

「社会調査士」は、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」です。（一社）社会調査協会が設定を行います。

調査企画から報告書作成までの社会調査の全過程を学習することにより、基本的な調査方法や分析手法の妥当性、またその問題点を指摘することができます。

●資格要件科目一覧

【社会学科】

種　別	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
社会学科専門教育科目	社会調査法	2			○				
	標本調査法	2				○			
	基礎統計学	2				○			
	資料・データ分析	2				○			
	社会調査実習Ａ	1					○		原則として 2 年次配当までの 4 科目修得者のみ履修可
	社会調査実習Ｂ	1					○		
	社会統計学		2	2			○		社会統計学、質的調査法のいずれか 1 科目を修得すること
	質的調査法			2			○		
資格取得に必要な最低修得単位数		合計 12 単位							

認定心理士（人文社会学部　社会学科）

●認定心理士とは

認定心理士とは、「大学で心理学の専門家として仕事をするために必要な最小限の標準的基礎学力と技能を修得している」と（公社）日本心理学会が認定した人のことで、心理学を専攻した事が証明できます。正式名称は「日本心理学会認定心理士」です。

認定心理士という資格は認定資格であって免許ではないので、取得することによって特定の職業に就くことができるものではありません。しかし、心理学の基礎的知識と技術があると証明できることにより、認定心理士資格を活かした仕事に就ける可能性はあります。

本学においては、人文社会学部社会学科に在籍し、指定された科目を履修・単位取得した後、（公社）日本心理学会に申請を行い、学会の審査結果によりこの資格を取得することができます。なお、別途審査料・認定料が必要となります。※詳細は、社会学科によるオリエンテーション時および取得希望者ガイダンスで説明します。

●資格要件科目一覧

【社会学科】

領域	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
a	入門心理学	2			○				
	心理学概論	2			○				
b	心理学実験法	2			○				
	心理測定法概論	2				○			
c	心理学基礎実験Ⅰ	2				○			「心理学実験法」修得者のみ履修可
	心理学基礎実験Ⅱ	2				○			「心理測定法概論」「心理学基礎実験Ⅰ」修得者のみ履修可
d	認知心理学		16	2		○			d ～ h 領域のうち最低 3 領域から各 4 単位以上計 16 単位以上必要
	学習心理学			2			○		
f	教育心理学（※）			2	○				
	発達心理学			2		○			
	幼児児童心理学			2			○		
g	人格心理学			2		○			
	臨床心理学			2		○			
	カウンセリング理論			2		○			
	カウンセリング方法論			2			○		「カウンセリング理論」修得者のみ履修可
	心理検査法演習			2			○		「心理学基礎実験Ⅱ」修得者のみ履修可
	職場メンタルヘルス			2			○		
	犯罪心理学			2		○			
h	社会心理学			2		○			
	産業組織心理学			2			○		
	コミュニティ心理学			2			○		
	対人関係の心理学			2			○		
i	犯罪捜査の心理学			2			○		
	演習Ⅰ（心理系）			2			○		
	演習Ⅱ（心理系）			2			○		
	演習Ⅲ（心理系）			2				○	
	演習Ⅳ（心理系）			2				○	
	卒業研究（心理系）			4				○	
資格修得に必要な最低修得単位数		合計 36 単位							

※教育心理学は教職に関する科目、その他科目は全て社会学科専門教育科目

令和４年度入学生用

ピアヘルパー受験資格（教育学部　教育学科）

●ピアヘルパー受験資格とは

「ピアヘルパー」とは、年齢を問わず、対等な立場でお互いを尊重しながら、相談相手になる「仲間（Peer）を助ける人（Helper）」という意味です。

「ピアヘルパー」の認定試験は、カウンセリングおよび関連する心理学の理論方法について理解し、教育・福祉・保育などの職場で人とかかわる技法を学んだ後、受験することができます。学習効果としては、人とのかかわりを大切にし、仲間を助ける技術を習得するだけでなく、自己啓発能力をも育成します。「ピアヘルパー」の認定を受けることによって、人間尊重の精神に基づいた相互扶助の能力が証明されます。さらに、教育・福祉・保育などの分野での実践経験２年、および（特非）日本教育カウンセラー協会主催の養成講座を経て初級教育カウンセラー資格を取得することも可能です。

本学においては、教育学部の学生を対象に、指定された科目を履修した後、協会主催の認定試験に合格することによって、「ピアヘルパー」の資格を取得することができます。

●資格要件科目一覧

【教育学科　全コース】

種別	本学設置授業科目名	単位／履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	１年	２年	３年	４年	
専門教育科目　教育学科	生徒指導論（進路指導を含む）		6	2		○	○	○	小・中・高・養を含む
	教育相談の理論と方法			2		○	○	○	
	教育心理学			2	○				
	精神保健			2		○			保健教育コースの学生のみ履修可
	健康相談			2			○		
受験資格取得に必要な最低修得単位数		合計６単位							

身体障害者福祉司任用資格
（人文社会学部　人間福祉学科）

●身体障害者福祉司任用資格とは

身体障害者福祉司とは、都道府県の身体障害者更生施設や相談所および市町村の福祉事務所に置かれ、身体障害者の相談援助や更生援助事務などの仕事をする専門職員のことです。具体的な仕事としては、身体障害者の福祉に関して福祉事務所員等に技術指導を行い、身体障害者の相談・調査・更生援護の要否や種類の判断、本人への指導等の業務です。

身体障害者福祉司になるためには、身体障害者福祉司任用資格が必要となります。この資格は、社会福祉士資格を取得することで得ることができます。または、社会福祉主事任用資格を取得し、社会福祉主事として身体障害者の更生援護その他その福祉に関する事業に２年以上従事した後にも資格が得られます。

この任用資格をもって、公務員試験に合格し、身体障害者更生施設や相談所・福祉事務所などに配属されることで「身体障害者福祉司」となることができます。

知的障害者福祉司任用資格
（人文社会学部　人間福祉学科）

●知的障害者福祉司任用資格とは

知的障害者福祉司とは、知的障害者更生相談所、福祉事務所などに置かれ、知的障害者の相談援助や知的障害者の福祉に関する事務などの仕事をする専門職員のことです。具体的な仕事としては、知的障害者に関する相談・指導のうち専門的な知識や技術を必要とするものを行ったり、福祉事務所員等に技術指導を行います。

知的障害者福祉司になるためには、知的障害者福祉司任用資格が必要となります。この資格は、社会福祉士資格を取得することで得ることができます。または、社会福祉主事任用資格を取得し、社会福祉主事として知的障害者の福祉に関する事業に２年以上従事した後にも資格が得られます。

この任用資格をもって、公務員試験に合格し、知的障害者更生相談所や福祉事務所などに配属されることで「知的障害者福祉司」となることができます。

公認初級パラスポーツ指導員
（人文社会学部　人間福祉学科）

●公認初級パラスポーツ指導員とは

公認初級パラスポーツ指導員とは、障がいのある人が積極的にスポーツを楽しんだり、体を鍛えたり、より充実した生活を送れるようにサポートするために、障がいに応じた適切な指導を行う専門家です。

公認初級パラスポーツ指導員の役割は、3 つあげられます。

1. 初めてスポーツに参加する障がい者にスポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援する。
2. 障がいの基本内容を理解し、健康や安全管理を重視した指導をする。
3. 地域の障がい者スポーツの振興を支える。

本学においては、人間福祉学科に在籍し、指定された科目を履修した後、（公財）日本パラスポーツ協会に申請（申請費含む）を行うことによりこの資格を取得することができます（卒業後は申請できません）。なお、資格の有効期間は毎年 4 月 1 日から翌年の 3 月 31 日までの 1 年間となり、資格の更新を希望する場合、年間登録料が必要となります。

●資格要件科目一覧

【人間福祉学科】

種　別	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備　考
		必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
人間福祉学科専門教育科目	障害者スポーツ研究	2			○				
	障害者支援と福祉	2				○			
	スポーツマネジメント	2				○			
資格取得に必要な最低修得単位数		合計 6 単位							

児童福祉司任用資格
（人文社会学部　人間福祉学科）

●児童福祉司任用資格とは

児童福祉司とは、都道府県等に設置されている児童相談所に置かれる職員のことです。具体的な仕事としては、児童の保護や福祉に関する事項についての相談に応じ、必要な調査などを行い、専門的技術に基づいて児童・保護者等の援助・指導を行います。

児童福祉司になるためには、児童福祉司任用資格が必要となります。この資格は、社会福祉士資格を取得することで得ることができます。または、社会福祉主事任用資格を取得し、社会福祉主事として 2 年以上児童福祉事業に従事した後にも資格が得られます。

この任用資格をもって、公務員試験に合格し、児童相談所に配属されることで「児童福祉司」となることができます。

レクリエーション・インストラクター
（人文社会学部　人間福祉学科）

●レクリエーション・インストラクターとは

「レクリエーション・インストラクター」は、「レクリエーション」に興味・関心を持つ学生にとっての入門資格です。人と人との楽しい交流を促進するために必要な援助方法を習得することによって、多くの人たちに様々な遊びを通した楽しさの体験を提供するスキルを身につけます。特に社会福祉の分野に就職する学生にとって、「楽しい人間関係づくり」や「生きがい支援」のスキルは大いに仕事の上で役立つことでしょう。

本学は（公財）日本レクリエーション協会公認「レクリエーション・インストラクター」資格を取得できる課程認定校になっています。

従って、人間福祉学科に所属する学生は、必要条件をクリアし、申請を行えばこの資格を取得することができます。なお、2年ごとの資格更新手続きが必要で、更新費用がかかります。

●資格要件科目一覧

【人間福祉学科】

種 別	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備 考
		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
共通教育科目	レクリエーション論	2			○	○	○		
人間福祉学科専門教育科目	レクリエーション活動援助論Ⅰ	2				○			
	レクリエーション活動援助論Ⅱ	2				○			
	ソーシャルワーク実習指導B	2				○			

＋

大阪府レクリエーション協会主催等の事業参加（2回以上）※

※事業参加（支援実習）については、レクリエーション活動援助論Ⅰ・Ⅱの中で説明します。

看護師国家試験受験資格
（看護学部　看護学科）

●看護師免許について

看護師の免許は、保健師助産師看護師法第 18 条に基づいて行われる看護師国家試験に合格したものに対して、申請により厚生労働大臣より交付されます。

●看護師国家試験受験資格

看護師国家試験受験資格は、学科で定める卒業要件に必要な科目を修得することで取得できます。

●看護師国家試験受験資格取得に必要な科目一覧

基礎教育科目	6 単位（卒業に必要な最低修得単位数と同じ）
共通教育科目	18 単位（卒業に必要な最低修得単位数と同じ）
専門教育科目	102 単位（卒業に必要な最低修得単位数と同じ）
合　計	126 単位（卒業に必要な最低修得単位数と同じ）

保健師国家試験受験資格
（看護学部　看護学科）

●保健師免許について

保健師の免許は、保健師助産師看護師法第 18 条に基づいて行われる看護師国家試験に合格し、さらに保健師国家試験に合格したものに対して、申請により厚生労働大臣より交付されます。

●保健師国家試験受験資格

保健師国家試験受験資格は、学科で定める卒業要件に必要な科目を修得し、さらに「保健師コース」の科目を全て修得することで取得できます。

- 保健師国家試験受験資格を希望する学生は、2 年次夏学期開始前のオリエンテーションに参加してください。学内選抜試験、履修方法等の詳細を案内します。

●保健師国家試験受験資格　取得要件科目一覧

卒業要件に加えて、下表の 10 科目 21 単位を含んで 141 単位以上を修得する必要があります。

区　分	授業科目	配当年次	単位数	
			必修	選択
看護学部　専門教育科目	疫学	3～4	2	
	保健統計学	3～4	2	
	保健行政論	1～2	2	
	産業保健論	3～4	2	
	学校保健論	3～4	2	
	地域生活支援技術論	5～6	2	
	地域生活支援技術演習Ⅰ	5～6	1	
	地域生活支援技術演習Ⅱ	7～8	1	
	健康教育論	3～4	2	
	地域生活支援実習	7～8	5	

※保健師免許を取得したうえで、「日本国憲法」「スポーツⅠ・Ⅱ」「上級英語Ⅰ・Ⅱ」「情報処理演習Ⅰ」または「情報処理演習Ⅱ」を修得している者は、申請により養護教諭二種免許状を取得できる。
※保健師免許を取得した者は、労働基準監督署もしくは都道府県労働局で申請を行うことで、第一種衛生管理者の国家資格を取得できる。

助産師国家試験受験資格
（看護学部　看護学科）

●助産師免許について

助産師の免許は、保健師助産師看護師法第 18 条に基づいて行われる看護師国家試験に合格し、さらに助産師国家試験に合格したものに対して、申請により厚生労働大臣より交付されます。助産師免許は、保健師助産師看護師法第 3 条により、女子のみ取得できます。

●助産師国家試験受験資格

助産師国家試験受験資格は、学科で定める卒業要件に必要な科目を修得し、さらに「助産師コース」の科目を全て修得することで取得できます。

●助産師国家試験受験資格を希望する学生は、3 年次夏学期開始前のオリエンテーションに参加してください。学内選抜試験、履修方法等の詳細を案内します。

●助産師国家試験受験資格　取得要件科目一覧

卒業要件に加えて、下表の 9 科目 24 単位を含んで 150 単位以上を修得する必要があります。

区　分	授業科目	配当年次	単位数	
			必修	選択
看護学部　専門教育科目	助産概論	5～6	2	
	周産期医学	5～6	2	
	助産診断・技術Ⅰ	5～6	2	
	助産診断・技術Ⅱ	7～8	2	
	助産診断・技術Ⅲ	7～8	2	
	助産技術演習Ⅰ	5～6	1	
	助産技術演習Ⅱ	7～8	1	
	助産管理論	7～8	1	
	助産実習	7～8	11	

地域共創プログラム
（人文社会学部・経営学部）

●地域共創プログラムとは

近年「地域共創」が求められています。「共創」とは、多様性をもとに共に新たな価値を創造することで、いわば「和」の実践です。

地域共創プログラムは、社会・文化・産業・観光など地域の活性化につながる多様な科目を、学部学科の専門の枠を超えて一つにまとめ、地域の多面的な課題解決のために新たな学びの形を提供するものです。所定の要件を満たして合計 24 単位以上を取得すれば、地域共創に関する一定の知識と経験を修めたものとして、審議の上、本学独自の「地域共創プログラム修了証明書」あるいは「地域共創プログラム（観光フィールド）修了証明書」を発行します。さらに在学中に「旅行業務取扱管理者」の（国内）か（総合）のいずれかの資格を取得した場合は、上記のプログラム修了証明書に加えて「観光学エキスパート」の称号を授与します。

地域の活性化に関心のある学生は、学修の手引きとして、進路を考える手立てとして、科目一覧にもとづいて学修計画を立て、このプログラムの取り組みを将来の就業に役立ててください。

●資格要件科目一覧

	種別	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備考
			必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
地域共創科目群	共通教育科目	◎地域活性化概論	2			○				
		地域連携インターンシップⅠ〈キャリア・プロジェクト研究〉		2	2		○			※経営学科の学生は経営学科専門教育科目「地域活性化演習Ⅰ・Ⅱ」を履修すること
		地域連携インターンシップⅡ〈キャリア・プロジェクト研究〉			2		○			
		地域連携インターンシップⅢ〈キャリア・プロジェクト研究〉			2		○			
		地域連携インターンシップⅣ〈キャリア・プロジェクト研究〉			2			○		
		地域活性化演習Ⅰ〈キャリア・プロジェクト研究〉			2		○			
		地域活性化演習Ⅱ〈キャリア・プロジェクト研究〉			2		○			
		地域活性化演習Ⅲ〈キャリア・プロジェクト研究〉			2			○		
		地域歴史文化演習〈キャリア・プロジェクト研究〉			2		○			
	経営学科専門教育科目	マーケティングⅠ			2	○				
		マーケティングⅡ			2	○				
		マーケティングマネジメント論			2	○				
		中小企業経営論			2			○		
		フードビジネス論			2			○		
	日本学科専門教育科目	地域文化発信演習			2			○		
		日本学インターンシップ演習			2		○			
	国際キャリア学科専門教育科目	国際ビジネス論			2		○			
		グローバルビジネス研究〈国際キャリア演習〉			2			○		
	社会学科専門教育科目	まちづくり論			2		○			
		環境問題論			2		○			
		国際経済論			2		○			
		フィールドワーク入門			2	○				
		フィールドワーク演習			2		○			
	人間福祉学科専門教育科目	ボランティア論			2	○				
		児童・家庭支援と福祉			2		○			
		ターミナルケア論			2			○		
		「いのち」の権利論（生命倫理と遺伝）			2			○		
		高齢者支援と福祉			2		○			
		社会と人間			2	○				
観光フィールド科目群	日本学科専門教育科目	観光学概論	2（※2）		2*	○				地域共創プログラム（観光フィールド）修了証明書には必修科目 ＊地域共創プログラム修了証明書では選択科目としてカウントされる。
		観光研究基礎			2		○			
		観光社会学			2		○			
		観光文化地理			2		○			
		旅行産業論			2		○			
		ツーリズム論			2		○			
		講読Ⅶ（日本の観光）			2		○			
		国内旅行実務Ⅰ			2			○		

		種別	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備考
				必修	選択必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
地域共創科目群	観光フィールド科目群	日本学科専門教育科目	国内旅行実務Ⅱ			2			○		
			近畿の古刹と文化財〈日本学特殊講義〉			2			○		
			日本の世界遺産〈日本学特殊講義〉			2			○		
			観光産業ケーススタディ			2				○	
		経営学科専門教育科目	観光ビジネス論			2			○		
			旅行ビジネス論			2				○	
		国際キャリア専門教育科目	英米文化論			2			○		
			米国史			2			○		
			現代中国事情〈国際キャリア演習〉			2			○		
			国際コミュニケーション論			2			○		
		社会学科専門教育科目	コンテンツ産業論			2			○		
			人文地理学			2			○		
			地域史研究			2			○		
			日本史概説Ⅰ			2	○				
			日本史概説Ⅱ			2	○				
地域共創プログラム修了に必要な最低修得単位数				合計 24 単位							
地域共創プログラム (観光フィールド) 修了に必要な最低修得単位数				合計 24 単位			(観光フィールド科目 18 単位を含むこと)				

※ 1 「地域活性化概論」（必修 2 単位）「地域連携インターンシップⅠ～Ⅳ・地域活性化演習Ⅰ～Ⅲ」（選択 2 単位）および選択科目 20 単位、合計 24 単位以上の修得により、卒業時に「四天王寺大学　地域共創プログラム修了証明書」を発行する。

※ 2 上記の要件「選択科目 20 単位」のうち、「観光フィールド科目群」から 18 単位（必ず「観光学概論」を含むこと）を修得した場合、「四天王寺大学　地域共創プログラム（観光フィールド）修了証明書」を発行する。

※ 3 「四天王寺大学　地域共創プログラム（観光フィールド）修了証明書」取得条件を満たし、かつ在学中に旅行業務取扱管理者資格（国内あるいは総合）を取得した者には、修了証明書とともに**「観光学エキスパート」の称号を授与する。**

※ 4 各学部学科専門科目の時間割は所属学生を第一に編成され、他学部他学科の学生の履修を保証するものではないため、所属学部学科の科目を中心に柔軟な履修計画を立てること。

※ 5 「地域共創科目群」には「他学部・他学科履修不可」科目を含む場合がある。『履修要覧』の各学部学科専門科目編成表を確認すること。

※ 6 上記の修了証明書・称号を取得するには、指定の申請期間において教務課で手続きすること。

諸規程

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部単位の修得及び試験に関する規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/34_tanishiken.pdf

四天王寺大学人文社会学部「教育実習」等への参加要件細則
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/79_jinbunsyakaikyouikujissyusaisoku.pdf

四天王寺大学学位規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/36_daigakugakui.pdf

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部ＧＰＡ制度に関する規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/35_gpaseido.pdf

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部留学に関する規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/39_ryugaku.pdf

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部海外語学研修に関する規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/40_kaigaigogakukenshu.pdf

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部海外実地研修に関する規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/41_kaigaijicchikenshu.pdf

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部国内インターンシップによる単位認定に関する規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/42_kokunaiinternship.pdf

知識および技能審査の成果の単位認定に関する規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/43_chishikigino.pdf

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部資格チャレンジ奨励金規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/44_shikakushorei.pdf

四天王寺大学及び四天王寺大学短期大学部間での相互単位互換についての規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/45_daitangokan.pdf

四天王寺大学教育学部教育学科保育士養成履修細則
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/49_hoikushiyosei.pdf

社会福祉士試験受験資格取得にかかる履修細則
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/50_shakaifukushi.pdf

精神保健福祉士試験受験資格取得にかかる履修細則
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/51_seishinhokenfukushi.pdf

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部他の大学・短期大学部との単位互換に関する規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/46_tadaigakugokan.pdf

四天王寺大学日本語教員養成プログラムに関する細則
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/47_nihongokyoin.pdf

四天王寺大学地域共創プログラムに関する細則
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/48_chiikikyosei.pdf

令和７年度　履修要覧

発行　四天王寺大学
編集　教務部
住所　〒583-8501　大阪府羽曳野市学園前３丁目２－１
Tel　072-956-3181（代）

SHITENNOJI UNIVERSITY